

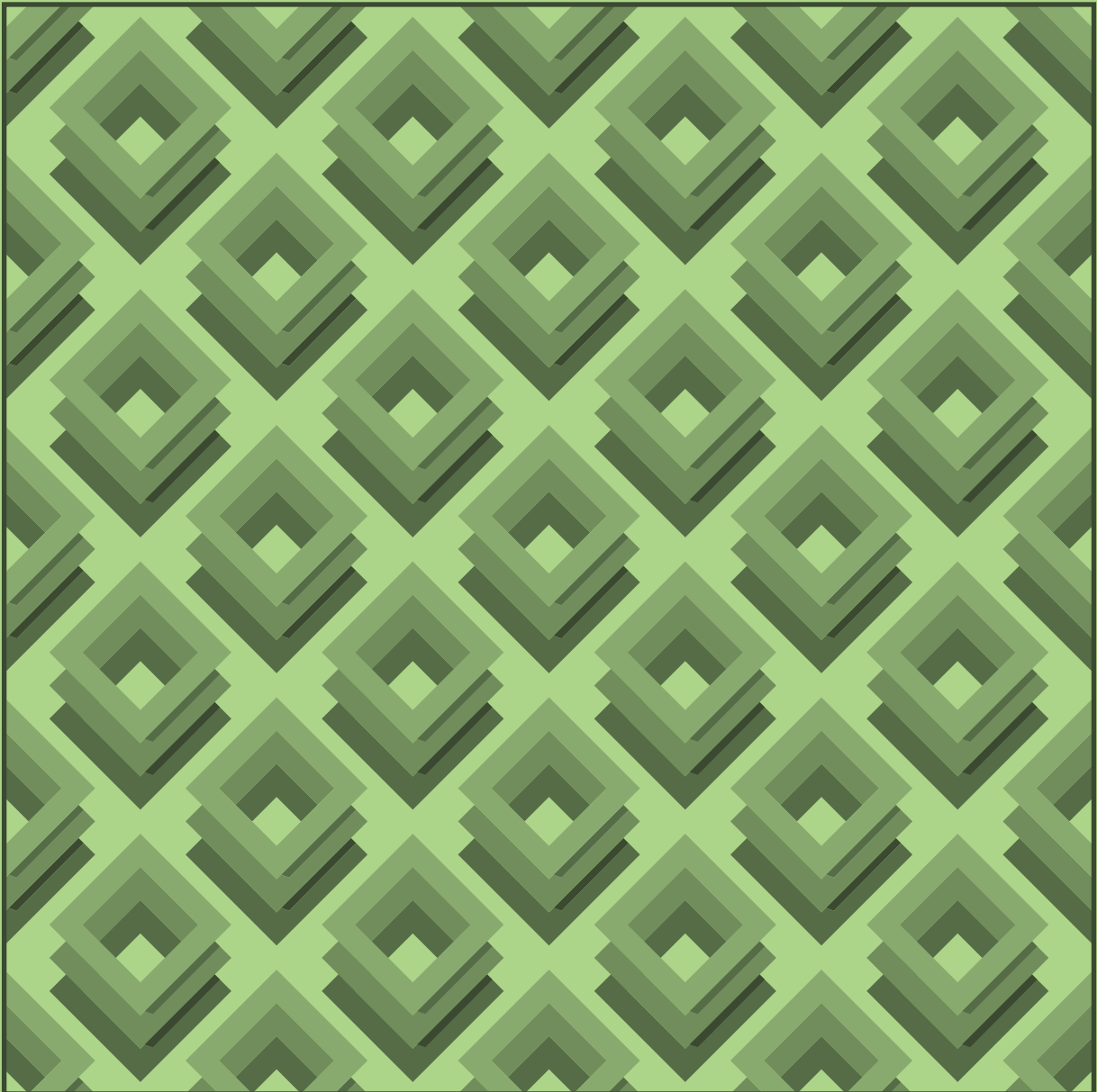
---

2015年度

---

# シラバス

# 英語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

---

獨協大学

# シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

◆シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください◆

## I 英語学科授業科目について

### 【シラバスページの検索方法】

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。  
目次の科目は、授業科目表(学則別表)と同じ順序で掲載しています。  
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。  
科目名とページ番号をよく確認してください。

### 【履修不可について】

- ① 目次には「履修不可」学科が記載されています。  
「履修不可」欄に自分の所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

② 表記方法

外： 外国語学部	養： 国際教養学部	経： 経済学部	法： 法学部
独： ドイツ語学科		済： 経済学科	律： 法律学科
英： 英語学科		営： 経営学科	国： 国際関係法学科
仏： フランス語学科		環： 国際環境経済学科	総： 総合政策学科
交： 交流文化学			
全： 英語学科以外の全学部学科			

## II シラバス本文の見方(右図参照)

- ① 入学年度
- ② 入学年度に対応した科目名
- ③ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望
- ④ 学期の授業計画  
各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。  
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。
- ⑤ 授業で使用するテキスト、参考文献
- ⑥ 評価方法

### 【注意事項】

- ① 履修条件  
担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。  
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および「授業時間割表」で確認し、履修登録してください。
- ② 定員  
科目の中には定員制のものがあります。詳細は「授業時間割表」を参照してください。
- ③ 履修登録  
オンライン登録、事前抽選、学期ごとに1回目の授業で選考または抽選を行なう科目もあるので必ずシラバス本文および「授業時間割表」で確認してください。

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>春学期</b>		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要		授業計画
③	④	
<b>秋学期</b>		
テキスト、参考文献		評価方法
⑤	⑥	

# 目次

## 2009～2015 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む).....	2
学科共通科目.....	7
学科専門科目.....	13
交流文化論開設科目一覧表.....	15
外国語学部共通科目開設一覧表.....	16
担当者別シラバス.....	17

### 【参考資料】(英語レベル表)

2009 年度以降入学者					
レベル	TOEIC®	TOEFL®			実用英語技能 検定
		PBT	CBT	iBT	
上級	800 点以上	520 点以上	190 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	157 点以上	54 点以上	

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC®テストのスコアが履修条件を満たしていれば登録可能です。

学内で実施した TOEIC®テスト以外のスコアを利用する場合は、既修条件を満たしていることを証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

# 英語学科 授業科目(2009～2015年度入学者用)

## 学科基礎科目

09～15年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
英語学入門	鈴木 英一	春	火3	2	1	全	17	
英語学入門	鈴木 英一	秋	火3	2	1	全	17	
英語学入門	安井 美代子	春	金1	2	1	全	18	
英語学入門	安井 美代子	秋	金1	2	1	全	18	
1 3 年度 以降	英語圏の文学文化入門	上野 直子	春	木4	2	1	全	19
	英語圏の文学文化入門	上野 直子	秋	木4	2	1	全	19
	英語圏の文学文化入門	児嶋 一男	春	火2	2	1	全	20
	英語圏の文学文化入門	児嶋 一男	秋	火2	2	1	全	20
1 2 年度 以前	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	春	木4	2	1	全	19
	英語圏の文学・文化入門	上野 直子	秋	木4	2	1	全	19
	英語圏の文学・文化入門	児嶋 一男	春	火2	2	1	全	20
	英語圏の文学・文化入門	児嶋 一男	秋	火2	2	1	全	20
文化コミュニケーション入門	板場 良久	春	水2	2	1	全	21	
文化コミュニケーション入門	板場 良久	秋	水2	2	1	全	21	
文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	春	金1	2	1	全	22	
文化コミュニケーション入門	佐々木 輝美	秋	金1	2	1	全	22	
1 3 年度 以降	国際関係入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	全	23
	国際関係入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	23
	国際関係入門	水本 義彦	春	火5	2	1	全	24
1 2 年度 以前	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	春	水2	2	1	全	23
	国際コミュニケーション入門	金子 芳樹	秋	水2	2	1	全	23
	国際コミュニケーション入門	水本 義彦	春	火5	2	1	全	24
Lecture Workshop I	各担当教員	春		2	1	全	25	
Lecture Workshop II	各担当教員	秋		2	1	全	25	
Comprehensive English I	L. K. ハーキンス	春	月2/金3	2	1	全	26	
Comprehensive English II	L. K. ハーキンス	秋	月2/金3	2	1	全	26	
Comprehensive English I	D. ベーカー	春	火2/木5	2	1	全	27	
Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	火2/木5	2	1	全	27	
Comprehensive English I	D. マックヤン	春	木1/金1	2	1	全	28	
Comprehensive English II	D. マックヤン	秋	木1/金1	2	1	全	28	
Comprehensive English I	J. スネール	春	火2/木1	2	1	全	29	
Comprehensive English II	J. スネール	秋	火2/木1	2	1	全	29	
Comprehensive English I	P. マッケビリー	春	月2/金2	2	1	全	30	
Comprehensive English II	P. マッケビリー	秋	月2/金2	2	1	全	30	
Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	火2/木5	2	1	全	31	
Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	火2/木5	2	1	全	31	
Comprehensive English I	D. M. ヴァンヴィーレン	春	月3/水3	2	1	全	32	
Comprehensive English II	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	月3/水3	2	1	全	32	
Comprehensive English I	K. フォード	春	月2/金3	2	1	全	33	
Comprehensive English II	K. フォード	秋	月2/金3	2	1	全	33	
Comprehensive English I	A. ジョーンズ	春	月4/木5	2	1	全	34	
Comprehensive English II	A. ジョーンズ	秋	月4/木5	2	1	全	34	
Comprehensive English I	D. ベーカー	春	火1/木4	2	1	全	35	
Comprehensive English II	D. ベーカー	秋	火1/木4	2	1	全	35	
Comprehensive English I	A. R. ファルヴォ	春	月3/金2	2	1	全	36	
Comprehensive English II	A. R. ファルヴォ	秋	月3/金2	2	1	全	36	
Comprehensive English I	N. クロス	春	火5/木4	2	1	全	37	
Comprehensive English II	N. クロス	秋	火5/木4	2	1	全	37	
Comprehensive English I 再履修	M. フッド/T. ミニオン	春	月5/水5	2	1	全	38	
Comprehensive English II 再履修	M. フッド/T. ミニオン	秋	月5/水5	2	1	全	39	

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

## 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Comprehensive English III	E. 本橋	春	水1	1	2	全	40
Comprehensive English IV	E. 本橋	秋	水1	1	2	全	40
Comprehensive English III	M. フッド	春	月3	1	2	全	41
Comprehensive English IV	M. フッド	秋	月3	1	2	全	41
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	42
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	42
Comprehensive English III	E. フランコ	春	水1	1	2	全	43
Comprehensive English IV	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	43
Comprehensive English III	J. N. ウェンデル	春	月3	1	2	全	44
Comprehensive English IV	J. N. ウェンデル	秋	月3	1	2	全	44
Comprehensive English III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	火1	1	2	全	45
Comprehensive English IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	火1	1	2	全	45
Comprehensive English III	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	46
Comprehensive English IV	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	46
Comprehensive English III	B. S. ハウエル	春	水3	1	2	全	47
Comprehensive English IV	B. S. ハウエル	秋	水3	1	2	全	47
Comprehensive English III	A. マグズ	春	木4	1	2	全	48
Comprehensive English IV	A. マグズ	秋	木4	1	2	全	48
Comprehensive English III	R. ダラム	春	木1	1	2	全	49
Comprehensive English IV	R. ダラム	秋	木1	1	2	全	49
Comprehensive English III	B. D. タッチャー	春	火4	1	2	全	50
Comprehensive English IV	B. D. タッチャー	秋	火4	1	2	全	50
Comprehensive English III	D. グライムズ	春	月4	1	2	全	51
Comprehensive English IV	D. グライムズ	秋	月4	1	2	全	51
Reading Strategies I	A. ゴーリンジャー	春	水1	1	1	全	52
Reading Strategies II	A. ゴーリンジャー	秋	水1	1	1	全	52
Reading Strategies I	J. N. ウェンデル	春	水1	1	1	全	53
Reading Strategies II	J. N. ウェンデル	秋	水1	1	1	全	53
Reading Strategies I	水本 義彦	春	水1	1	1	全	54
Reading Strategies II	水本 義彦	秋	水1	1	1	全	54
Reading Strategies I	前沢 浩子	春	水1	1	1	全	55
Reading Strategies II	前沢 浩子	秋	水1	1	1	全	55
Reading Strategies I	浅岡 千利世	春	水1	1	1	全	56
Reading Strategies II	浅岡 千利世	秋	水1	1	1	全	56
Reading Strategies I	佐野 康子	春	水1	1	1	全	57
Reading Strategies II	佐野 康子	秋	水1	1	1	全	57
Reading Strategies I	阿部 真	春	水1	1	1	全	58
Reading Strategies II	阿部 真	秋	水1	1	1	全	58
Reading Strategies I	上野 直子	春	水1	1	1	全	59
Reading Strategies II	上野 直子	秋	水1	1	1	全	59
Reading Strategies I	小早川 暁	春	水1	1	1	全	60
Reading Strategies II	小早川 暁	秋	水1	1	1	全	60
Reading Strategies I	羽山 恵	春	水1	1	1	全	61
Reading Strategies II	羽山 恵	秋	水1	1	1	全	61
Reading Strategies I	児嶋 一男	春	水1	1	1	全	62
Reading Strategies II	児嶋 一男	秋	水1	1	1	全	62
Reading Strategies I	片山 亜紀	春	水1	1	1	全	63
Reading Strategies II	片山 亜紀	秋	水1	1	1	全	63
Reading Strategies I 再履修	関根 路代	春	土1	1	1	全	64
Reading Strategies I 再履修	関根 路代	秋	土2	1	1	全	64
Reading Strategies II 再履修	関根 路代	春	土2	1	1	全	65
Reading Strategies II 再履修	関根 路代	秋	土1	1	1	全	65

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

# 学科基礎科目

09～15年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Reading Strategies III	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	66
Reading Strategies IV	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	66
Reading Strategies III	A. ゴーリンジャー	春	水2	1	2	全	67
Reading Strategies IV	A. ゴーリンジャー	秋	水2	1	2	全	67
Reading Strategies III	青柳 真紀子	春	水1	1	2	全	68
Reading Strategies IV	青柳 真紀子	秋	水1	1	2	全	68
Reading Strategies III	佐野 康子	春	水2	1	2	全	69
Reading Strategies IV	佐野 康子	秋	水2	1	2	全	69
Reading Strategies III	佐藤 唯行	春	水2	1	2	全	70
Reading Strategies IV	佐藤 唯行	秋	水2	1	2	全	70
Reading Strategies III	佐藤 唯行	春	水1	1	2	全	71
Reading Strategies IV	佐藤 唯行	秋	水1	1	2	全	71
Reading Strategies III	原 成吉	春	水2	1	2	全	72
Reading Strategies IV	原 成吉	秋	水2	1	2	全	72
Reading Strategies III	鈴木 英一	春	水1	1	2	全	73
Reading Strategies IV	鈴木 英一	秋	水1	1	2	全	73
Reading Strategies III	阿部 真	春	火4	1	2	全	74
Reading Strategies IV	阿部 真	秋	火4	1	2	全	74
Reading Strategies III	前沢 浩子	春	水2	1	2	全	75
Reading Strategies IV	前沢 浩子	秋	水2	1	2	全	75
Reading Strategies III	阿部 真	春	月4	1	2	全	76
Reading Strategies IV	阿部 真	秋	月4	1	2	全	76
Reading Strategies III	阿部 真	春	月3	1	2	全	77
Reading Strategies IV	阿部 真	秋	月3	1	2	全	77
Writing Skills I	R. ウィルコックス	春	火5	1	1	全	78
Writing Skills II	R. ウィルコックス	秋	火5	1	1	全	78
Writing Skills I	L. K. ハーキンス	春	金1	1	1	全	79
Writing Skills II	L. K. ハーキンス	秋	金1	1	1	全	79
Writing Skills I	J. スネール	春	火1	1	1	全	80
Writing Skills II	J. スネール	秋	火1	1	1	全	80
Writing Skills I	D. H. ケネディ	春	火2	1	1	全	81
Writing Skills II	D. H. ケネディ	秋	火2	1	1	全	81
Writing Skills I	阿部 真	春	金2	1	1	全	82
Writing Skills II	阿部 真	秋	金2	1	1	全	82
2 Writing Skills I	J. スネール	春	火3	1	1	全	83
0 Writing Skills II	J. スネール	秋	火3	1	1	全	83
1 Writing Skills I	D. グライムズ	春	月3	1	1	全	84
3 Writing Skills II	D. グライムズ	秋	月3	1	1	全	84
年度 Writing Skills I	D. マッキー	春	水3	1	1	全	85
以降 Writing Skills II	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	85
入 Writing Skills I	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	86
学 Writing Skills II	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	86
者 Writing Skills I	阿部 真	春	水2	1	1	全	87
Writing Skills II	阿部 真	秋	水2	1	1	全	87
Writing Skills I	B. S. ハウエル	春	水4	1	1	全	88
Writing Skills II	B. S. ハウエル	秋	水4	1	1	全	88
Writing Skills I	D. マッキー	春	水2	1	1	全	89
Writing Skills II	D. マッキー	秋	水2	1	1	全	89
Writing Skills I	山中 章子	春	水3	1	1	全	90
Writing Skills II	山中 章子	秋	水3	1	1	全	90
Writing Skills I	靱江 静	春	月3	1	1	全	91
Writing Skills II	靱江 静	秋	月3	1	1	全	91
Writing Skills I	阿部 真	春	水3	1	1	全	92
Writing Skills II	阿部 真	秋	水3	1	1	全	92

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

# 学科基礎科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
Writing Skills I	金谷 優子	春	水4	1	1	全	93
Writing Skills II	金谷 優子	秋	水4	1	1	全	93
Writing Skills I	阿部 真	春	金3	1	1	全	94
Writing Skills II	阿部 真	秋	金3	1	1	全	94
Writing Skills I	金谷 優子	春	水3	1	1	全	95
Writing Skills II	金谷 優子	秋	水3	1	1	全	95
Writing Skills III	R. ウィルコックス	春	火4	1	2	全	96
Writing Skills IV	R. ウィルコックス	秋	火4	1	2	全	96
Writing Skills III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	水4	1	2	全	97
Writing Skills IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	水4	1	2	全	97
Writing Skills III	N. クロス	春	木5	1	2	全	98
Writing Skills IV	N. クロス	秋	木5	1	2	全	98
Writing Skills III	M. フッド	春	月4	1	2	全	99
Writing Skills IV	M. フッド	秋	月4	1	2	全	99
Writing Skills III	A. ジェネス	春	月4	1	2	全	100
Writing Skills IV	A. ジェネス	秋	月4	1	2	全	100
Writing Skills III	S. ペイン	春	月4	1	2	全	101
Writing Skills IV	S. ペイン	秋	月4	1	2	全	101
Writing Skills III	B. D. タッチャー	春	木4	1	2	全	102
Writing Skills IV	B. D. タッチャー	秋	木4	1	2	全	102
Writing Skills III	K. ミーハン	春	月4	1	2	全	103
Writing Skills IV	K. ミーハン	秋	月4	1	2	全	103
Writing Skills III	E. フランコ	春	水2	1	2	全	104
Writing Skills IV	E. フランコ	秋	水2	1	2	全	104
Writing Skills III	P. マッケビリー	春	月3	1	2	全	105
Writing Skills IV	P. マッケビリー	秋	月3	1	2	全	105
Writing Skills III	D. ブラドリー	春	火4	1	2	全	106
Writing Skills IV	D. ブラドリー	秋	火4	1	2	全	106
Writing Skills III	D. H. ケネディ	春	火1	1	2	全	107
Writing Skills IV	D. H. ケネディ	秋	火1	1	2	全	107
Writing Skills III	R. ジョーンズ	春	水3	1	2	全	108
Writing Skills IV	R. ジョーンズ	秋	水3	1	2	全	108
Writing Skills III	L. K. ハーキンス	春	月3	1	2	全	109
Writing Skills IV	L. K. ハーキンス	秋	月3	1	2	全	109
Writing Skills III	A. ジョーンズ	春	月3	1	2	全	110
Writing Skills IV	A. ジョーンズ	秋	月3	1	2	全	110
Writing Skills III	山中 章子	春	水4	1	2	全	111
Writing Skills IV	山中 章子	秋	水4	1	2	全	111
Writing Skills III	A. ジョーンズ	春	木4	1	2	全	112
Writing Skills IV	A. ジョーンズ	秋	木4	1	2	全	112
Writing Skills III	D. M. ヴァンヴィーレン	春	木4	1	2	全	113
Writing Skills IV	D. M. ヴァンヴィーレン	秋	木4	1	2	全	113
E-learning I (1年1組～2組)	阿部 真	春	金5	1	1	全	114
E-learning II (1年1組～2組)	阿部 真	秋	金5	1	1	全	114
E-learning I (1年3組～12組)	安井 美代子	春	金5	1	1	全	115
E-learning II (1年3組～12組)	安井 美代子	秋	金5	1	1	全	115

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

# 学科基礎科目

09～15年度入学者用

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語音声学	青柳 真紀子	春	火4	2	1	全	214
英語音声学	青柳 真紀子	秋	火2	2	1	全	214
Basic Essay Writing	D. H. ケネディ	春	火2	1	1	全	81
Basic Essay Writing	D. H. ケネディ	秋	火2	1	1	全	81
Basic Essay Writing	阿部 真	春	金2	1	1	全	82
Basic Essay Writing	阿部 真	秋	金2	1	1	全	82
Basic Essay Writing	J. スネール	春	火3	1	1	全	83
Basic Essay Writing	J. スネール	秋	火3	1	1	全	83
Basic Essay Writing	D. グライムズ	春	月3	1	1	全	84
Basic Essay Writing	D. グライムズ	秋	月3	1	1	全	84
Paragraph Writing	D. マッキー	春	水3	1	1	全	85
Paragraph Writing	D. マッキー	秋	水3	1	1	全	85
Paragraph Writing	K. ミーハン	春	金3	1	1	全	86
Paragraph Writing	K. ミーハン	秋	金3	1	1	全	86
Paragraph Writing	阿部 真	春	水2	1	1	全	87
Paragraph Writing	阿部 真	秋	水2	1	1	全	87
Paragraph Writing	B. S. ハウエル	春	水4	1	1	全	88
Paragraph Writing	B. S. ハウエル	秋	水4	1	1	全	88
Paragraph Writing	D. マッキー	春	水2	1	1	全	89
Paragraph Writing	D. マッキー	秋	水2	1	1	全	89
Writing Strategies	山中 章子	春	水3	1	1	全	90
Writing Strategies	山中 章子	秋	水3	1	1	全	90
Writing Strategies	靱江 静	春	月3	1	1	全	91
Writing Strategies	靱江 静	秋	月3	1	1	全	91
Writing Strategies	阿部 真	春	水3	1	1	全	92
Writing Strategies	阿部 真	秋	水3	1	1	全	92
Writing Strategies	金谷 優子	春	水4	1	1	全	93
Writing Strategies	金谷 優子	秋	水4	1	1	全	93
Writing Strategies	阿部 真	春	金3	1	1	全	94
Writing Strategies	阿部 真	秋	金3	1	1	全	94
Writing Strategies	金谷 優子	春	水3	1	1	全	95
Writing Strategies	金谷 優子	秋	水3	1	1	全	95
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	春	水3	1	1	全	213
Pronunciation Practice	中田 ひとみ	秋	水3	1	1	全	213
Introductory Grammar	靱江 静	春	月2	1	1	全	178
Introductory Grammar	靱江 静	秋	月2	1	1	全	178
Introductory Grammar	河原 宏之	春	月5	1	1	全	179
Introductory Grammar	河原 宏之	秋	月5	1	1	全	179
Introductory Grammar	佐藤 芳明	春	火3	1	1	全	180
Introductory Grammar	佐藤 芳明	秋	火3	1	1	全	180
Introductory Grammar	靱江 静	春	水2	1	1	全	181
Introductory Grammar	靱江 静	秋	水2	1	1	全	181
Introductory Grammar	河原 宏之	春	水2	1	1	全	182
Introductory Grammar	河原 宏之	秋	水2	1	1	全	182
Introductory Grammar	小早川 暁	春	水2	1	1	全	183
Introductory Grammar	小早川 暁	秋	水2	1	1	全	183
Introductory Grammar	靱江 静	秋	水3	1	1	全	184
Introductory Grammar	田川 憲二郎	春	金2	1	1	全	185
Introductory Grammar	田川 憲二郎	秋	金2	1	1	全	185
Introductory Grammar	府川 謹也	春	金2	1	1	全	186
Introductory Grammar	府川 謹也	秋	金2	1	1	全	186

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。



## 学科共通科目「英語専門講読 I・II」

科目名(副題)	担当者	開講 区分	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語専門講読 I・II (Social Inequality & Education)	E. 本橋	春秋	月3	2	2	交	116
英語専門講読 I・II (生成文法入門)	河原 宏之	春秋	月3	2	2	交	117
英語専門講読 I (生成英語統語論への誘い)	鈴木 英一	春秋	月3	2	2	交	118
英語専門講読 I・II (英語圏伝承童謡を読む)	大木 理恵子	春秋	月4	2	2	交	119
英語専門講読 I・II (シェイクスピアとイギリス俳優)	前沢 浩子	春秋	月4	2	2	交	120
英語専門講読 I・II (日本文化の再確認)	町田 喜義	春秋	月4	2	2	交	121
英語専門講読 I・II (私たちの生活とグローバリゼーション1・2)	三吉 美加	春秋	月4	2	2	交	122
英語専門講読 I・II (現代イギリス小説)	東郷 公德	春秋	月5	2	2	交	123
英語専門講読 I・II (Endangered languages and language extinction)	J. N. ウェンデル	春秋	火1	2	2	交	124
英語専門講読 I・II (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	N. H. ジョスト	春秋	火1	2	2	交	125
英語専門講読 I・II (ディスコース分析)	佐藤 芳明	春秋	火2	2	2	交	126
英語専門講読 I・II (英語教育・SLA最前線)	羽山 恵	春秋	火2	2	2	交	127
英語専門講読 I・II (アメリカ現代詩)	原 成吉	春秋	火2	2	2	交	128
英語専門講読 I・II (Language & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	2	2	交	129
英語専門講読 I・II (はじめての音響音声学)	青柳 真紀子	春秋	火3	2	2	交	130
英語専門講読 I・II (現代国際関係論)	佐野 康子	春秋	火3	2	2	交	131
英語専門講読 I・II (異文化理解の基礎と応用)	瀬戸 千尋	春秋	火3	2	2	交	132
英語専門講読 I・II (視覚文化論入門)	柿田 秀樹	春秋	火4	2	2	交	133
英語専門講読 I・II (現代東南アジア諸国の経済・政治)	金子 芳樹	春秋	火4	2	2	交	134
英語専門講読 I・II (英国ユダヤ人史／米国ユダヤ人史)	佐藤 唯行	春秋	火4	2	2	交	135
英語専門講読 I・II (グローバル・ブランドと国際関係)	竹田 いさみ	春秋	火4	2	2	交	136
英語専門講読 I・II (ポピュラー・カルチャー入門① / ポピュラー・カルチャー入門②)	板場 良久	春秋	水1	2	2	交	137
英語専門講読 I・II (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子 芳樹	春秋	水1	2	2	交	138
英語専門講読 I・II (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷 優子	春秋	水2	2	2	交	139
英語専門講読 I・II (Korea Today)	金 雄熙	春のみ	水2	2	2	交	140

## 学科共通科目「英語専門講読 I・II」

09～15年度入学者用

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜日	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読 I・II (英語圏の現代演劇)	児嶋 一男	春秋	水2	2	2	交	141
英語専門講読 I・II (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	杉山 晴信	春のみ	水2	2	2	交	142
英語専門講読 I・II (英語でグローバル社会を語る)	竹田 いさみ	春秋	水2	2	2	交	143
英語専門講読 I・II (Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	水3	2	2	交	144
英語専門講読 I・II (実践的な英語の聴解・発音教育)	中田 ひとみ	春秋	水4	2	2	交	145
英語専門講読 I・II (Exploring Language Teaching)	浅岡 千利世	春秋	木1	2	2	交	146
英語専門講読 I・II (Travel Writing 1: 外国人が旅するJapan / Travel Writing 2: 歴史、思考、実践的技法)	山口 誠	春秋	木1	2	2	交	147
英語専門講読 I・II (Diplomacy and International Relations)	伊藤 兵馬	春秋	木2	2	2	交	148
英語専門講読 I・II (ツーリズムの現状と課題 / The Leaders of Airline Business)	井上 泰日子	春秋	木3	2	2	交	149
英語専門講読 I・II (Global Woman)	上野 直子	春秋	木3	2	2	交	150
英語専門講読 I・II (ビート詩人の地理的想像力)	遠藤 朋之	春秋	木3	2	2	交	151
英語専門講読 I・II (通訳訓練のための原書講読)	柴原 早苗	春秋	木3	2	2	交	152
英語専門講読 I・II (アメリカ小説)	島田 啓一	春秋	木3	2	2	交	153
英語専門講読 I・II (ツーリズム研究の基礎概念 / ツーリズム研究の現代的課題)	鈴木 涼太郎	春秋	木3	2	2	交	154
英語専門講読 I・II (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察)	水本 義彦	春秋	木3	2	2	交	155
英語専門講読 I・II (オーストラリアの詩)	国見 晃子	春秋	木4	2	2	交	156
英語専門講読 I・II (動詞の意味と文法)	小早川 暁	春秋	木4	2	2	交	157
英語専門講読 I・II (子どもの文学を考える)	片山 亜紀	春秋	金2	2	2	交	158
英語専門講読 I・II (Reading communication practices)	小西 卓三	春秋	金2	2	2	交	159
英語専門講読 I・II (Deconstructing "Japaneseness")	須永 和博	春秋	金2	2	2	交	160
英語専門講読 I・II (メディア文化史 1: ファッション / メディア文化史 2: 写真)	山口 誠	春秋	金2	2	2	交	161
英語専門講読 I・II (米国の対外政策)	高木 綾	春秋	金3	2	2	交	162
英語専門講読 I・II (従属節構造などに見られる言語の普遍性)	安井 美代子	春秋	金3	2	2	交	163
英語専門講読 I・II (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野 収	春秋	金4	2	2	交	164
英語専門講読 I・II (国際政治学から見る米中関係)	高木 綾	春秋	金5	2	2	交	165

# 学科共通科目

	科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
2013 年度以降 入学者	Advanced Writing (Research)	K. ミーハン	春	月2	2	3	交	167
	Advanced Writing (Research)	E. J. ナオウミ	春	火2	2	3	交	168
	Advanced Writing (Research)	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	3	交	168
	Advanced Writing (Business)	D. ブラドリー	春	火3	2	3	交	169
	Advanced Writing (Research)	D. ブラドリー	秋	火3	2	3	交	169
	Advanced Writing (Research)	D. ベーカー	春	火4	2	3	交	170
	Advanced Writing (Creative)	B. D. タッチャー	春	火5	2	3	交	171
	Advanced Writing (Research)	C. B. 池口	春	水2	2	3	交	172
	Advanced Writing (Research)	C. B. 池口	秋	水2	2	3	交	172
	Advanced Writing (Creative)	T. ミニオン	春	水3	2	3	交	173
	Advanced Writing (Creative)	T. ミニオン	秋	水3	2	3	交	173
	Advanced Writing (Research)	A. マグズ	春	木3	2	3	交	174
	Advanced Writing (Research)	A. マグズ	秋	木3	2	3	交	174
	Advanced Writing (Business)	E. フランコ	春	木3	2	3	交	175
	Advanced Writing (Business)	E. フランコ	秋	木3	2	3	交	175
	Advanced Writing (Business)	N. クロス	春	木3	2	3	交	176
	Advanced Writing (Business)	N. クロス	秋	木3	2	3	交	176
	Advanced Writing (Research)	K. フォード	春	金4	2	3	交	177
	Advanced Writing (Research)	K. フォード	秋	金4	2	3	交	177
2012 年度以前 入学者	Academic Writing	K. ミーハン	春	月2	2	2	交	167
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	交	168
	Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	交	168
	Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	交	169
	Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	交	169
	Academic Writing	D. ベーカー	春	火4	2	2	交	170
	Academic Writing	B. D. タッチャー	春	火5	2	2	交	171
	Academic Writing	C. B. 池口	春	水2	2	2	交	172
	Academic Writing	C. B. 池口	秋	水2	2	2	交	172
	Academic Writing	T. ミニオン	春	水3	2	2	交	173
	Academic Writing	T. ミニオン	秋	水3	2	2	交	173
	Academic Writing	A. マグズ	春	木3	2	2	交	174
	Academic Writing	A. マグズ	秋	木3	2	2	交	174
	Academic Writing	E. フランコ	春	木3	2	2	交	175
	Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	2	2	交	175
	Academic Writing	N. クロス	春	木3	2	2	交	176
	Academic Writing	N. クロス	秋	木3	2	2	交	176
Academic Writing	K. フォード	春	金4	2	2	交	177	
Academic Writing	K. フォード	秋	金4	2	2	交	177	
College Grammar	靱江 静	春	月2	2	2	交	178	
College Grammar	靱江 静	秋	月2	2	2	交	178	
College Grammar	河原 宏之	春	月5	2	2	交	179	
College Grammar	河原 宏之	秋	月5	2	2	交	179	
College Grammar	佐藤 芳明	春	火3	2	2	交	180	
College Grammar	佐藤 芳明	秋	火3	2	2	交	180	
College Grammar	靱江 静	春	水2	2	2	交	181	
College Grammar	靱江 静	秋	水2	2	2	交	181	
College Grammar	河原 宏之	春	水2	2	2	交	182	
College Grammar	河原 宏之	秋	水2	2	2	交	182	
College Grammar	小早川 暁	春	水2	2	2	交	183	
College Grammar	小早川 暁	秋	水2	2	2	交	183	
College Grammar	靱江 静	秋	水3	2	2	交	184	
College Grammar	田川 憲二郎	春	金2	2	2	交	185	
College Grammar	田川 憲二郎	秋	金2	2	2	交	185	
College Grammar	府川 謹也	春	金2	2	2	交	186	
College Grammar	府川 謹也	秋	金2	2	2	交	186	

# 学科共通科目

09～15年度入学者用

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
2013 年度以降 入学者	Communication Skills	K. フォード	春	月1	2	2	交	187	
	Communication Skills	K. フォード	秋	月1	2	2	交	187	
	Communication Skills	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	交	188	
	Communication Skills	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	交	188	
	Communication Skills	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	189	
	Communication Skills	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	189	
	Communication Skills	A. ジョーンズ	春	月2	2	2	交	190	
	Communication Skills	A. ジョーンズ	秋	月2	2	2	交	190	
	Communication Skills	M. ダーリン	春	月5	2	2	交	191	
	Communication Skills	M. ダーリン	秋	月5	2	2	交	191	
	Communication Skills	R. ダラム	春	火2	2	2	交	192	
	Communication Skills	R. ダラム	秋	火2	2	2	交	192	
	Communication Skills	D. ベーカー	秋	火4	2	2	交	193	
	Communication Skills	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	194	
	Communication Skills	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	194	
	Communication Skills	B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	195	
	Communication Skills	D. マッキャン	春	木2	2	2	交	196	
	Communication Skills	D. マッキャン	秋	木2	2	2	交	196	
	Communication Skills	J. スネール	春	木2	2	2	交	197	
	Communication Skills	J. スネール	秋	木2	2	2	交	197	
	Communication Skills	R. ダラム	春	木2	2	2	交	198	
	Communication Skills	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	198	
	Communication Skills	K. ミーハン	春	金1	2	2	交	199	
	Communication Skills	K. ミーハン	秋	金1	2	2	交	199	
	Communication Skills	P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	200	
	Communication Skills	P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	200	
	2012 年度以前 入学者	Communicative English	K. フォード	春	月1	2	2	交	187
		Communicative English	K. フォード	秋	月1	2	2	交	187
Communicative English		P. M. ホーネス	春	月1	2	2	交	188	
Communicative English		P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	交	188	
Communicative English		R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	189	
Communicative English		R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	189	
Communicative English		A. ジョーンズ	春	月2	2	2	交	190	
Communicative English		A. ジョーンズ	秋	月2	2	2	交	190	
Communicative English		M. ダーリン	春	月5	2	2	交	191	
Communicative English		M. ダーリン	秋	月5	2	2	交	191	
Communicative English		R. ダラム	春	火2	2	2	交	192	
Communicative English		R. ダラム	秋	火2	2	2	交	192	
Communicative English		D. ベーカー	秋	火4	2	2	交	193	
Communicative English		R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	194	
Communicative English		R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	194	
Communicative English		B. D. タッチャー	秋	火5	2	2	交	195	
Communicative English		D. マッキャン	春	木2	2	2	交	196	
Communicative English		D. マッキャン	秋	木2	2	2	交	196	
Communicative English		J. スネール	春	木2	2	2	交	197	
Communicative English		J. スネール	秋	木2	2	2	交	197	
Communicative English		R. ダラム	春	木2	2	2	交	198	
Communicative English		R. ダラム	秋	木2	2	2	交	198	
Communicative English		K. ミーハン	春	金1	2	2	交	199	
Communicative English		K. ミーハン	秋	金1	2	2	交	199	
Communicative English		P. マッケビリー	春	金1	2	2	交	200	
Communicative English		P. マッケビリー	秋	金1	2	2	交	200	

# 学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
Discussion	P. マッケビリー	春	月1	2	2	交	201	
Discussion	P. マッケビリー	秋	月1	2	2	交	201	
Discussion	K. ミーハン	秋	月2	2	2	交	202	
Discussion	L. K. ハーキンス	春	月4	2	2	交	203	
Discussion	N. H. ジョスト	春	水1	2	2	交	204	
Discussion	N. H. ジョスト	秋	水1	2	2	交	204	
Discussion	C. B. 池口	春	水4	2	2	交	205	
Discussion	C. B. 池口	秋	水4	2	2	交	205	
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	206	
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	206	
Discussion	B. D. タッチャー	春	木5	2	2	交	207	
Discussion	B. D. タッチャー	秋	木5	2	2	交	207	
Public Speaking I	D. マッキー	春	水4	2	2	交	208	
Public Speaking I	D. マッキー	秋	水4	2	2	交	208	
Public Speaking I	J. N. ウェンデル	春	月4	2	2	交	209	
Public Speaking II	J. N. ウェンデル	秋	月4	2	2	交	209	
Debate I	N. H. ジョスト	春	火2	2	2	交	210	
Debate II	N. H. ジョスト	秋	火2	2	2	交	210	
1 3 年 度 以 降	Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	春	火4	2	2	交	211
	Academic Lecture	A. ゴーリンジャー	秋	火4	2	2	交	211
	Academic Lecture	伊藤 兵馬	春	木4	2	2	交	212
	Academic Lecture	伊藤 兵馬	秋	木4	2	2	交	212
	Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	春	水3	2	2	交	213
	Listening and Pronunciation	中田 ひとみ	秋	水3	2	2	交	213
	英語の音声	青柳 真紀子	春	火4	2	2	交	214
	英語の音声	青柳 真紀子	秋	火2	2	2	交	214
通訳 I	柴原 早苗	春	水1	2	2	交	215	
通訳 I	柴原 早苗	秋	水1	2	2	交	215	
通訳 I	柴原 早苗	春	水2	2	2	交	216	
通訳 I	柴原 早苗	秋	水2	2	2	交	216	
通訳 I	柴原 早苗	春	木1	2	2	交	217	
通訳 I	柴原 早苗	秋	木1	2	2	交	217	
通訳 II	柴原 早苗	春	木2	2	2	交	218	
通訳 II	柴原 早苗	秋	木2	2	2	交	218	
翻訳	高田 宣子	春	火5	2	2	交	219	
翻訳	高田 宣子	秋	火5	2	2	交	219	
翻訳	上野 直子	春	水2	2	2	交	220	
翻訳	山中 章子	春	水5	2	2	交	221	
翻訳	山中 章子	秋	水5	2	2	交	221	
翻訳	柴田 耕太郎	春	木3	2	2	交	222	
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木3	2	2	交	222	
翻訳	柴田 耕太郎	春	木4	2	2	交	223	
翻訳	柴田 耕太郎	秋	木4	2	2	交	223	
翻訳	田村 斉敏	春	金4	2	2	交	224	
翻訳	P. ネルム	春	水4	2	2	交	225	
翻訳	P. ネルム	秋	水3	2	2	交	225	
翻訳	白川 貴子	春	水3	2	2	交	226	
翻訳	白川 貴子	秋	水3	2	2	交	226	

## 学科共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月1	2	2	交・経	227
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月1	2	2	交・経	227
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	春	月2	2	2	交・経	228
英語ビジネス・コミュニケーション	信 達郎	秋	月2	2	2	交・経	228
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	火3	2	2	交・経	229
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	火3	2	2	交・経	229
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	春	水3	2	2	交・経	230
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢 達郎	秋	水3	2	2	交・経	230
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木3	2	2	交・経	231
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山 晴信	春	木4	2	2	交・経	232
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山 晴信	春	金1	2	3	交・経	233
メディア英語 I	海老沢 達郎	春	火2	2	2	交	234
メディア英語 I	海老沢 達郎	秋	火2	2	2	交	234
メディア英語 I	中田 ひとみ	春	水5	2	2	交	235
メディア英語 I	中田 ひとみ	秋	水5	2	2	交	235
メディア英語 I	国見 晃子	春	木2	2	2	交	236
メディア英語 I	国見 晃子	秋	木2	2	2	交	236
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	金1	2	2	交	237
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	金1	2	2	交	237
メディア英語 I	P. ネルム	春	金1	2	2	交	238
メディア英語 I	P. ネルム	秋	金1	2	2	交	238
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	春	金3	2	2	交	239
メディア英語 I	A. R. ファルヴォ	秋	金3	2	2	交	239
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	240
メディア英語 II	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	240
メディア英語 II	東郷 公德	春	月4	2	2	交	241
メディア英語 II	東郷 公德	秋	月4	2	2	交	241
メディア英語 II	P. ネルム	春	金2	2	2	交	242
メディア英語 II	P. ネルム	秋	金2	2	2	交	242
シネマ英語	片山 亜紀	春	火2	2	2	交	243
シネマ英語	片山 亜紀	秋	火2	2	2	交	243
シネマ英語	高田 宣子	春	火4	2	2	交	244
シネマ英語	高田 宣子	秋	火4	2	2	交	244
シネマ英語	鞆江 静	春	水3	2	2	交	245
シネマ英語	国見 晃子	春	木3	2	2	交	246
シネマ英語	国見 晃子	秋	木3	2	2	交	246
シネマ英語	田村 斉敏	秋	金4	2	2	交	247

## 特別セミナー

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
特別セミナー(日常の中の韓国文化)	金 雄熙	春	月2	2	3		297
特別セミナー(日常の中の韓国文化)	金 雄熙	秋	月2	2	3		297

## 学科専門科目

09～15年度入学者用

### 言語コミュニケーション(12年度以前)／言語(13年度以降)

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語学の世界	府川 謹也	春	金1	2	2	交	248
英語学の世界	府川 謹也	秋	金1	2	2	交	248
言語情報処理 I a	羽山 恵	春	木2	2	2	独・仏・交	249
言語情報処理 I b	羽山 恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	249
言語情報処理 II a	内田 富男	春	水1	2	2		250
言語情報処理 II b	内田 富男	秋	水1	2	2		250
実践英語音声学	青柳 真紀子	秋	火5	2	2		251
音声・音韻論a	青柳 真紀子	春	木3	2	2		252
音声・音韻論b	青柳 真紀子	秋	木3	2	2		252
シタクスa	鈴木 英一	春	月4	2	2		253
シタクスb	鈴木 英一	秋	月4	2	2		253
意味論a	府川 謹也	春	火1	2	2		254
意味論b	府川 謹也	秋	火1	2	2		254
英語学特殊講義a	安井 美代子	春	火3	2	2		255
英語学特殊講義b	安井 美代子	秋	火3	2	2		255
英語学特殊講義a	小早川 暁	春	木3	2	2		256
英語学特殊講義b	小早川 暁	秋	木3	2	2		256
<sup>13</sup> 年度以降 英語学文献セミナーa	小早川 暁	春	火3	2	3		257
<sup>13</sup> 年度以降 英語学文献セミナーb	小早川 暁	秋	火3	2	3		257
<sup>12</sup> 年度以前 英語学文献研究a	小早川 暁	春	火3	2	3		257
<sup>12</sup> 年度以前 英語学文献研究b	小早川 暁	秋	火3	2	3		257

### 文学コミュニケーション(12年度以前)／文学文化(13年度以降)

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の文学・文化a	前沢 浩子	春	火5	2	2		258
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の文学・文化b	片山 亜紀	秋	火5	2	2		258
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の文学・文化・批評a	原 成吉	春	火1	2	2	全	259
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の文学・文化・批評b	上野 直子	秋	水2	2	2	全	260
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の文学・文化・批評b	児嶋 一男	秋	月3	2	2	全	261
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の社会・思想・歴史a	片山 亜紀	春	火4	2	2	全	262
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の社会・思想・歴史b	田村 斉敏	秋	金3	2	2	全	263
<sup>20</sup> 13年度以降入学者 英語圏の社会・思想・歴史b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		264
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の文学・文化	前沢 浩子	春	火5	2	2		258
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の文学・文化	片山 亜紀	秋	火5	2	2		258
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の詩a	原 成吉	春	火1	2	2	全	259
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の小説b	上野 直子	秋	水2	2	2	全	260
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の演劇b	児嶋 一男	秋	月3	2	2	全	261
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の社会と思想a	片山 亜紀	春	火4	2	2	全	262
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の社会と思想b	田村 斉敏	秋	金3	2	2	全	263
<sup>20</sup> 12年度以前入学者 英語圏の歴史b	佐藤 唯行	秋	火2	2	2		264
英語圏のエリア・スタディーズ a	佐藤 唯行	春	火2	2	2	交	265
英語圏のエリア・スタディーズ b	P. ネルム	秋	水4	2	2	交	265
英語圏の文学・文化特殊講義 a	児嶋 一男	春	月3	2	2		266
英語圏の文学・文化特殊講義 a	島田 啓一	春	木2	2	2		267
英語圏の文学・文化特殊講義 b	原 成吉	秋	火1	2	2		268
英語圏の文学・文化特殊講義 b	前沢 浩子	秋	火4	2	2		269
<sup>13</sup> 年度以降 英語圏の文学・文化文献セミナーa	田村 斉敏	春	金3	2	3		270
<sup>13</sup> 年度以降 英語圏の文学・文化文献セミナーb	島田 啓一	秋	木2	2	3		270
<sup>12</sup> 年度以前 英語圏の文学・文化文献研究 a	田村 斉敏	春	金3	2	3		270
<sup>12</sup> 年度以前 英語圏の文学・文化文献研究 b	島田 啓一	秋	木2	2	3		270

## 学科専門科目

### 異文化コミュニケーション(12年度以前)／文化コミュニケーション(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a	町田 喜義	春	金5	2	2	養	271
異文化間コミュニケーション論a	町田 喜義	秋	金5	2	2	養	271
異文化間コミュニケーション論b	板場 良久	春	金5	2	2	養	272
異文化間コミュニケーション論b	板場 良久	秋	金5	2	2	養	272
メディア・コミュニケーション論a	松本 健太郎	春	火1	2	2		273
メディア・コミュニケーション論b	松本 健太郎	秋	火1	2	2		273
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田 秀樹	春	木3	2	2		274
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田 秀樹	秋	木3	2	2		274
スピーチ・コミュニケーション論a	小西 卓三	春	金1	2	2		275
スピーチ・コミュニケーション論b	小西 卓三	秋	金1	2	2		275
コミュニケーション論特殊講義a	柿田 秀樹	春	火3	2	3		276
コミュニケーション論特殊講義b	柿田 秀樹	秋	火3	2	3		276
コミュニケーション論特殊講義a	町田 喜義	春	金4	2	3		277
コミュニケーション論特殊講義b	町田 喜義	秋	金4	2	3		277
13 年度 以降	コミュニケーション論文献セミナーa	松本 健太郎	春	火2	2	3	278
	コミュニケーション論文献セミナーb	松本 健太郎	秋	火2	2	3	278
	コミュニケーション論文献セミナーa	柿田 秀樹	春	木4	2	3	279
	コミュニケーション論文献セミナーb	柿田 秀樹	秋	木4	2	3	279
12 年度 以前	コミュニケーション論文献研究a	松本 健太郎	春	火2	2	3	278
	コミュニケーション論文献研究b	松本 健太郎	秋	火2	2	3	278
	コミュニケーション論文献研究a	柿田 秀樹	春	木4	2	3	279
	コミュニケーション論文献研究b	柿田 秀樹	秋	木4	2	3	279

### 国際コミュニケーション(12年度以前)／国際関係(13年度以降)

科目名	担当者	開講 学期	曜日	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ	
グローバル社会論a	竹田 いさみ	春	火3	2	2	交	280	
グローバル社会論a	竹田 いさみ	秋	火3	2	2	交	280	
グローバル社会論b	水本 義彦	春	火3	2	2	交	281	
グローバル社会論b	水本 義彦	秋	火3	2	2	交	281	
英語圏の国際関係a	永野 隆行	春	月2	2	2	交・法	282	
英語圏の国際関係b	永野 隆行	春	水1	2	2	交・法	282	
グローバル・ヒストリーa (2013年度以降入学者)	水本 義彦	春	木2	2	2	交	283	
グローバル・ヒストリーb (2013年度以降入学者)	水本 義彦	秋	木2	2	2	交	283	
国際開発論	金子 芳樹	春	火2	2	2	交	284	
国際協力論	竹田 いさみ	秋	月3	2	2	交	285	
国際交流論	石川 幸子	春	金2	2	2	交	286	
国際ツーリズム論	鈴木 涼太郎	春	木4	2	2	交	287	
国際NGO・ボランティア論	金子 芳樹	秋	火2	2	2	交	288	
国際リスク・海洋論 (2013年度以降入学者)	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	289	
国際関係特殊講義a (2012年度以前入学者、重複履修不可)	竹田 いさみ	春	月3	2	2	交	289	
国際関係特殊講義a	永野 隆行	春	火4	2	2	交 13以降	290	
国際関係特殊講義a (2012年度以前入学者、重複履修不可)	水本 義彦	春	木2	2	2	交 13以降	283	
国際関係特殊講義b (2012年度以前入学者、重複履修不可)	水本 義彦	秋	木2	2	2	交 13以降	283	
国際関係特殊講義b	佐野 康子	秋	火4	2	2	交 13以降	291	
国際関係特殊講義b	金 雄熙	秋	水2	2	2	交 13以降	292	
国際関係特殊講義b	石川 幸子	秋	金2	2	2	交 13以降	293	
13 年度 以降	国際関係文献セミナーa	佐野 康子	春	火4	2	3	交 13以降	294
	国際関係文献セミナーa	金 雄熙	春	水3	2	3	交 13以降	295
	国際関係文献セミナーb	金 雄熙	秋	水3	2	3	交 13以降	295
	国際関係文献セミナーa	高木 綾	春	金4	2	3	交 13以降	296
	国際関係文献セミナーb	高木 綾	秋	金4	2	3	交 13以降	296
12 年度 以前	国際関係文献研究a	佐野 康子	春	火4	2	3		294
	国際関係文献研究a	金 雄熙	春	水3	2	3		295
	国際関係文献研究b	金 雄熙	秋	水3	2	3		295
	国際関係文献研究a	高木 綾	春	金4	2	3		296
	国際関係文献研究b	高木 綾	秋	金4	2	3		296



## 交流文化論(09年度以降入学者)

	科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修不可	ページ
交 流 文 化 論  ( 副 題 )	航空産業論	井上 泰日子	春	月3	2	2	交・養・経・法	299
	ツーリズム・マネジメント論	鈴木 涼太郎	春	火3	2	2	交・養・経・法	300
	食の文化論	北野 収	春	水2	2	2	交・養・経・法	301
	トランスナショナル・メディア論	山口 誠	春	木2	2	2	交・養・経・法	302
	表象文化論	高橋 雄一郎	春	木4	2	2	交・養・経・法	303
	開発文化論	北野 収	春	金3	2	2	交・養・経・法	304
	フィールドワーク論	須永 和博	春	金4	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	305
	ツーリズム人類学	須永 和博	春	金5	2	2	交・養・経・法	306
	国際会議・イベント事業論	井上 泰日子	秋	月1	2	2	交・養・経・法	307
	ツーリズム政策論	井上 泰日子	秋	月3	2	2	交・養・経・法	308
	ツーリズム文化論	鈴木 涼太郎	秋	火3	2	2	交・養・経・法	309
	パフォーマンス研究【12年度以前入学者】 トランスナショナル文化特殊講義(パフォーマンス研究) 【13年度以降入学者】	高橋 雄一郎	秋	火4	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	310
	トランスナショナル文化特殊講義(トランスナショナルな 公共圏を求めて) 【13年度以降入学者のみ】	高橋 雄一郎	秋	火5	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	311
	トランスナショナル社会学	北野 収	秋	水2	2	2	交・養・経・法	312
	トランスナショナル文化特殊講義(写真とツーリズムの 交流文化史) 【13年度以降入学者のみ】	山口 誠	秋	木2	2	2	交・養・経・法	313
	旅行・宿泊産業論	井上 泰日子	秋	木4	2	2	交・養・経・法	314
	ツーリズム・メディア論【12年度以前入学者】 ツーリズム特殊講義(ツーリズム・メディア論)【13年度 以降入学者】	山口 誠	秋	金1	2	2	交・養・経・法	315
	市民参加のまちづくり論【12年度以前入学者】 地域開発論【13年度以降入学者】	北野 収	秋	金3	2	2	交・養・経・法	316
	ツーリズム地誌論【12年度以前入学者】 ツーリズム特殊講義(ツーリズム地誌論)【13年度以降 入学者】	須永 和博	秋	金4	2	2	独・仏・交・ 養・経・法	317
オルタナティブ・ツーリズム論	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養・経・法	318	

※上記は交流文化論の副題です。修得した場合は交流文化論(副題)として表記されます。  
英語学科生の履修上限単位は、8単位(ただし、副題が異なること)です。

## 外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	水本 義彦	春	水3	2	1	養・経・法	319
総合講座	水本 義彦	秋	水3	2	1	養・経・法	319
総合講座	木村 佐千子	春	火3	2	1	養・経・法	320
総合講座	木村 佐千子	秋	火3	2	1	養・経・法	320
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	321
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						322～324
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	金子 憲一	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						325～328
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	木3	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	春	水1	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	松山 恵美子	秋	水1	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(HTML)情報科学各論	各担当教員						329～330
(HTML初級)	金子 憲一	春	木4	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	木4	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	
経済原論a	野村 容康	春	木2	2	2	養・経・法	331
経済原論b	野村 容康	秋	木2	2	2	養・経・法	331
社会心理学a	樋口 匡貴	春	金2	2	2	養・経・法	332
社会心理学b	樋口 匡貴	秋	金2	2	2	養・経・法	332

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

09年度以降	英語学入門	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の歴史を簡単に振り返り、英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する。</p> <p><b>講義概要:</b> 人間の言葉には歴史があり、現代の英語の姿を見る際に英語の歴史をみることは有益である。人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文を構成する最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語句の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文中での機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文が使用される文脈が文の意味解釈にどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の現況・英語の系譜関係</li> <li>2. 時代区分と各時期の特色(1): 英語の背景と時代区分</li> <li>3. 時代区分と各時期の特色(2): 近代英語の成立</li> <li>4. 時代区分と各時期の特色(3): 語順の確立</li> <li>5. 綴り字: 綴り字と音声, 綴り字発音</li> <li>6. 音声(1): 英語音声学, 音声器官, 音声記号</li> <li>7. 音声(2): 英語の母音・子音体系, 連音の特徴</li> <li>8. 語彙・語源: 語彙の変化, 語の構造 《中間試験》</li> <li>9. 形態論(1): 語の基本構造, 形態素の種類と語の構成</li> <li>10. 形態論(2): 語形成, 派生と屈折, 複合語</li> <li>11. 統語論(1): 統語論とは何か, 構成素構造, 語順</li> <li>12. 統語論(2): 変形生成文法の統語論</li> <li>13. 意味論: 語の意味論, 文の意味論</li> <li>14. 情報構造: 文の主題と情報構造, 強勢と文の情報構造</li> <li>15. 語用論: 直示表現, 会話の含意 《期末試験》</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書: 安井稔(1987)『英語学概論』開拓社.</p>		中間試験と期末試験と受講状況に基づき総合的に評価する。	

09年度以降	英語学入門	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> 英語学とは英語の言語学であり、言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である。英語学は英語という言葉のさまざまな面を科学的に研究する分野である。この講義では、英語の歴史を簡単に振り返り、英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する。</p> <p><b>講義概要:</b> 人間の言葉には歴史があり、現代の英語の姿を見る際に英語の歴史をみることは有益である。人間がどのような音を用いるか、英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される。文を構成する最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される。統語論は、語によって構成される文がどのような語句の配列と構造をもつか、どのように説明するのが適切であるかを研究する。意味論は、文がどのような意味内容を表すかを扱う。文の意味内容を理解するためには、語句の文中での機能、語の意味や語の結合の意味計算、語の修飾関係などを知る必要がある。文が使用される文脈が文の意味解釈にどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の現況・英語の系譜関係</li> <li>2. 時代区分と各時期の特色(1): 英語の背景と時代区分</li> <li>3. 時代区分と各時期の特色(2): 近代英語の成立</li> <li>4. 時代区分と各時期の特色(3): 語順の確立</li> <li>5. 綴り字: 綴り字と音声, 綴り字発音</li> <li>6. 音声(1): 英語音声学, 音声器官, 音声記号</li> <li>7. 音声(2): 英語の母音・子音体系, 連音の特徴</li> <li>8. 語彙・語源: 語彙の変化, 語の構造 《中間試験》</li> <li>9. 形態論(1): 語の基本構造, 形態素の種類と語の構成</li> <li>10. 形態論(2): 語形成, 派生と屈折, 複合語</li> <li>11. 統語論(1): 統語論とは何か, 構成素構造, 語順</li> <li>12. 統語論(2): 変形生成文法の統語論</li> <li>13. 意味論: 語の意味論, 文の意味論</li> <li>14. 情報構造: 文の主題と情報構造, 強勢と文の情報構造</li> <li>15. 語用論: 直示表現, 会話の含意 《期末試験》</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書: 安井稔(1987)『英語学概論』開拓社.</p>		中間試験と期末試験と受講状況に基づき総合的に評価する。	

09年度以降	英語学入門	担当者	安井 美代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>contrastive と demonstrative はともに-ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます。英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っている、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「凧(たこ)」と「凧(かぜ)」の前に「大(おお)」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思われかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無意識の(言語)知識=Human Intelligence (クイズ1)</li> <li>2. 英語の音のしくみ (クイズ2)</li> <li>3. 様々な音韻現象 (クイズ3)</li> <li>4. 英語の単語の成り立ち (クイズ4)</li> <li>5. 続き (クイズ5)</li> <li>6. 英語のアクセント (クイズ6)</li> <li>7. 中間試験 (1~6週の範囲)</li> <li>8. 英語の文構造 (クイズ7)</li> <li>9. 続き (クイズ8)</li> <li>10. 続き (クイズ9)</li> <li>11. 続き (クイズ10)</li> <li>12. 文構造の解析 (クイズ11)</li> <li>13. 子供の言語獲得 (クイズ12)</li> <li>14. 私たちにとって言語とは何か</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験 (8~15週の範囲)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはなし。プリントを配布する。		授業の最初に簡単な復習クイズを行う(上記の授業計画参照)。評価はこのクイズ(10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%)による。	

09年度以降	英語学入門	担当者	安井 美代子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>contrastive と demonstrative はともに-ive で終わり、形容詞ですが、アクセント位置は後ろから数えると異なります。では、commemorative の品詞は？アクセント位置は？かなり難しい単語なので「知らない」と答えるかもしれませんが、実は簡単な規則で予測できてしまいます。英語の母国語話者はこの規則を無意識な知識として持っている、知らない単語、新しく作られた語に出会っても、品詞、アクセント位置などが「分か」ります。日本語の母国語話者としての私たちも同様に無意識の言語知識を持っています。例えば「凧(たこ)」と「凧(かぜ)」の前に「大(おお)」を付けて発音してみてください。違いがあるはずですが、1つ1つ単語の発音を暗記しているからだと思われかもしれませんが、実はそうではありません。</p> <p>この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていきます。扱うデータは英語が中心ですが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げていきます。さらに、実際の英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらいたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 無意識の(言語)知識=Human Intelligence (クイズ1)</li> <li>2. 英語の音のしくみ (クイズ2)</li> <li>3. 様々な音韻現象 (クイズ3)</li> <li>4. 英語の単語の成り立ち (クイズ4)</li> <li>5. 続き (クイズ5)</li> <li>6. 英語のアクセント (クイズ6)</li> <li>7. 中間試験 (1~6週の範囲)</li> <li>8. 英語の文構造 (クイズ7)</li> <li>9. 続き (クイズ8)</li> <li>10. 続き (クイズ9)</li> <li>11. 続き (クイズ10)</li> <li>12. 文構造の解析 (クイズ11)</li> <li>13. 子供の言語獲得 (クイズ12)</li> <li>14. 私たちにとって言語とは何か</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験 (8~15週の範囲)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはなし。プリントを配布する。		授業の最初に簡単な復習クイズを行う(上記の授業計画参照)。評価はこのクイズ(10%)、中間試験(40%)、定期試験(50%)による。	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。</p> <p>1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代 500 年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。</p> <p>2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。</p> <p>3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。</p> <p>4. あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。</p> <p>なおこの講義は英国とその（旧）植民地で書かれた散文を中心としたものである。</p>		<p>第1回：英語圏とは、英語とは。</p> <p>第2回：社会・文学・歴史</p> <p>第3回：語る・聞く文学から読む文学へ</p> <p>第4回：帝国と小説</p> <p>第5回：世紀をこえるベストセラー (1)</p> <p>第6回：世紀をこえるベストセラー (2)</p> <p>第7回：テキストとその受容 (1)</p> <p>第8回：テキストとその受容 (2)</p> <p>第9回：政治機構としての文学</p> <p>第10回：ポストコロニアル文学の登場</p> <p>第11回：もうひとつの物語 (1)</p> <p>第12回：もうひとつの物語 (2)</p> <p>第13回：ディアスポラと言葉という故郷</p> <p>第14回：英語作家とは？</p> <p>第15回：グローバル文学の視点</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。</p>		<p>授業内活動参加度（コメントペーパーなど）40%</p> <p>試験 60%</p>	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。独自のやり方で、世界を映し出し、読者を楽しませ、考えさせる文学のテキストに取り組みながら、理解し、身につけてほしいのは、特に次の四点である。</p> <p>1. 自分自身の「現在と此所」を、近現代 500 年の歴史と世界のひろがり、その複雑なつながりのなかで考える癖をつけよう。</p> <p>2. 歴史も物語もつくりあげられたものであること、その意味では現実とフィクションの境界は思ったより曖昧であることを理解しよう。</p> <p>3. 現実やフィクションが構築されるに際しては、「権力」が作用していることに気づこう。</p> <p>4. あらゆる現実・フィクションには、いくつもの側面があることに敏感になろう。</p> <p>なおこの講義は英国とその（旧）植民地で書かれた散文を中心としたものである。</p>		<p>第1回：英語圏とは、英語とは。</p> <p>第2回：社会・文学・歴史</p> <p>第3回：語る・聞く文学から読む文学へ</p> <p>第4回：帝国と小説</p> <p>第5回：世紀をこえるベストセラー (1)</p> <p>第6回：世紀をこえるベストセラー (2)</p> <p>第7回：テキストとその受容 (1)</p> <p>第8回：テキストとその受容 (2)</p> <p>第9回：政治機構としての文学</p> <p>第10回：ポストコロニアル文学の登場</p> <p>第11回：もうひとつの物語 (1)</p> <p>第12回：もうひとつの物語 (2)</p> <p>第13回：ディアスポラと言葉という故郷</p> <p>第14回：英語作家とは？</p> <p>第15回：グローバル文学の視点</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。</p>		<p>授業内活動参加度（コメントペーパーなど）40%</p> <p>試験 60%</p>	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。</p> <p><b>講義概要</b> それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということ、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていきます。 テキストは、ハンドアウトを使用し、各回の始めに英語の語彙 quiz を行い、各回の終わりに、内容把握の確認 quiz を行います。</p> <p>公欠扱いはありません。 授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>第1回：導入—文学とは？ 第2回：死生観—生きるための視点から 第3回：人種 1—ケルト人 第4回：人種 2—ケルト文化 第5回：イギリス島の人種のルーツ 第6回：物語と英語の始まり 第7回：信仰と人間観 第8回：Shakespeare 1 第9回：Shakespeare 2 第10回：ジャーナリズムの誕生—報道の責任 第11回：小説の誕生—社会と人間 第12回：19世紀のおもしろ小説 第13回：アイルランド移民とアメリカ 第14回：20世紀から21世紀の小説に 第15回：まとめ—文学と人間</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。		毎回授業開始時に行う語彙 quiz で50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で50%。学期末の定期試験はしません。	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学文化入門 英語圏の文学・文化入門	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> グレート・ブリテン島とアイルランド島の文化について、理解への導入を図ること。</p> <p><b>講義概要</b> それぞれの時代の文学作品を基にして、人間とは何か？ということ、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりなどから批評的に考えていきます。 テキストは、ハンドアウトを使用し、各回の始めに英語の語彙 quiz を行い、各回の終わりに、内容把握の確認 quiz を行います。</p> <p>公欠扱いはありません。 授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>第1回：導入—文学とは？ 第2回：死生観—生きるための視点から 第3回：人種 1—ケルト人 第4回：人種 2—ケルト文化 第5回：イギリス島の人種のルーツ 第6回：物語と英語の始まり 第7回：信仰と人間観 第8回：Shakespeare 1 第9回：Shakespeare 2 第10回：ジャーナリズムの誕生—報道の責任 第11回：小説の誕生—社会と人間 第12回：19世紀のおもしろ小説1 第13回：アイルランド移民とアメリカ 第14回：20世紀から21世紀の小説に 第15回：まとめ—文学と人間</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。		毎回授業開始時に行う語彙 quiz で50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で50%。学期末の定期試験はしません。	

09年度以降	文化コミュニケーション入門	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語を学ぶ皆さんは、文化やコミュニケーションというものに少なからず関心があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは文化やコミュニケーション、そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ文化やコミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般論の問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック (Qual.: 小テスト) を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要1：授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要2：研究班の編成</li> <li>3. コミュニケーションという力 (第1章)</li> <li>4. メディア (第2章)</li> <li>5. 個人・家族 (第3章)</li> <li>6. ジェンダー・セクシュアリティ (第4章)</li> <li>7. 文化 (第5章)</li> <li>8. 記号の力 (第6章)</li> <li>9. 教育 (第7章)</li> <li>10. 精神 (第8章)</li> <li>11. 社会思想としてのコミュニケーション (第9章)</li> <li>12. 事例研究1</li> <li>13. 事例研究2</li> <li>14. グループ・カウンセリング</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>(研究班数等の事情により変更の可能性もあります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：板場&amp;池田編『よくわかるコミュニケーション学』(ミネルヴァ書房、2011)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>①研究発表 (準備・発表・審査：90%)</li> <li>②小テスト (Qual.) = 研究発表の資格審査 (10%)</li> </ol>	

09年度以降	文化コミュニケーション入門	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語を学ぶ皆さんは、文化やコミュニケーションというものに少なからず関心があるのではないのでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは文化やコミュニケーション、そして、この2つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただき、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ文化やコミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般論の問い直しから始まるからです。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック (Qual.: 小テスト) を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要1：授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要2：研究班の編成</li> <li>3. コミュニケーションという力 (第1章)</li> <li>4. メディア (第2章)</li> <li>5. 個人・家族 (第3章)</li> <li>6. ジェンダー・セクシュアリティ (第4章)</li> <li>7. 文化 (第5章)</li> <li>8. 記号の力 (第6章)</li> <li>9. 教育 (第7章)</li> <li>10. 精神 (第8章)</li> <li>11. 社会思想としてのコミュニケーション (第9章)</li> <li>12. 事例研究1</li> <li>13. 事例研究2</li> <li>14. グループ・カウンセリング</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>(研究班数等の事情により変更の可能性もあります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：板場&amp;池田編『よくわかるコミュニケーション学』(ミネルヴァ書房、2011)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>①研究発表 (準備・発表・審査：90%)</li> <li>②小テスト(Qual.)=研究発表の資格審査 (10%)</li> </ol>	

09年度以降	文化コミュニケーション入門	担当者	ささき てるよし 佐々木 輝美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 目的1：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。 目的2：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を使って、具体的な現象を分析することができる。  <b>講義概要</b> 本講義では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを説明する。その後、コミュニケーションの要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて説明する。 さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって態度が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)がどのように人々に伝わっていくかについて説明し、最後にコミュニケーションの研究手法について説明する。		1. 授業の概要 2. コミュニケーションプロセスの概念について 3. コミュニケーションの要素① 4. コミュニケーションの要素② 5. コミュニケーションと文化① 6. コミュニケーションと文化② 7. 【講義の前半をまとめるための授業内活動】 ビデオ内容の分析(小レポート①) 8. コミュニケーションと態度変容 9. メディアの影響① 10. メディアの影響② 11. イノベーションの普及コミュニケーション① 12. イノベーションの普及コミュニケーション② 13. 【講義の後半をまとめるための授業内活動】 ビデオ内容の分析(小レポート②) 14. コミュニケーションの研究手法論について 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：授業時に資料を配布 参考文献：授業時に随時紹介する		授業参加 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%	

09年度以降	文化コミュニケーション入門	担当者	ささき てるよし 佐々木 輝美
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<b>講義目的</b> 目的1：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を説明することができる。 目的2：コミュニケーション、および文化に関する用語や概念を使って、具体的な現象を分析することができる。  <b>講義概要</b> 本講義では、最初にコミュニケーションが静的なものではなく動的でダイナミックなものであることを説明する。その後、コミュニケーションの要素にはどのようなものがあるか、そしてコミュニケーションと文化はどのように関係するかについて説明する。 さらに、本講義の後半では、コミュニケーションによって態度が変わるということはどういうことか、メディアにはどのような影響力があるか、イノベーション(技術革新)がどのように人々に伝わっていくかについて説明し、最後にコミュニケーションの研究手法について説明する。		1. 授業の概要 2. コミュニケーションプロセスの概念について 3. コミュニケーションの要素① 4. コミュニケーションの要素② 5. コミュニケーションと文化① 6. コミュニケーションと文化② 7. 【講義の前半をまとめるための授業内活動】 ビデオ内容の分析(小レポート①) 8. コミュニケーションと態度変容 9. メディアの影響① 10. メディアの影響② 11. イノベーションの普及コミュニケーション① 12. イノベーションの普及コミュニケーション② 13. 【講義の後半をまとめるための授業内活動】 ビデオ内容の分析(小レポート②) 14. コミュニケーションの研究手法論について 15. まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：授業時に資料を配布 参考文献：授業時に随時紹介する		授業参加 20%、小レポート 20%、最終レポート 60%	



13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～5週）と「国際社会の構造と変化」（第7～12）「グローバル化の中の国際社会」（第13～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるように考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p><b>1. イントロダクション</b> *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p><b>2～6. 国際関係の基礎シリーズ</b> *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p><b>7～12. 国際社会の構造と変化シリーズ</b> *国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。</p> <p><b>13～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ</b> *1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報の活発な流れがもたらす事例をケースとして取り扱います。 (初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。</p> <p>講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第2～5週）と「国際社会の構造と変化」（第7～12）「グローバル化の中の国際社会」（第13～第15週）の3つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。</p> <p>この授業では、2年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるように考慮しながら進めます。</p> <p>なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<p><b>1. イントロダクション</b> *国際社会、国際関係論とは何かを概説します。</p> <p><b>2～6. 国際関係の基礎シリーズ</b> *20世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。</p> <p><b>7～12. 国際社会の構造と変化シリーズ</b> *国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①宗教と国際関係、②イスラムとテロ、③パレスチナ問題などを扱います。</p> <p><b>13～15. グローバル化の中の国際社会シリーズ</b> *1990年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報の活発な流れがもたらす事例をケースとして取り扱います。 (初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。		学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。	

13年度以降 12年度以前	国際関係入門 国際コミュニケーション入門	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、入門科目として国際関係論の基礎的な概念、分析枠組み（国際関係の見方）を習得し、現代の国際社会がどのように成り立ち、どのような問題を抱え、対処しているかを理解することを目的とする。2年次以降の国際関係関連科目を理解する上で必須の基礎的知識の習得に努める。</p> <p>講義では、毎回要点をまとめたレジュメを配布し、それに沿って講義を進めていく。春semesterの前半では、概念的な事柄について講義し、国際関係の3つの分析枠組みを紹介する。後半では、今日のグローバル・イシューズと呼ばれる諸問題をいくつか取り上げ、具体的に検討していく計画である。</p> <p>上記の内容に加えて、講義の冒頭で「今週の国際ニュース」と題して時事問題を紹介し、概念（分析枠組み）と現実の国際問題との関連を意識できるように努める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに 国際関係を学ぶ意義</li> <li>2 国際関係の三つの見方（分析枠組み）</li> <li>3 リアリズム（1）：国益、権力闘争、戦争</li> <li>4 リアリズム（2）：アナーキー、勢力均衡</li> <li>5 リベラリズム（1）：利益の共有、協調・協力</li> <li>6 リベラリズム（2）：相互依存、国際レジーム</li> <li>7 マルキシズム（1）：支配と従属</li> <li>8 マルキシズム（2）：従属論、世界システム論</li> <li>9 中間のまとめ：三つの分析枠組みの比較</li> <li>10 グローバリゼーションとは何か</li> <li>11 反グローバリゼーション</li> <li>12 グローバル・イシューズ（1）テロ、大量破壊兵器</li> <li>13 グローバル・イシューズ（2）地球環境問題</li> <li>14 グローバル・イシューズ（3）内戦、平和構築</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献リストを配布する。		平常点（20%）、試験（80%）	

09年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for the courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented.</p> <p>These courses are short seven-week courses and active participation will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Introduction to narratives", "Introduction to Africa", "Introduction to Asian Englishes", and "Introduction to American History through Music".</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.</p>		<p>Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.</p>	

09年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English.</p> <p>Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester.</p> <p>There are two objectives for these courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented.</p> <p>These courses are short seven-week courses and active participation will be an important part of the overall evaluation.</p>		<p>Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Gender studies", "Introduction to international relations", "Film studies", and "Japanese culture".</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.</p>		<p>Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (1年1組)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>The goal of the course is to provide the students with an effective, interesting and fun opportunity to improve their English. This will be accomplished through the use of Disney videos, group discussions and presentations.</p> <p>1-9 Disney video / Discussions 10-15 Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The teacher will provide all the materials for this course.		The students will be evaluated on participation, one mid-term test and their work on several presentations.	

09年度以降	Comprehensive English II (1年1組)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		Same as above	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Same as above		Same as above	

09年度以降	Comprehensive English I (1年2組)	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course Orientation &amp; Overview</li> <li>2 Communication Skill 1 [CS 1]: First Impressions</li> <li>3 CS 2: Cultural &amp; Communicative Awareness</li> <li>4 CS 3: Ice-Breakers</li> <li>5 CS 4: Asking Questions</li> <li>6 CS 5: Responding</li> <li>7 CS 6: Active Listening</li> <li>8 Communication Skills review</li> <li>9 Learning Strategy [LS 1]: Bench-marking &amp; LS 2: Goal-setting</li> <li>10 LS 3: Extensive Reading &amp; Listening 1</li> <li>11 Extensive Reading &amp; Listening 2</li> <li>12 LS 4: Grammatical Awareness</li> <li>13 LS 5: Vocabulary-building</li> <li>14 Learning Strategies review</li> <li>15 Course Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
IELTS Trainer, Cambridge English		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%	

09年度以降	Comprehensive English II (1年2組)	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Overview of the Creative Process</li> <li>2 Choosing your Topic &amp; Researching</li> <li>3 Outlining &amp; Drafting</li> <li>4 Editing &amp; Practicing</li> <li>5 Presentation Week 1</li> <li>6 Presentation Feedback</li> <li>7 V for Vendetta 1: V's Speech</li> <li>8 Vendetta 2: Valerie's Letter</li> <li>9 Vendetta 3: Rookwood's Story</li> <li>10 Presentation Week 2</li> <li>11 Presentation Feedback</li> <li>12 Bench-marking: Reading &amp; Writing</li> <li>13 Bench-marking: Listening &amp; Speaking</li> <li>14 Presentation Week 3</li> <li>15 Course Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, three presentations 50%	

09年度以降	Comprehensive English I (1年3組)	担当者	D. マッキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1 Introduction</p> <p>Week 2 Alphabet and card preparation</p> <p>Week 3 Newspaper headlines</p> <p>Week 4 Direct and reported speech</p> <p>Week 5 Shared free writing</p> <p>Week 6 Presentation introduction</p> <p>Week 7 Presentation preparation</p> <p>Week 8 Presentation delivery</p> <p>Week 9 Song lyrics</p> <p>Week 10 Song project</p> <p>Week 11 World music</p> <p>Week 12 Presentation preparation</p> <p>Week 13 Presentation delivery</p> <p>Week 14 Shared free writing</p> <p>Week 15 Revision and quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be selected from authentic contemporary media sources		50% class participation and involvement 25% class and home exercises 25% quizzes and surveys	

09年度以降	Comprehensive English II (1年3組)	担当者	D. マッキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1 Summer free writing</p> <p>Week 2 Information exchange</p> <p>Week 3 Direct and reported speech</p> <p>Week 4 Newspaper articles</p> <p>Week 5 Discussion</p> <p>Week 6 Movie reviews</p> <p>Week 7 Movie presentation I</p> <p>Week 8 Movie presentation II</p> <p>Week 9 Movie presentation III</p> <p>Week 10 Cartoons and advertisements</p> <p>Week 11 Individual projects</p> <p>Week 12 Presentation preparation</p> <p>Week 13 Poster presentations</p> <p>Week 14 Final free writing</p> <p>Week 15 Retrospect</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be selected from authentic contemporary media sources		50% class participation and involvement 25% class and home exercises 25% quizzes and surveys	

09年度以降	Comprehensive English I (1年4組)	担当者	J. スネール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation, introductions</p> <p>Week 2: Introduction to timed speaking (TS)</p> <p>Week 3: Listening for gist, (TS)</p> <p>Week 4: Class survey and report, (TS)</p> <p>Week 5: Introduction to small group leadership, (TS)</p> <p>Week 6: Small group presentations</p> <p>Week 7: Comprehensive reading, (TS)</p> <p>Week 8: Review, Reading and listening tests</p> <p>Week 9: Grammar workshop, (TS)</p> <p>Week 10: Research and report writing, (TS)</p> <p>Week 11: Investigative reporting, (TS)</p> <p>Week 12: Introduction to topic research, (TS)</p> <p>Week 13: Topic research reporting, (TS)</p> <p>Week 14: Review, Speaking test</p> <p>Week 15: Consultations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• NorthStar Listening and Speaking Level 3, 3rd Edition (Pearson Longman)</li> <li>• Speaking of Speech (MacMillan)</li> <li>• B5 notebook</li> </ul>		20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speaking Test	

09年度以降	Comprehensive English II (1年4組)	担当者	J. スネール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation, timed speaking (TS)</p> <p>Week 2: Active listening, (TS)</p> <p>Week 3: Informal and formal speech, (TS)</p> <p>Week 4: Reading skills: summarizing, (TS)</p> <p>Week 5: Review, Reading and listening tests</p> <p>Week 6: Introduction to making a speech, (TS)</p> <p>Week 7: Topic selection and making outlines, (TS)</p> <p>Week 8: Speech delivery skills, using visual aids</p> <p>Week 9: Class speeches</p> <p>Week 10: Pronunciation workshop, (TS)</p> <p>Week 11: Investigative reporting II, (TS)</p> <p>Week 12: Introduction to peer editing, (TS)</p> <p>Week 13: Topic research reporting II, (TS)</p> <p>Week 14: Review, research reports</p> <p>Week 15: Consultations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• NorthStar Listening and Speaking Level 3, 3rd Edition (Pearson Longman)</li> <li>• Speaking of Speech (MacMillan)</li> </ul>		20% Participation, 20% Small Group Discussion Task, 20% Investigative Written Report, 20% Reading and Listening Tests, 20% Speech	

09年度以降	Comprehensive English I (1年5組)	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1 – Introductions  Week 2 – Getting to know you  Week 3 – Best friends  Week 4- The way we live  Week 5- Tales of two cities  Week 6- What happened next?  Week 7- The Man with The Golden Gun  Week 8- Midterm Exam  Week 9- The marketplace  Week 10- Markets around the world  Week 11- What do you want to do?  Week 12- Brat camp  Week 13- Places and things  Week 14- Review  Week 15- Final Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press		Class participation - 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%	

09年度以降	Comprehensive English II (1年5組)	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1- London, The World in One City  Week 2- Fame  Week 3- The band Cherry Hill  Week 4- Dos and don'ts  Week 5- Leaving home  Week 6- Going places  Week 7- Travel addicts  Week 8- Midterm Exam  Week 9- Things that changed the world  Week 10- The Invention of Google  Week 11- What if ...?  Week 12- At a crossroads in life  Week 13- Trying your best  Week 14- Review  Week 15- Final Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
American Headway 2 (Second Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press		Class participation – 40%, Midterm Exam – 30% and Final Exam – 30%	



09年度以降	Comprehensive English I (1年6組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Topic: You; Task: Introducing yourself; Assessment: explanation &amp; demonstration</p> <p>Week 2: Topic: Family &amp; Friends; Task: Describing 1</p> <p>Week 3: Topic: Free time &amp; Hobbies; Task: Asking for &amp; giving information</p> <p>Week 4: Topic: Food &amp; Eating; Task: Inviting, accepting &amp; refusing</p> <p>Week 5: Topic: Holidays; Task: Justifying</p> <p>Week 6: Topic: Travel; Task: Describing 2</p> <p>Week 7: Topic: Music; Task: Talking about preferences</p> <p>Week 8: Topic: Entertainment; Task: Persuading</p> <p>Week 9: Topic: Student choice; Task: Instructing</p> <p>Week 10: Topic: Jobs; Task: Complaining</p> <p>Week 11: Topic: Mind, Body &amp; Health; Task: Suggesting</p> <p>Week 12: Topic: Bad habits; Task: Giving advice</p> <p>Week 13: Topic: Love &amp; Money; Task: Giving opinions</p> <p>Week 14: Topic: Your future; Task: Predicting</p> <p>Week 15: Topic: Student choice; Task: Student choice</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: None</p> <p>Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA</p> <p>Participation &amp; in-class performance 43%; Task: 14%; Accuracy: 28%; Homework 15%</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (1年6組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Impromptu speech skill &amp; practice</p> <p>Week 2: Impromptu speech skill &amp; practice</p> <p>Week 3: Impromptu speech skill &amp; practice</p> <p>Week 4: Impromptu speech assessment</p> <p>Week 5: Speeches VS Presentations</p> <p>Week 6: Great historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</p> <p>Week 7: Great historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice</p> <p>Week 8: Speech 1 skill &amp; practice</p> <p>Week 9: Speech 1 assessment</p> <p>Week 10: Speech 2 skill &amp; practice</p> <p>Week 11: Speech 2 skill &amp; practice</p> <p>Week 12: Speech 2 skill &amp; practice</p> <p>Week 13: Speech 2 skill &amp; practice</p> <p>Week 14: Speech 2 assessment</p> <p>Week 15: Speech 2 assessment &amp; course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: None</p> <p>Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA</p> <p>Participation &amp; in-class performance 30%; Homework 20%; Impromptu speech: 10%; Speech 1: 20%; Speech 2: 20%</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (1年7組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Topic: You; Task: Introducing yourself; Assessment: explanation &amp; demonstration  Week 2: Topic: Family &amp; Friends; Task: Describing 1  Week 3: Topic: Free time &amp; Hobbies; Task: Asking for &amp; giving information  Week 4: Topic: Food &amp; Eating; Task: Inviting, accepting &amp; refusing  Week 5: Topic: Holidays; Task: Justifying  Week 6: Topic: Travel; Task: Describing 2  Week 7: Topic: Music; Task: Talking about preferences  Week 8: Topic: Entertainment; Task: Persuading  Week 9: Topic: Student choice; Task: Instructing  Week 10: Topic: Jobs; Task: Complaining  Week 11: Topic: Mind, Body &amp; Health; Task: Suggesting  Week 12: Topic: Bad habits; Task: Giving advice  Week 13: Topic: Love &amp; Money; Task: Giving opinions  Week 14: Topic: Your future; Task: Predicting  Week 15: Topic: Student choice; Task: Student choice</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: None  Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA  Participation &amp; in-class performance 43%; Task: 14%;  Accuracy: 28%; Homework 15%</p>	

09年度以降	Comprehensive English II (1年7組)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Impromptu speech skill &amp; practice  Week 2: Impromptu speech skill &amp; practice  Week 3: Impromptu speech skill &amp; practice  Week 4: Impromptu speech assessment  Week 5: Speeches VS Presentations  Week 6: Great historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice  Week 7: Great historical speeches; Speech 1 skill &amp; practice  Week 8: Speech 1 skill &amp; practice  Week 9: Speech 1 assessment  Week 10: Speech 2 skill &amp; practice  Week 11: Speech 2 skill &amp; practice  Week 12: Speech 2 skill &amp; practice  Week 13: Speech 2 skill &amp; practice  Week 14: Speech 2 assessment  Week 15: Speech 2 assessment &amp; course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: None  Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA  Participation &amp; in-class performance 30%; Homework 20%;  Impromptu speech: 10%; Speech 1: 20%; Speech 2: 20%</p>	

09年度以降	Comprehensive English I (1年8組)	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course and class</li> <li>2. Personalized topics: Family, Hometown</li> <li>3. Personalized topics: School experiences</li> <li>4. Personalized topics: Lifestyle and Healthy Living</li> <li>5. Me, My Life posters</li> <li>6. Personalized topics: Travel experiences</li> <li>7. International City of Culture project</li> <li>8. International City of Culture project</li> <li>9. The language of reasoning and critical thinking</li> <li>10. Choosing social issues for reading/research</li> <li>11. Class survey/ collation of survey result</li> <li>12. Oral report/discussion of chosen social issues</li> <li>13. Oral report/discussion of chosen social issues</li> <li>14. Oral report/discussion of chosen social issues</li> <li>15. Course review and self-reflection</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required		Evaluation is based on completion of homework readings, speaking assignments, and active classroom participation.	

09年度以降	Comprehensive English II (1年8組)	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to course and class</li> <li>2. The language of reasoning and critical thinking</li> <li>3. Practicing the discussion leader role</li> <li>4. Response to assigned reading/discussion</li> <li>5. Response to assigned reading/discussion</li> <li>6. Response to assigned reading/discussion</li> <li>7. Response to assigned reading/discussion</li> <li>8. World Heritage Sites</li> <li>9. Researching chosen World Heritage Sites</li> <li>10. Oral reports of World Heritage Sites</li> <li>11. Oral reports of World Heritage Sites</li> <li>12. Fluency speech topics</li> <li>13. Oral reports on New Year Traditions of the World</li> <li>14. Oral reports on New Year Traditions of the World</li> <li>15. Course review and self-reflection</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required		Evaluation is based on completion of homework readings, speaking assignments, and active classroom participation.	

09年度以降	Comprehensive English I (1年9組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1: Course information and personal introductions</p> <p>Week 2: Manners and politeness</p> <p>Week 3: Stereotypes and multiculturalism</p> <p>Week 4: Comparative and superlative adjectives</p> <p>Week 5: Skills and preferences</p> <p>Week 6: Jobs and employment</p> <p>Week 7: Past simple and present perfect</p> <p>Week 8: Test</p> <p>Week 9: Requests and responses</p> <p>Week 10: Agreeing and disagreeing</p> <p>Week 11: Movies and emotions</p> <p>Week 12: Things that cause feelings and how you feel</p> <p>Week 13: Rules and suggestions</p> <p>Week 14: Real and imaginary situations</p> <p>Week 15: Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Handouts will be provided.		Tests: 40%, Participation: 30%, Homework: 30%	

09年度以降	Comprehensive English II (1年9組)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1: Course information</p> <p>Week 2: Practise good posture, eye contact, body language</p> <p>Week 3: Write scripts and prepare for first presentations</p> <p>Week 4: First presentations</p> <p>Week 5: First presentations</p> <p>Week 6: Practise different kinds of gestures and ways to emphasise key words</p> <p>Week 7: Write scripts and prepare for second presentations</p> <p>Week 8: Second presentations</p> <p>Week 9: Second presentations</p> <p>Week 10: Learn to create effective visuals</p> <p>Week 11: Write scripts and prepare for third presentations</p> <p>Week 12: Third presentations</p> <p>Week 13: Third presentations</p> <p>Week 14: Write scripts and prepare for final presentations</p> <p>Week 15: Final presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
David Harrington & Charles LeBeau, <i>Speaking of Speech</i> , MacMillan		Presentations: 80%, Class participation: 20%	

09年度以降	Comprehensive English I (1年10組)	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course Orientation &amp; Overview</li> <li>2 Communication Skill 1 [CS 1]: First Impressions</li> <li>3 CS 2: Cultural &amp; Communicative Awareness</li> <li>4 CS 3: Ice-Breakers</li> <li>5 CS 4: Asking Questions</li> <li>6 CS 5: Responding</li> <li>7 CS 6: Active Listening</li> <li>8 Communication Skills review</li> <li>9 Learning Strategy [LS 1]: Bench-marking &amp; LS 2: Goal-setting</li> <li>10 LS 3: Extensive Reading &amp; Listening 1</li> <li>11 Extensive Reading &amp; Listening 2</li> <li>12 LS 4: Grammatical Awareness</li> <li>13 LS 5: Vocabulary-building</li> <li>14 Learning Strategies review</li> <li>15 Course Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
IELTS Trainer, Cambridge English		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, assignments 25%, tests 25%	

09年度以降	Comprehensive English II (1年10組)	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Overview of the Creative Process</li> <li>2 Choosing your Topic &amp; Researching</li> <li>3 Outlining &amp; Drafting</li> <li>4 Editing &amp; Practicing</li> <li>5 Presentation Week 1</li> <li>6 Presentation Feedback</li> <li>7 V for Vendetta 1: V's Speech</li> <li>8 Vendetta 2: Valerie's Letter</li> <li>9 Vendetta 3: Rookwood's Story</li> <li>10 Presentation Week 2</li> <li>11 Presentation Feedback</li> <li>12 Bench-marking: Reading &amp; Writing</li> <li>13 Bench-marking: Listening &amp; Speaking</li> <li>14 Presentation Week 3</li> <li>15 Course Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation 50%, three presentations 50%	

09年度以降	Comprehensive English I (1年11組)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Week 1—Teacher and Student Interviews and Introductions</p> <p>Week 2—UNIT 1 One Laptop Per Child-Part One</p> <p>Week 3—UNIT 1 One Laptop Per Child-Part Two</p> <p>Week 4—UNIT 2 Green Profits- Part One</p> <p>Week 5—UNIT 2 Green Profit- Part Two</p> <p>Week 6—UNIT 3 Well-loved Profits - Part One</p> <p>Week 7—UNIT 3 Well-loved Profits - Part Two</p> <p>Week 8—Midterm Evaluations</p> <p>Week 9—UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part One</p> <p>Week 10—UNIT 4 Italy's Fashion Kings - Part Two</p> <p>Week 11—UNIT 5 Viral Marketing- Part One</p> <p>Week 12—UNIT 5 Viral Marketing- Part Two</p> <p>Week 13—Final Presentation Preparations</p> <p>Week 14—Final Presentations</p> <p>Week 15—Final Presentations</p> <p>(Subject to change due to circumstances)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Reading Pass (2)		Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects	

09年度以降	Comprehensive English II (1年11組)	担当者	A. R. ファルヴォ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Week 1—Teacher and student reviews of first term activities</p> <p>Week 2—UNIT 6 The NBA goes Global— Part One</p> <p>Week 3—UNIT 6—The NBA goes global--Part Two</p> <p>Week 4—UNIT 7—The Gossip Media- Part One</p> <p>Week 5—UNIT 7—The Gossip Media -Part Two</p> <p>Week 6—UNIT 8—Replanting the World's Forests (1)</p> <p>Week 7—UNIT 8—Replanting the World's Forest-(2)</p> <p>Week 8—Midterm Evaluations</p> <p>Week 9—UNIT 9—Adventure Tourism- Part One</p> <p>Week 10—UNIT 9—Adventure Tourism -Part Two</p> <p>Week 11—UNIT 10—The Cannes Film Festival- (1)</p> <p>Week 12—UNIT 10—The Cannes Film Festival-(2)</p> <p>Week 13—Final Presentation Preparations</p> <p>Week 14—Final Presentations</p> <p>Week 15—Final Presentations</p> <p>(Subject to change due to circumstances)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Reading Pass (2)		Performance and overall improvement of the students' communicative abilities. Continuous assessment including quizzes based on the variety of written homework assignments and tasks given to the students in class Daily classroom participation and special group projects	

09年度以降	Comprehensive English I (1年12組)	担当者	N. クロス																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																	
<p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>2. To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>Introduction to the course</td></tr> <tr><td>2-3</td><td>Talking about a Japanese place</td></tr> <tr><td>3-4</td><td>Holidays</td></tr> <tr><td>5-7</td><td>Food and restaurants</td></tr> <tr><td>8-9</td><td>Sports and leisure</td></tr> <tr><td>10-11</td><td>Current Affairs</td></tr> <tr><td>12-14</td><td>Japanese festivals</td></tr> <tr><td>15</td><td>Final exam</td></tr> </table>		1	Introduction to the course	2-3	Talking about a Japanese place	3-4	Holidays	5-7	Food and restaurants	8-9	Sports and leisure	10-11	Current Affairs	12-14	Japanese festivals	15	Final exam
1	Introduction to the course																		
2-3	Talking about a Japanese place																		
3-4	Holidays																		
5-7	Food and restaurants																		
8-9	Sports and leisure																		
10-11	Current Affairs																		
12-14	Japanese festivals																		
15	Final exam																		
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																	
Materials will be provided by the teacher		Participation 20%, Assignments 20%, Presentations/Discussion 40%, Class work 20%																	

09年度以降	Comprehensive English II (1年12組)	担当者	N. クロス														
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>															
<p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<table border="0"> <tr><td>1-2</td><td>Fashion and clothes</td></tr> <tr><td>3-4</td><td>Health and wellness</td></tr> <tr><td>5-6</td><td>TV and Film</td></tr> <tr><td>7-9</td><td>Advertising/Inventions</td></tr> <tr><td>10-11</td><td>The environment</td></tr> <tr><td>12-14</td><td>Cool Japan</td></tr> <tr><td>15</td><td>Final exam</td></tr> </table>		1-2	Fashion and clothes	3-4	Health and wellness	5-6	TV and Film	7-9	Advertising/Inventions	10-11	The environment	12-14	Cool Japan	15	Final exam
1-2	Fashion and clothes																
3-4	Health and wellness																
5-6	TV and Film																
7-9	Advertising/Inventions																
10-11	The environment																
12-14	Cool Japan																
15	Final exam																
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>															
Materials will be provided by the teacher		Participation 20%, Assignments 20%, Presentations/Discussion 40%, Class work 20%															

09年度以降	Comprehensive English I (再履修) 秋学期 月5	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Comprehensive English I (再) は、秋学期 月曜5限と水曜5限(下段)をセットで受講してください。</p> <p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English.</p> <p>Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives.</p> <p>This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will to use English Only for all classroom activities.</p> <p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion  Week 2: Topic 1: Offbeat Jobs  Week 3: Offbeat Jobs, continued  Week 4: Topic 2: Building a Better Community  Week 5: Communities, continued  Week 6: Topic 3: A Penny Saved  Week 7: A Penny Saved, continued  Week 8: Topic 4: Innocent or Guilty  Week 9: Innocent or Guilty, continued  Week 10: Topic 5: Etiquette  Week 11: Etiquette, continued  Week 12: Presentation Skills I  Week 13: Presentation Skills II  Week 14: Workshop &amp; Review  Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening and Speaking II		Students will be evaluated based on class participation, written assignments, and in-class presentations.	

09年度以降	Comprehensive English I (再履修) 秋学期 水5	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Comprehensive English I (再) は、秋学期 月曜5限(上段)と水曜5限をセットで受講してください。</p> <p>This one-term twice-a-week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.</p> <p>Overall Objectives</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To give students maximum opportunities to communicate</li> <li>To build student confidence in interpersonal communication</li> <li>To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution</li> </ol>		<p>Lesson 1. Class description, Unit 1: Introductions, Tune in, Video 1, Check the script  Lesson 2. Act 1: Putting it into practice, Language focus 1, Video 2, Intermission  Lesson 3. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Language Focus 2  Lesson 4. Video 4, Sort it out, quiz  Lesson 5. Unit 2: Starting conversations, Video 1, Tune in, Check the script  Lesson 6. Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz  Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you?  Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out, quiz  Lesson 9. Unit 3: Developing conversations, Tune in, Video 1, Check the script, Act 1: Putting it into practice  Lesson 10. Language focus 1, Video 2, Intermission  Lesson 11. Tune in, Video 3, Check the script, Act 3, Screen test  Lesson 12. Language focus 2, Video 4, Sort it out, quiz  Lesson 13. Unit 4: Invitations and Suggestions, Tune in, Video 1: An Invitation to go out, Check the script, Act 1: Putting it into practice  Lesson 14. Language focus 1, Video 2: Another invitation, Intermission, Video 3, Check the script, Act 3  Lesson 15. Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The English Course, Student Book 1 (The English Company)		Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays. Grades will be evaluated by Participation (34%), Quizzes (33%) and Tests (33%)	



09年度以降	Comprehensive English II (再履修) 春学期 月5	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Comprehensive English II (再) は、春学期 月曜5限と水曜5限(下段)をセットで受講してください。</p> <p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English. Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives. This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will to use English Only for all classroom activities.</p> <p>Week 1: Course Review &amp; Discussion  Week 2: Topic 1: Games  Week 3: Games, continued  Week 4: Topic 2: Food  Week 5: Food, continued  Week 6: Topic 3: An Ice Place to Stay  Week 7: Ice Place, continued  Week 8: Topic 4: Staying Healthy  Week 9: Staying Healthy, continued  Week 10: Topic 5: Endangered Languages  Week 11: Endangered Languages, continued  Week 12: Presentation Skills III  Week 13: Presentation Skills IV  Week 14: Workshop &amp; Review  Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening and Speaking II		Students will be evaluated based on class participation, written assignments, and in-class presentations.	

09年度以降	Comprehensive English II (再履修) 春学期 水5	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">Comprehensive English II (再) は、秋学期 月曜5限(上段)と水曜5限をセットで受講してください。</p> <p>This one-term twice-a-week required class helps first-year students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To develop in the students a foundation in the organization skills of speech communication and writing</li> <li>To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills</li> <li>To build student confidence in speech communication in a small as well as a larger group context</li> </ol>		<p>Lesson 1. Unit 5: Likes/dislikes, feelings, Tune in, Video 1: What kind of cuisine do you prefer, Check the script, Language focus 1  Lesson 2. Sort it out, Video 2: What's your favorite group, Act 2  Lesson 3. Intermission, Tune in, Video 3: What makes you angry, Check the script, Act 3, Screen test  Lesson 4. Language focus 2, Sort it out, Act 4, quiz, Finale, quiz  Lesson 5. Unit 6: Requests, Video 1, Tune in, Check the script  Lesson 6. Act 1, Language focus 1, Sort it out, quiz  Lesson 7. Video 3: Talking to a stranger, Check the script, Act 3, Screen test: How sociable are you?  Lesson 8. Language focus 2, Video 4, Sort it out quiz  Lesson 9. Unit 7: Opinions, Tune in, Video 1: Agreeing and disagreeing, Check the script, Act 1, Language focus 1  Lesson 10. Video 2: Do you believe in ghosts?, Act 2, Intermission  Lesson 11. Tune in, Video 3: Do you like my new bag?, Check the script, Act 3, Language focus 2, Sort it out, Video 4, quiz  Lesson 12. Unit 8: Advice, Tune in, Video 1: You look worried, Check the script, Act 1: Putting it into practice  Lesson 13. Language focus 1, Video 2: Another invitation, Intermission, Video 3, Check the script, Act 3  Lesson 14. Test  Lesson 15. Wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The English Course, Student Book 1 (The English Company)		Participation, and all quizzes, test and an original conversation test in pairs and role plays. Grades will be evaluated by Participation (34%), Quizzes (33%) and Tests (33%)	

09年度以降	Comprehensive English III (2年①)	担当者	E. 本橋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week 1 – Introduction to Course, Introductions, Week 2 – Participating in a Group Discussion Week 3 – Controlling a Conversation &amp; Active Listening Week 4 – What is Sociology Pt. I (ch. 1) Week 5 – What is Sociology Pt. II (ch. 1) Week 6 – 3 Sociological Paradigms (ch. 1) Week 7 – Directed Group Discussion Activity #1 Week 8 – What is Culture &amp; Who has it (ch.3) Week 9 – What Differentiates One Culture From Another (ch.3) Week 10 – Cultural Icon Activity Week 11 – Directed Group Discussion Activity #2 (ch.4) Week 12 – Characteristics of Social Groups (ch.4) Week 13 – Film Clip Pair Presentation Week 14 – Film Clip Pair Presentation Week 15 – Film Clip Pair Presentation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hand-outs will be provided as well as on-line text support		In-class participation (40%), Directed Group Discussions X 2 (20%), Topical Summary x 2 (20%), Film Clip Final Presentation (20%)	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年①)	担当者	E. 本橋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week 1 – Introduction to Fall Course &amp; Catching Up Week 2 – What Makes a Good Presentation? Week 3– Student Designed Discussion Grp. Set 1 Week 4– Student Designed Discussion Grp. Set 1 Week 5 – Student Designed Discussion Grp. Set 2 Week 6 – Student Designed Discussion Grp. Set 2 Week 7 – Video Presentation/Wrap-up Week 8 – Marriage &amp; Family (ch. 14) Week 9 – Global Stratification Week 10 – On a Dollar a Day Pre-viewing Week 11 – On a Dollar Day Week 12 – Poverty Line Wrap-up Week 13 – Final Presentations Week 14 – Final Presentations Week 15 – Final Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Hand-outs will be provided as well as on-line text support		In-class participation & Response papers x 2 (40%), Student Designed Discussion (Mid-Term) (20%), On a Dollar a Day Project (20%), and Final Presentation (20%)	

09年度以降	Comprehensive English III (2年②)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>The purpose of this course is to develop students' overall abilities in listening, speaking, reading, and writing. By the end of this course, students will be able to comprehend complex issues they have heard and read, explain those ideas to others, and express their own ideas on these issues in spoken and written English. Emphasis is placed on collaborative learning and critical thinking. Students will work together in pairs and in groups to understand ideas, share knowledge, set goals, and present findings. Students will interrogate texts, looking for strengths and weaknesses in their construction and in the quality of evidence used to support ideas. They will learn to think critically about their own beliefs and experiences and build awareness of issues relevant to their own lives. This is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will use English Only for all classroom activities.</p> <p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion  Week 2: Topic 1: Media Issues: Advertising  Week 3: Advertising, continued  Week 4: Topic 2: Identity Theft  Week 5: Identity Theft, continued  Week 6: Topic 3: Extreme Sports  Week 7: Extreme Sports, continued  Week 8: Topic 4: Language and Identity  Week 9: Language and Identity, continued  Week 10: Topic 5: Culture and Commerce  Week 11: Culture and Commerce, continued  Week 12: Presentation Skills I  Week 13: Presentation Skills II  Week 14: Workshop &amp; Review  Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening and Speaking 3		Grades will be based on participation, written assignments, and presentations.	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年②)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>This is a continuation of the spring semester, when the focus was on working in pairs and groups to practice critical thinking skills and raise awareness of key issues. This semester, we will continue building on the skills learned in the first semester and do more writing and presentations. Students will begin doing library research in this course as they seek to supplement their own knowledge and build support for the arguments they will make in their reports and presentations this semester. Though still working in pairs and groups, students will work independently as well, finding and evaluating sources, supporting claims, and making appeals. As in the first term, this is a student-centered course. Therefore, attendance and participation are critical to success in this class. Students are expected to be on time for class, well-prepared, and will use English Only for all classroom activities.</p> <p>Week 1: Library Basics  Week 2: Topic 6: The Art of Storytelling  Week 3: Storytelling, continued  Week 4: Topic 7: The Simple Life  Week 5: The Simple Life, continued  Week 6: Topic 8: Marriage  Week 7: Marriage, continued  Week 8: Topic 9: Climate Change  Week 9: Climate Change, continued  Week 10: Topic 10: Corporal Punishment  Week 11: Corporal Punishment, continued  Week 12: Writing Skills: Development  Week 13: Writing Skills: Focus  Week 14: Workshop &amp; Review  Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
North Star Listening and Speaking 3		Grades will be based on participation, written assignments, and presentations.	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ③)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Japanese work ethics.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 Other gender issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 30% End of term speaking tests: 30% Participation and effort: 20%. Various writing assignments: 20%	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ③)	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society.</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 30% End of term speaking tests: 30% Participation and effort: 20%. Various writing assignments: 20%	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ④)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week1: introduction, outline, evaluation, course requirements.</p> <p>Week2: Chapter1; #1, reading &amp; discussion</p> <p>Week3: Chapter1; #2, reading &amp; discussion</p> <p>Week4: Chapter 2; #1, reading &amp; discussion</p> <p>Week5: Chapter 2; #2, reading &amp; discussion</p> <p>Week6: Chapter 3; #1, reading &amp; discussion</p> <p>Week7: Quiz 1-15%</p> <p>Week8: Library research project task 1</p> <p>Week9: Chapter 3;#2, reading &amp; discussion</p> <p>Week10:Chapter 4#1, reading &amp; discussion</p> <p>Week11: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week12: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week13: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week14: Library research project task 2</p> <p>Week15: Quiz 2 - 15%</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Andrew E. Bennett, 'Business Sense', 2014 Nan'un-Do Publisher.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Company class presentation 20%</li> <li>2. Weekly class activities 50%</li> <li>3. Quiz 1 – week 7 15%</li> <li>4. Quiz 2 – week 15 15%</li> </ol>	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ④)	担当者	E. フランコ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week1: Library Research Tasks–Ch4#2</p> <p>Week2: Ch5#1,Comprehension &amp; discussion</p> <p>Week3: Ch5#2,Comprehension &amp; discussion</p> <p>Week4: Ch6#1,Comprehension &amp; discussion</p> <p>Week5: Ch6#2,Comprehension &amp; discussion</p> <p>Week6: Ch8#1,Comprehension &amp; discussion</p> <p>Week7: Quiz 1-15%</p> <p>Week8: Library research project task 1</p> <p>Week9: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week10: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week11: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week12: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week13: Presentations, reading &amp; discussion</p> <p>Week14: Library research project task 2</p> <p>Week15: Quiz 2 - 15%</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Andrew E. Bennett, 'Business Sense', 2014 Nan'un-Do Publisher.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Company class presentation 20%</li> <li>2. Weekly class activities 50%</li> <li>3. Quiz 1 – week 7 15%</li> <li>4. Quiz 2 – week 15 15%</li> </ol>	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑤)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2-3. Urban planning</li> <li>4-5. Business</li> <li>6-7. The economy</li> <li>8-9. The environment</li> <li>10-11. Art history</li> <li>12-14. Language</li> <li>15. Reflection &amp; summary</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Academic Connections 4</i>. 2010. Julia Williams. Pearson-Longman Press.</p>		<p>Essays 50%</p> <p>Notebook 50%</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑤)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2-3. Sociology</li> <li>4-5. Physical science</li> <li>6-7. Indigenous cultures</li> <li>8-9. Microbiology</li> <li>10-11. Children's literature</li> <li>12-14. Globalization</li> <li>15. Reflection &amp; summary</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Academic Connections 4</i>. 2010. Julia Williams. Pearson-Longman Press.</p>		<p>Essays 50%</p> <p>Notebook 50%</p>	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑥)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation</p> <p>Week 2: Reading 1 &amp; reporting findings</p> <p>Week 3: Reading 2 &amp; referring to the reading</p> <p>Week 4: Reading 3 &amp; giving an opinion</p> <p>Week 5: Reading 4 &amp; justifying</p> <p>Week 6: Reading 5 &amp; agreeing and disagreeing</p> <p>Week 7: Reading 6 &amp; interrupting</p> <p>Week 8: Reading 7 &amp; clarifying</p> <p>Week 9: Reading 8 &amp; all functional language skills</p> <p>Week 10: Reading 9 &amp; all functional language skills</p> <p>Week 11: Reading 10 &amp; all functional language skills</p> <p>Week 12: Reading 11 &amp; all functional language skills</p> <p>Week 13: Reading 12 &amp; all functional language skills</p> <p>Week 14: Reading 13 &amp; all functional language skills</p> <p>Week 15: Course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: None</p> <p>Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA</p> <p>Participation &amp; in-class performance 44%; Lesson assessment: 42%; Homework 14%;</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑥)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation &amp; Impromptu speech skill &amp; practice</p> <p>Week 2: Impromptu speech skill &amp; practice</p> <p>Week 3: Impromptu speech skill &amp; practice</p> <p>Week 4: Impromptu speech assessment</p> <p>Week 5: Impromptu speech assessment</p> <p>Week 6: Speeches VS Presentations</p> <p>Week 7: Speeches VS Presentations</p> <p>Week 8: Presentation skill &amp; practice</p> <p>Week 9: Presentation skill &amp; practice</p> <p>Week 10: Presentation skill &amp; practice</p> <p>Week 11: Presentation skill &amp; practice</p> <p>Week 12: Presentation skill &amp; practice</p> <p>Week 13: Presentation assessment</p> <p>Week 14: Presentation assessment</p> <p>Week 15: Presentation assessment &amp; Course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: None</p> <p>Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA</p> <p>Participation &amp; in-class performance 40%; Homework 20%; Impromptu speech 10%; Presentation 30%</p>	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑦)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Japanese work ethics.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 Other gender issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 30% End of term speaking tests: 30% Participation and effort: 20%. Various writing assignments: 20%	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑦)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society.</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 30% End of term speaking tests: 30% Participation and effort: 20%. Various writing assignments: 20%	



09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑧)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week 1. Introduction, outline, course requirements, getting to know your teacher and each other.</p> <p>Week 2: Language. Unit 4. Vocabulary, reading.</p> <p>Week 3: Language. Unit 4. Listening, reading.</p> <p>Week 4. Advertising. Unit 5. Speaking, reading.</p> <p>Week 5. Advertising. Unit 5. Listening, speaking.</p> <p>Week 6: Mid-term presentations Part One</p> <p>Week 7: Mid-term presentations Part Two</p> <p>Week 8: Arts and media. Unit 11. Reading, listening.</p> <p>Week 9. Arts and media. Unit 11. Vocabulary, speaking.</p> <p>Week 10. Travel. Unit 2. Listening, reading.</p> <p>Week 11: Travel. Unit 2. Speaking, writing.</p> <p>Week 12: Design. Unit 7. Reading, speaking.</p> <p>Week 13. Design. Unit 7 Speaking, writing.</p> <p>Week 14: Final Presentations</p> <p>Week 15. Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Language Leader Intermediate by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent (Pearson Longman)		<p>30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness</p> <p>30% homework assignments, in-class points, notebooks</p> <p>40% mid-term and final presentations</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑧)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week 1: Trends. Unit 10. Speaking, reading.</p> <p>Week 2. Trends. Unit 10. Speaking, reading.</p> <p>Week 3: Engineering. Unit 9. Listening, speaking.</p> <p>Week 4: Engineering. Unit 9. Speaking.</p> <p>Week 5: Personality. Unit 1. Vocabulary, Listening.</p> <p>Week 6: Personality. Unit 1. Reading, speaking.</p> <p>Week 7: Mid-term presentation Part One</p> <p>Week 8: Mid-term presentation Part Two</p> <p>Week 9: Education. Speaking, listening.</p> <p>Week 10: Education. Listening, speaking.</p> <p>Week 11: Business. Vocabulary, speaking.</p> <p>Week 12 Crime. Speaking, reading.</p> <p>Week 13: Crime. Listening.</p> <p>Week 14: Final Presentations</p> <p>Week 15: Final Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Language Leader Intermediate by David Cotton, David Falvey, and Simon Kent (Pearson Longman)		<p>30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness</p> <p>30% homework assignments, in-class points, notebooks</p> <p>40% mid-term and final presentations</p>	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ㊹)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>Week 1 Course introductions</p> <p>2 Foreign countries 1</p> <p>3 Foreign countries 2</p> <p>4 Education 1</p> <p>5 Education 2</p> <p>6 Health 1</p> <p>7 Health 2</p> <p>8 Arts 1</p> <p>9 Arts 2</p> <p>1 0 Poster presentation</p> <p>1 1 Technology 1</p> <p>1 2 Technology 2</p> <p>1 3 Intelligence &amp; Talents</p> <p>1 4 Test practice</p> <p>1 5 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook</p> <p>Teacher materials provided</p> <p>Electronic dictionary is OK</p>		<p>30% class effort</p> <p>30% presentation</p> <p>40% end of semester test</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ㊹)	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>Week 1 Tourism 1</p> <p>2 Tourism 2</p> <p>3 Japanese social issues 1</p> <p>4 Japanese social issues 2</p> <p>5 Work &amp; money 1</p> <p>6 Work &amp; money 2</p> <p>7 Media issues 1</p> <p>8 Media issues 2</p> <p>9 Global living trends 1</p> <p>1 0 Global living trends 2</p> <p>1 1 Poster presentation</p> <p>1 2 Crime 1</p> <p>1 3 Crime 2</p> <p>1 4 Test practice</p> <p>1 5 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook</p> <p>Teacher materials provided</p> <p>Electronic dictionary is OK</p>		<p>30% class effort</p> <p>30% presentation</p> <p>40% end of course test</p>	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> weekly schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. International News article and/or International video exercises &amp; discussion.</p> <p>Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking <i>student suggestions for INTERNATIONAL topics/themes which they would like to learn &amp; study</i>.</p> <p>Week 3: 'What are your plans for Golden Week?': explaining Future activities, in Modern English. Assignment of a Presentation Topic; and selection of Presentation partner(s). Continuous assessment.</p> <p>Week 4: Focusing your Presentation: How to summarize, prepare, and make [present] for your Presentation. Video and/or Audio Cloze-listening exercise, with discussion thereof.</p> <p>Week 5: Student hobbies, and expanding thereof, in Modern English. Pair practice thereof. Continuous assessment. <b>Mother's Day</b> song and/or discussion.</p> <p>Week 6: Discussion of recent <b>International News</b> articles and/or News Videos. (Focus on striving to obtain a balanced Global viewpoint.) Ongoing student assessment.</p> <p>Week 7: Preparations for making presentations &amp; discussions. International vs. Domestic <b>etiquette</b> and <b>manners (EQ)</b>.</p> <p>Week 8: International News stories, with discussion. Continuous assessment. Presentation practice, with peer-assessment.</p> <p>Week 9: Peer-assessment of 'intro' presentations. Preparations for final class presentations. 'What kind of ... do you like?': explaining preferences, in Modern English.</p> <p>Week 10: Final Student presentations begin. Video and/or Audio Cloze listening exercise.</p> <p>Week 11: Discussion of recent International News articles and/or News Videos. Presentations.</p> <p>Week 12: Further student presentations &amp; class discussion. Video and/or song listening &amp; discussion exercise.</p> <p>Week 13: Final presentations. 'What do you think of ...?': <b>Giving your opinions</b> about various topics.</p> <p>Week 14: Giving opinions, part two: <b>elaborating</b>. Final presentations. Ongoing assessment.</p> <p>Week 15: Final presentations. If time remains: discussing &amp; explaining <b>future plans for the Summer</b>.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will be researching newspapers, books, the Internet, audio clips, etc., and library materials. <b>IF</b> a textbook is truly necessary, one will be chosen.		<p>You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>summarize &amp; present</b> your topic; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be <b>tentatively</b> &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The actual percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence</b>.)</p>	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑩)	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<p>(* Note: This is a <b>tentative</b> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)</p> <p>Week 1: Asking, replying, elaborating on, and discussing your <b>Summer Break</b>, using modern English.</p> <p>Week 2: "Used to": four different usages of 'used to'; with pair practice. Continuous assessments.</p> <p>Week 3: Researching Christmas (and/or another Presentation topic). Discussion of News/Documentary Video.</p> <p>Week 4: Preparation time for pair presentations. How to invite someone to an event, in English, by telephone. Ongoing assessments.</p> <p>Week 5: Practice with <b>telephone invitations</b>. Hallowe'en discussion, and/or video.</p> <p>Week 6: <b>Restaurant ordering</b>, in English, at sit-down restaurants. Ongoing assessments. Continuation of TV documentary listening &amp; discussion.</p> <p>Week 7: Pair practice of restaurant ordering. Start of short "demo" presentations. Peer-assessment (&amp; recommendations) of those short presentation 'intros'.</p> <p>Week 8: <b>Thanksgiving</b>: history; and usual Thanksgiving customs &amp; dates. <b>'What are you thankful for?'</b> Further short 'demo' presentations; peer-assessment &amp; recommendations, re: those 'demo' presentations.</p> <p>Week 9: Pair practice of 'thankful' activity. Finalizing preparations and practice for presentations.</p> <p>Week 10: Asking for, and giving, <b>street directions</b> and/or <b>train directions</b>, in English. Pair practice of that. Student presentations begin.</p> <p>Week 11: Class presentations &amp; discussions. Christmas song-listening activity, and/or Christmas video.</p> <p>Week 12: Discussion of Christmas and New Year's plans. Christmas song activity, continued. Further class presentations.</p> <p>Week 13: How was your New Year's/ Christmas? Pair-practice thereof. Class presentations.</p> <p>Week 14: Discussing &amp; pair-practicing <b>New Year's Resolutions</b>. Last opportunity for class presentations.</p> <p>Week 15: Finalizing <b>specific</b> New Year's Resolutions. <i>If</i> time remains: discussion of <b>future plans</b> (for the February &amp; March Break).</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We will mostly be using research materials: newspaper/magazine articles; library books; reliable Internet sources; and so on. Some International newspaper articles may be used to stimulate discussion. <b>IF</b> a textbook is necessary, one will be chosen.		<p>The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you research, summarize, and present information in English; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on.</p> <p>Your grade will be tentatively &amp; approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). The percentages may vary, depending upon student abilities and needs.</p> <p><b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason</b>. Please also keep in mind that:</p> <p>a) the lower your attendance, the lower your grade (&amp; if more than three absences, your grade will be "F");</p> <p>b) lateness will also affect your grade in this course. (<b>One late = 1/2 absence</b>.)</p>	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑩)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>2. To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>3. To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. Getting to know each other</li> <li>3. Movies</li> <li>4. Past tense - Puppy love</li> <li>5. My articles</li> <li>6. Your articles</li> <li>7. Present tense</li> <li>8. What can you remember - secret items and secret words</li> <li>9. Comic strip</li> <li>10. 50 word stories</li> <li>11. Oral test preparation - Write a dialogue</li> <li>12. Future tense</li> <li>13. Oral test</li> <li>14. Course review</li> <li>15. Exam period</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Students will be assessed on ongoing participation and performance in class and the oral test.	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑪)	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>2. To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>3. To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Welcome back</li> <li>2. Introduction to Narrative Essays</li> <li>3. Narrative essay outline and first draft</li> <li>4. Narrative essay first draft review and second draft</li> <li>5. Final essay and Halloween lesson</li> <li>6. Presentation prep</li> <li>7. Job interviews (like speed dating)</li> <li>8. Group article presentation prep</li> <li>9. Group article presentation prep</li> <li>10. Groups article presentations</li> <li>11. Speaking test prep</li> <li>12. Christmas Lesson</li> <li>13. Speaking test</li> <li>14. Review</li> <li>15. Exam period</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Students will be assessed on ongoing participation and performance in class, the essay and the final test.	

09年度以降	Comprehensive English III (2年 ⑫)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class teaches students how to read more effectively and then presents them with the opportunity to share their ideas and opinions successfully in group and class discussion while working with topical subjects.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach students the skills involved in effective group discussion</li> <li>To improve reading comprehension skills using topical reading material</li> <li>To develop verbal reasoning skills together with the ability and opportunity to communicate one's findings</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction – Vocabulary Quizzes</li> <li>Class Discussion Procedure / Discussing Opinions</li> <li>Career Choice: Ranking / Summarizing a Discussion</li> <li>Role of the Discussion Leader and Group Members</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Environment: Problem Solving / Supporting Opinions</li> <li>Introducing a Topic / Showing Agreement</li> <li>Discussion Presentations</li> <li>Cosmetic Surgery: Opinion / Giving Reasons</li> <li>Disagreeing Politely / Using Evidence</li> <li>Discussion Presentation</li> <li>Culture: Compare and Contrast / Researching</li> <li>Sharing Findings / Using Sources</li> <li>Discussion Presentation</li> <li>Review and Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text: The materials will be provided by the teacher.		Quizzes 15%, Discussion 1: 15%, Discussion 2: 15%, Discussion 3: 15%, Discussion 4: 15%, Contribution, Participation, and Homework: 25%	

09年度以降	Comprehensive English IV (2年 ⑫)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-term required class allows students the opportunity to take the initiative and be directly involved in their own learning as well as the learning of their classmates by preparing their own presentation and leading subsequent class discussion based on the chosen topic.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process</li> <li>To teach students the how to prepare and lead a class presentation/discussion</li> <li>To give all students the opportunity to give a presentation and lead class discussion</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction – Quizzes</li> <li>Current Events: Discussions / Choosing a Topic</li> <li>Introducing a Topic / Choosing a Discussion Goal</li> <li>Preparing Talking Points and Follow-up Questions</li> <li>In-class Student Led Discussions</li> <li>Technology: Group Presentations / Choosing a Topic</li> <li>Organizing a Presentation</li> <li>Using PowerPoint</li> <li>Presentation Workshop / Speaking Tips</li> <li>In-class Presentation</li> <li>Domestic Politics : Policy Debate / Procedures</li> <li>Making Logical Arguments / Supporting Evidence</li> <li>Opening Speeches / Cross-examination &amp; Rebuttals</li> <li>In-class Debates</li> <li>Review and Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text: The materials will be provided by the teacher.		Quizzes 15%, Discussion 1: 15%, Presentation: 20%, Debate: 20%, Contribution, Participation, and Homework: 30%	

09年度以降	Reading Strategies I (1年1組)	担当者	A. ゴーリンジャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>Final Assessment</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).	

09年度以降	Reading Strategies II (1年1組)	担当者	A. ゴーリンジャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>Final Assessment</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).	

09年度以降	Reading Strategies I (1年2組)	担当者	J. N. ウェンデル																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<table> <tr><td>1</td><td>Orientation and syllabus</td></tr> <tr><td>2-3</td><td>The millennial generation</td></tr> <tr><td>4-5</td><td>Cultural encounters</td></tr> <tr><td>6-7</td><td>Consumer lifestyle</td></tr> <tr><td>8-9</td><td>Conversational styles</td></tr> <tr><td>10-11</td><td>Identity and gender</td></tr> <tr><td>12-14</td><td>The environment</td></tr> <tr><td>15</td><td>Summary and wrap-up</td></tr> </table>		1	Orientation and syllabus	2-3	The millennial generation	4-5	Cultural encounters	6-7	Consumer lifestyle	8-9	Conversational styles	10-11	Identity and gender	12-14	The environment	15	Summary and wrap-up
1	Orientation and syllabus																		
2-3	The millennial generation																		
4-5	Cultural encounters																		
6-7	Consumer lifestyle																		
8-9	Conversational styles																		
10-11	Identity and gender																		
12-14	The environment																		
15	Summary and wrap-up																		
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																	
Individual reading texts will be distributed in class.		Essays 50% Notebook 50%																	

09年度以降	Reading Strategies II (1年2組)	担当者	J. N. ウェンデル																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<table> <tr><td>1</td><td>Orientation and syllabus</td></tr> <tr><td>2-3</td><td>Value of work</td></tr> <tr><td>4-5</td><td>Inequality</td></tr> <tr><td>6-7</td><td>Wisdom</td></tr> <tr><td>8-9</td><td>Culture and change</td></tr> <tr><td>10-11</td><td>Managing nature</td></tr> <tr><td>12-14</td><td>Democracy and liberty</td></tr> <tr><td>15</td><td>Summary and wrap-up</td></tr> </table>		1	Orientation and syllabus	2-3	Value of work	4-5	Inequality	6-7	Wisdom	8-9	Culture and change	10-11	Managing nature	12-14	Democracy and liberty	15	Summary and wrap-up
1	Orientation and syllabus																		
2-3	Value of work																		
4-5	Inequality																		
6-7	Wisdom																		
8-9	Culture and change																		
10-11	Managing nature																		
12-14	Democracy and liberty																		
15	Summary and wrap-up																		
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																	
Individual reading texts will be distributed in class.		Essays 50% Notebook 50%																	

09年度以降	Reading Strategies I (1年3組)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Extensive reading ①: New vocabulary</li> <li>Extensive reading ②: Fiction and Nonfiction</li> <li>Extensive reading ③: Books</li> <li>Supplementary reading material(1)</li> <li>Vocabulary building①: Making good use of the dictionary</li> <li>Vocabulary building②: Guessing meaning from context</li> <li>Vocabulary building③: Word parts</li> <li>Vocabulary building④: Collocations</li> <li>Vocabulary building⑤: Structure and reference</li> <li>Supplementary reading material(2)</li> <li>Comprehensive reading①: Scanning and previewing</li> <li>Comprehensive reading②-1: Making inference</li> <li>Comprehensive reading②-2: Making inference</li> <li>Supplementary reading material(3)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		Participation (30%) , Assignments (30%), Exam(40%)	

09年度以降	Reading Strategies II (1年3組)	担当者	水本 義彦
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Comprehensive reading③-1: Understanding paragraphs</li> <li>Comprehensive reading③-2: Understanding paragraphs</li> <li>Supplementary reading material(4)</li> <li>Comprehensive reading④: Identifying the pattern</li> <li>Comprehensive reading⑤-1: Reading longer passages</li> <li>Comprehensive reading⑤-2: Reading longer passages</li> <li>Comprehensive reading⑤-3: Reading longer passages</li> <li>Supplementary reading material⑤-4: Skimming</li> <li>Summarizing①: short passages</li> <li>Summarizing②: short passages</li> <li>Summarizing③: longer passages</li> <li>Supplementary reading material(5)</li> <li>Reading faster①</li> <li>Reading faster②</li> <li>Reading faster③</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Linda Jeffries & Beatrice S. Mikulecky, <i>More Reading Power 3</i> (Pearson Longman, 2012).		Participation (30%) , Assignments (30%), Exam(40%)	



09年度以降	Reading Strategies I (1年4組)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Fashion Forward (1)</li> <li>Fashion Forward (2)</li> <li>Challenging Nature (1)</li> <li>Challenging Nature (2)</li> <li>The Maori (1)</li> <li>The Maori (2)</li> <li>Shall We Dance (3)</li> <li>Shall We Dance (4)</li> <li>Pompeii (1)</li> <li>Pompeii (2)</li> <li>Safari! (1)</li> <li>Safari! (2)</li> <li>Discussion</li> <li>Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Powerful Reader: High Intermediate</i>, Pacheco &amp; Gregg, (MacMillan) Supplemental materials will be provided in class.</p>		Grading will be based on class-participation (30%), quizzes (30%), and assignments (40%).	

09年度以降	Reading Strategies II (1年4組)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Theme Parks (1)</li> <li>Theme Parks (2)</li> <li>New York (1)</li> <li>New York (2)</li> <li>The Noble Nobel (1)</li> <li>The Noble Nobel (2)</li> <li>Humor and the Human Condition (1)</li> <li>Humor and the Human Condition (2)</li> <li>Alone at the Fair (1)</li> <li>Alone at the Fair (2)</li> <li>Art Speaks (1)</li> <li>Art Speaks (2)</li> <li>Discussion</li> <li>Wrap-up (1)</li> <li>Wrap-up (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Powerful Reader: High Intermediate</i>, Pacheco &amp; Gregg, (MacMillan) Supplemental materials will be provided in class.</p>		Grading will be based on class-participation (30%), quizzes (30%), and assignments (40%).	

09年度以降	Reading Strategies I (1年5組)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction to course</li> <li>Fashion Forward (1)</li> <li>Fashion Forward (2)</li> <li>Fashion Forward (3)</li> <li>Making connections</li> <li>Challenging Nature (1)</li> <li>Challenging Nature (2)</li> <li>Challenging Nature (3)</li> <li>Making connections</li> <li>The Maori and Cultural Expression (1)</li> <li>The Maori and Cultural Expression (2)</li> <li>The Maori and Cultural Expression (3)</li> <li>Making connections</li> <li>Small-group presentations</li> <li>Small-group presentations and wrap-up discussion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Powerful Reader-High intermediate</i>, Pacheco &amp; Gregg, MacMillan (Supplemental materials will be also provided in class.)</p>		<p>Reading journals and assignments(30%), vocabulary quizzes(30%), in-class participation and presentations (40%)</p>	

09年度以降	Reading Strategies II (1年5組)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction to course</li> <li>Advertisements (1)</li> <li>Advertisements (2)</li> <li>Advertisements (3)</li> <li>Small-group presentations</li> <li>Mystery in Pompeii (1)</li> <li>Mystery in Pompeii (2)</li> <li>Mystery in Pompeii (3)</li> <li>Making Connections</li> <li>The grand tour (1)</li> <li>The grand tour (2)</li> <li>The grand tour (3)</li> <li>The grand tour (4)</li> <li>Small-group presentations</li> <li>Small-group presentations and wrap-up discussion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Powerful Reader-High intermediate</i>, Pacheco &amp; Gregg, MacMillan (Supplemental materials will be also provided in class.)</p>		<p>Reading journals and assignments(30%), vocabulary quizzes(30%), in-class participation and presentations (40%)</p>	

09年度以降	Reading Strategies I (1年6組)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Zwier.,Lawrence. <i>Inside Reading 2: The Academic World List in Context</i> . Oxford University Press, 2012.		単語テスト、授業への参加度、課題、学期末試験の総合評価とする。	

09年度以降	Reading Strategies II (1年6組)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Zwier.,Lawrence. <i>Inside Reading 2: The Academic World List in Context</i> . Oxford University Press, 2012.		単語テスト、授業への参加度、課題、学期末試験の総合評価とする。	

09年度以降	Reading Strategies I (1年7組)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 1-1</li> <li>Unit 1-2</li> <li>Unit 2-1</li> <li>Unit 2-2</li> <li>Unit 3-1</li> <li>Unit 3-2</li> <li>Unit 4-1</li> <li>Unit 4-2</li> <li>Unit 5-1</li> <li>Unit 5-2</li> <li>Unit 6-1</li> <li>Unit 6-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

09年度以降	Reading Strategies II (1年7組)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 7-1</li> <li>Unit 7-2</li> <li>Unit 8-1</li> <li>Unit 8-2</li> <li>Unit 9-1</li> <li>Unit 9-2</li> <li>Unit 10-1</li> <li>Unit 10-2</li> <li>Unit 11-1</li> <li>Unit 11-2</li> <li>Unit 12-1</li> <li>Unit 12-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

09年度以降	Reading Strategies I (1年8組)	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<p><u>春学期は早くたくさん読めるようになることを第一の目的とします。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Assessment</li> <li>Rapid Reading Introduction</li> </ol> <p>3~10 &lt;Fun Reading&gt; 第1回目に決定した Graded Reading のテキストを複数冊読みます。楽しみながら英語を読み、速読力をアップさせましょう。</p> <p>11~14 &lt;Making a Trip Plan&gt; 情報検索スキル習得へのイントロダクションです。(ネット上の)膨大な情報のなかから必要かつ質の高い情報を取り出す方法を身につけましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Research Skill 1 (Catalogue Scanning)</li> <li>Research Skill 2 (HP Scanning)</li> <li>Citation and Bibliography</li> <li>Editing</li> </ol> <p>15. Term Assessment</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
ハンドアウトを用意する。Graded Reader については、授業内で説明する。		授業内活動参加 40% 授業内小テスト 20% 試験 40% (パーセンテージは暫定のものである)	

09年度以降	Reading Strategies II (1年8組)	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<p><u>秋学期は文章の構造を把握できるようになることを第一の目的とします。</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Assessment</li> <li>Reading for Structure and Organization --- Introduction</li> </ol> <p>3~8 &lt;Structure &amp; Organization I&gt; 様々なテキストの構成法などに着目して、より効果的にテキストを読む練習をします。テキストには最新のニュース記事などを用い、ただの語学習得に終わらないコンテンツをめざします。グローバル化した現代の世界を、複眼的に捉える姿勢を身につけましょう。</p> <p>9-14. &lt;Structure &amp; Organization II&gt; かなり長い講演原稿を読み、より精緻に文章の構成を分析する訓練をします。テキストには以下の講演を用います。 The Danger of A Single Story by Chimamanda Ngozi Adichie</p> <p>15. Term Assessment</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
ハンドアウトを用意する。		授業内活動参加 40% 授業内小テスト 20% 試験 40% (パーセンテージは暫定のものである)	

09年度以降	Reading Strategies I (1年9組)	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<p>初回の講義から英文を読んでゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション及び英文の読解</li> <li>～14.英文の読解</li> <li>15. 春学期のまとめと復習</li> </ol> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお、いわゆる「救済措置」の機会はない。諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布プリントによる。		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	Reading Strategies II (1年9組)	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<p>初回の講義から英文を読んでゆく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション及び英文の読解</li> <li>～14.英文の読解</li> <li>15. 秋学期のまとめと復習</li> </ol> <p>成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。なお、いわゆる「救済措置」の機会はない。諸連絡にはポータルサイトを利用する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
配布プリントによる。		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。	

09年度以降	Reading Strategies I (1年10組)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Class orientation</li> <li>(1) "Japanese Mind"</li> <li>(1) Reading</li> <li>(1) Group work</li> <li>(1) PPT workshop</li> <li>(1) Presentation</li> <li>(2) "Science"</li> <li>(2) Reading</li> <li>(2) Group work</li> <li>(2) Presentation</li> <li>(3) "Economy"</li> <li>(3) Reading</li> <li>(3) Group work</li> <li>(3) Presentation</li> <li>Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook Teacher handouts		Assignments : 40% Presentations : 30% Quizzes : 30%	

09年度以降	Reading Strategies II (1年10組)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Class orientation</li> <li><i>Charlie and the Chocolate Factory</i> (1)</li> <li><i>Charlie and the Chocolate Factory</i> (2)</li> <li><i>Charlie and the Chocolate Factory</i> (3)</li> <li>Presentation (1)</li> <li>Reading and summary writing (1)</li> <li>Reading and summary writing (2)</li> <li>Reading and summary writing (3)</li> <li>Reading and summary writing (4)</li> <li>Reading and summary writing (5)</li> <li>Reading and summary writing (6)</li> <li>Reading and summary writing (7)</li> <li>Reading and summary writing (8)</li> <li>Presentation (2)</li> <li>Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ol style="list-style-type: none"> <li>Dahl, R (1964). <i>Charlie and the Chocolate Factory</i>. Puffin</li> <li>Books of your choice</li> </ol>		Assignments : 70% Presentations : 30%	

09年度以降	Reading Strategies I (1年11組)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<p>第1回：英字新聞抜粋 a-1。 <i>Twelve Angry Men</i> a-1</p> <p>第2回：英字新聞抜粋 a-2。 <i>Twelve Angry Men</i> a-2</p> <p>第3回：英字新聞抜粋 a-3。 <i>Twelve Angry Men</i> a-3</p> <p>第4回：英字新聞抜粋 a-4。 <i>Twelve Angry Men</i> a-4</p> <p>第5回：英字新聞抜粋 a-5。 <i>Twelve Angry Men</i> a-5</p> <p>第6回：英字新聞抜粋 a-6。 <i>Twelve Angry Men</i> a-6</p> <p>第7回：英字新聞抜粋 a-7。 <i>Twelve Angry Men</i> a-7</p> <p>第8回：英字新聞抜粋 a-8。 <i>Twelve Angry Men</i> a-8</p> <p>第9回：英字新聞抜粋 a-9。 <i>Twelve Angry Men</i> a-9</p> <p>第10回：英字新聞抜粋 a-10。 <i>Twelve Angry Men</i> a-10</p> <p>第11回：英字新聞抜粋 a-11。 <i>Twelve Angry Men</i> a-11</p> <p>第12回：英字新聞抜粋 a-12。 <i>Twelve Angry Men</i> a-12</p> <p>第13回：英字新聞抜粋 a-13。 <i>Twelve Angry Men</i> a-13</p> <p>第14回：英字新聞抜粋 a-14。 <i>Twelve Angry Men</i> a-14</p> <p>第15回：英字新聞抜粋 a-15。 <i>Twelve Angry Men</i> a-15</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
英字新聞抜粋。 <i>Twelve Angry Men</i> by Reginald Rose		毎回授業開始時に行う語彙 quiz による。 学期末の定期試験はしません。	

09年度以降	Reading Strategies II (1年11組)	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<p>第1回：英字新聞抜粋 b-1。 <i>Twelve Angry Men</i> b-1</p> <p>第2回：英字新聞抜粋 b-2。 <i>Twelve Angry Men</i> b-2</p> <p>第3回：英字新聞抜粋 b-3。 <i>Twelve Angry Men</i> b-3</p> <p>第4回：英字新聞抜粋 b-4。 <i>Twelve Angry Men</i> b-4</p> <p>第5回：英字新聞抜粋 b-5。 <i>Twelve Angry Men</i> b-5</p> <p>第6回：英字新聞抜粋 b-6。 <i>Twelve Angry Men</i> b-6</p> <p>第7回：英字新聞抜粋 b-7。 <i>Twelve Angry Men</i> b-7</p> <p>第8回：英字新聞抜粋 b-8。 <i>Twelve Angry Men</i> b-8</p> <p>第9回：英字新聞抜粋 b-9。 <i>Twelve Angry Men</i> b-9</p> <p>第10回：英字新聞抜粋 b-10。 <i>Twelve Angry Men</i> b-10</p> <p>第11回：英字新聞抜粋 b-11。 <i>Twelve Angry Men</i> b-11</p> <p>第12回：英字新聞抜粋 b-12。 <i>Twelve Angry Men</i> b-12</p> <p>第13回：英字新聞抜粋 b-13。 <i>Twelve Angry Men</i> b-13</p> <p>第14回：英字新聞抜粋 b-14。 <i>Twelve Angry Men</i> b-14</p> <p>第15回：英字新聞抜粋 b-15。 <i>Twelve Angry Men</i> b-15</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
英字新聞抜粋。 <i>Twelve Angry Men</i> by Reginald Rose		毎回授業開始時に行う語彙 quiz による。 学期末の定期試験はしません。	



09年度以降	Reading Strategies I (1年12組)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>4. To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<p>1～3. American Campus Portraits</p> <p>4～6. "Charge It, Please!: In College and in Debt"</p> <p>7～9. Top Athletes on Tiptoe</p> <p>10～12. Don't Mess with Stress</p> <p>13～15. "Batter Up!": Baseball American and Japanese Style</p> <p>*テキストのチャプタータイトルを挙げています。ペースや扱うチャプターは一部変更することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pacheco & Gregg, <i>The Powerful Reader</i> , the second edition (Macmillan, 2003) *DUOで購入すること		授業内外の課題 40%, テスト 60% (ただし5回を越えて欠席した場合は評価対象としない)。	

09年度以降	Reading Strategies II (1年12組)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase their vocabulary</li> <li>2. To develop basic reading skills</li> <li>3. To understand how a text is organized</li> </ol>		<p>1～3. The History of English</p> <p>4～6. Sound Sculptures</p> <p>7～9. Reading a Masterpiece</p> <p>10～12. Hairy Heroes and Furry Friends</p> <p>13～15. Extinct Is Forever</p> <p>*テキストのチャプタータイトルを挙げています。ペースや扱うチャプターは一部変更することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期の継続です。		授業内外の課題 40%, テスト 60% (ただし5回を越えて欠席した場合は評価対象としない)。	

09年度以降	Reading Strategies I (再履修)	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Guidance</li> <li>Chapter 1</li> <li>Chapter 2</li> <li>Chapter 3</li> <li>Chapter 4</li> <li>Activities &amp; Group Discussion</li> <li>Chapter 5</li> <li>Chapter 6</li> <li>Chapter 7</li> <li>Chapter 8</li> <li>Activities &amp; Group Discussion</li> <li>Chapter 9</li> <li>Chapter 10</li> <li>Chapter 11</li> <li>Chapter 12 &amp; Summary</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Penguin Readers Level 5: On the Road</i>		Active participation (50%) Assignments (50%)	

09年度以降	Reading Strategies I (再履修)	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand reading materials without translating into Japanese</li> <li>To clarify the structure of a paragraph or essay (for upper level students-like honor students)</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Guidance</li> <li>Chapter 1</li> <li>Chapter 2</li> <li>Chapter 3</li> <li>Chapter 4</li> <li>Activities &amp; Group Discussion</li> <li>Chapter 5</li> <li>Chapter 6</li> <li>Chapter 7</li> <li>Chapter 8</li> <li>Activities &amp; Group Discussion</li> <li>Chapter 9</li> <li>Chapter 10</li> <li>Chapter 11</li> <li>Chapter 12 &amp; Summary</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Penguin Readers Level 5: On the Road</i>		Active participation (50%) Assignments (50%)	

09年度以降	Reading Strategies II (再履修)	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Guidance</li> <li>The Black-Eye-of-the-Month Club</li> <li>Why Chicken Means So Much to Me</li> <li>Revenge Is My Middle Name</li> <li>Preparation for Presentation</li> <li>Presentation &amp; Discussion</li> <li>Because Geometry Is Not a Country Somewhere Near France</li> <li>Hope Against Hope</li> <li>Go Means Go</li> <li>Rowdy Sings the Blues</li> <li>Character Analysis &amp; Discussion</li> <li>How to Fight Monsters</li> <li>Grandmother Gives Me Some Advice</li> <li>Tears of a Clown</li> <li>Summary</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Absolutely True Diary of a Part-time Indian</i> by Sherman Alexie		Active participation (50%) Assignments (50%)	

09年度以降	Reading Strategies II (再履修)	担当者	関根 路代
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for first-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase their vocabulary</li> <li>To develop basic reading skills</li> <li>To understand how a text is organized</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction &amp; Guidance</li> <li>The Black-Eye-of-the-Month Club</li> <li>Why Chicken Means So Much to Me</li> <li>Revenge Is My Middle Name</li> <li>Preparation for Presentation</li> <li>Presentation &amp; Discussion</li> <li>Because Geometry Is Not a Country Somewhere Near France</li> <li>Hope Against Hope</li> <li>Go Means Go</li> <li>Rowdy Sings the Blues</li> <li>Character Analysis &amp; Discussion</li> <li>How to Fight Monsters</li> <li>Grandmother Gives Me Some Advice</li> <li>Tears of a Clown</li> <li>Summary</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Absolutely True Diary of a Part-time Indian</i> by Sherman Alexie		Active participation (50%) Assignments (50%)	

09年度以降	Reading Strategies III (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction.  Week 2: Selected reading &amp; assignment.  Week 3: Selected reading &amp; assignment.  Week 4: Selected reading &amp; assignment.  Week 5: Selected reading &amp; assignment.  Week 6: Selected reading &amp; assignment.  Week 7: Selected reading &amp; assignment.  Week 8: Quiz I. Journals due.  Week 9: Selected readings&amp; assignment.  Week 10: Selected reading &amp; assignment.  Week 11: Selected reading &amp; assignment.  Week 12: Selected reading &amp; assignment.  Week 13: Selected reading &amp; assignment.  Week 14: Selected reading &amp; assignment.  Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Handouts, online text material		Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年①)	担当者	J. J. ダゲン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction.  Week 2: Selected reading &amp; assignment.  Week 3: Selected reading &amp; assignment.  Week 4: Selected reading &amp; assignment.  Week 5: Selected reading &amp; assignment.  Week 6: Selected reading &amp; assignment.  Week 7: Selected reading &amp; assignment.  Week 8: Quiz I. Journals due.  Week 9: Selected readings&amp; assignment.  Week 10: Selected reading &amp; assignment.  Week 11: Selected reading &amp; assignment.  Week 12: Selected reading &amp; assignment.  Week 13: Selected reading &amp; assignment.  Week 14: Selected reading &amp; assignment.  Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Handouts, online text material		Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).	

09年度以降	Reading Strategies III (2年②)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>Final Assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年②)	担当者	A. ゴーリンジャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course Introduction</li> <li>Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read</li> <li>Reading 1: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 1: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 2: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 2: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 3: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 3: Group discussion / Final read and review</li> <li>Reading 4: Introduction to author and theme / First read</li> <li>Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises</li> <li>Reading 4: Group discussion / Final read and review</li> <li>Final Assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.		Evaluations will be based on participation in classroom discussions (30%), the completion of in-class and homework assignments (35%), and achievement on a final essay (35%).	

09年度以降	Reading Strategies III (2年③)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction, Reading for Fun</li> <li>RS I/II: Preview, Passage Type, Paragraphs, Main Idea</li> <li>RS I/II: Paragraph(s), Facts, Outline, Summary</li> <li>RS I/II: Scanning, Skimming</li> <li>TOEFL Exercise (1)</li> <li>Selected Topic (1a)</li> <li>Selected Topic (1b), Exercises</li> <li>TOEFL Exercise (2)</li> <li>Selected Topic (2a)</li> <li>Selected Topic (2b), Exercises</li> <li>TOEFL Exercise (3)</li> <li>Selected Topic (3a)</li> <li>Selected Topic (3b), Exercises</li> <li>TOEFL Exercise (4)</li> <li>Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
DUOで確認すること。 その他 配布資料		平常点(準備・参加):20%, クイズ・課題:30%, 試験・レポート:50%。 単位の認定には70%以上の出席が求められる。	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年③)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Reading for Fun</li> <li>TOEFL Exercise (1)</li> <li>Selected Topic (1a)</li> <li>Selected Topic (1b), Exercises</li> <li>Research Reading (1a)</li> <li>Research Reading (1b), Reading and Report</li> <li>TOEFL Exercise (2)</li> <li>Selected Topic (2a)</li> <li>Selected Topic (2b), Exercises</li> <li>Selected Topic (3a)</li> <li>Selected Topic (3b), Exercises</li> <li>Research Reading (2a)</li> <li>Research Reading (2b)</li> <li>Research Reading, Reading and Report</li> <li>Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業内で指示 その他 配布資料		平常点(準備・参加):20%, クイズ・課題:30%, 試験・レポート:50%。 単位の認定には70%以上の出席が求められる。	

09年度以降	Reading Strategies III (2年④)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary</li> <li>2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bruce Rubin. <i>Inside Reading 3: The Academic World List in Context</i> . Oxford University Press, 2012.		単語テスト、授業への参加度、課題、学期末試験の総合評価とする。	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年④)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary</li> <li>2. To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>3. To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回～第14回 テキストに沿って進める。</p> <p>第15回 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Bruce Rubin. <i>Inside Reading 3: The Academic World List in Context</i> . Oxford University Press, 2012.		単語テスト、授業への参加度、課題、学期末試験の総合評価とする。	

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑤)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary</li> <li>2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<p>最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		筆記試験をします。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑤)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary</li> <li>2. To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>3. To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<p>最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	



09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑥)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary</li> <li>2. To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>3. To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>4. To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<p>最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。		筆記試験をします。平常点も30%ほど考慮します。欠席が授業回数の1/3を超えた場合、単位を与えません。遅刻は2回で欠席1回分にカウントします。	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑥)	担当者	佐藤 唯行
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To increase academic vocabulary</li> <li>2. To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>3. To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>4. To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<p>最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期と同じ		春学期と同じ	

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑦)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>An Introduction</li> <li>“Neighbors” (1)</li> <li>“Neighbors” (2)</li> <li>“Neighbors” (3)</li> <li>“They’re Not Your Husband” (1)</li> <li>“They’re Not Your Husband” (2)</li> <li>“They’re Not Your Husband” (3)</li> <li>“Vitamin” (1)</li> <li>“Vitamin” (2)</li> <li>“Vitamin” (3)</li> <li>“Vitamin” (4)</li> <li>“Will You Please Be Quiet, Please?” (1)</li> <li>“Will You Please Be Quiet, Please?” (2)</li> <li>“Will You Please Be Quiet, Please?” (3)</li> <li>“Will You Please Be Quiet, Please?” (4)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Raymond Carver. <i>Short Cuts: Selected Stories</i> . With an Introduction by Robert Altman. New York: Vintage Books, 1993. (ISBN: 0-679-74864-4)		毎回のペアによるプレゼンテーションと授業への参加度、そして定期試験で決める。欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、単位を認定しない。	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑦)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>“So Much Water So Close to Home” (1)</li> <li>“So Much Water So Close to Home” (2)</li> <li>“So Much Water So Close to Home” (3)</li> <li>“A Small, Good Thing” (1)</li> <li>“A Small, Good Thing” (2)</li> <li>“A Small, Good Thing” (3)</li> <li>“Jerry and Molly and Sam” (1)</li> <li>“Jerry and Molly and Sam” (2)</li> <li>“Jerry and Molly and Sam” (3)</li> <li>“Collectors” (1)</li> <li>“Collectors” (2)</li> <li>“Collectors” (3)</li> <li>“Tell the Women We’re Going” (1)</li> <li>“Tell the Women We’re Going” (2)</li> <li>“Tell the Women We’re Going” (3)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Raymond Carver. <i>Short Cuts: Selected Stories</i> . With an Introduction by Robert Altman. New York: Vintage Books, 1993. (ISBN: 0-679-74864-4)		毎回のペアによるプレゼンテーションと授業への参加度、そして定期試験で決める。欠席が授業回数の1/3を越えた場合は、単位を認定しない。	

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑧)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Lesson 1, Reading 1: Scientists &amp; Managerial Positions</li> <li>Lesson 1, Reading 2: So-called Paperless Society</li> <li>Lesson 2, Reading 1: Text Messages</li> <li>Lesson 2, Reading 2: Why was religion born?</li> <li>Lesson 3, Reading 1: Dust Clouds</li> <li>Lesson 3, Reading 2: Girl Students &amp; Science</li> <li>Lessons 1-3 の復習 《中間試験》</li> <li>Lesson 4, Reading 1: GM Foods</li> <li>Lesson 4, Reading 2: Choosing Your Baby's Sex</li> <li>Lesson 5, Reading 1: Global Dimming</li> <li>Lesson 5, Reading 2: What makes us feel pleasure?</li> <li>Lesson 6, Reading 1: Branches of Biotechnology</li> <li>Lesson 6, Reading 2: The Digital Divide</li> <li>Lessons 4-6 に関連するエッセイの読解</li> <li>Lessons 4-6 の復習 《期末試験》</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 石谷由美子 &amp; Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i>. (南雲堂)</p>		<p>授業における平常点, 授業の準備状況, 期末試験の成績, 受講状況を総合して評価する。</p>	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑧)	担当者	鈴木 英一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Lesson 7, Reading 1: Browser Wars</li> <li>Lesson 7, Reading 2: The Fight against Malaria</li> <li>Lesson 8, Reading 1: Warning for Science Education</li> <li>Lesson 8, Reading 2: Out of the wild and Into the backyard</li> <li>Lesson 9, Reading 1: How does the brain read sarcasm?</li> <li>Lesson 9, Reading 2: Thought Control</li> <li>Lessons 7-9 の復習 《中間試験》</li> <li>Lesson 10, Reading 1: Dark Matter and Dark Energy</li> <li>Lesson 10, Reading 2: REM Sleep</li> <li>Lesson 11, Reading 1: Otaku</li> <li>Lesson 11, Reading 2: Minus Ions</li> <li>Lesson 12, Reading 1: Panicked Mice</li> <li>Lesson 12, Reading 2: Games on the Brain</li> <li>Lessons 7-12 に関連するエッセイの読解</li> <li>Lessons 7-12 の復習 《期末試験》</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト: 石谷由美子 &amp; Suzanne Embury (著) <i>Outlook on Science and Technology: Skills for Better Reading III</i>. (南雲堂)</p>		<p>授業における平常点, 授業の準備状況, 期末試験の成績, 受講状況を総合して評価する。</p>	

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ㊹)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 1-1</li> <li>Unit 1-2</li> <li>Unit 2-1</li> <li>Unit 2-2</li> <li>Unit 3-1</li> <li>Unit 3-2</li> <li>Unit 4-1</li> <li>Unit 4-2</li> <li>Unit 5-1</li> <li>Unit 5-2</li> <li>Unit 6-1</li> <li>Unit 6-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ㊹)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 7-1</li> <li>Unit 7-2</li> <li>Unit 8-1</li> <li>Unit 8-2</li> <li>Unit 9-1</li> <li>Unit 9-2</li> <li>Unit 10-1</li> <li>Unit 10-2</li> <li>Unit 11-1</li> <li>Unit 11-2</li> <li>Unit 12-1</li> <li>Unit 12-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑩)	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Toefl practice tests (1)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (1)</li> <li>Toefl practice tests (2)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (2)</li> <li>Toefl practice tests (3)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (3)</li> <li>Toefl practice tests (4)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (4)</li> <li>Toefl practice tests (5)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (5)</li> <li>Toefl practice tests (6)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (6)</li> <li>Toefl practice tests (7)</li> <li>Wrap-up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Reading materials will be provided by the teacher in class.		Grading will be based on class-participation (30%), quizzes (30%), and assignments (40%).	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑩)	担当者	前沢 浩子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Toefl practice tests (8)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (8)</li> <li>Toefl practice tests (9)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (9)</li> <li>Toefl practice tests (10)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (10)</li> <li>Toefl practice tests (11)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (11)</li> <li>Toefl practice tests (12)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (12)</li> <li>Toefl practice tests (13)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (13)</li> <li>Toefl practice tests (14)</li> <li>History behind the Nursery Rhymes (14)</li> <li>Wrap-up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Reading materials will be provided by the teacher in class.		Grading will be based on class-participation (30%), quizzes (30%), and assignments (40%).	

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑩)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 1-1</li> <li>Unit 1-2</li> <li>Unit 2-1</li> <li>Unit 2-2</li> <li>Unit 3-1</li> <li>Unit 3-2</li> <li>Unit 4-1</li> <li>Unit 4-2</li> <li>Unit 5-1</li> <li>Unit 5-2</li> <li>Unit 6-1</li> <li>Unit 6-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑪)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 7-1</li> <li>Unit 7-2</li> <li>Unit 8-1</li> <li>Unit 8-2</li> <li>Unit 9-1</li> <li>Unit 9-2</li> <li>Unit 10-1</li> <li>Unit 10-2</li> <li>Unit 11-1</li> <li>Unit 11-2</li> <li>Unit 12-1</li> <li>Unit 12-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

09年度以降	Reading Strategies III (2年 ⑫)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To develop a better understanding of various styles and purposes of reading material</li> <li>To develop effective reading skills (intensive reading, extensive reading, etc.)</li> <li>To read some outside readers which they can read without using a dictionary</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 1-1</li> <li>Unit 1-2</li> <li>Unit 2-1</li> <li>Unit 2-2</li> <li>Unit 3-1</li> <li>Unit 3-2</li> <li>Unit 4-1</li> <li>Unit 4-2</li> <li>Unit 5-1</li> <li>Unit 5-2</li> <li>Unit 6-1</li> <li>Unit 6-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

09年度以降	Reading Strategies IV (2年 ⑫)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This one-semester course is compulsory for second-year students.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To increase academic vocabulary</li> <li>To understand reading materials different in styles and contents.</li> <li>To develop effective reading skills &amp; deciphering academic texts (intensive reading, extensive reading, using visual/lexical &amp; grammatical cues in academic texts).</li> <li>To read outside readers which are enjoyable and can be read without using a dictionary.</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction</li> <li>Unit 7-1</li> <li>Unit 7-2</li> <li>Unit 8-1</li> <li>Unit 8-2</li> <li>Unit 9-1</li> <li>Unit 9-2</li> <li>Unit 10-1</li> <li>Unit 10-2</li> <li>Unit 11-1</li> <li>Unit 11-2</li> <li>Unit 12-1</li> <li>Unit 12-2</li> <li>Semester review</li> <li>Term-end word quiz &amp; comprehension check quiz</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richards, J. C., & Eckstut-Didier, S. (2012). <i>Strategic Reading 3 second edition</i> . Cambridge University Press.		Class participation (10%); In-class achievement (summarizing, comprehension check quiz, etc.: 40%); Weekly quiz (50%)	

13年度以降	Writing Skills I (1年 A)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>This course takes an integrative approach to developing student writing skills which includes reading and discussion with the emphasis on writing sentences, paragraphs, short essays and papers.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - Orientation: The Writing Process</li> <li>2 - From Sentence to Paragraph; Writing for Clarity</li> <li>3/4 - Personal Essay</li> <li>5/6 - Travel Essay</li> <li>7 - Midterm Assessments</li> <li>8/9/10 - Politics &amp; Culture Group Research Project</li> <li>11 - Document Design; Computer &amp; Research Issues</li> <li>12 - Student Preparations for Final Papers</li> <li>13/14 - Student Readings</li> <li>15 - Course Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook; teacher handouts and online references		In-class performance 20%; Midterm test 20%; class-work assignments 20%; final paper 40%	

13年度以降	Writing Skills II (1年 A)	担当者	R. ウィルコックス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>This course takes an integrative approach to developing student writing skills which includes reading and discussion with the emphasis on writing sentences, paragraphs, short essays and papers.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - Orientation: The Writing Process</li> <li>2 - From Topic to Thesis; Writing for Clarity</li> <li>3/4 - Media &amp; Pop Culture Essay</li> <li>5/6 - Cultural Cuisine Essay</li> <li>7 - Midterm Assessments</li> <li>8/9/10 - Environment &amp; Health Trends Group Research Project</li> <li>11 - Document Design; Computer &amp; Research Issues</li> <li>12 - Student Preparations for Final Papers</li> <li>13/14 - Student Readings</li> <li>15 - Course Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook; teacher handouts and online references		In-class performance 20%; Midterm test 20%; class-work assignments 20%; final paper 40%	



13年度以降	Writing Skills I (1年 B)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>We will start at the beginning with "Topic Sentences" and expand the length and complexity of the essays until the students have a firm grasp of what "good essay writing" actually is.</p> <p>A presentation is also required for this course.</p> <p>1-10 Essay study and writing 11-15 Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
All materials will provided by the instructor.		Participation, essays and final presentation.	

13年度以降	Writing Skills II (1年 B)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>We will continue with the work done in the first semester with added complexity and more challenging topics.</p> <p>A final presentation will be required at the end of this course.</p> <p>Same as above</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Same as above		Same as above	

13年度以降	Writing Skills I (1年 C)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Paragraph organization, academic style</p> <p>Week 3: Introduction to Quick Write</p> <p>Week 4: Planning a paragraph, correction symbols</p> <p>Week 5: Topics and topic sentences</p> <p>Week 6: Supporting sentences and examples</p> <p>Week 7: Introduction to peer editing</p> <p>Week 8: Cause and effect writing</p> <p>Week 9: Grammar workshop</p> <p>Week 10: Persuasive writing</p> <p>Week 11: Comparison and contrast</p> <p>Week 12: Survey and report</p> <p>Week 13: Grammar workshop 2</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Return notebooks and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Ready to Write 3 (Pearson Longman)</li> <li>• B5 notebook</li> </ul>		<p>20% class participation</p> <p>80% writing assignments</p>	

13年度以降	Writing Skills II (1年 C)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Elements of good academic writing</p> <p>Week 3: Introduction to timed free writing</p> <p>Week 4: Choosing topics</p> <p>Week 5: Thesis statements</p> <p>Week 6: Grammar mechanics: common writing errors</p> <p>Week 7: Types of essay organization</p> <p>Week 8: Proofreading and proofreading symbols</p> <p>Week 9: Making good introductory paragraphs</p> <p>Week 10: Types of concluding paragraphs</p> <p>Week 11: Quotations and citations</p> <p>Week 12: Grammar: fragments, dependent clauses</p> <p>Week 13: Summarizing</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Return all writings and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Ready to Write 3 (Pearson Longman)</li> </ul>		<p>20% class participation</p> <p>80% writing assignments</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 D) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>To help students write about themselves and their experiences</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction and the writing process</li> <li>Quiz 1 / Paragraph basics</li> <li>Paragraph basics – 1<sup>st</sup> major paragraph assigned</li> <li>Quiz 2 / Focusing ideas</li> <li>The topic sentence</li> <li>Quiz 3 / The topic sentence – 2<sup>nd</sup> major paragraph assigned</li> <li>The body and support</li> <li>The conclusion</li> <li>Quiz 4 / Paragraph review</li> <li>Paragraph review – 3<sup>rd</sup> major paragraph assigned</li> <li>Sentence focus</li> <li>Sentence combining / Sentence variety</li> <li>Review of semester course content</li> <li>Writing test</li> <li>Review and feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Great Writing 2: Great Paragraphs (Fourth Edition)</i>, by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Elena Vestri Solomon (Cengage Learning, 2014).</p>		Classwork and homework (35%), quizzes (4 × 5% = 20%), major paragraphs (3 × 5% = 15%), final test (30%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 D) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>To help students study how others organize ideas</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction and paragraph review (definition paragraphs)</li> <li>Opinion paragraphs – the gateway to academic essays</li> <li>Expanding a paragraph into an essay (Essay 1)</li> <li>Basic essay structure / Essay introductions</li> <li>Thesis statements</li> <li>Body paragraphs and conclusions</li> <li>Outlining essays</li> <li>Students begin Essay 2</li> <li>Student and teacher feedback on thesis statement and outline</li> <li>Student and teacher feedback – begin Essay 3</li> <li>Writing for clarity and conciseness: improving sentence focus</li> <li>Review of essay structure and coherence – begin Essay 4</li> <li>The small details: punctuation, spell checks, and formatting</li> <li>Final essays due</li> <li>Review and student feedback on course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Great Writing 2: Great Paragraphs (Fourth Edition)</i>, by Keith S. Folse, April Muchmore-Vokoun, and Elena Vestri Solomon (Cengage Learning, 2014).</p>		Classwork and homework (40%), 4 short essays (4 × 15% = 60%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 E) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the course &amp; free writing</li> <li>2. Types of sentences &amp; free writing</li> <li>3. Parallel structures &amp; describing a picture</li> <li>4. Sentence problems &amp; describing a picture</li> <li>5. Noun clauses &amp; explaining (process &amp; procedure)</li> <li>6. Noun clauses &amp; explaining (comparison &amp; contrast)</li> <li>7. Adverb Clauses &amp; explaining (cause &amp; effect)</li> <li>8. Adverb Clauses &amp; explaining (definition &amp; classification)</li> <li>9. Adjective Clauses &amp; explaining own culture</li> <li>10. Adjective Clause &amp; explaining foreign culture</li> <li>11. Participial Phrases &amp; explaining cultural events</li> <li>12. Participial Phrases &amp; explaining social problems</li> <li>13. Punctuation &amp; collaborative writing</li> <li>14. Punctuation &amp; summarizing and paraphrasing</li> <li>15. Semester review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 E) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Sentence writing</li> <li>2. Writing introductory paragraphs</li> <li>3. Writing body paragraphs</li> <li>4. Writing conclusion</li> <li>5. Collaborative essay writing</li> <li>6. Argumentative essay (agree or disagree)</li> <li>7. Argumentative essay (advantage and disadvantage)</li> <li>8. Argumentative essay (to what extent?)</li> <li>9. Argumentative essay &amp; unity and coherence</li> <li>10. Descriptive essay (table)</li> <li>11. Descriptive essay (line graph)</li> <li>12. Writing product reviews</li> <li>13. Writing book/movie reviews</li> <li>14. Listening to writing &amp; writing to speaking</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 F) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Paragraph organization, academic style</p> <p>Week 3: Introduction to Quick Write</p> <p>Week 4: Planning a paragraph, correction symbols</p> <p>Week 5: Topics and topic sentences</p> <p>Week 6: Supporting sentences and examples</p> <p>Week 7: Introduction to peer editing</p> <p>Week 8: Cause and effect writing</p> <p>Week 9: Grammar workshop</p> <p>Week 10: Persuasive writing</p> <p>Week 11: Comparison and contrast</p> <p>Week 12: Survey and report</p> <p>Week 13: Grammar workshop 2</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Return notebooks and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Ready to Write 3 (Pearson Longman)</li> <li>• B5 notebook</li> </ul>		<p>20% class participation</p> <p>80% writing assignments</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 F) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	J. スネール
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Class orientation</p> <p>Week 2: Elements of good academic writing</p> <p>Week 3: Introduction to timed free writing</p> <p>Week 4: Choosing topics</p> <p>Week 5: Thesis statements</p> <p>Week 6: Grammar mechanics: common writing errors</p> <p>Week 7: Types of essay organization</p> <p>Week 8: Proofreading and proofreading symbols</p> <p>Week 9: Making good introductory paragraphs</p> <p>Week 10: Types of concluding paragraphs</p> <p>Week 11: Quotations and citations</p> <p>Week 12: Grammar: fragments, dependent clauses</p> <p>Week 13: Summarizing</p> <p>Week 14: Review</p> <p>Week 15: Return all writings and consultation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• Ready to Write 3 (Pearson Longman)</li> </ul>		<p>20% class participation</p> <p>80% writing assignments</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 G) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction / Free Writing</li> <li>2. Opinion Paragraph / Brainstorming</li> <li>3. Paragraph Overview / Using a Word Processer</li> <li>4. Topic Sentence / Because and So</li> <li>5. Concluding Sentences (Briefly) / Using a Rubric</li> <li>6. Descriptive Paragraph / Sense Detail</li> <li>7. Narrowing a Topic Sentence / Mind Map</li> <li>8. Concluding Sentences / Sentence Variety</li> <li>9. Revising for Content and Form / Comma Splices</li> <li>10. Narrative Paragraph / Brainstorming</li> <li>11. Spider Map / Analyzing a Topic Sentence</li> <li>12. Concluding a Narrative / Present Perfect</li> <li>13. Peer Revision / Self-evaluation</li> <li>14. In-class Writing Test</li> <li>15. Review and Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pavlic & Segal, <i>Interaction 2 Writing, Silver Edition</i> . McGraw Hill		Opinion Paragraph: 20%, Descriptive Paragraph: 20%, Narrative Paragraph: 20%, Writing Test: 20%, Participation, Contribution and Homework: 20%	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 G) Basic Essay Writing (再履修)	担当者	D. グライムズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction / Free Writing</li> <li>2. Narrative Essay (Anecdotes) / Timeline Organizer</li> <li>3. Using Two Paragraphs / Narrowing a Timeframe</li> <li>4. Identifying Omissions / Identifying Digressions</li> <li>5. Argument Essay / Generating Ideas Via Discussion</li> <li>6. Making Arguments – Reasons and Supporting Detail</li> <li>7. Organization an Argument / Editing for Grammar</li> <li>8. Narrative Essay (Interview) / Appropriate Topics</li> <li>9. Peer Interview – Background, Body, and Conclusion</li> <li>10. Organizing a Three-Paragraph Essay / Revising</li> <li>11. Compare and Contrast Essay / Choosing a Topic</li> <li>12. Introductory Paragraph / Concluding Paragraph</li> <li>13. Comparing Similarities and Differences / Revising</li> <li>14. In-Class Essay Writing Test</li> <li>15. Review and Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pavlic & Segal, <i>Interaction 2 Writing, Silver Edition</i> . McGraw Hill		Narrative Essay 1: 15%, Argument Essay: 15%, Narrative Essay 2: 15%, Compare/Contrast Essay: 15% Writing Test: 20%, Participation, Contribution and Homework: 20%	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 H) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1 : Course introduction Week 2 : Introducing People Week 3 : Organization Week 4 : Grammar &amp; capitalization Week 5 : Sentence structure Week 6 : Writing Week 7 : List order paragraphs Week 8 : Organization Week 9 : Sentence structure Week 10 : Writing Week 11 : Giving instructions Week 12 : Organization Week 13 : Sentence structure &amp; punctuation Week 14 : Writing Week 15 : Feedback &amp; wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman		Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 H) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1 : Course introduction Week 2 : Describing places Week 3 : Organization Week 4 : Grammar &amp; sentence structure Week 5 : Writing Week 6 : Stating reasons, giving examples Week 7 : Organization Week 8 : Sentence structure &amp; punctuation Week 9 : Writing Week 10 : Expressing an opinion Week 11 : Organization Week 12 : Sentence structure &amp; punctuation Week 13 : Writing Week 14 : Journal writing Week 15 : Catch-up. wrap-up, feedback.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman		Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 I) Paragraph Writing (再履修)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>To help students write about themselves and their experiences</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction</li> <li>The English paragraph</li> <li>The topic sentence</li> <li>The supporting details</li> <li>Characteristics of a good paragraph</li> <li>Descriptive paragraph</li> <li>Narrative paragraph</li> <li>Personal opinion</li> <li>Writing a second draft</li> <li>Peer evaluation and feedback</li> <li>Classification</li> <li>Cause and effect</li> <li>Comparison</li> <li>Contrast</li> <li>Test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced.		Grades will be based on in-class performance(40%), assignments(40%), and tests (20%).	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 I) Paragraph Writing (再履修)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>To help students study how others organize ideas</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction</li> <li>Brainstorming and topic selection</li> <li>Thesis statement</li> <li>Essay organization</li> <li>Synthesizing Information</li> <li>Detailed outline</li> <li>Evaluating outlines</li> <li>Descriptive essay</li> <li>Narrative essay</li> <li>Peer evaluation and feedback</li> <li>Writing final draft</li> <li>Comparison and contrast essay</li> <li>Classification essay</li> <li>Persuasion</li> <li>Test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced.		Grades will be based on in-class performance(40%), assignments(40%), and tests (20%).	



13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 J) Paragraph Writing (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the course &amp; free writing</li> <li>2. Types of sentences &amp; free writing</li> <li>3. Parallel structures &amp; describing a picture</li> <li>4. Sentence problems &amp; describing a picture</li> <li>5. Noun clauses &amp; explaining (process &amp; procedure)</li> <li>6. Noun clauses &amp; explaining (comparison &amp; contrast)</li> <li>7. Adverb Clauses &amp; explaining (cause &amp; effect)</li> <li>8. Adverb Clauses &amp; explaining (definition &amp; classification)</li> <li>9. Adjective Clauses &amp; explaining own culture</li> <li>10. Adjective Clause &amp; explaining foreign culture</li> <li>11. Participial Phrases &amp; explaining cultural events</li> <li>12. Participial Phrases &amp; explaining social problems</li> <li>13. Punctuation &amp; collaborative writing</li> <li>14. Punctuation &amp; summarizing and paraphrasing</li> <li>15. Semester review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 J) Paragraph Writing (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Sentence writing</li> <li>2. Writing introductory paragraphs</li> <li>3. Writing body paragraphs</li> <li>4. Writing conclusion</li> <li>5. Collaborative essay writing</li> <li>6. Argumentative essay (agree or disagree)</li> <li>7. Argumentative essay (advantage and disadvantage)</li> <li>8. Argumentative essay (to what extent?)</li> <li>9. Argumentative essay &amp; unity and coherence</li> <li>10. Descriptive essay (table)</li> <li>11. Descriptive essay (line graph)</li> <li>12. Writing product reviews</li> <li>13. Writing book/movie reviews</li> <li>14. Listening to writing &amp; writing to speaking</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 K) Paragraph Writing (再履修)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>To help students write about themselves and their experiences</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction, outline, course requirements, getting to know your teacher and each other; short writing introduction.</li> <li>Beginning to Work 1</li> <li>Beginning to Work 2</li> <li>Giving and Receiving Presents 1</li> <li>Giving and Receiving Presents 2</li> <li>A Favorite Place 1</li> <li>A Favorite Place 2</li> <li>An Exceptional Person 1</li> <li>An Exceptional Person 2</li> <li>Trends and Fads 1</li> <li>Trends and Fads 2</li> <li>White Lies 1</li> <li>White Lies 2</li> <li>Review</li> <li>Journal review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Paragraph Writing</i>, Dorothy E. Zemach &amp; Carlos Islam, (MacMillan) No mobile phones unless teacher allows (for research).</p>		<p>30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment and journal</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 K) Paragraph Writing (再履修)	担当者	B. S. ハウエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>To help students study how others organize ideas</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Summary of Units 1-6. Holiday writing exercise.</li> <li>Explanations and Excuses 1</li> <li>Explanations and Excuses 2.</li> <li>Problems 1</li> <li>Problems 2</li> <li>Strange Stories 1</li> <li>Strange Stories 2</li> <li>Differences 1</li> <li>Differences 2</li> <li>Difficult Decisions 1</li> <li>Difficult Decisions 2</li> <li>Fate or Choice? 1</li> <li>Fate or Choice? 2</li> <li>Review</li> <li>Journal review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Paragraph Writing</i>, Dorothy E. Zemach &amp; Carlos Islam, (MacMillan) No mobile phones unless teacher allows (for research).</p>		<p>30% participation in class, including paying attention in class, attitude, and lateness 40% homework assignments, in-class points, notebooks 30% Final writing assignment and journal</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 L) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1 : Course introduction Week 2 : Introducing People Week 3 : Organization Week 4 : Grammar &amp; capitalization Week 5 : Sentence structure Week 6 : Writing Week 7 : List order paragraphs Week 8 : Organization Week 9 : Sentence structure Week 10 : Writing Week 11 : Giving instructions Week 12 : Organization Week 13 : Sentence structure &amp; punctuation Week 14 : Writing Week 15 : Feedback &amp; wrap-up</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman		Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 L) Paragraph Writing (再履修)	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1 : Course introduction Week 2 : Describing places Week 3 : Organization Week 4 : Grammar &amp; sentence structure Week 5 : Writing Week 6 : Stating reasons, giving examples Week 7 : Organization Week 8 : Sentence structure &amp; punctuation Week 9 : Writing Week 10 : Expressing an opinion Week 11 : Organization Week 12 : Sentence structure &amp; punctuation Week 13 : Writing Week 14 : Journal writing Week 15 : Catch-up. wrap-up, feedback.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Hogue, A. , "First Steps in Academic Writing", 2nd Edition, Pearson Longman		Evaluation will be according to class participation (40%), homework (20%) and writing assignments (40%).	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 M) Writing Strategies (再履修)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Unit 1-1,2 The Sentence and the Paragraph (Stimulating Ideas, Developing a Paragraph)</li> <li>3. Unit 1-3,4,5 (Unity and Coherence, Editing Your Paragraph)</li> <li>4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas)</li> <li>5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>7. Unit 2-4 (Editing Your Writing)</li> <li>8. Unit 2-5 (Putting It All Together)</li> <li>9. Unit 3-1 Example Paragraphs (Stimulating Ideas)</li> <li>10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>12. Unit 3-4 (Editing Your Writing)</li> <li>13. Unit 3-5 (Putting It All Together)</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph.</i> Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432346-8		Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 M) Writing Strategies (再履修)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, review of the spring semester</li> <li>2. Unit 4-1 Process Paragraphs (Stimulating Ideas)</li> <li>3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>5. Unit 4-4 (Editing Your Writing)</li> <li>6. Unit 4-5 (Putting It All Together)</li> <li>7. Unit 5-1 Opinion Paragraphs (Stimulating Ideas)</li> <li>8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>10. Unit 5-4 (Editing Your Writing)</li> <li>11. Unit 5-5 (Putting It All Together)</li> <li>12. Unit 6-1 Narrative Paragraph (Stimulating Ideas)</li> <li>13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Effective Academic Writing 1: The Paragraph.</i> Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432346-8		Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 N) Writing Strategies (再履修)	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>To help students write about themselves and their experiences</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>授業概要</li> <li>フリーライティングとアイディアの整理方法 (1)</li> <li>フリーライティングとアイディアの整理方法 (2)</li> <li>時を表す表現 (1)</li> <li>時を表す表現 (2)</li> <li>修飾語句 (1)</li> <li>修飾語句 (2)</li> <li>人物描写 (1)</li> <li>人物描写 (2)</li> <li>パラグラフとは (1)</li> <li>パラグラフとは (2)</li> <li>エッセイを書く (1)</li> <li>エッセイを書く (2)</li> <li>エッセイを書く (3)</li> <li>授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：大井恭子他 (2011) Writing Power (Revised Edition) 研究社 参考文献：なし</p>		<p>授業貢献度 (授業出席点ではない) (30%)、課題提出とその評価 (70%) を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 N) Writing Strategies (再履修)	担当者	靱江 静
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>To help students study how others organize ideas</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>授業概要</li> <li>パラグラフパターン 1：順序立て (1)</li> <li>パラグラフパターン 1：順序立て (2)</li> <li>パラグラフパターン 2：定義付け (1)</li> <li>パラグラフパターン 2：定義付け (2)</li> <li>パラグラフパターン 3：分類 (1)</li> <li>パラグラフパターン 3：分類 (2)</li> <li>パラグラフパターン 4：類似点と相違点 (1)</li> <li>パラグラフパターン 4：類似点と相違点 (2)</li> <li>パラグラフパターン 5：原因と結果 (1)</li> <li>パラグラフパターン 5：原因と結果 (2)</li> <li>パラグラフパターン 6：論証文 (1)</li> <li>パラグラフパターン 6：論証文 (2)</li> <li>パラグラフパターン 6：論証文 (3)</li> <li>授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：大井恭子他 (2011) Writing Power (Revised Edition) 研究社 参考文献：なし</p>		<p>授業貢献度 (授業出席点ではない) (30%)、課題提出とその評価 (70%) を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 O) Writing Strategies (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>To help students write about themselves and their experiences</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction of the course &amp; free writing</li> <li>Types of sentences &amp; free writing</li> <li>Parallel structures &amp; describing a picture</li> <li>Sentence problems &amp; describing a picture</li> <li>Noun clauses &amp; explaining (process &amp; procedure)</li> <li>Noun clauses &amp; explaining (comparison &amp; contrast)</li> <li>Adverb Clauses &amp; explaining (cause &amp; effect)</li> <li>Adverb Clauses &amp; explaining (definition &amp; classification)</li> <li>Adjective Clauses &amp; explaining own culture</li> <li>Adjective Clause &amp; explaining foreign culture</li> <li>Participial Phrases &amp; explaining cultural events</li> <li>Participial Phrases &amp; explaining social problems</li> <li>Punctuation &amp; collaborative writing</li> <li>Punctuation &amp; summarizing and paraphrasing</li> <li>Semester review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 O) Writing Strategies (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>To help students study how others organize ideas</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Sentence writing</li> <li>Writing introductory paragraphs</li> <li>Writing body paragraphs</li> <li>Writing conclusion</li> <li>Collaborative essay writing</li> <li>Argumentative essay (agree or disagree)</li> <li>Argumentative essay (advantage and disadvantage)</li> <li>Argumentative essay (to what extent?)</li> <li>Argumentative essay &amp; unity and coherence</li> <li>Descriptive essay (table)</li> <li>Descriptive essay (line graph)</li> <li>Writing product reviews</li> <li>Writing book/movie reviews</li> <li>Listening to writing &amp; writing to speaking</li> <li>Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 P) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>To help students write about themselves and their experiences</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction:</li> <li>Chap.1: Paragraph Format / noun</li> <li>“ / noun</li> <li>“ / article</li> <li>Chap. 2: Narrative Paragraphs / tense</li> <li>“ / “</li> <li>“ / compound sentence</li> <li>Chap. 3: Paragraph Structure / passives</li> <li>“ / “</li> <li>“ / “</li> <li>Chap.4: Descriptive Paragraphs / Paragraph Unity</li> <li>“ / “</li> <li>“ / “</li> <li>“ / “</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout</p>		<p>class participation (20%) assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 P) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>To help students study how others organize ideas</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction:</li> <li>Chap. 5 Logical Division of Ideas</li> <li>“ / transitional signals</li> <li>“ / “</li> <li>Chap. 6: Process Paragraphs/ Clauses</li> <li>“ / Complex sentences</li> <li>“ Subordinators</li> <li>Chap. 7: Comparison/ Contrast Paragraphs</li> <li>“ / Comparison Signals</li> <li>“ / Contrast Signals</li> <li>Chap. 8: Definition Paragraphs/ Appositives</li> <li>“ / Adjective Clauses</li> <li>“ / Relative pronouns etc.</li> <li>“</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout</p>		<p>class participation (20%) assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 Q) Writing Strategies (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>2. To help students write about themselves and their experiences</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction of the course &amp; free writing</li> <li>2. Types of sentences &amp; free writing</li> <li>3. Parallel structures &amp; describing a picture</li> <li>4. Sentence problems &amp; describing a picture</li> <li>5. Noun clauses &amp; explaining (process &amp; procedure)</li> <li>6. Noun clauses &amp; explaining (comparison &amp; contrast)</li> <li>7. Adverb Clauses &amp; explaining (cause &amp; effect)</li> <li>8. Adverb Clauses &amp; explaining (definition &amp; classification)</li> <li>9. Adjective Clauses &amp; explaining own culture</li> <li>10. Adjective Clause &amp; explaining foreign culture</li> <li>11. Participial Phrases &amp; explaining cultural events</li> <li>12. Participial Phrases &amp; explaining social problems</li> <li>13. Punctuation &amp; collaborative writing</li> <li>14. Punctuation &amp; summarizing and paraphrasing</li> <li>15. Semester review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 Q) Writing Strategies (再履修)	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>2. To help students study how others organize ideas</li> <li>3. To help students write clear and focused structures</li> <li>4. To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>5. To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<p>Course schedule</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Sentence writing</li> <li>2. Writing introductory paragraphs</li> <li>3. Writing body paragraphs</li> <li>4. Writing conclusion</li> <li>5. Collaborative essay writing</li> <li>6. Argumentative essay (agree or disagree)</li> <li>7. Argumentative essay (advantage and disadvantage)</li> <li>8. Argumentative essay (to what extent?)</li> <li>9. Argumentative essay &amp; unity and coherence</li> <li>10. Descriptive essay (table)</li> <li>11. Descriptive essay (line graph)</li> <li>12. Writing product reviews</li> <li>13. Writing book/movie reviews</li> <li>14. Listening to writing &amp; writing to speaking</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The instructor will provide the students with handouts for each week's lesson.		In-class writing submission (40%); Weekly assignment (40%); Term-end assignment (20%)	



13年度以降 12年度以前	Writing Skills I (1年 R) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is an introductory academic writing course. Students need to be taught how to write a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph</li> <li>To help students write about themselves and their experiences</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction:</li> <li>Chap.1: Paragraph Format / noun</li> <li>“ / noun</li> <li>“ / article</li> <li>Chap. 2: Narrative Paragraphs / tense</li> <li>“ / “</li> <li>“ / compound sentence</li> <li>Chap. 3: Paragraph Structure / passives</li> <li>“ / “</li> <li>“ / “</li> <li>Chap.4: Descriptive Paragraphs / Paragraph Unity</li> <li>“ / “</li> <li>“ / “</li> <li>“ / “</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout</p>		<p>class participation (20%) assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)</p>	

13年度以降 12年度以前	Writing Skills II (1年 R) Writing Strategies (再履修)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Students continue to practice writing a unified, coherent paragraph which is the basic unit of composition (paragraphs or short essays depending on programs) common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Fluency is the main focus. However, students in Program C should also practice writing for accuracy at the same time.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To teach the various patterns of paragraph /short essay organization</li> <li>To help students study how others organize ideas</li> <li>To help students write clear and focused structures</li> <li>To help students analyze their problems and revise their writing</li> <li>To help students be familiarized with computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Introduction:</li> <li>Chap. 5 Logical Division of Ideas</li> <li>“ / transitional signals</li> <li>“ / “</li> <li>Chap. 6: Process Paragraphs/ Clauses</li> <li>“ / Complex sentences</li> <li>“ Subordinators</li> <li>Chap. 7: Comparison/ Contrast Paragraphs</li> <li>“ / Comparison Signals</li> <li>“ / Contrast Signals</li> <li>Chap. 8: Definition Paragraphs/ Appositives</li> <li>“ / Adjective Clauses</li> <li>“ / Relative pronouns etc.</li> <li>“</li> <li>Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Longman Academic Writing Series 3</i> By Alice Oshima/ Ann Hogue, (Pearson Longman), handout</p>		<p>class participation (20%) assignments (40%) Final Report (20%) / Final Test (20%)</p>	

13年度以降	Writing Skills III (2年 A)	担当者	R. ウィルコックス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>This course takes an integrative approach to developing student writing skills which includes reading and discussion with the emphasis on writing different types of essays and academic papers.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - Orientation: The Writing Process</li> <li>2 - Supporting a Thesis/ Citing Sources; Writing for Clarity</li> <li>3/4 - Narrative &amp; Historical Essay</li> <li>5/6 - Descriptive &amp; Informative Essay</li> <li>7 - Midterm Assessments</li> <li>8/9/10 - Politics &amp; Culture Group Research Project</li> <li>11 - Document Design; Academic Styles &amp; Research Issues</li> <li>12 - Student Preparations for Final Papers</li> <li>13/14 - Student Readings</li> <li>15 - Course Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook; teacher handouts and online references		In-class performance 20%; tests 20%; class-work assignments 20%; final paper 40%	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 A)	担当者	R. ウィルコックス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>This course takes an integrative approach to developing student writing skills which includes reading and discussion with the emphasis on writing different types of essays and academic papers.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 - Orientation: The Writing Process</li> <li>2 - Choosing Good Topics/Creating Sound Arguments; Writing for Clarity</li> <li>3/4 - Book &amp; Movie Review Essay</li> <li>5/6 - The Polemical Essay</li> <li>7 - Midterm Assessments</li> <li>8/9/10 - Environment &amp; Health Trends Group Research Project</li> <li>11 - Document Design; Avoiding Plagiarism &amp; Research Issues</li> <li>12 - Student Preparations for Final Papers</li> <li>13/14 - Student Readings</li> <li>15 - Course Review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook; teacher handouts and online references		In-class performance 20%; tests 20%; class-work assignments 20%; final paper 40%	

13年度以降	Writing Skills III (2年 B)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Essay 1: planning  Week 2: Essay 1: research &amp; citations  Week 3: Essay 1: introduction  Week 4: Essay 1: body  Week 5: Essay 1: conclusion  Week 6: Essay 1: final format &amp; submission  Week 7: Essay 2: planning  Week 8: Essay 2: research &amp; citations  Week 9: Essay 2: essay types  Week 10: Essay 2: essay types  Week 11: Essay 2: introduction  Week 12: Essay 2: 1<sup>st</sup> body paragraph  Week 13: Essay 2: 2<sup>nd</sup> body paragraph  Week 14: Essay 2: conclusion  Week 15: Essay 2: final format &amp; submission; Course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: <i>Read to Write 3</i> (Pearson Longman)  Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary, and PC laptop or tablet (e.x. iPad), for research &amp; essay revisions, to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA  Participation &amp; in-class performance 30%; Homework 10%;  Essay 1 conferencing 10%; Essay 1 20%; Essay 2 conferencing 10%; Essay 2 20%</p>	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 B)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Writing a summary  Week 2: Writing a summary  Week 3: Writing a summary  Week 4: Writing a summary  Week 5: Essay: planning &amp; essay types  Week 6: Essay: research &amp; summaries  Week 7: Essay: research &amp; summaries  Week 8: Essay: introduction  Week 9: Essay: 1<sup>st</sup> body paragraph  Week 10: Essay: 2<sup>nd</sup> body paragraph  Week 11: Essay: 3<sup>rd</sup> body paragraph  Week 12: Essay: conclusion  Week 13: Essay: revising, peer reviewing &amp; conferencing  Week 14: Essay: final editing, peer reviewing &amp; conferencing  Week 15: Essay: final format &amp; submission; Course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: <i>Read to Write 3</i> (Pearson Longman)  Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary, and PC laptop or tablet (e.x. iPad), for research &amp; essay revisions, to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA  Participation &amp; in-class performance 30%; Homework 10%;  Summaries 10%; Essay conferencing 15%; Essay: 35%</p>	

13年度以降	Writing Skills III (2年 C)	担当者	N. クロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>1-2 Chapter 1 – Review of sentence writing  3-5 Chapter 3 – Supporting details  6-8 Chapter 4 – Writing an essay  9-11 Chapter 5 – Process essays  12-13 Chapter 11 – Sentence Problems  14-15 Chapter 12 – Noun clauses</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English</i> (Forth Edition) Pearson Longman		Participation 20%, Assignments 50%, Vocabulary study 10%, Class work 20%	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 C)	担当者	N. クロス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>1-3 Chapter 6 – Cause and Effect Essays  4-5 Chapter 13- Adverb clauses  6-8 Chapter 7 - Compare/Contrast essays  9-10 Chapter 14 – Adjective clauses  11-13 Chapter 8 – Paraphrase/summary  14-15 Chapter 15 – Participial phrases</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Alice Oshima & Ann Hogue, <i>Writing Academic English</i> (Forth Edition) Pearson Longman		Participation 20%, Assignments 50%, Vocabulary study 10%, Class work 20%	

13年度以降	Writing Skills III (2年 D)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p> <p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion  Week 2: Summarizing  Week 3: Summary Workshop  Week 4: Responding  Week 5: Responding  Week 6: Response Workshop  Week 7: Textual Analysis  Week 8: Textual Analysis  Week 9: Textual Analysis Workshop  Week 10: Comparison &amp; Contrast  Week 11: Comparison &amp; Contrast  Week 12: Comparison &amp; Contrast  Week 13: Comparison &amp; Contrast Workshop  Week 14: Final Workshop  Week 15: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.		Grades will be based on participation and written assignments.	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 D)	担当者	M. フッド
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis.</p> <p>One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers.</p> <p>ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.</p> <p>Week 1: Course Introduction &amp; Discussion  Week 2: Introduction to Cause &amp; Effect  Week 3: Cause &amp; Effect  Week 4: Workshop I  Week 5: Workshop II  Week 6: Introduction to Problem Solving  Week 7: Doing Library Research  Week 8: Analyzing Sources  Week 9: Documenting Sources  Week 10: Using Statistics  Week 11: Developing Criteria for Evaluation  Week 12: Workshop I  Week 13: Workshop II  Week 14: Course Review  Week 15: Presentations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week		Grades will be based on participation and written assignments.	

13年度以降	Writing Skills III (2年 E)	担当者	A. ジェネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Introductions. Course Orientation</li> <li>2: Writing a paragraph: topic sentences</li> <li>3: From paragraph to essay: Essay planning, thesis statements.</li> <li>4: Body paragraphs: developing ideas.</li> <li>5: Introduction &amp; conclusion paragraph.</li> <li>6: Expository essay topic: reading &amp; discussion</li> <li>7: Timed essay 1: Expository essay</li> <li>8: Editing class</li> <li>9: Sources &amp; citation</li> <li>10: Argumentative essays: counter arguments</li> <li>11: Argumentative essay topic: reading &amp; discussion</li> <li>12: Argumentative essay topic: reading &amp; discussion</li> <li>13: Timed essay 2: Argumentative essay</li> <li>14: Editing class</li> <li>15: Course review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Academic Writing skills II Cambridge University Press ISBN: 1107621097</p>		<p>2 timed essays, written in class: 20% 2 Final essay drafts: 40% Class preparation: 20% Participation: 20%</p>	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 E)	担当者	A. ジェネス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Course orientation- 1<sup>st</sup> semester review</li> <li>2: Argumentative essays: Thesis statements, topic sentences.</li> <li>3: Developing body paragraphs</li> <li>4: Counter arguments, refutation, argumentative essay organization.</li> <li>5: Sources &amp; Citation</li> <li>6: Argumentative essay topic: reading &amp; discussion</li> <li>7: Timed essay 1: Argumentative essay</li> <li>8: Editing class</li> <li>9: Quoting, Paraphrasing and summarizing</li> <li>10: Compare &amp; Contrast essays: structure</li> <li>11: Compare &amp; Contrast essays: Language</li> <li>12: Compare &amp; Contrast essay topic: reading &amp; discussion</li> <li>13: Timed essay 2: Compare &amp; Contrast essay</li> <li>14: Editing class</li> <li>15: Final class &amp; Course review</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Academic Writing skills II Cambridge University Press ISBN: 1107621097</p>		<p>2 timed essays, written in class: 20% 2 Final essay drafts: 40% Class preparation: 20% Participation: 20%</p>	

13年度以降	Writing Skills III (2年 F)	担当者	S. ペイン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Getting ready to write</li> <li>3. Getting ready to write</li> <li>4. Paragraphs</li> <li>5. Paragraphs</li> <li>6. Revising and editing</li> <li>7. Writing essays</li> <li>8. Writing essays</li> <li>9. Process essays</li> <li>10. Process essays</li> <li>11. Process essays</li> <li>12. Division and classification essays</li> <li>13. Division and classification essays</li> <li>14. Division and classification essays</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson		in-class performance 30% homework assignments 20% writing projects 50%	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 F)	担当者	S. ペイン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review</li> <li>2. Cause and effect essays</li> <li>3. Cause and effect essays</li> <li>4. Cause and effect essays</li> <li>5. Comparison and contrast essays</li> <li>6. Comparison and contrast essays</li> <li>7. Comparison and contrast essays</li> <li>8. Problem-solution essays</li> <li>9. Problem-solution essays</li> <li>10. Problem-solution essays</li> <li>11. Writing summaries</li> <li>12. Writing summaries</li> <li>13. Expression opinion</li> <li>14. Expressing opinion</li> <li>15. Final evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ready to Write: From Paragraph to Essay Third Edition by Karen Blanchard and Christine Root. 2010 Pearson		in-class performance 30% quizzes and journals 10% homework assignments 20% writing projects 40%	

13年度以降	Writing Skills III (2年 G)	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Introductions</li> <li>2.Introduction to essays and yourself</li> <li>3.Introduction to the Narrative essay - example</li> <li>4.Narrative essays 2</li> <li>5.Catch-up - 50 word stories</li> <li>6.First draft peer editing</li> <li>7.Second draft peer editing</li> <li>8.Free writing activities</li> <li>9.Comparison essay introduction</li> <li>10.Comparison essay outline – outline peer editing</li> <li>11.First draft peer editing</li> <li>12.Second draft peer editing</li> <li>13.Final draft review</li> <li>14.Course review</li> <li>15.Exam period</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Students will be assessed on ongoing participation in class and written work.	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 G)	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Welcome back</li> <li>2.Introducing the argument essay</li> <li>3.Argument essays 2 - outline</li> <li>4.First draft peer editing</li> <li>5.Second draft peer editing</li> <li>6.Halloween: Frightening writing</li> <li>7.Alternate writing activities</li> <li>8.Course review</li> <li>9.Researching for writing</li> <li>10.Outline editing</li> <li>11.First draft peer editing</li> <li>12.Second draft peer editing</li> <li>13.Christmas</li> <li>14.Course review</li> <li>15.Exam period</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Students will be assessed on ongoing participation in class and written work.	



13年度以降	Writing Skills III (2年 H)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students use a variety of sources</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Course introduction</li> <li>Brainstorming and topic selection</li> <li>The thesis statement</li> <li>Synthesizing Information</li> <li>Characteristics of a good paragraph</li> <li>Detailed outline</li> <li>Critical Thinking</li> <li>Personal opinion</li> <li>Writing a second draft</li> <li>Peer evaluation and feedback</li> <li>Reading and Discussion</li> <li>Cohesive paragraphs</li> <li>Introductions and Conclusions</li> <li>Narrative essay</li> <li>Test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced		Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 H)	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>To help students plan essays</li> <li>To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>To help students revise and edit their essays</li> <li>To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>Summer Vacation Essay</li> <li>Brainstorming exercises</li> <li>Good Supporting sentences</li> <li>Word Choice</li> <li>Historical Event Essay</li> <li>Describing a World Heritage Site Essay</li> <li>Japanese Culture Essay</li> <li>Peer evaluation and feedback</li> <li>Explaining the Process of Learning</li> <li>Proofreading Exercises</li> <li>Hot Button Topic</li> <li>Comparison and contrast essay</li> <li>Classification essay</li> <li>Persuasion</li> <li>Test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced		Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).	

13年度以降	Writing Skills III (2年 I)	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements.  Week2: Chapter #1–Write Elements (SPA)  Week3: Chapter #1– Writing Process steps  Week4: Chapter #2–Analyzing writing  Week5: Chapter #2–Evaluating writing  Week6: Chapter#2–Writing organization  Week7: Quiz 1 - 15%  Week8: Library computer literacy task 1.  Week9: Chapter #2– Cohesion &amp; Unity  Week10: Chapter # 3– Cohesion &amp; Unity  Week11: Chapter # 3– Good writing  Week12: Chapter # 3– Revising &amp; Editing  Week13: Chapter # 3– Common problems  Week14: Library computer literacy task 2.  Week15: Quiz 2 - 15%</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Blanchard & Root, Ready to Write 3. Pearson & Longman 3 <sup>rd</sup> Edition.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Computer written report 20%</li> <li>2. Weekly class activities 50%</li> <li>3. Quiz 1 – week 7 15%</li> <li>4. Quiz 2 – week 15 15%</li> </ol>	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 I)	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week1: Library computer literacy task 1.  Week2: Chapter #4– Essay planning  Week3: Chapter # 4– Essay techniques  Week4: Chapter#-4– Essay patterns  Week5: Essay organization &amp; outline  Week6: Good essays  Week7: Quiz 1 - 15%  Week8: Library computer literacy task 2.  Week9: Essay patterns types # 1  Week10: Essay patterns types # 2  Week11: Essay patterns types # 3  Week12: Essay patterns types # 4  Week13: Essay writing, review &amp; peer edit  Week14: Library computer literacy task 3.  Week15: Quiz 2 - 15%</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Blanchard & Root, Ready to Write 3. Pearson & Longman 3 <sup>rd</sup> Edition.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Computer written essay 20%</li> <li>2. Weekly class activities 50%</li> <li>3. Quiz 1 – week 7 15%</li> <li>4. Quiz 2 – week 15 15%</li> </ol>	

13年度以降	Writing Skills III (2年 J)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Lesson 1. Introduction to the course and textbook</p> <p>Lesson 2. Introductory in-class writing exercise to determine student ability</p> <p>Lesson 3. Getting ready to write: the elements of good writing</p> <p>Lesson 4. Recognizing the three steps of the writing process</p> <p>Lesson 5. Writing paragraphs: the parts of a paragraph</p> <p>Lesson 6. Using transition signals</p> <p>Lesson 7. Revising and editing</p> <p>Lesson 8. Writing a travel article</p> <p>Lesson 9. Writing essays: recognizing the introduction, body, and conclusion of a five-paragraph essay</p> <p>Lesson 10. Identifying and analyzing thesis statements and supporting paragraphs</p> <p>Lesson 11. Writing a five-paragraph essay</p> <p>Lesson 12. Process Essays</p> <p>Lesson 13. Using the writing process to write a "how-to" essay</p> <p>Lesson 14. Review</p> <p>Lesson 15. Final Written Project</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (Karen Blanchard and Christine Root: Pearson). The first half of this book will be studied in Writing III. The second half will be studied in Writing Skills IV.		Grades will be based on classroom participation: 40% Writing assignments: 30% and Final Essay: 30%	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 J)	担当者	P. マッケビリー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Lesson 1. Introduction to the course and textbook</p> <p>Lesson 2. Introductory in-class writing exercise to determine student ability</p> <p>Lesson 3. Getting ready to write: Tips on what makes good writing</p> <p>Lesson 4. Types of writing: determining subject, purpose, and audience</p> <p>Lesson 5. Writing paragraphs: the parts of a paragraph</p> <p>Lesson 6. Revising and editing</p> <p>Lesson 7. Writing essays: the parts of an essay</p> <p>Lesson 8. In-class writing practice with teacher guidance</p> <p>Lesson 9. Process Essays</p> <p>Lesson 10. Division and Classification Essays</p> <p>Lesson 11. Cause and Effect Essays</p> <p>Lesson 12. Comparison and Contrast Essays</p> <p>Lesson 13. Problem Solution Essays</p> <p>Lesson 14. Expressing Your Opinions</p> <p>Lesson 15. Final Written Project</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (Karen Blanchard and Christine Root: Pearson). The first half of this book has been studied in Writing III. The second half will be studied in Writing Skills IV.		Grades will be based on classroom participation: 40% Writing assignments: 30% and Final Essay: 30%	

13年度以降	Writing Skills III (2年 K)	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1 Introduction to the course</p> <p>Week 2 Getting ready to write</p> <p>Week 3 Getting ready to write</p> <p>Week 4 Writing paragraphs</p> <p>Week 5 Writing paragraphs</p> <p>Week 6 Revising and editing</p> <p>Week 7 Revising and editing</p> <p>Week 8 Writing essays</p> <p>Week 9 Writing essays</p> <p>Week 10 Process essays</p> <p>Week 11 Process essays</p> <p>Week 12 Division and classification essays</p> <p>Week 13 Division and classification essays</p> <p>Week 14 Review</p> <p>Week 15 Feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ready to Write 3 by Karen Blanchard and Christine Root, published by Pearson Longman. ISBN: 978-0-13-136334-2		Grades will be based on in-class participation (30%), homework writing activities (35%) and final typed essay assignments (35%).	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 K)	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1 Consolidation</p> <p>Week 2 Outlining review</p> <p>Week 3 Cause and effect essays</p> <p>Week 4 Cause and effect essays</p> <p>Week 5 Comparison and contrast essays</p> <p>Week 6 Comparison and contrast essays</p> <p>Week 7 Problem-solution essays</p> <p>Week 8 Problem-solution essays</p> <p>Week 9 Writing summaries</p> <p>Week 10 Writing summaries</p> <p>Week 11 Expressing your opinions</p> <p>Week 12 Expressing your opinions</p> <p>Week 13 Timed writing</p> <p>Week 14 Review</p> <p>Week 15 Feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Ready to Write 3 by Karen Blanchard and Christine Root, published by Pearson Longman. ISBN: 978-0-13-136334-2		Grades will be based on in-class participation (30%), homework writing activities (35%) and final typed essay assignment (35%).	

13年度以降	Writing Skills III (2年 L)	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: Outlining</p> <p>Week 3: Basic Essay Structure: The Introduction</p> <p>Week 4: Basic Essay Structure: The Thesis Statement</p> <p>Week 5: Basic Essay Structure: The Body and The Conclusion</p> <p>Week 6: Review of Basic Essay Structure</p> <p>Week 7: Essay Writing: Problem/Solution</p> <p>Week 8: Essay Writing: Problem/Solution</p> <p>Week 9: Essay Writing: Comparison/Contrast</p> <p>Week 10: Essay Writing: Comparison/Contrast</p> <p>Week 11: Essay Writing: Classification</p> <p>Week 12: Essay Writing: Classification</p> <p>Week 13: Feedback and Rewrites</p> <p>Week 14: Review for Semester Test</p> <p>Week 15: Semester Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no textbook for this course. All materials will be provided by the instructor.		Classwork and regular assignments (30%), essays (3 × 15% = 45%), final test (25%)	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 L)	担当者	D. H. ケネディ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Introduction</p> <p>Week 2: Discussion of written responses 1</p> <p>Week 3: Discussion of written responses 2</p> <p>Week 4: Discussion of written responses 3</p> <p>Week 5: Introduction to primary research project</p> <p>Week 6: Project planning and preparation</p> <p>Week 7: Project planning and preparation</p> <p>Week 8: Project planning and preparation</p> <p>Week 9: Presentation of primary research findings</p> <p>Week 10: Introduction to secondary research paper</p> <p>Week 11: Outlining and structure</p> <p>Week 12: Introduction and thesis statement</p> <p>Week 13: Citations and bibliographies</p> <p>Week 14: Consultations with students</p> <p>Week 15: Final paper due</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
There is no textbook for this course. All materials will be provided by the instructor.		Classwork and regular assignments (40%), primary research project (30%), secondary research project (30%)	

13年度以降	Writing Skills III (2年 M)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.  Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics  Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics.  Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics.  Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics.  Week 11 - 14, Other important points in essay writing. Discussion topics.  Week 15 - Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary tests: 20%,  Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%</p>	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 M)	担当者	R. ジョーンズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Below is a general outline of the course.</p> <p>Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics.  Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics.  Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics.  Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics.  Weeks 11 -14, Editing your writing. Discussion topics.  Week 15 Final assessments.</p> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.</p>		<p>Your grade comes from:  Class work, homework, vocabulary tests: 20%,  Essay: 20%, Journal: 20%, Participation and effort: 20%, Final assessment: 20%</p>	

13年度以降	Writing Skills III (2年 N)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>We will focus on what constitutes a "good," essay. We will begin with topic sentences and gradually expand our essays until the students are able to produce a well written, well structured essay on almost any topic.</p> <p>1-10 Essay writing on a variety of topics 11-15 Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
The instructor will provide all materials necessary for this course.		The students will be evaluated on their essays, on participation and on a final presentation.	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 N)	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>In the second part of this course, we will continue on what we have done in the first semester with an emphasis on news articles and more challenging content.</p> <p>Same as above</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Same as above		Same as above	

13年度以降	Writing Skills III (2年 O)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Silent Peer Interview writing</li> <li>2: Begin assignment 1, discuss topic sentences</li> <li>3: Continue assignment 1, describe a Japanese tradition</li> <li>4: Revise and edit draft copy of assignment 1</li> <li>5: Begin assignment 2, discuss transition words and concluding sentences</li> <li>6: Revise and edit draft copy of assignment 2</li> <li>7: Begin assignment 3, discuss complete/incomplete sentences</li> <li>8: Continue assignment 3, solutions to problems</li> <li>9: Revise and edit draft copy of assignment 3</li> <li>10: Begin assignment 4, discuss transition words</li> <li>11: Continue assignment 4, similarities and differences</li> <li>12: Revise and edit draft copy of assignment 4</li> <li>13: Begin assignment 5, discuss chronological order</li> <li>14: Continue assignment 5, story writing</li> <li>15: Revise and edit draft copy of assignment 5</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Handouts will be provided.		Writing assignments: 75% (5 assignments worth 15% each), Participation: 25%	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 O)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Course introduction</li> <li>2: Model Academic Papers</li> <li>3: Selecting and Narrowing a Topic</li> <li>4: Resources: Searching and Recording</li> <li>5: Taking Notes</li> <li>6: In-text Citations</li> <li>7: Planning and Writing an Outline</li> <li>8: Revising and editing the outline and reference list</li> <li>9: Main Ideas and Supporting Ideas</li> <li>10: Introductions and Conclusions</li> <li>11: Plagiarism</li> <li>12: Revising and editing the draft copy</li> <li>13: Writing the final copy</li> <li>14: Revising and editing the final copy</li> <li>15: Semester review and feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robyn Najjar & Lesley Riley, <i>Developing Academic Writing Skills</i> , MacMillan Language House		Writing assignments: 75%, Participation: 25%	



13年度以降	Writing Skills III (2年 P)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Unit 1-1,2 Paragraph to Short Essay (Paragraph structure, Unity and Coherence)</li> <li>3. Unit 1-3,4,5 (From Paragraph to Short Essay)</li> <li>4. Unit 2-1 Descriptive Essays (Stimulating Ideas)</li> <li>5. Unit 2-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>6. Unit 2-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>7. Unit 2-4 (Editing Your Writing)</li> <li>8. Unit 2-5 (Putting It All Together)</li> <li>9. Unit 3-1 Narrative Essays(Stimulating Ideas)</li> <li>10. Unit 3-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>11. Unit 3-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>12. Unit 3-4 (Editing Your Writing)</li> <li>13. Unit 3-5 (Putting It All Together)</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay.</i> Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432347-5</p>		<p>Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)</p>	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 P)	担当者	山中 章子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, review of the spring semester</li> <li>2. Unit 4-1 Comparison-Contrast (Stimulating Ideas)</li> <li>3. Unit 4-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>4. Unit 4-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>5. Unit 4-4 (Editing Your Writing)</li> <li>6. Unit 4-5 (Putting It All Together)</li> <li>7. Unit 5-1 Opinion Essays (Stimulating Ideas)</li> <li>8. Unit 5-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>9. Unit 5-3 (Developing Your Ideas)</li> <li>10. Unit 5-4 (Editing Your Writing)</li> <li>11. Unit 5-5 (Putting It All Together)</li> <li>12. Unit 6-1 Cause-and-Effect (Stimulating Ideas)</li> <li>13. Unit 6-2 (Brainstorming and Outlining)</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. Summary of the course</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Effective Academic Writing 2: The Short Essay.</i> Oxford UP. ISBN: 978-0-19-432347-5</p>		<p>Writing assignments (20%), class participation (10%), presentation (20%), final test (50%)</p>	

13年度以降	Writing Skills III (2年 Q)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Silent Peer Interview writing</li> <li>2: Begin assignment 1, discuss topic sentences</li> <li>3: Continue assignment 1, describe a Japanese tradition</li> <li>4: Revise and edit draft copy of assignment 1</li> <li>5: Begin assignment 2, discuss transition words and concluding sentences</li> <li>6: Revise and edit draft copy of assignment 2</li> <li>7: Begin assignment 3, discuss complete/incomplete sentences</li> <li>8: Continue assignment 3, solutions to problems</li> <li>9: Revise and edit draft copy of assignment 3</li> <li>10: Begin assignment 4, discuss transition words</li> <li>11: Continue assignment 4, similarities and differences</li> <li>12: Revise and edit draft copy of assignment 4</li> <li>13: Begin assignment 5, discuss chronological order</li> <li>14: Continue assignment 5, story writing</li> <li>15: Revise and edit draft copy of assignment 5</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Handouts will be provided.		Writing assignments: 75% (5 assignments worth 15% each), Participation: 25%	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 Q)	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1: Course introduction</li> <li>2: Model Academic Papers</li> <li>3: Selecting and Narrowing a Topic</li> <li>4: Resources: Searching and Recording</li> <li>5: Taking Notes</li> <li>6: In-text Citations</li> <li>7: Planning and Writing an Outline</li> <li>8: Revising and editing the outline and reference list</li> <li>9: Main Ideas and Supporting Ideas</li> <li>10: Introductions and Conclusions</li> <li>11: Plagiarism</li> <li>12: Revising and editing the draft copy</li> <li>13: Writing the final copy</li> <li>14: Revising and editing the final copy</li> <li>15: Semester review and feedback</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Robyn Najjar & Lesley Riley, <i>Developing Academic Writing Skills</i> , MacMillan Language House		Writing assignments: 75%, Participation: 25%	

13年度以降	Writing Skills III (2年 R)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills III course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To provide an overview of what constitutes a 'good' essay</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students revise and edit their essays</li> <li>5. To help students use a variety of sources</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Essay 1: planning</p> <p>Week 2: Essay 1: research &amp; citations</p> <p>Week 3: Essay 1: introduction</p> <p>Week 4: Essay 1: body</p> <p>Week 5: Essay 1: conclusion</p> <p>Week 6: Essay 1: final format &amp; submission</p> <p>Week 7: Essay 2: planning</p> <p>Week 8: Essay 2: research &amp; citations</p> <p>Week 9: Essay 2: essay types</p> <p>Week 10: Essay 2: essay types</p> <p>Week 11: Essay 2: introduction</p> <p>Week 12: Essay 2: 1<sup>st</sup> body paragraph</p> <p>Week 13: Essay 2: 2<sup>nd</sup> body paragraph</p> <p>Week 14: Essay 2: conclusion</p> <p>Week 15: Essay 2: final format &amp; submission; Course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: <i>Ready to Write 3</i> (Pearson Longman)</p> <p>Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary, and PC laptop or tablet (e.x. iPad), for research &amp; essay revisions, to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA</p> <p>Participation &amp; in-class performance 30%; Homework 10%; Essay 1 conferencing 10%; Essay 1 20%; Essay 2 conferencing 10%; Essay 2 20%</p>	

13年度以降	Writing Skills IV (2年 R)	担当者	D. M. ヴァンヴィーレン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The goal in the Writing Skills IV course is to develop students' writing and critical thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing on familiar topics to writing about more complex and academic ones. Students should be encouraged to use and integrate authentic text to reflect, react, write, and revise.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To help students understand a typical structure of 'good' essays</li> <li>2. To help students understand various patterns of essay organization</li> <li>3. To help students plan essays</li> <li>4. To help students use a variety of references and utilize Internet sources</li> <li>5. To help students revise and edit their essays</li> <li>6. To help students develop computer literacy skills</li> </ol>		<p>Week 1: Orientation; Writing a summary</p> <p>Week 2: Writing a summary</p> <p>Week 3: Writing a summary</p> <p>Week 4: Writing a summary</p> <p>Week 5: Essay: planning &amp; essay types</p> <p>Week 6: Essay: research &amp; summaries</p> <p>Week 7: Essay: research &amp; summaries</p> <p>Week 8: Essay: introduction</p> <p>Week 9: Essay: 1<sup>st</sup> body paragraph</p> <p>Week 10: Essay: 2<sup>nd</sup> body paragraph</p> <p>Week 11: Essay: 3<sup>rd</sup> body paragraph</p> <p>Week 12: Essay: conclusion</p> <p>Week 13: Essay: revising, peer reviewing &amp; conferencing</p> <p>Week 14: Essay: final editing, peer reviewing &amp; conferencing</p> <p>Week 15: Essay: final format &amp; submission; Course survey</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Textbook: <i>Ready to Write 3</i> (Pearson Longman)</p> <p>Materials: Bring a pen/pencil, notebook, dictionary, and PC laptop or tablet (e.x. iPad), for research &amp; essay revisions, to every class.</p>		<p>0-59% F; 60-69% C; 70-79% B; 80-89% A; 90-100% AA</p> <p>Participation &amp; in-class performance 30%; Homework 10%; Summaries 10%; Essay conferencing 15%; Essay: 35%</p>	

09年度以降	E-learning I	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年Group A（1組，2組）の学生を対象とする。 Reading Strategies, Writing Skills などの対面授業で習得したスキルを「自律学習」によって定着，向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目の全体説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示する。指定教室に「再履修者も含め」全員集合すること。</li> <li>・2週目以降は毎週語彙に関するテストを行う。</li> <li>・3週目以降は隔週でオンラインライティングサービス（Criterion）を利用してライティング課題に取り組み，自分のエッセイをレビューする活動に取り組む。</li> <li>・学習内容は、語彙（ALC）とライティング（Criterion）。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会</li> <li>2. Criterion ガイダンス Essay Topic (トライアル)</li> <li>3. テスト(1): ALC &amp; Essay Topic (1)</li> <li>4. テスト(2): ALC</li> <li>5. テスト(3): ALC &amp; Essay Topic (2)</li> <li>6. テスト(4): ALC</li> <li>7. テスト(5): ALC &amp; Essay Topic (3)</li> <li>8. テスト(6): ACL</li> <li>9. テスト(7): ALC &amp; Essay Topic (4)</li> <li>10. テスト(8): ALC</li> <li>11. テスト(9): ALC &amp; Essay Topic (5)</li> <li>12. テスト(10): ALC</li> <li>13. テスト(11): ALC &amp; Essay topic (6)</li> <li>14. テスト(12): ALC</li> <li>15. テスト(13): ALC &amp; まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion		13回の授業内テスト(50%)、6回の課題エッセイ (30%)、レビュー活動等 (20%)	

09年度以降	E-learning II	担当者	阿部 真
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 E-learning Iと同じ。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について説明をするので「再履修者も含め」全員集合すること。</li> <li>・2週目以降は毎週語彙に関するテストを行う。</li> <li>・3週目以降は隔週でオンラインライティングサービス（Criterion）を利用してライティング課題に取り組み，クラスメートのエッセイをレビューする活動に取り組む。</li> <li>・第9週に1年生はTOEFL団体受験をする。この日に限り、終了時間は午後7:15。</li> <li>・学習内容は、語彙（ALC）とライティング（Criterion）。</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会</li> <li>2. テスト(1): ALC &amp; Essay Topic (1)</li> <li>3. テスト(2): ALC</li> <li>4. テスト(3): ALC &amp; Essay Topic (2)</li> <li>5. テスト(4): ALC</li> <li>6. テスト(5): ALC &amp; Essay Topic (3)</li> <li>7. テスト(6): ACL</li> <li>8. TOEFL ITP Test</li> <li>9. テスト(7): ALC &amp; Essay Topic (4)</li> <li>10. テスト(8): ALC</li> <li>11. テスト(9): ALC &amp; Essay Topic (5)</li> <li>12. テスト(10): ALC</li> <li>13. テスト(11): ALC &amp; Essay topic (6)</li> <li>14. テスト(12): ALC</li> <li>15. テスト(13): ALC &amp; まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材： ALC NetAcademy, Criterion		13回の授業内テスト(50%)、6回の課題エッセイ (30%) レビュー活動等 (20%)	

09年度以降	E-learning I	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 英語学科1年B GroupとC Groupの学生を対象とする。 Reading Strategies, Writing Skills などの対面授業で教員から習うスキルを「自律・反転学習」によって定着, 向上させることを目的とする。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に「再履修者も含め」全員集合のこと。</li> <li>・2週目以降はほぼ隔週にALCの語彙(PW)、リーディング、リスニングに関するテストを行う。</li> <li>・テストのない週はオンラインライティングサービス (Criterion) を利用したライティング課題 (Essay) に取り組み、授業ではリスニングなどに関する活動 (Workshop) を行う。</li> <li>・8, 14週目には提出したEssayに関してお互いに批評しあうPeer Review活動を行い、最終Essay (5)をレポートとして提出してもらう。</li> <li>・学習内容は、語彙 (ALC)、リーディング (ALC) リスニング (ALCその他)、及びライティング (Criterion)</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会</li> <li>2. 補足説明会 &amp; 練習用 Essay Topic (0)</li> <li>3. テスト(1) : ALC PW <u>Level 5</u> 01-10, Rd/Ls 01-05</li> <li>4. Essay Topic (1) &amp; Listening Workshop (1)</li> <li>5. テスト(2) : ALC PW 11-20, Rd/Ls 06-10</li> <li>6. Essay Topic (2) &amp; Listening Workshop (2)</li> <li>7. テスト(3) : ALC PW 21-30, Rd/Ls 11-15</li> <li>8. Essay Topics (1)&amp;(2)に関する Peer Review &amp; Listening Workshop (3)</li> <li>9. テスト(4) : ALC PW 31-40, Rd/Ls 16-20</li> <li>10. Essay Topic (3) &amp; Writing Workshop</li> <li>11. テスト(5) : ALC PW 41-50, Rd/Ls 21-25</li> <li>12. テスト(6) : リスニング応用 &amp; Essay Topic (4)</li> <li>13. テスト(7) : ALC 単語復習と応用</li> <li>14. Essay Topics (3)&amp;(4)に関する Peer Review 活動</li> <li>15. テスト(8) : ALC Rd/Ls 26-40</li> </ol> <p>定期試験期間に Essay (5)提出</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材 : ALC NetAcademy, Criterion, PBSのニュースなど		テスト(1)-(5), (7), (8)を60%、テスト(6)とListening Workshopを15%、5つのEssayとPeer Review活動部分を25%の割合で総合的に評価する。	

09年度以降	E-learning II	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 E-learning Iと同じ。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について説明をするので「再履修者も含め」全員集合のこと。</li> <li>・2週目以降はほぼ隔週に語彙、リーディング、リスニングに関するテストを行う。</li> <li>・テストのない週はオンラインライティングサービス (Criterion) を利用したライティング課題に取り組み、授業ではライティングやTOEFLに関する活動 (Workshop) を行う。</li> <li>・学期半ば (8週を予定) に1年生はTOEFL団体受験をする。この日に限り、試験終了は午後7:15。</li> <li>・7, 14週目には提出したEssayに関してお互いに批評しあうPeer Review活動を行い、定期試験として5つのトピックの1つについてエッセイをかいてもらう。</li> <li>・学習内容は、語彙 (ALC)、リーディング・リスニング (ALC)、ライティング (Criterion)</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全体説明会 &amp; Essay Topic (1)</li> <li>2. テスト(1) : ALC PW <u>Level 6</u> 01-10, Rd/Ls 41-45</li> <li>3. Essay Topic (2) &amp; TOEFL Workshop (1)</li> <li>4. テスト(2) : ALC PW 11-20, Rd/Ls 46-50</li> <li>5. Essay Topic (3) &amp; TOEFL Workshop (2)</li> <li>6. テスト(3) : ALC PW 21-30, Rd/Ls 51-55</li> <li>7. Peer Review: Essay Topics (1)-(3)</li> <li>8. TOEFL ITP Test</li> <li>9. テスト(4) : ALC PW 31-40, Rd/Ls 56-60</li> <li>10. Essay Topic (4) &amp; Writing Workshop</li> <li>11. テスト(5) : ALC PW 41-50, Rd/Ls 61-65</li> <li>12. テスト(6) : ALC PW 復習と応用</li> <li>13. Essay Topic (5) &amp; テスト(7) : ALC Rd/Ls 66-80</li> <li>14. Peer Review: Essay Topics (4)&amp;(5)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>定期試験期間 エッセイテスト</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
オンライン教材 : ALC NetAcademy, Criterion		7回のテスト(70%)、5つの Essay, Peer Review 活動、定期試験期間のエッセイテスト (30%)に基づいて総合的に A~F の評価をする。AA 評価に関しては TOEFL ITP Test の結果により A を AA とする。	

09年度以降	英語専門講読 I (Social Inequality & Education)	担当者	E. 本橋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will examine the relationships between education and society by looking at how educational institutions foster and maintain equalities and inequalities in society. There is a comparative component; the main course content will look at American schooling and society, but ask students to apply the knowledge they have gained to the Japanese context to better understand the growing economic disparities that are occurring, and the history of discrimination at the economic, social and cultural levels that has plagued Japan with regard to integrating ethnic minorities into the mainstream social structure. The main topics of study include social mobility and educational stratification; human &amp; social capital; social &amp; cultural reproduction; the affect of race, ethnicity, class, and gender on the type and quality of education individuals receive.</p>		<p>Week 1 – Introduction to Course, What is Social Inequality?  Week 2 – How Does Social Inequality Affect the Lives of Individuals?  Week 3 – The Structure of Schooling  Week 4 – The Structure of Schooling (cont'd)  Week 5– Social Class &amp; Schooling  Week 6 – Social Class (cont'd)  Week 7 – Mid-Term Small Group Reports  Week 8 – The Affect of Race &amp; Ethnicity on Schooling  Week 9 – Race &amp; Schooling (cont'd)  Week 10 – Tracking &amp; Educational &amp; Social Stratification  Week 11 – Two Schools Divided, Video  Week 12 – Social Class, Race &amp; Schooling in Japan  Week 13 – Social Class, Race &amp; Schooling In Japan (Cont'd)  Week 14 – Social Class, Race &amp; Schooling In Japan (Cont'd)  Week 15 – Small Group Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Selected readings provided in-class		In-class participation (30%), Reading Packets, (20%), Small Grp Report, (10%), Article Summary & Critique x 2 (20%), Final Presentation (20%)	

09年度以降	英語専門講読 II (Social Inequality & Education)	担当者	E. 本橋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The Fall course continues exploring the inequalities, which exist in our society by applying various theoretical frameworks that attempt to analyze the structural aspects of schooling related to the production and maintenance of social equalities and inequalities. We will consider how some of the larger social inequalities influence formal schooling. We will discuss questions related to what kinds of inequality are created by educational policies and institutions themselves, along with the related question of what practices are developed to address these inequalities and promote more equitable and socially just schooling practices.</p>		<p>Week 1 – Introduction to Course, Equality of Opportunity  Week 2 – Social Stratification &amp; Minorities  Week 3 – Immigration &amp; Schooling  Week 4 – Immigration (cont'd)  Week 5 – Indigenous Peoples &amp; Education  Week 6 – Indigenous Peoples (cont'd)  Week 7 – Case study Presentations  Week 8 – Gender &amp; Schooling  Week 9 – Gender (cont'd)  Week 10 – Tracking &amp; Educational &amp; Social Stratification  Week 11 – Policies that Create Social &amp; Educational Inequality  Week 12 – Teacher-Student Relationships &amp; Achievement  Week 13 – 15 Poster Presentations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Selected readings provided in-class		In-class participation (30%), Reading Packets, (20%), Case Study Report, (10%), Article Summary & Critique x 2 (20%), Final Presentation (20%)	

09年度以降	英語専門講読 I (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction</li> <li>2 Overview</li> <li>3 Overview</li> <li>4 Overview</li> <li>5 Phrase Structure</li> <li>6 Phrase Structure</li> <li>7 Phrase Structure</li> <li>8 Binding</li> <li>9 Binding</li> <li>10 Binding</li> <li>11 Binding</li> <li>12 Empty Pronoun PRO</li> <li>13 Empty Pronoun PRO</li> <li>14 Review</li> <li>15 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p> <p>※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。</p> <p>※ 本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社</p>		<p>平常点&amp;授業参加率 (30%)、レポート&amp;試験 (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (生成文法入門)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の1つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。</p> <p>読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくこととなりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Anaphors</li> <li>2 Anaphors</li> <li>3 Anaphors</li> <li>4 Government</li> <li>5 Government</li> <li>6 Types of Subject</li> <li>7 Types of Subject</li> <li>8 Types of Subject</li> <li>9 Pronouns</li> <li>10 Pronouns</li> <li>11 Pronouns</li> <li>12 Referential Expressions</li> <li>13 Referential Expressions</li> <li>14 Review</li> <li>15 Review</li> </ol> <p>※ 上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。</p> <p>参考文献：『チョムスキー理論辞典』 研究社</p>		<p>平常点&amp;授業参加率 (30%)、レポート&amp;試験 (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (生成英語統語論への誘い)	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では変形生成文法理論を1957年に提唱したNoam Chomskyの最近の論文“Problems of projection”をテキストとして用いて、英語の読解方法を鍛錬しながら、生成文法がどのような方法で人間言語を説明するかを学ぶことを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> この論文でChomskyは、普遍文法と言語の知識の研究をこれまで研究されてきた、each otherの意味解釈、疑問表現の意味解釈、主語疑問化疑問文、等位接続構文という具体的な言語現象を取り上げ、これまで提案されてきた束縛原理、最小構造距離、空範疇原理、厳密循環原理などを引き合いに出しながら、最新の極小理論における併合や投射方法、最も簡潔な計算手続き・体系を用いて説明を試みている。</p> <p>この授業では、このような内容のNoam Chomskyの論文を丁寧に読み、英語力の向上を目指しながら、生成統語論の最小理論による言語現象の説明方法を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第二次世界大戦後の言語学</li> <li>2. 言語の多様性に関する諸見解</li> <li>3. 生成文法理論の勃興</li> <li>4. 言語の内在主義的研究</li> <li>5. 生物言語学における内在言語研究</li> <li>6. 普遍文法の諸原理と記述的一般性</li> <li>7. 束縛理論の生得性</li> <li>8. 束縛原理と制御理論《中間試験》</li> <li>9. 線状性と構造的性</li> <li>10. 豊富な普遍文法の豊富さの削減</li> <li>11. 普遍文法の簡略化の二つの方法</li> <li>12. 遺伝的特性の三つの要素</li> <li>13. 遺伝的特性の存在主張と非存在主張</li> <li>14. 極小理論と生成手順</li> <li>15. 言語獲得の理論《期末試験》</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: Noam Chomsky (2013) “Problems of projection” <i>Lingua</i> Vol. 130, pp.33-49 (プリント使用)</p>		<p>受講状況、授業の予習、授業中の発表、中間試験、期末試験の成績を総合して評価する。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (生成英語統語論への誘い)	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では変形生成文法理論を1957年に提唱したNoam Chomskyの最新の論文“Problems of projection”をテキストとして用いて、英語の読解方法を鍛錬しながら、生成文法がどのような方法で人間言語を説明するかを学ぶことを目的とする。</p> <p><b>講義概要:</b> 春学期に引き続き、Chomskyの論文を読み、主語・述語動詞倒置、主要部のない構造、疑問詞移動、問い返し疑問文、主語疑問化疑問文、間接疑問文、主語・述語構文、自由関係詞、等位構造、目的語への繰り上げ構文といった具体的な言語現象について、束縛原理、最小構造距離、空範疇原理、厳密循環原理などを引き合いに出しながら、最新の極小理論における併合や投射方法、最も簡潔な計算手続き・体系を用いた説明方法を学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主語・助動詞倒置の説明方法</li> <li>2. 主語・助動詞倒置と構造関係</li> <li>3. 普遍的原理と最小構造距離</li> <li>4. 普遍文法の一般性と併合操作</li> <li>5. 内部併合と疑問詞の意味解釈</li> <li>6. 空範疇原理と計算手順</li> <li>7. 主語・述語構文の説明</li> <li>8. 投射と句構造の標示付け《中間試験》</li> <li>9. 自由関係詞構造の標示</li> <li>10. 無主要部構造の標示</li> <li>11. 問い返し疑問文と間接疑問文</li> <li>12. 複雑な「主語・述語関係」と等位構造</li> <li>13. 等位構造と対併合</li> <li>14. 目的語への繰り上げ構文</li> <li>15. 主語疑問化構文の説明《期末試験》</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: Noam Chomsky (2013) “Problems of projection” <i>Lingua</i> Vol. 130, pp.33-49 (プリント使用)</p>		<p>受講状況、授業の予習、授業中の発表、中間試験、期末試験の成績を総合して評価する。</p>	



09年度以降	英語専門講読 I (英語圏伝承童謡を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ナーサリー・ライムズ (Nursery Rhymes)、マザー・グース (Mother Goose) 等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上ともいわれている。なぞなぞの唄、お遊戯の唄、おまじないなど、さまざまな種類があり、国や地域によって詞やメロディが異なるもの、また、そもそもメロディを伴わないものも多い。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言いまわしは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、さまざまな文学作品、映像作品、漫画やアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。この授業では、それらの童謡／伝承童謡、それにイギリス国歌やアメリカ国歌などの有名な歌をふくめ、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、ぜひとも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. As I was Going to Saint Ives / Baa, Baa, Black Sheep</li> <li>3. Frère Jaques / Georgie Porgie</li> <li>4. Here We Go Around the Mulberry Bush / Hey, Diddle Diddle</li> <li>5. Hickory, Dickory Dock / Higgledy, Piggledy, My Black Hen</li> <li>6. Hot Cross Buns / The House That Jack Built</li> <li>7. Humpty Dumpty / I Had a Little Nut Tree</li> <li>8. Jack and Jill / Jack, Be Nimble</li> <li>9. Jack Sprat / Ladybird, Ladybird</li> <li>10. The Lion and Unicorn / Little Bo Peep</li> <li>11. Little Boy Blue / Little Jack Horner</li> <li>12. Little Miss Muffet / Little Tommy Tucker</li> <li>13. London Bridge Is Falling Down / Lucy Locket</li> <li>14. Mary had a Little Lamb / Mary, Mary, Quite Contrary</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Albert Jack. <i>Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes</i> . Perigee Trade; Original edition (2009) 注：電子図書版もあります		担当時のプレゼンテーション、担当以外の授業における議論への貢献度、期末の課題により総合的に評価する。(1 : 1 : 1の割合)	

09年度以降	英語専門講読 II (英語圏伝承童謡を読む)	担当者	大木 理恵子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ナーサリー・ライムズ (Nursery Rhymes)、マザー・グース (Mother Goose) 等と称される英語の童謡／伝承童謡は、数え方によって600以上とも、1000以上ともいわれている。なぞなぞの唄、お遊戯の唄、おまじないなど、さまざまな種類があり、国や地域によって詞やメロディが異なるもの、また、そもそもメロディを伴わないものも多い。これらの童謡／伝承童謡からの引用や、登場するキャラクター、それらを踏まえた言いまわしは、現代においても、新聞や雑誌の報道記事、さまざまな文学作品、映像作品、漫画やアニメを含む大衆文化など、あらゆる分野において、頻繁にみることができ、英語圏では階級の隔てなく親しまれ、聖書やシェイクスピア作品と並び、教養の土台となっている。この授業では、それらの童謡／伝承童謡、それにイギリス国歌やアメリカ国歌などの有名な歌をふくめ、英語圏の言語・文学・文化等を研究する上で、ぜひとも知っておきたい詩歌を選び、検討していきたい。授業は、毎回担当者によるプレゼンテーションと全員参加の議論を中心に進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Old King Cole / Oranges and Lemons</li> <li>3. The Owl and the Pussycat / Polly Put the Kettle On</li> <li>4. Pop Goes the Weasel / Punch and Judy</li> <li>5. Pussy Cat, Pussy Cat / The Queen of Hearts</li> <li>6. Rain, Rain, Go Away / Ring-a-Ring O' Roses</li> <li>7. Rock-a-Bye, Baby / See-Saw, Margery Daw</li> <li>8. Sing a Song of Sixpence / There Was an Old Woman Who Lived in a Shoe</li> <li>9. Three Blind Mice / Tweedledum and Tweedledee</li> <li>10. Twinkle, Twinkle, Little Star / What Are Little Boys Made OF?</li> <li>11. Who Killed Cock Robin? / Amazing Grace</li> <li>12. God Save the Queen</li> <li>13. The Star-Spangled Banner</li> <li>14. Yankee Doodle Dandy</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Albert Jack. <i>Pop Goes the Weasel: The Secret Meanings of Nursery Rhymes</i> . Perigee Trade; Original edition (2009) 注：電子図書版もあります		担当時のプレゼンテーション、担当以外の授業における議論への貢献度、期末の課題により総合的に評価する。(1 : 1 : 1の割合)	

09年度以降	英語専門講読 I (シェイクスピアとイギリス俳優)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>“English is the language of Shakespeare”と言われることがある。シェイクスピアは英語という言葉我代表する作家とされるが、その面白さは翻訳ではわからない。この授業の目的は、「翻訳できない面白さ」を経験することである。</p> <p>シェイクスピアの作品は40近くあるが、その中からいくつかのセリフを選んで取り上げていく。セリフを精読してその意味を考えるだけではなく、そのセリフに反映しているイギリスの文化史、政治史についても理解を深めることを目指す。</p> <p>また取り上げるセリフは録音または録画でイギリスの俳優たちの語りを聞いてもらう。20世紀以降のイギリス俳優たちのセリフを聞きながら、イギリス俳優の魅力に触れることもこの授業の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. <i>Richard III</i>: 芝居を「聞く」</li> <li>3. <i>Richard III</i>: Simon Russell Beale</li> <li>4. <i>Romeo and Juliet</i>: 宮廷風恋愛の伝統</li> <li>5. <i>Romeo and Juliet</i>: Clare Bloom</li> <li>6. <i>As You Like It</i>: 少年俳優が演じる女性</li> <li>7. <i>As You Like It</i>: Vanessa Redgrave</li> <li>8. <i>Macbeth</i>: 火薬陰謀事件</li> <li>9. <i>Macbeth</i>: Judy Dench</li> <li>10. <i>Antony and Cleopatra</i>: プルターク『英雄伝』</li> <li>11. <i>Antony and Cleopatra</i>: Janet Suzman</li> <li>12. <i>The Sonnets</i>: 詩人としてのシェイクスピア</li> <li>13. <i>The Sonnets</i>: Ralph Fiennes</li> <li>14. Wrap-up (1)</li> <li>15. Wrap-up (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		学期末試験で評価する。	

09年度以降	英語専門講読 II (シェイクスピアとイギリス俳優)	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期「英語専門講読 I」に同じ。		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Henry V</i>: シェイクスピア時代の劇場</li> <li>2. <i>Henry V</i>: Kenneth Branagh</li> <li>3. <i>The Merchant of Venice</i>: 金融と交易</li> <li>4. <i>The Merchant of Venice</i>: Lawrence Olivier</li> <li>5. <i>Twelfth Night</i>: 道化という職業</li> <li>6. <i>Twelfth Night</i>: Paul Scofield</li> <li>7. <i>Hamlet</i>: シェイクスピアの劇団</li> <li>8. <i>Hamlet</i>: David Tennant</li> <li>9. <i>King Lear</i>: 本文の問題</li> <li>10. <i>King Lear</i>: Ian McKellen</li> <li>11. <i>The Tempest</i>: 文化遺産としての Shakespeare</li> <li>12. <i>The Tempest</i>: John Gielgud</li> <li>13. Wrap-up (1)</li> <li>14. Wrap-up (2)</li> <li>15. Wrap-up (3)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。		学期末試験で評価する。	

09年度以降	英語専門講読 I (日本文化の再確認)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>・「よき日本人こそ真の世界人」：これは1968年3月、第一回卒業式の式辞の中で天野貞祐学長が言われたことばである。</p> <p>・その第一歩として日本人のコミュニケーション活動の諸側面を再検討・再確認しよう。</p>		01. 概要説明 02. 曖昧：Ambiguity and the Japanese 03. 甘え：The concept of Japanese Dependence 04. 天下り：Descent from heaven 05. 美学：The Japanese Sense of Beauty 06. 武士道：The way of Warrior 07. 沈黙：Silence in Japanese Communication 08. 男女関係：Male/Female Relationships 09. ～道：The Doo spirits of Japan 10. 頑張り：Japanese Patience and Determination 11. 義理：Japanese Social Obligations 12. 腹芸：An Implicit Way of Communicating in Japan 13. 隔たると馴染む：Japanese Personal Space 14. Review and Discussion. 15. Final Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Japanese Mind : Understanding Contemporary Japanese Culture</i> by <b>Roger Davis &amp; Osamu Ikeno</b> , Tuttle, ¥1,700		・個人レポート：60% ・グループレポート：40%	

09年度以降	英語専門講読 II (日本文化の再確認)	担当者	町田 喜義
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>・同上</p> <p>・文献の後半～</p>		01. 概要説明 02. 本音と建前：Private vs. Public Stance in Japan 03. 家：The Japanese <i>Ie</i> System 04. いいとこ取り：Adopting Elements of foreign Culture 05. 育児：Childrearing practices in Japan 06. 謙虚：The Japanese Virtue of Japan 07. 季節：The Japanese Sense of the seasons 08. 根回し：Laying the Groundwork in Japan 09. お見合い：Arranged Marriage in Japan 10. お伽話：Forktakes of Japan 11. 良妻賢母：Good Wives and Wise Mothers 12. 先輩後輩：Seniority Rules in Japan 13. 集団意識：Japanese Group Consciousness 14. Review and Discussion 15. Final Presentations	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>The Japanese Mind : Understanding Contemporary Japanese Culture</i> by <b>Roger Davis &amp; Osamu Ikeno</b> , Tuttle, ¥1,700		・個人レポート：60% ・グループレポート：40%	

09年度以降	英語専門講読 I (私たちの生活とグローバルイゼーション1)	担当者	三吉 美加
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、グローバルイゼーションと日常生活との関わりをあらゆる角度から検討する。中心となるテーマは「食」。食のグローバルイゼーションを扱ったドキュメンタリーを視聴しながら、興味をもったポイントについて調べ、他の学生たちと意見交換しながら、自分の考えをまとめていく。個々に、これからどのように生活していくのか、10年後、20年後の自分の理想の姿を設定し、それまでの日々の暮らしについて考えてみる。英語圏の様々な地域の文献を読みながら深く考えていきたい。</p> <p>与えられた課題と資料をもとに、グループを作り、グループワークと発表を繰り返していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 Globalization を扱った資料の解説</li> <li>3 Group Presentation</li> <li>4 Globalization and Food 1</li> <li>5 Globalization and Food 2</li> <li>6 Globalization and Food 3</li> <li>7 Globalization and Food 4</li> <li>8 The Culture of Consumption 1</li> <li>9 The Culture of Consumption 2</li> <li>10 The Culture of Consumption 3</li> <li>11 New Perspectives to Our Life 1</li> <li>12 New Perspectives to Our Life 2</li> <li>13 New Perspectives to Our Life 3</li> <li>14 講義のまとめ</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		期末試験 50% グループワーク 30% 平常点（予習、授業内活動参加、態度など）20%	

09年度以降	英語専門講読 II (私たちの生活とグローバルイゼーション2)	担当者	三吉 美加
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>引き続き、この講義でも、世界で起こっている事象に注目しながら、自らの生活、社会、コミュニティなどについて考えていく。各自が選んだテーマをもとに、さまざまな立場で書かれた多様な英語教材（新聞、雑誌、インターネット記事）を探して、授業時にプレゼンしてもらおう。</p> <p>発表では、パワーポイントなど視聴覚資料を使用してもらおう。グループワークを重視する。</p> <p>キーワード：「消費社会」、「移動」、「旅」、「生活」、「人間関係」「メディアリテラシー」「技術」など。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 資料の探し方について</li> <li>3 Group Presentation</li> <li>4 In Search of Life Purpose 1</li> <li>5 In Search of Life Purpose 2</li> <li>6 Globalization and Glocalization 1</li> <li>7 Globalization and Glocalization 2</li> <li>8 The Culture of Consumption 1</li> <li>9 The Culture of Consumption 2</li> <li>10 The Culture of Consumption 3</li> <li>11 New Perspectives to Our Life 1</li> <li>12 New Perspectives to Our Life 2</li> <li>13 New Perspectives to Our Life 3</li> <li>14 講義のまとめ</li> <li>15 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		期末試験 50% グループワーク 30% 平常点（予習、授業参加度合い、態度など）20%	

09年度以降	英語専門講読 I (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では、英国の作家ジョージ・オーエルの小説 <i>Nineteen Eighty-four</i> (1948年作品) を読む。</p> <p>ここで描かれているのは、ビッグ・ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は3つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。</p> <p>人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この20世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。<u>受講を希望する学生は初回の授業に必ず出席すること。</u></p>		<p>初回の授業はイントロダクション、その後は15回目まで、毎回講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子を見て決定、調整する。折を見て、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末課題を課す。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回～15回 上記の授業内容を毎回行う</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業への貢献度60%、期末課題40% 授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09年度以降	英語専門講読 II (現代イギリス小説)	担当者	東郷 公德
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続き。		春学期の続き。	
テキスト、参考文献		評価方法	
George Orwell <i>Nineteen Eighty-four</i> Penguin		授業への貢献度60%、期末課題40% 授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09年度以降	英語専門講読 I (Endangered languages and language extinction)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>It is now widely known that many of the planet's languages are facing extinction. Scholars have estimated that between 50% to 90% of all living languages will disappear by the end of this century. What has brought about this extinction crisis? What impact will it have on the lives of people across the world? What are people doing to stop the extinction of languages? What is lost when a language dies? This course will address these questions.</p> <p>This course will require patient reading of a number of texts. In addition to the textbook, we will read several news articles and research papers.</p>		<p>1 Introduction</p> <p>2-3 How do you say extinct?</p> <p>4-5 Where have all the languages gone</p> <p>6-7 A world of diversity</p> <p>8-11 Lost words/lost worlds</p> <p>12-14 The ecology of language</p> <p>15 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Vanishing Voices</i>. Daniel Nettle &amp; Suzanne Romain. 2000. Oxford: Oxford University Press.</p>		<p>Essays 40%</p> <p>Test 30%</p> <p>Notebook 30%</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (Endangered languages and language extinction)	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>It is now widely known that many of the planet's languages are facing extinction. Scholars have estimated that between 50% to 90% of all living languages will disappear by the end of this century. What has brought about this extinction crisis? What impact will it have on the lives of people across the world? What are people doing to stop the extinction of languages? What is lost when a language dies? This course will address these questions.</p> <p>This course will require patient reading of a number of texts. In addition to the textbook, we will read several news articles and research papers.</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2-4 The biological wave</p> <p>5-7 The economic wave</p> <p>8-10 Why something should be done</p> <p>11-12 Sustainable futures</p> <p>13-14 How do you say extinct? (revisited)</p> <p>15 Test</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Vanishing Voices</i>. Daniel Nettle &amp; Suzanne Romain. 2000. Oxford: Oxford University Press.</p>		<p>Essays 40%</p> <p>Test 30%</p> <p>Notebook 30%</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to help students gain a higher level of confidence in talking about Japanese culture through extensive reading and discussion. The chosen text for this course focuses on the cultural aspects of everyday life here in Japan. While most students are very familiar with terms and concepts addressed in the book, they may not have had a chance to think about them in depth or to talk about them at length in a group setting. Thus, class time will be divided between text analysis (lectures) and student lead roundtable discussions.</p> <p>Students considering this class should have 1) a keen interest in Japanese culture; 2) a desire to improve English skills and 3) an interest in text analysis.</p> <p>The text for this course is titled: The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture and is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.</p>		<p>Week 1: Intro &amp; Aimai: Ambiguity and the Japanese Week 2: Aimai: Ambiguity and the Japanese Week 3: Amakudari: Descent from Heaven Week 4: Amakudari: Descent from Heaven Week 5: The Do Spirit Week 6: The Do Spirit Week 7: Gambari: Japanese Patience &amp; Determination Week 8: Gambari: Japanese Patience &amp; Determination Week 9: Haragei: An Implicit Way of Communicating Week 10: Haragei: An Implicit Way of Communicating Week 11: Honne to Tatemae: Private vs Public Stance Week 12: Honne to Tatemae: Private vs Public Stance Week 13: Iitoko-Dori: Adopting Parts of Foreign Culture Week 14: Iitoko-Dori: Adopting Parts of Foreign Culture Week 15: Final Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture by Roger Davies & Osamu Ikeno Tuttle ISBN 978-4-8053-1021-2 Yen 1,700		Grades are based on in-class performance 40%, quizzes 10% and a final report 50%	

09年度以降	英語専門講読 II (The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture)	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of this course is to help students gain a higher level of confidence in talking about Japanese culture through extensive reading and discussion. The chosen text for this course focuses on the cultural aspects of everyday life here in Japan. While most students are very familiar with terms and concepts addressed in the book, they may not have had a chance to think about them in depth or to talk about them at length in a group setting. Thus, class time will be divided between text analysis (lectures) and student lead roundtable discussions.</p> <p>Students considering this class should have 1) a keen interest in Japanese culture; 2) a desire to improve English skills and 3) an interest in text analysis.</p> <p>The text for this course is titled: The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture and is available through Amazon or Dokkyo University Book Store. Students are required to have the book on the first lesson.</p>		<p>Week1: Nemawashi: Laying the Groundwork in Japan Week 2: Nemawashi: Laying the Groundwork in Japan Week 3: Omiai: Arrange Marriage in Japan Week 4: Omiai: Arrange Marriage in Japan Week 5: Otogibanashi: Folktales of Japan Week 6: Otogibanashi: Folktales of Japan Week 7: Ryosaikenbo: "Good Wives and Wise Mothers" Week 8: Ryosaikenbo: "Good Wives and Wise Mothers" Week 9: Sempai-Kohai: Seniority Rules Relations Week 10: Sempai-Kohai: Seniority Rules Relations Week 11: Shudan Ishiki: Japanese Group Consciousness Week 12: Shudan Ishiki: Japanese Group Consciousness Week 13: Soshiki: Japanese Funerals Week 14: Soshiki: Japanese Funerals Week 15: Final Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The Japanese Mind Understanding Contemporary Japanese Culture by Roger Davies & Osamu Ikeno Tuttle ISBN 978-4-8053-1021-2 Yen 1,700		Grades are based on in-class performance 40%, quizzes 10% and a final report 50%	

09年度以降	英語専門講読 I (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>時事、演説、論文、広告、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性 (coherence)、さらに、レジスター変数 (ideational, interpersonal, textual)、テキストタイプ、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&amp;ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テキストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを、説得力ある言語分析によって浮上させることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストを、分析したり解釈したりする自信がいつてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが今からとても楽しみである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 方法論、評価システムの説明など</li> <li>2. 時事 現代アメリカ情勢</li> <li>3. Web 情報 I TED (<a href="http://www.ted.com/">http://www.ted.com/</a>)</li> <li>4. 演説 I Steve Jobs スタンフォード大卒業式祝辞</li> <li>5. 学術論文 I Critical Discourse Studies 関連</li> <li>6. Web 情報 II CCHR (<a href="http://www.cchr.org/">http://www.cchr.org/</a>)</li> <li>7. 演説 II Martin Luther King Jr.</li> <li>8. 学術論文 II Political Language</li> <li>9. Web 情報 III <a href="http://www.prisonplanet.com/">http://www.prisonplanet.com/</a></li> <li>10. 企業広告 “Think Different” (Apple)</li> <li>11. 洋楽歌詞 Taylor Swift その他</li> <li>12. プレゼンテーション&amp;ディスカッション I</li> <li>13. プレゼンテーション&amp;ディスカッション II</li> <li>14. プレゼンテーション&amp;ディスカッション III</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的には教室でハンドアウトを配布するが、PorTa 等で教材のシェアを行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		授業参加態度=20% ; アサインメント=20% ; プレゼンテーション=20% ; ファイナルペーパー (A4×5頁以上) =20% ; 自己評価=20%。4回以上欠席は単位を与えない。	

09年度以降	英語専門講読 II (ディスコース分析)	担当者	佐藤 芳明
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同じ目的及び方法で、異なる題材を採り上げる。時事、演説、論文、物語、洋楽、ウェブ情報など多様なジャンルの英文を題材として、ディスコース分析を実践する。ディスコースとは、具体的な状況と意図を伴ってつむぎ出される言語表現のことであり、通常、センテンス単位を超える言説を指す。その分析においては、語彙・文法等の言語形式面に加えて意味・推論にかかわるレトリックと首尾一貫性 (coherence)、さらに、レジスター変数 (ideational, interpersonal, textual)、テキストタイプ、ジャンル等も射程に収める必要がある。授業では、メディア批評の視座として、チョムスキー&amp;ハーマンのプロパガンダモデル等も紹介し、オルターナティブメディアの存在意義についても言及したい。本講座のねらいは、英文テキストの語彙文法的 (lexico-grammatical) 分析を、実際のコンテキストにおけるメッセージ解釈へ架橋することである。換言すれば、テキストが孕むクリティカルな意味のポテンシャルを、説得力ある言語分析によって浮上させることである。この中庸の感覚がつかめれば、凡そあらゆるタイプのテキストを、分析したり解釈したりする自信がいつてくるのではないかと期待している。参加者のプレゼンテーションが、この授業の有終の美を飾ることは間違いないと思う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 方法論、評価システムの説明など</li> <li>2. 時事 ワクチン・医療と健康</li> <li>3. Web 情報 I TED (<a href="http://www.ted.com/">http://www.ted.com/</a>)</li> <li>4. 演説 I Abraham Lincoln ゲティスバーグ演説</li> <li>5. 学術論文 I Discourse in Society 関連</li> <li>6. Web 情報 II <a href="http://stormcloudsgathering.com/">http://stormcloudsgathering.com/</a></li> <li>7. 演説 II John F. Kennedy ~ Lyndon B. Johnson</li> <li>8. 学術論文 II Noetic Science</li> <li>9. Web 情報 III <a href="http://www.paulcraigroberts.org/">http://www.paulcraigroberts.org/</a></li> <li>10. 物語 Aesop's Fables 等</li> <li>11. 洋楽歌詞 Cold Play その他</li> <li>12. プレゼンテーション&amp;ディスカッション I</li> <li>13. プレゼンテーション&amp;ディスカッション II</li> <li>14. プレゼンテーション&amp;ディスカッション III</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
基本的には教室でハンドアウトを配布するが、PorTa 等で教材のシェアを行うこともある (具体的方法は授業時に指示する)。		授業参加態度=20% ; アサインメント=20% ; プレゼンテーション=20% ; ファイナルペーパー (A4×5頁以上) =20% ; 自己評価=20%。4回以上欠席は単位を与えない。	



09年度以降	英語専門講読 I (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【概要と目的】</p> <p>言語習得は人間ならではの能力、知識、技能が複雑に絡み合った不思議な現象です。その中でも第二言語習得 (SLA: second language acquisition) は学習環境、学習者の年齢・動機付け・適正等の個人差要因、教授法、さらに多くの要素が絡み合っているもので、高度な研究の対象になり得ます。</p> <p>この授業では SLA 研究の中の、特に「実証的研究」を扱う英語論文 (一つの論文は十数頁) を講読します。実証研究とは、研究者が持つ疑問 (Research question(s)) に対する答えを求めるときに、実際にデータをとって、量的および質的にデータ分析を行い、得られた結果の提示とその考察を行うタイプの研究です。実証研究論文を読み進めるにあたっては、Research question の答えが何かを期待しながら読み解く面白さがあります。また、その論文の研究方法が妥当かを、受講生の皆さんに議論してもらいことも含めます。</p> <p>これらの活動により、SLA 研究の専門的な知識を得るだけでなく、ロジカルな思考の訓練、高度な英文を読み解くスキル育成を目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 実証研究とは何か</li> <li>2. 実証研究論文の一例 (練習用日本語論文)</li> <li>3. 論文 (1-1): インTRODakション (実証研究体験)</li> <li>4. 論文 (1-2): 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1-3): 内容理解の確認</li> <li>6. 論文 (1-4): ディスカッション</li> <li>7. 論文 (2-1): インTRODakション (実証研究体験)</li> <li>8. 論文 (2-2): 内容理解の確認</li> <li>9. 論文 (2-3): 内容理解の確認</li> <li>10. 論文 (2-4): ディスカッション</li> <li>11. 論文 (3-1): インTRODakション (実証研究体験)</li> <li>12. 論文 (3-2): 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (3-3): 内容理解の確認</li> <li>14. 論文 (3-4): ディスカッション</li> <li>15. 【まとめ】 学期末レポートの課題</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
日本国内で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		毎回の授業中での活動 (55%) 学期末レポート (45%)	

09年度以降	英語専門講読 II (英語教育・SLA 最前線)	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【概要と目的】</p> <p>春学期同様、SLA 実証研究論文を講読していきます。秋学期は、海外で出版されたジャーナルの中から論文を選びます。海外における SLA 研究の場合、目標言語が英語ではない場合や、学習環境が日本とは異なる場合もあり、その点がまた興味深くもあります。</p> <p>論文の内容確認は日本語で行いますが、秋学期は授業中のディスカッションおよび学期末レポートは英語によります。論文をよく読み、その中で使用されている専門用語やアカデミックな表現を習得できるよう、自らアウトプットする練習を兼ねています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 論文 (1-1): インTRODakション (実証研究体験)</li> <li>2. 論文 (1-2): 内容理解の確認</li> <li>3. 論文 (1-3): 内容理解の確認</li> <li>4. 論文 (1-4): 内容理解の確認</li> <li>5. 論文 (1-5): 内容理解の確認</li> <li>6. 論文 (1-6): Summary</li> <li>7. 論文 (1-7): Discussion</li> <li>8. 論文 (2-1): インTRODakション (実証研究体験)</li> <li>9. 論文 (2-2): 内容理解の確認</li> <li>10. 論文 (2-3): 内容理解の確認</li> <li>11. 論文 (2-4): 内容理解の確認</li> <li>12. 論文 (2-5): 内容理解の確認</li> <li>13. 論文 (2-6): Summary</li> <li>14. 論文 (2-7): Discussion</li> <li>15. 【まとめ】 Guidance on the final report</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海外で publish された第二言語習得にかかわる実証研究論文 (英文)		毎回の授業中での活動 (55%) 学期末レポート (45%)	

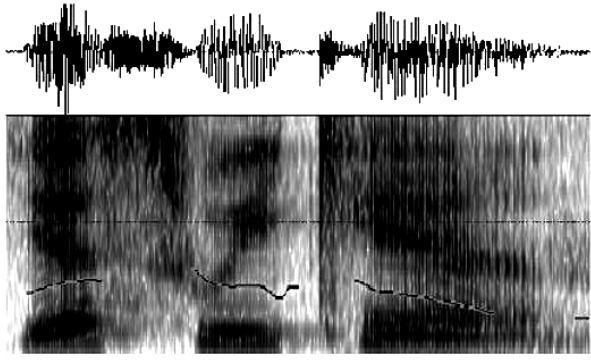
09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder (b.1930) の <i>No Nature: New and Selected Poems</i> をテキストに、自然、仏教、ネイティブ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによるプレゼンテーション（作品解釈、質疑応答）を中心に進める。スナイダーについては、 <a href="http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder">http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder</a> を参照。</p>		<p>from No Nature  (1) “How Poetry Comes to Me”  (2) “Building”  (3) “Off the Trail”  (4) “Ripples on the Surface”  from Left Out in the Rain  (5) “A Sinecure for P. Whalen”  (6) “Poem Left in Sourdough Mountain Lookout”  (7) “The Persimmons”  (8) “Dullness in February: Japan”  from Axe Handles  (9) “Axe Handles”  (10) “Changing Diapers”  (11) “True Night” The Canyon Wren  from Turtle Island  (12) “Anasazi”  (13) “The Bath”  (14) “Night Heron”  (15) “For the Children”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Gary Snyder, <i>No Nature: New and Selected Poems</i>. New York: Pantheon Books, 1993. (ISBN: 0-679-74252-2)  テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。  参考文献：Timothy Gray, <i>Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community</i>. Iowa City: U. of Iowa P, 2006.  Patric D. Murphy, <i>A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder</i>. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000.</p>		<p>プレゼンテーションとタームペーパー (MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論) を総合して決める。「MLA 論文の書き方」は、<a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a> を参照のこと。  ただし欠席が 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象としない。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ現代詩)	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Gary Snyder (b.1930) の詩集 <i>No Nature: New and Selected Poems</i> をテキストに、自然、仏教、ネイティブ・アメリカン、そしてエコロジーの視点から、「環太平洋文化圏」について考える。授業は、レポーターによるプレゼンテーション（作品解釈、質疑応答）を中心に進める。スナイダーについては、 <a href="http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder">http://en.wikipedia.org/wiki/Gary_Snyder</a> を参照。</p>		<p>From The Back Country  (1) “A Beery Feast”  (2) “August on Sourdough, A Visit from Dick Brewer”  (3) “The Public Bath”  (4) “Four Poems for Robin”  (5) “This Tokyo”  from Myths &amp; Texts  (6) “The morning star is not a star”  (7) “this poem for bearl”  (8) “Maitreya the future Buddha”  (9) “John Muir on Mt. Ritter:”  from Cold Mountain Poems  (10) “The path to Han-shan’s place is laughable”  (11) “In the mounatins it’s cold.”  (12) “In my first thirty years of life”  from Riprap  (13) “Mid-August at Sourdough Mountain Lookout”  (14) “Piute Creek”  (15) “Riprap”</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：Gary Snyder, <i>No Nature: New and Selected Poems</i>. New York: Pantheon Books, 1993. (ISBN: 0-679-74252-2)  テキストは、各自 amazon.co.jp などを通して購入のこと。  参考文献：Timothy Gray, <i>Gary Snyder and the Pacific Rim: Creating Counter-Cultural Community</i>. Iowa City: U. of Iowa P, 2006.  Patric D. Murphy, <i>A Place for Wayfaring: The Poetry and Prose of Gary Snyder</i>. Corvallis, OR: Oregon State UP, 2000.</p>		<p>プレゼンテーションとタームペーパー (MLA のスタイルに準じた 4,000 字程度の作品論) を総合して決める。「MLA 論文の書き方」は、<a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html</a> を参照のこと。  ただし、欠席が 3 分の 1 を超えた場合は評価の対象としない。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the intricate workings of language, taking in subjects like the origins of languages, how children learn to speak, and how conversation works to subtle but revealing points.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p>		<p>Week 1: Introduction  Week 2: How what works?  Week 3: How to treat body language  Week 4: How we use the "edges" of language  Week 5: How we make speech sounds: phase 1  Week 6: How we make speech sounds: phase 2  Week 7: Quiz I. Journals due  Week 8: How we transmit sounds  Week 9: How we hear speech sounds  Week 10: How we perceive speech  Week 11: How we describe speech sounds  Week 12: How we describe consonants and vowels  Week 13: How we organize the sounds of speech  Week 14: How we use tone of voice  Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>How Language Works</i> . (Penguin).		Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).	

09年度以降	英語専門講読 II (Language & Teaching)	担当者	J. J. ダゲン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is designed to help students interested in language and language learning to better understand the English language. In this course we will look at the intricate workings of language, taking in subjects like the origins of languages, how children learn to speak, and how conversation works to subtle but revealing points.</p> <p>By reading and discussing the text material, including pre-reading activities to enhance the reader's comprehension, and post-reading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom.</p> <p>Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor.</p>		<p>Week 1: Introduction.  Week 2: How children learn speech sounds: the 1<sup>st</sup> yr  Week 3: How children learn speech sounds: the 2<sup>nd</sup> yr  Week 4: How speech can go wrong  Week 5: How we write  Week 6: How we make writing systems: early times  Week 7: How we make writing systems: modern times  Week 8: How we read  Week 9: How we write and spell  Week 10: Quiz I. Journals due  Week 11: How we learn to read and write  Week 12: How reading and writing can go wrong  Week 13: How writing and speech differ  Week 14: How the electronic medium differs  Week 15: Quiz II. Journals due.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Crystal, D. <i>How Language Works</i> . (Penguin).		Grades are based on assignments & in-class participation (60%), quizzes (20%), and a final assessment based on the text and lecture (20%).	

09年度以降	英語専門講読 I (はじめての音響音声学)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 何気なく発し、聞いている言語音声であるが、その実態は空気中を伝わる波(音波という空気の粗密波)である。音は聞くものであり、通常見ることではできないが、音を波形として表示したり、音の特徴を様々な形で表示すると、音が見えてくる。まず、音声の音響的側面の基礎を学び、声や言語音の特徴を考察する。また適宜、歌声や楽器音、動物の声、ヒトには聞こえない音など、日常にある音声以外の音との比較や考察を試みる。</p> <p>テキストは一般人向けの入門書である。ある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより、正確な読解力と分析的な視点を養う。</p> <p><u>講義概要</u> 学生は毎回の予習が前提となり、精読の練習をする。内容について、解説・補足をし、また質疑応答・議論を行う。各章の後に分担担当者が配布資料とともにまとめを発表する。</p> <p>&lt;メッセージ&gt; ・音響物理学の科目ではありません。音声の音響的側面の基礎の基礎を易しく導入します。音を“文字”ではなく、もっと実感がわくような形で見てみませんか。 ・コソコソ: 専門的なものを読むことは最初は少し大変でしょう。しかし例年見ていると、少しずつ慣れていきます。こつこつと継続することで、年度末には必ず読解力向上が実感できるでしょう。進度や理解をチェックしながら進めて行くので、一緒に頑張りましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: Invisible sound vs. Visible letters, waveform, other representation (音の見える化)</li> <li>2. Ch 12 Making Waves: An Overview of Sound Waves, since waves, complex waves (波形の基本)</li> <li>3. Measuring waves (Frequency, amplitude and duration)</li> <li>4. Relating the physical to the psychological (どう聞こえる?)</li> <li>5. Harmonizing harmonics, resonating (音が響く, 変わる)</li> <li>6. Formalizing formants (フォルマント)</li> <li>7. Relating sound to Mouth (フォルマントと口の形)</li> <li>8. Review exercise</li> <li>9. Ch 13 Reading a Sound Spectrogram, a basic spectrogram</li> <li>10. Visualizing vowels and diphthongs (母音、二重母音)</li> <li>11. Checking clues for consonants, stops (子音、阻害音)</li> <li>12. Fricatives, affricates</li> <li>13. Approximants, nasals (子音、共鳴音)</li> <li>14. Formant frequency transition (フォルマント推移)</li> <li>15. Review exercise</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Katz, William F. (2013) <i>Phonetics for Dummies</i> . John Wiley and Sons Inc. (ISBN: 978-1-118-50508-3). その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 25%、課題・クイズ:約 25%、試験:約 50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。	

09年度以降	英語専門講読 II (はじめての音響音声学)	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 春学期に引き続き読み進め、さらなる読解力を養う。</p> <p><u>講義概要</u> 春学期に同じ。</p>  <p style="text-align: center;">j ε s (w) w i k<sup>h</sup> ʊ æ n (Yes, we can!)</p> <p>&lt;メッセージ&gt; 大丈夫。引くべからず。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Assignment review</li> <li>2. Ch 13 (continued) Spotting the harder sounds</li> <li>3. Cluing in on the clinical (言語障害)</li> <li>4. Working on tough cases, woman and children (性別、年齢)</li> <li>5. White noise, Lombard effect, cocktail party effect (現象)</li> <li>6. Other acoustical phenomena</li> <li>7. Review exercise</li> <li>8. Ch 14 Staging speech perception processes Eying speech perception, bottom up, top down or both?</li> <li>9. Timing the onset of voicing</li> <li>10. Categorical Perception (1)</li> <li>11. Categorical perception(2)</li> <li>12. Balancing phonetic forces</li> <li>13. Selected topics (1), (2)</li> <li>14. Selected topics (3), (4)</li> <li>15. Selected topics (5), (6)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Katz, William F. (2013) <i>Phonetics for Dummies</i> . John Wiley and Sons Inc. (ISBN: 978-1-118-50508-3). その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 25%、課題・クイズ:約 25%、試験:約 50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。	

09年度以降	英語専門講読 I (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも民主化、「アラブの春」、核拡散、中国の台頭などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>World Affairs</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文を用いる。これらの論文を読むことにより、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3人で1つのグループを形成し、発表を行ってもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第1回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。</p>		<p>第1回 オリエンテーション、発表担当者決め 第2～15回 要約、発表、ディスカッション</p> <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• U.S. National Intelligence Council, <i>Global Trends 2030: Alternative Worlds</i>, December 2012.</li> <li>• Robert Kaplan, <i>The Revenge of Geography</i>, <i>Foreign Policy</i>, May/June 2009.</li> <li>• African Child Mortality: The Best Story in Development, <i>The Economist</i>, May 19, 2012.</li> <li>• Bill McKibben, <i>Climate Change</i>, <i>Foreign Policy</i>, January/ February, 2009.</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		授業への参加度、課題、発表、レポートの総合評価とする。	

09年度以降	英語専門講読 II (現代国際関係論)	担当者	佐野 康子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、国際関係論の中でも米中関係、国連改革、人口増加、エネルギー問題などの個別イシューを扱う。教材としては、<i>Foreign Affairs</i>、<i>Current History</i>、<i>World Affairs</i>、<i>Foreign Policy</i> などに掲載された論文を用いる。これらの論文を読むことで、国際社会の争点を理解し、分析する力を身につける。</p> <p>基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3人で1つのグループを形成し、発表を行ってもらう。</p> <p>授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。</p> <p>なお、第1回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決定するので必ず出席すること。</p>		<p>第1回 オリエンテーション、発表担当者決め 第2～15回 要約、発表、ディスカッション</p> <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Rucher Sharma, <i>Broken BRICs</i>, <i>Foreign Affairs</i>, November/ December 2012. .</li> <li>• Francis Fukuyama, <i>The Future of History: Can Liberal Democracy Survive the Decline of the Middle Class?</i>, <i>Foreign Affairs</i>, January/ February 2012.</li> <li>• Christopher Rhoads, <i>Peacekeepers at War</i>, <i>The Wall Street Journal</i>, June 23-24, 2012.</li> <li>• Africa's hopeful economies, <i>The Economist</i>, December 3, 2011.</li> </ul>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜配布する。		授業への参加度、課題、発表、学期末レポートの総合評価とする。	

09年度以降	英語専門講読 I (異文化理解の基礎と応用)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、異文化コミュニケーション論に関連する文献の基礎的なものを読みます。異文化コミュニケーションについては異文化理解の基礎となる諸概念やコミュニケーションの仕組みについて理解することを目的とします。</p> <p>授業の形式は、グループによるプレゼンテーションを中心に行います。文献の内容を学生諸君の日常生活の中に見いだし、そのコミュニケーション現象を文献に書かれている概念を使って説明できるようになることを目指します。そして、この授業で学んだことを実生活に生かせるようになることを目指します。</p> <p>この授業は「学生の、学生による、学生のための授業」です。受講生の活発な議論を通して新しい発見をしたり、活気のある教室づくりをしたり、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業オリエンテーション</li> <li>2. プレゼンテーションの準備、方法、資料の作成</li> <li>3. 異文化コミュニケーション研究の意義（講義）</li> <li>4. }</li> <li>5. }</li> <li>6. }</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>9. }</li> <li>10. }</li> <li>11. }</li> <li>12. }</li> <li>13. }</li> <li>14. }</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol> <p>グループプレゼンテーションによる授業を行います。グループは、受講生確定後に決定します。文献は随時配布します。</p> <p>&lt;テーマ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● コミュニケーションとは何か</li> <li>● 言語コミュニケーション</li> <li>● 非言語コミュニケーション</li> <li>● 文化の側面と自己概念</li> </ul> <p>※ 内容は変更になることがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コピー教材を配布します。</li> <li>2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</li> </ol>		<p>グループワークの評価（50%）、授業への貢献度（15%）、学期末レポート（35%）により評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (異文化理解の基礎と応用)	担当者	瀬戸 千尋
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、異文化コミュニケーション論に関連する文献の発展的なものを読みます。最終的には異文化コミュニケーション論におけるいくつかの理論について理解することを目的とします。</p> <p>授業の形式は、グループによるプレゼンテーションを中心に行います。文献の内容を学生諸君の日常生活の中に見いだし、そのコミュニケーション現象を文献に書かれている概念を使って説明できるようになることを目指します。そして、この授業で学んだことを実生活に生かせるようになることを目指します。</p> <p>この授業は「学生の、学生による、学生のための授業」です。受講生の活発な議論を通して新しい発見をしたり、活気のある教室づくりをしたり、毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. }</li> <li>2. }</li> <li>3. }</li> <li>4. }</li> <li>5. }</li> <li>6. }</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>9. }</li> <li>10. }</li> <li>11. }</li> <li>12. }</li> <li>13. }</li> <li>14. }</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol> <p>グループプレゼンテーションによる授業を行います。文献は随時配布します。</p> <p>&lt;テーマ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自己概念と自己開示</li> <li>● 中国文化とコミュニケーション</li> <li>● イスラム文化とコミュニケーション</li> <li>● 異文化コミュニケーションの理論（2編）</li> </ul> <p>※ 内容は変更になることがあります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1) コピー教材を配布します。</li> <li>2) 心理学、社会学、物理学、統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など。</li> </ol>		<p>グループワークの評価（50%）、授業への貢献度（15%）、学期末レポート（35%）により評価します。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (視覚文化論入門)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> 視覚文化論の入門書として評価の高い教科書を精読していく。精読を通して視覚表象の分析とはいかなるものであるかを考察する。以下の3点が探求のテーマとなる。1) 視覚とは何か、2) 表象とは何か、3) 視覚を分析するメディア研究とは何か。これら3点のテーマについて、様々な視覚文化の表象分析とその理論が持つ射程の文化的・批判的視座を探っていく。</p> <p><b>講義概要</b> 1980年代に米国で台頭した視覚文化論はアメリカのコミュニケーション学でも最も注目される分野の一つであり、その諸相を扱っていく。視覚文化論は表象の視覚的・文化的次元を扱う新たな領域として認知されている。春学期は、教科書の第1部に当たる理論編 (Part I: Theory) を読む。コミュニケーションされた表象＝ビジュアル・イメージを分析する為の諸理論を学んでいく。 この講義の目的は、イメージや絵画を見ることを楽しむのではなく、表象が持つ今まで意識してこなかった文化的射程を「読む」ことである。如何にして理論的な「読み」の重要性をイメージの分析から見いだすことができるか。これが、学生が講義と討論で活発に探求する主題となる。テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、教科書で参照されるイメージや映像を予め各自で観ておくことは必須である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation (履修者は必ず出席すること)</li> <li>2. Iconology</li> <li>3. Iconology</li> <li>4. Form</li> <li>5. Form</li> <li>6. Art History</li> <li>7. Art History</li> <li>8. Ideology</li> <li>9. Ideology</li> <li>10. Semiotics</li> <li>11. Semiotics</li> <li>12. Hermeneutics</li> <li>13. Hermeneutics</li> <li>14. Reflection</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richard Howells and Joaquim Negreiros. <i>Visual Culture</i> . 2nd Edition (Cambridge; Malden, MA: Polity Press, 2012)		定期試験又はレポート、授業への参加度 (発表・発言等) 等から総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読 II (視覚文化論入門)	担当者	柿田 秀樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は春学期に開講される同担当者の「英語専門講読 I」と連続をなすものである。</p> <p>秋学期は、春学期と同様の教科書の第2部に当たるメディア編 (Part II: Media) を読む。春学期に学習した視覚文化論の諸理論を踏まえて、秋学期では視覚文化論が射程とする様々なメディアを取り上げ、その視覚性を検討していく。絵画や写真、映画、テレビ等のメディアの視覚性を、前学期に学習した理論的アプローチを基礎にして、再考することになる。</p> <p>この講義の目的は、イメージや絵画を見ることを楽しむのではなく、表象が持つ今まで意識してこなかった文化的射程を「読む」ことである。如何にして理論的な「読み」の重要性をイメージの分析から見いだすことができるか。これが、学生が講義と討論で活発に探求する主題となる。したがって、テキストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、教科書で参照されるイメージや映像を予め各自で観ておくことは必須である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation (履修者は必ず出席すること)</li> <li>2. Fine Art</li> <li>3. Fine Art</li> <li>4. Photography</li> <li>5. Photography</li> <li>6. Film</li> <li>7. Film</li> <li>8. Television</li> <li>9. Television</li> <li>10. New Media</li> <li>11. New Media</li> <li>12. Conclusion</li> <li>13. Reflection</li> <li>14. Reflection</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Richard Howells and Joaquim Negreiros. <i>Visual Culture</i> . 2nd Edition (Cambridge; Malden, MA: Polity Press, 2012)		定期試験又はレポート、授業への参加度 (発表・発言等) 等から総合的に評価する。	

09年度以降	英語専門講読 I (火4) (現代東南アジア諸国の経済・政治)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は以下の3点です。</p> <p>①東南アジア諸国の経済・政治の基本的知識および各国の現状分析に必要な視点や手法を習得する。</p> <p>②東南アジアの地域研究 (area studies) のみならず、広く国際関係や経済・政治を中心とする社会科学を勉強・理解するために不可欠な概念・知識を身につける。</p> <p>③効果的なプレゼンテーション・スキルを身につける。</p> <p>これら目的のために、テキストに基づき東南アジア各国の経済・政治に関する諸問題を取り上げます。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定された部分の全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読(現代東南アジアの経済・政治) I (春)と同II (秋)は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p> <p>初回の授業で1時間程度の英文読解力を計るためのテスト(国際政治経済の時事問題に関する英文和訳:辞書なし)を実施します。</p>		<p>第1回:イントロダクション:シラバス(授業計画)を配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回~第15回:テキストのチャプターに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答、討論、さらにフォローアップ(次週)を行います。</p> <p>テキスト: Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2014</i>, ISEAS, 2014. (約360頁、価格は2700円程度)。</p> <p>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。この他に下記の資料もサブ・テキストとして使用します。</p> <p>CIA, <i>The World Factbook</i> (<a href="https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/">https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/</a>)</p> <p>・テキストは担当者が授業開始前に一括注文します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業計画欄を参照のこと。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		受講状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09年度以降	英語専門講読 II (火4) (現代東南アジア諸国の経済・政治)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。</p> <p>授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論、および次週のフォローアップを軸に進めます。また、テキストの指定された部分の全訳を受講者に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、金子担当の英語専門講読(現代東南アジアの経済・政治) I (春)と同II (秋)は継続性が強いので、<u>本授業(II)の履修については春学期のIを履修していることを前提に進めます。</u>また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>第1回:イントロダクション:シラバス(授業計画)を配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回~第15回:テキストのパート(チャプター)に沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト: I Institute of Southeast Asian Studies, <i>Southeast Asian Affairs 2014</i>, ISEAS, 2014. (約360頁、価格は2700円程度)。</p> <p>・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。この他に下記の資料もサブ・テキストとして使用します。</p> <p>CIA, <i>The World Factbook</i> (<a href="https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/">https://www.cia.gov/library/publications/the-world-factbook/</a>)</p> <p>・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業計画欄を参照のこと。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。		受講状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が3回に達した時点で履修者リストから除外します。	



09年度以降	英語専門講読 I (英国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。</p> <p>使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
高価なため、コピーを配布します。		毎回出席をとります。授業日数の1/3以上欠席された方は単位をあげません。遅刻2回で欠席1回にカウント。	

09年度以降	英語専門講読 II (米国ユダヤ人史)	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>米国ユダヤ人史の概説書を使用します。</p>		<p>最初の授業で説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期と同じ		春学期と同じ	

09年度以降	英語専門講読 I (火4) (グローバル・ブランドと国際関係)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、グローバル・ブランド研究と共に国際関係の研究——これら2本のテーマを設定しています。</p> <p>ココ・チャネル、ルイ・ヴィトン、フォートナム&amp;メイソン、アジアのブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。</p> <p>プレゼンはグループごとに行ないます。約5名でひとつのグループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての2年生でも、3・4年生の経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p> <p>国際関係のテーマは、米国専門誌 "Asian Survey" などから、中国、朝鮮半島、東南アジア、南アジアなどに関する論文を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション テキストやテーマの説明、グループの編成</li> <li>2 グローバル・ブランド</li> <li>3 同上</li> <li>4 同上</li> <li>5 同上</li> <li>6 国際関係のテーマ</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 グローバル・ブランド</li> <li>11 同上</li> <li>12 同上</li> <li>13 同上</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books, 2012); Tea at Fortnum &amp; Mason—Piccadilly since 1707(Ebury Books, 2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &amp; Sons, 2006).</i>		プレゼン資料、プレゼンテーション、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (火4) (グローバル・ブランドと国際関係)	担当者	竹田 いさみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、グローバル・ブランド研究と共に国際関係の研究——これら2本のテーマを設定しています。</p> <p>ココ・チャネル、ルイ・ヴィトン、フォートナム&amp;メイソン、アジアのブランド企業を取り上げ、ブランド企業の誕生、成長、ロゴ・マークの意味などに注目して、プレゼンを行っていきます。</p> <p>プレゼンはグループごとに行ないます。約5名でひとつのグループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行ないます。専門講読が初めての2年生でも、3・4年生の経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p> <p>国際関係のテーマは、米国専門誌 "Asian Survey" などから、中国、朝鮮半島、東南アジア、南アジアなどに関する論文を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション テキストやテーマの説明、グループの編成</li> <li>2 グローバル・ブランド</li> <li>3 同上</li> <li>4 同上</li> <li>5 同上</li> <li>6 国際関係のテーマ</li> <li>7 同上</li> <li>8 同上</li> <li>9 同上</li> <li>10 グローバル・ブランド</li> <li>11 同上</li> <li>12 同上</li> <li>13 同上</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>E. Baxter-Wright, The Little Book of Chanel(Carlton Books, 2012); Tea at Fortnum &amp; Mason—Piccadilly since 1707(Ebury Books, 2010); Paul Temporal, Asia's Star Brands(John Wiley &amp; Sons, 2006).</i>		プレゼン資料、プレゼンテーション、質疑応答への貢献度などによって評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (ポピュラー・カルチャー入門 ①)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、ポピュラー・カルチャーについて、初歩的な説明や分析ができるようになることを目指します。消費者（欲望を刺激され動かされる側）としてではなく、文化研究者（の卵）としてポピュラー・カルチャーをとらえ、私たちが生活する後期資本主義文化について複眼的に考える方法を身につけましょう。</p> <p>授業形式は、グループ・ワークとグループ発表が中心となります。学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。</p> <p>使用するテキストについては注意が必要です。テキストは、<u>第5版（水色の最新版）</u>ではなく、<u>第4版（オレンジ色の表紙）</u>を使用します。初回の授業で共同購入申請ができるよう、現在、その手続き方法について検討中です。（各自で購入しても構いません。）また、数が限定されますが、テキストの貸し出しも検討中です。詳しくは初回の授業で説明します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Overview</li> <li>2. Introduction</li> <li>3. What Is Popular Culture? (1)</li> <li>4. What Is Popular Culture? (2)</li> <li>5. The 'Culture and Civilization' Tradition (1)</li> <li>6. The 'Culture and Civilization' Tradition (2)</li> <li>7. Culturalism (1)</li> <li>8. Culturalism (2)</li> <li>9. Marxisms (1)</li> <li>10. Marxisms (2)</li> <li>11. Case Study (1)</li> <li>12. Case Study (2)</li> <li>13. Group Counseling</li> <li>14. Presentation (1)</li> <li>15. Presentation (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> (Univ. of Georgia Press, 2006: 第4版)		<p>①参加&amp;貢献度（発表など）：50%（理由にかかわらず5回以上の欠席で学期成績がF又は×となります。）</p> <p>②クイズ：50%（複数回実施予定）</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (ポピュラー・カルチャー入門 ②)	担当者	板場 良久
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期からの続きです。目的や授業形式、使用テキストは春学期と同じです。</p> <p>学期末には、授業で学んだことに関する応用課題が与えられ、それに関する口頭発表をグループ単位で行っていただきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Overview</li> <li>2. Psychoanalysis (1)</li> <li>3. Psychoanalysis (2)</li> <li>4. Structuralism and Post-structuralism (1)</li> <li>5. Structuralism and Post-structuralism (2)</li> <li>6. Gender and Sexuality (1)</li> <li>7. Gender and Sexuality (2)</li> <li>8. Postmodernism (1)</li> <li>9. Postmodernism (2)</li> <li>10. The Politics of the Popular (1)</li> <li>11. The Politics of the Popular (2)</li> <li>12. Case Study</li> <li>13. Group Counseling</li> <li>14. Presentation (1)</li> <li>15. Presentation (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Storey, <i>Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction</i> (Univ. of Georgia Press, 2006: 第4版)		<p>①参加&amp;貢献度（発表など）：50%（理由にかかわらず5回以上の欠席で学期成績がF又は×となります。）</p> <p>②クイズ：50%（複数回実施予定）</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (水1) (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的は3つあります。第1に、国際関係論や地域研究 (area studies) にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第2に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第3に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。</p> <p>上記の目的に沿って、テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとにテキストの指定された部分を精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。</p> <p>なお、英語専門講読(アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春)と同II (秋)は継続して履修することを前提とします。また、本授業の受講者数には上限があります。</p> <p>初回の授業で1時間程度の英文読解力を計るためのテスト(国際政治経済の時事問題に関する英文和訳:辞書なし)を実施します。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第15回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト：下記のシリーズの中から articles を選択 ISEAS, <i>ISEAS Monitor Series</i>, ISEAS. ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i>, ISEAS. (<a href="http://www.iseas.edu.sg/">http://www.iseas.edu.sg/</a>からダウンロード)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。</li> <li>・テキストについては、担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時にプリントして配布（場合によっては受講者各自にダウンロードとプリントを任せます）。事前入手の必要はありません。</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時に印刷して配布。事前入手の必要はありません。		受講状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09年度以降	英語専門講読 II (水1) (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目的および進め方については、英語専門講読 I と同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストの部分を精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。</p> <p>なお、英語専門講読 (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係) I (春学期) と同II (秋学期) は継続性が強いいため、<u>本授業 (II) の履修については春学期の I を履修していることを前提に進めます。</u>また、本授業の受講者数には上限があります。</p>		<p>第1回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第2回目以降の担当を決めます。</p> <p>第2回～第15回：指定したテキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。</p> <p>テキスト：下記のシリーズの中から articles を選択 ISEAS, <i>ISEAS Monitor</i>, ISEAS. ISEAS, <i>ISEAS Perspective Series</i>, ISEAS. (<a href="http://www.iseas.edu.sg/">http://www.iseas.edu.sg/</a>からダウンロード)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの内容は、近年におけるアジア太平洋地域の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についてのイシュー別の分析・解説。</li> <li>・テキストについては、担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時にプリントして配布（場合によっては受講者各自にダウンロードとプリントを任せます）。事前入手の必要はありません。</li> </ul>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当者が取り扱う号をダウンロードし、初回の授業時に印刷して配布。事前入手の必要はありません。		受講状況、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数3回に達した時点で履修者リストから除外します。	

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『怒りの葡萄』(<i>The Grapes of Wrath</i>, 1939)、『エデンの東』(<i>The East of Eden</i>, 1952)の著者であり、1962年にノーベル文学賞を受賞したJohn Steinbeck(1902-1968)は、20世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二作品の他、多様のジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、『ハツカネズミと人間』(<i>Of Mice and Men</i>, 1937)を中心に彼の作品を扱ってゆく。</p> <p>毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、映画と作品を比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。</p>		<p>1: Introduction: 作家John Steinbeckと代表作品を紹介</p> <p>2: <i>Of Mice and Men</i> の時代背景</p> <p>3: 小説を読む楽しみについて/修辞法解説</p> <p>4: <i>Of Mice and Men</i> の精読 part 1</p> <p>5: " "</p> <p>6: " "</p> <p>7: <i>Of Mice and Men</i> の精読 part 2</p> <p>8: " "</p> <p>9: " "</p> <p>10: <i>Of Mice and Men</i> の精読 part 3</p> <p>11: " "</p> <p>12: " "</p> <p>13: <i>Of Mice and Men</i> の映画鑑賞</p> <p>14: Review</p> <p>15: Review / レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Steinbeck, <i>Of Mice and Men</i> , Nan'un-do		授業参加度 (30%)、提出物 (20%)、授業中の発表 (20%)、期末レポート (30%) を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ文学: John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷 優子
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期と同様。		<p>1: 前期レポートの返却と寸評</p> <p>2: <i>Of Mice and Men</i> の精読 part 4</p> <p>3: " "</p> <p>4: " "</p> <p>5: <i>Of Mice and Men</i> の精読 part 5</p> <p>6: " "</p> <p>7: " "</p> <p>8: <i>Of Mice ad Men</i> の精読 part 6</p> <p>9: " "</p> <p>10: " "</p> <p>11: <i>Of Mice and Men</i> の映画と小説を比較</p> <p>12: 批評を読む</p> <p>13: "</p> <p>14: Review</p> <p>15: テスト / レポート回収</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Steinbeck, <i>Of Mice and Men</i> , Nan'un-do		授業参加度 (30%)、提出物 (20%)、授業中の発表 (20%)、期末レポート (30%) を総合的に評価。全体の 2/3 の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。	

09年度以降	英語専門講読 I (Korea Today)	担当者	キム ウンヒ 金 雄熙
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course show the process that the Korean society of today had undergone through the history and culture of the past and present, through dealing with such diverse topics as geographical environment and peculiarity, population and language, history, constitution and government, economy and industry, social evolution, international relations. By doing so, we will be able to renew fully our understanding of Korean society.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. GEOGRAPHIC SETTING</li> <li>2. PEOPLE AND LANGUAGE①</li> <li>3. PEOPLE AND LANGUAGE②</li> <li>4. THE EMERGENCE OF THE NATION</li> <li>5. THE NATION: ITS COMMUNITY AND IDENTITY</li> <li>6. MODERN HISTORY AND POLITICAL DEVELOPMENT</li> <li>7. CONSTITUTION AND GOVERNMENT</li> <li>8. SUMMARY</li> <li>9. ECONOMIC DEVELOPMENT PROCESS</li> <li>10. ECONOMIC RESTRUCTURING</li> <li>11. TRADE AS AN ENGINE OF GROWTH</li> <li>12. SOCIAL DEVELOPMENT</li> <li>13. DIPLOMATIC RELATIONS AND FOREIGN POLICY①</li> <li>14. DIPLOMATIC RELATIONS AND FOREIGN POLICY②</li> <li>15. SUMMARY</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する</p>		<p>中間テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常授業における課題などの実績 (20%) で評価する。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>毎回授業開始時に英語の vocabulary テストを行います。</p> <p>教室で読むテキストは、第1回～15回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。</p> <p>Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。</p> <p>指定する演劇の観劇レポート(450字以上500字以下)に関する事など、詳細は教室にて説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です		<p>毎回授業開始時に行う英語 vocabulary テストで60%。 観劇レポート(450～500字)2編で40%。レポートは2編必修です。2編提出しない場合は単位を認めません。 学期末に定期試験はしません。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (英語圏の現代演劇)	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の現代演劇の台本をテキストにして英語の主としてさまざまな会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の10～15ページ前後までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを読んでいます。きちんと辞書を引いて、舞台上で交される話し言葉の日本語訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>毎回授業開始時に英語の vocabulary テストを行います。</p> <p>教室で読むテキストは、第1回～15回まで、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>また、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。</p> <p>Reading StrategiesⅢ・Ⅳのクラスよりも、英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。</p> <p>指定する演劇の観劇レポート(450字以上500字以下)に関する事など、詳細は教室にて説明します。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です		<p>毎回授業開始時に行う英語 vocabulary テストで60%。 観劇レポート(450～500字)2編で40%。レポートは2編必修です。2編提出しない場合は単位を認めません。 学期末に定期試験はしません。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (インコタームズ®の貿易条件を学ぶ)	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>インコタームズ® (Incoterms®) とは、国際商業会議所 (the International Chamber of Commerce; ICC) が制定した「貿易条件の解釈に関する統一規則」であり、1936年の制定以来、長年にわたって貿易取引の迅速化・効率化に貢献してきました。数次の改訂を経て、現在、最新版の Incoterms®2010と旧版の Incoterms®2000がもっぱら実務に使用されています。インコタームズ®を貿易取引に採用すれば、FOBやCIF等の貿易条件 (trade terms) の略号を表示することにより、売主と買主の義務、費用負担、貨物の引渡し場所などが明確になり、誤解や紛争が防げます。</p> <p>ところで、貿易実務やビジネス・コミュニケーションの学習者にとって不可欠な知識でありながら、インコタームズ®だけに焦点をあてて広く深く勉強するといった機会はこれまでほとんどありませんでした。そこで、この授業では、海外の文献を使用して、インコタームズ®が規定する各々の貿易条件を徹底的に学習することにより、単に実務的な知識を身につけるだけでなく、いわゆるロジスティクスの観点からも貿易条件の活用法を考察します。</p> <p>なお、担当者の長期学外研修のため、2015年度は春学期のみの開講となります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. Incoterms®2000 が規定する 4 類型・13 条件の概略</li> <li>3. E 類型 (出荷地条件) の概略と EXW (工場渡し) における売主と買主の責任</li> <li>4. F 類型 (主要運賃買主負担条件) の概略と FAS (船側渡し) における売主と買主の責任</li> <li>5. FOB (本船渡し) における売主と買主の責任</li> <li>6. FCA (運送人渡し) における売主と買主の責任</li> <li>7. C 類型 (主要運賃込み条件) の概略と CFR (運賃込渡し) における売主と買主の責任</li> <li>8. CIF (運賃保険料込渡し) における売主と買主の責任</li> <li>9. CPT (輸送費込渡し) および CIP (輸送費保険料込渡し) における売主と買主の責任</li> <li>10. -11. D 類型 (到着条件) の概略と D 類型の各貿易条件 (DAF, DES, DEQ, DDU, DDP) における売主と買主の責任</li> <li>12. 改正米国貿易定義(1941)と Incoterms®2000 の比較</li> <li>13. -14. 主要貿易条件を用いた輸出入価格の積算訓練</li> <li>15. 総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Petersen, Catherine J., <i>Incoterms® 2000 and Incoterms ®2010: A Practical Review</i> , Global Training Center Inc., 2011 および配布プリント		期末試験の結果 (概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20%の比重) を合計して評価します。	



09年度以降	英語専門講読 I (水2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、以下の3つの目標(チャレンジ)が設定されています。</p> <p>第1の目標は、グローバル社会のトピック(雑誌記事)に注目することです。 第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第3の目標は、受講生が発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>授業は、出来る限り英語で行います。英語によるプレゼンテーション能力の開発に力を入れます。</p> <p>プレゼンは、グループごとに行ないます。数名でひとつのグループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行います。</p> <p>専門講読が初めての2年生でも、3・4年生の経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p> <p>重複履修をする場合は、担当教員と相談して下さい。</p>		<p>プレゼンは、グループごとに行います。このグループ・プレゼンが終わった後で、クラスを受講生全員を4～5のグループに分けます。小さなグループごとに質疑応答を行います。</p> <p>授業の後半で再び全体で集まり、小さなグループごとの討議内容をレポートしてもらいます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、モデル・プレゼン</p> <p>第2回～14回 グループ・プレゼン 小さなグループごとの質疑応答 全体での質疑応答</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
アメリカの専門誌“Foreign Affairs”などに掲載された記事を適宜配布します。		プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (水2) (英語でグローバル社会を語る)	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、以下の3つの目標(チャレンジ)が設定されています。</p> <p>第1の目標は、グローバル社会のトピック(雑誌記事)に注目することです。 第2の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第3の目標は、受講生が発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。</p> <p>授業は、出来る限り英語で行います。英語によるプレゼンテーション能力の開発に力を入れます。</p> <p>プレゼンは、グループごとに行ないます。数名でひとつのグループを作り、プレゼンの準備をみんなで一緒に行います。</p> <p>専門講読が初めての2年生でも、3・4年生の経験が豊かな上級生とグループ作業を行いますので、心配や不安はありません。</p> <p>重複履修をする場合は、担当教員と相談して下さい。</p>		<p>プレゼンは、グループごとに行います。このグループ・プレゼンが終わった後で、クラスを受講生全員を4～5のグループに分けます。小さなグループごとに質疑応答を行います。</p> <p>授業の後半で再び全体で集まり、小さなグループごとの討議内容をレポートしてもらいます。</p> <p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方、モデル・プレゼン</p> <p>第2回～14回 グループ・プレゼン 小さなグループごとの質疑応答 全体での質疑応答</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
アメリカの専門誌“Foreign Affairs”などに掲載された記事を適宜配布します。		プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course provides intensive training on reading different types of articles to build and develop integrated reading skills.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. The Importance of NVC</li> <li>3. Greetings: Kiss, Bow or Shake Hands</li> <li>4. Smile across cultures</li> <li>5. The Picture Paints a Thousand Words</li> <li>6. Body Language: Is It Important</li> <li>7. The Confusing World of Gestures</li> <li>8. Time Value Across Cultures</li> <li>9. Interpersonal Space and Distance</li> <li>10. Space Communication Style</li> <li>11. The Tempura Metaphor</li> <li>12. The Ping-Pong Metaphor</li> <li>13. Gender Styles in Communication</li> <li>14. Culture and Communication Style</li> <li>15. Summary and Assessment</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	

09年度以降	英語専門講読 II (Culture and Communication)	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course provides intensive training on reading different types of challenging articles to build and develop integrated reading skills.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review of First Term</li> <li>2. Computer for Literacy?</li> <li>3. The Power of You Tube</li> <li>4. SNS: Addicting?</li> <li>5. Fashion in Italy and around</li> <li>6. Self-Disclosure across Cultures</li> <li>7. Self-Assertiveness across Cultures</li> <li>8. The Skills of Active Listening</li> <li>9. Conflict Management</li> <li>10. Culture Values: Are they Changing?</li> <li>11. Ethnocentrism</li> <li>12. Barrier to Communication: Stereotypes</li> <li>13. Barrier to Communication: Prejudice</li> <li>14. Barrier to Communication: Discrimination</li> <li>15. Summary and Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on weekly exercises, quizzes and other papers that might be assigned in class.	

09年度以降	英語専門講読 I (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。</p> <p><b>概要</b> 春学期は、主に教科書を中心に第二外国語としての英語リスニング・発音指導の問題点や課題、そして提案されている解決策を学習する。学期の後半は、ペアあるいはグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材作成」も試みる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. Introduction (教科書 viii-xv) : いわゆる「アクセント」とは何か?等</li> <li>3. Unit 1：シラブル（音節）とは</li> <li>4. Unit 2：母音のルール</li> <li>5. Unit 3：強勢と母音長との関係1</li> <li>6. Unit 4：強勢と母音長との関係2</li> <li>7. Unit 1-4のまとめ</li> <li>8. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>9. Unit 5：語強勢のさまざまなパターン</li> <li>10. Unit 6：内容語の文における役割</li> <li>11. Unit 7：機能語の役割（音としては弱いが重要）</li> <li>12. 教材作成タスク ①</li> <li>13. 教材作成タスク ②</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 『Clear Speech - Pronunciation and Listening Comprehension in North American English - Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』 (2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。	

09年度以降	英語専門講読 II (実践的な英語の聴解・発音教育)	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> 従来の英語「音」の学習では子音や母音などの個別音に焦点を置いたものが多く、学習者そして教育者の側でも音声学の専門用語のイメージから苦手意識を持つ傾向にある。しかし実際は英語の持つリズム、強弱のコントラスト、そしてイントネーションなどの「音楽性」が英語らしさを左右し、コミュニケーションの場で重視されるという現実が研究そして教育の現場から多く報告されている。本講義では、こうした現実を踏まえ、母音や子音を意識しながらもフレーズや文などの「大きな単位で」英語の音をとらえ、聴解力・発音力の向上を目的とする教授法を分析し、体系化を図っていく。</p> <p><b>概要</b> 第二外国語としての英語リスニング・発音の研究資料、あるいはウェブ教材なども参考にしながら、実践的な教授法を学習する。様子を見て、この学期の後半も、ペアあるいはグループワークで「英語音を習得するための効果的な教材作成」に取り組む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. Unit 8：文のなかで強調される部分</li> <li>3. Unit 9：機能語をあえて強調する</li> <li>4. Unit 10：英語の /s/と/t/</li> <li>5. Unit 11：英語の /r/と/d/, /l/と/d/</li> <li>6. Unit 12：有声音・無声音について</li> <li>7. Unit 8～12のまとめ</li> <li>8. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>9. Unit 13：シラブルの長さとは有声音・無声音との関係</li> <li>10. Unit 14：‘Sibilants’</li> <li>11. Lecture for Listening Practice</li> <li>12. 教材作成（グループワーク）①</li> <li>13. 教材作成（グループワーク）②</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 『Clear Speech - Pronunciation and Listening Comprehension in North American English - Teacher's Resource and Assessment Book. 4th Edition』 (2012) Judy B. Gilbert 著 Cambridge University Press		中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。	

09年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn fundamental principles and theories of second language acquisition as well as practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Reflecting on your own learning</li> <li>3. Approach, method, and technique 1</li> <li>4. Approach, method, and technique 2</li> <li>5. The postmethod era 1</li> <li>6. The postmethod era 2</li> <li>7. Teaching by principles</li> <li>8. Motivation in the classroom</li> <li>9. Teaching across age levels</li> <li>10. Teaching across proficiency levels</li> <li>11. Sociocultural, political and institutional contexts</li> <li>12. Initiating interaction in the classroom</li> <li>13. Sustaining interaction through group work</li> <li>14. Classroom management</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Brown, H.D. (2007). <i>Teaching by Principles: An interactive approach to language pedagogy</i> . 3 <sup>rd</sup> edition, Pearson/Longman.		in-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and journals(30%), self evaluation(20%)	

09年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡 千利世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this course, you will learn fundamental principles and theories of second language acquisition as well as practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves.</p> <p><i>All the coursework will be conducted in English.</i> You will be encouraged to actively participate in the class activities.</p> <p>This course is recommended for students who are in the teacher training course.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Integrating the four skills</li> <li>3. Teaching listening</li> <li>4. Teaching speaking</li> <li>5. Teaching reading</li> <li>6. Teaching writing</li> <li>7. Teaching vocabulary</li> <li>8. Teaching pronunciation</li> <li>9. Form-focused instruction</li> <li>10. Strategies-based instruction</li> <li>11. Language assessment 1</li> <li>12. Language assessment 2</li> <li>13. Classroom-based assessment</li> <li>14. The “good” language teacher</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Brown, H.D. (2007). <i>Teaching by Principles: An interactive approach to language pedagogy</i> . 3 <sup>rd</sup> edition, Pearson/Longman.		in-class participation(20%), presentations(30%), reading assignments and journals(30%), self evaluation(20%)	

09年度以降	英語専門講読 I (木1) (Travel Writing 1: 外国人が旅する Japan)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>訪日外国人の増加を伝えるニュースに接する機会が多くなっていますが、彼らはどのようなJapanに関する情報のもとに、この東アジアの島国を旅するのでしょうか。</p> <p>この授業では、世界で最も読まれている観光ガイドブック・シリーズLonely PlanetのJapan編を取り上げ、日本の歴史、文化、建築、食文化などを紹介した部分を批判的に読み解き、「外国人が旅するJapan」の一断面を理解することを目的とします。</p> <p>Lonely Planetは英語版をはじめ、中国語や韓国語などにも翻訳されており、おもに個人旅行者が使うガイドブックとして世界的に知られています。そのJapan編は数年ごとに不定期改訂されるため、最新版を初回の授業で確認し、購入するか該当部分をコピーするか希望を募ります。</p> <p>授業では、①グループでレジュメを作成して発表し、②トピックを一つ選んで調査報告し、③全体で討論する、という方法をとります。履修者には主体的に課題に取り組み、また積極的に関連資料の収集や調査、そして討論に参加することを期待します。</p>		<p>1 ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け</p> <p>2 講義：観光ガイドブックのメディア特性について 補助資料の集め方と分析方法について</p> <p>3～14 発表、ディスカッション</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Lonely Planet, <i>Japan</i> , ほか。授業開始の直前に最新版が刊行されることもあるため、初回の授業で確認するまでテキストの購入は控えてください。		授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 20%、 期末レポート 20%によって総合的に評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (木1) (Travel Writing 2: 歴史、思考、実践的技法)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、Travel Writing の歴史と考え方、そして実践的な技法を学ぶことで、われわれの世界をよりよく「観る」ための視点を身につけることを目指します。</p> <p>Travel Writing はプロの作家やライターだけが書く旅行本や紀行記事ではありません。たとえば日常生活する町や通学・通勤の道などを Travel Writing の視点から「観る」ことで、新たな発見や深い理解を得ることができる、知的な技法です。</p> <p>授業では、Travel Writing の歴史や技法に関する複数の文献を合わせ読み（コピーを配布の予定）、「書く」ことを通じて「観る」ことを養う考え方を学びます。終盤では履修者と相談のうえ、Travel Writing を実践する予定です（たとえば「松原団地駅から大学までの道」について英語または日本語の短文を書き、全員で合評会をする、など）。</p> <p>履修者には、上記のワークショップ型の実践を含む複数の課題に前向きに取り組むこと、また毎回の討論に積極的に参加することを求めます。</p>		<p>1 ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け</p> <p>2 講義：よく「観る」方法としての Travel Writing 講読文献と課題について</p> <p>3～11 発表、ディスカッション</p> <p>12～15 ワークショップ：Travel Writing の実践と合評会</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Tim Youngs (2013) <i>The Cambridge Introduction to Travel Writing</i> , Cambridge University Press. Don George (2013) <i>Lonely Planet's Guide to Travel Writing</i> , 3 <sup>rd</sup> ed., Lonely Planet. ほか（該当部分をコピーする予定）		授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 20%、 期末レポート 20%によって総合的に評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Diplomacy is one of the central aspects in the study of international relations. By examining the nature of diplomacy from various historical perspectives, this course attempts to understand diplomacy, which serves as an essential factor in shaping contemporary international politics today. In the spring semester, the focus will be placed on the evolution of diplomacy, along with some historical events.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students wishing to learn the essential aspects of international relations in English. Students are required to purchase the textbook from the university bookstore DUO <b><u>before the first class.</u></b></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Evolution of Diplomacy (1)</li> <li>3. Evolution of Diplomacy (2)</li> <li>4. Evolution of Diplomacy (3)</li> <li>5. Diplomacy of the American Revolution (1)</li> <li>6. Diplomacy of the American Revolution (2)</li> <li>7. Diplomacy of the American Revolution (3)</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. Diplomacy of the American Revolution (4)</li> <li>10. Diplomacy of the American Revolution (5)</li> <li>11. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (1)</li> <li>12. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (2)</li> <li>13. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (3)</li> <li>14. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (4)</li> <li>15. Diplomatic Origins of the Great War and Versailles (5)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09年度以降	英語専門講読 II (Diplomacy and International Relations)	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purpose of this course is as above. In the fall semester, the focus will be placed on more historical events and the changing nature of diplomacy in the age of globalization and beyond.</p> <p>Each class will be conducted using the textbook indicated below. Students are expected to be able to summarize designated paragraphs from the textbook and also engage in discussions based on various topics related to the subject suggested by the instructor. Furthermore, there will be quizzes and or assignments every week.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students wishing to learn the essential aspects of international relations in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (1)</li> <li>2. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (2)</li> <li>3. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (3)</li> <li>4. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (4)</li> <li>5. The Night Stalin and Churchill Divided Europe (5)</li> <li>6. The ANZUS Treaty (1)</li> <li>7. The ANZUS Treaty (2)</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. The ANZUS Treaty (3)</li> <li>10. The ANZUS Treaty (4)</li> <li>11. Diplomacy in the Age of Globalization (1)</li> <li>12. Diplomacy in the Age of Globalization (2)</li> <li>13. Diplomacy in the Age of Globalization (3)</li> <li>14. Diplomacy in the Age of Globalization (4)</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Siracusa, Joseph M., <i>Diplomacy: A Very Short Introduction</i> (Oxford: Oxford University Press, 2010).		Evaluation will be made according to participation (20%), quizzes/assignments (40%), and examinations (40%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

09年度以降	英語専門講読 I (ツーリズムの現状と課題)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 我が国を訪問する外国人旅行者は1000万人を突破したが、我が国のツーリズムはまだまだ発展途上である。本講義は、英語文献を通して我が国のツーリズムの現状を理解すること、さらに、英語によるプレゼンテーション手法を習得することを目的としている。</p> <p>講義概要： ツーリズム関連資料（英文）の読解と、受講生によるパワーポイントを使用した英語、あるいは日本語によるプレゼンテーション+ディスカッションで構成されている。できるだけ英語を使用する時間を長くし、英語を使った学習を実践する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Outline of Tourism in Japan</li> <li>3. Japan's World Heritage Site</li> <li>4. Presentation &amp; Discussion 1-(1)</li> <li>5. Presentation &amp; Discussion 1-(2)</li> <li>6. Presentation &amp; Discussion 1-(3)</li> <li>7. Presentation &amp; Discussion 1-(4)</li> <li>8. Culture of Japan &amp; "Cool Japan"</li> <li>9. Travel &amp; Tourism Competitiveness</li> <li>10. Japanese National Culture</li> <li>11. Pros and Cons of Japanese Tourism</li> <li>12. Presentation &amp; Discussion 2-(1)</li> <li>13. Presentation &amp; Discussion 2-(2)</li> <li>14. Presentation &amp; Discussion 2-(3)</li> <li>15. Presentation &amp; Discussion 2-(4)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストを適宜配布する。		受講姿勢、講義参加度：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

09年度以降	英語専門講読 II (The Leaders of Airline Business)	担当者	井上 泰日子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 本講義においては、LCCモデル創設の原点に立ち返り、LCCモデル創出の背景、成功の秘訣、また、その企業をリードした名経営者の手法を学習する。</p> <p>講義概要： 航空は大変重要な産業であるが、米国における航空の重要性は我が国の比ではない。米国はライト兄弟による人類初飛行以来、たえず世界をリードしている航空の最先進国である。近年LCC（低コスト航空会社）が注目を集めているが、その原点は米国にあり、この新しいビジネスモデルは、小規模な航空会社が大手航空会社との競争に打ち勝つために創造したものであった。しかし、同様のモデルを採用しながらも破綻した企業もあり、本学習を通して企業経営の成功と失敗の本質の考察を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Outline of LCC</li> <li>3. PSA's Modest Beginning</li> <li>4. Southwest's Early Years</li> <li>5. Response to Local and National Regulation and Deregulation</li> <li>6. PSA's Diversification versus Southwest's Focus</li> <li>7. Kelleher – The Founder as CEO</li> <li>8 – 9. Southwest versus Traditional Carriers: Different Approaches to Expansion</li> <li>10. The Southwest Effect</li> <li>11. The End of an Era?</li> <li>12. Presentation &amp; Discussion (1)</li> <li>13. Presentation &amp; Discussion (2)</li> <li>14. Presentation &amp; Discussion (3)</li> <li>15. Presentation &amp; Discussion (4)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>“Entrepreneurs, Managers, and Leaders- What the Airline Industry Can Teach Us About Leadership”</i> の対象ページを配布する。		受講姿勢、講義参加度：70% プレゼンテーションとレポート：30%	

09年度以降	英語専門講読 I (Global Woman)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、グローバル化した世界のなかでのジェンダー問題についてのエッセイや論文を読む。定本とするのは、Global Woman: Nannies, Maids and Sex Workers in the New Economy (2002) である。</p> <p>「グローバル・ウーマン」という言葉から、あなたは何を連想するだろうか。ある授業で、アンケートをとったところ、次のようなイメージが大半をしめた。たとえば、有益な仕事につき、外国語を操り、国境を越えて活躍する女性。高収入、という答えもあれば、ハイヒールで空港を闊歩している、というものもあった。</p> <p>しかし、現在、国境を越えて移動する女性たちの多くは、第三世界から第一世界への低賃金の移民労働者である。彼女たちが担うのは、第一世界の女性たちが好まなくなった「女性の役割」だ。テキストの副題にあるとおり、家事、育児、そしてセックス・ワークが彼女たちの主な仕事なのである。その労働の現場では、どのような問題が起こっているのだろうか。(以下、(秋)の頁へ続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction (1)</li> <li>2. Introduction (2)</li> <li>3. Introduction (3)</li> <li>4. Love and Gold (1)</li> <li>5. Love and Gold (2)</li> <li>6. Nanny Dilemma</li> <li>7. The Care Crisis in the Philippines (1)</li> <li>8. The Care Crisis in the Philippines (2)</li> <li>9. Maid to Order (1)</li> <li>10. Maid to Order (2)</li> <li>11. Just Another Job? The Commodification of Domestic Labor (1)</li> <li>12. Just Another Job? The Commodification of Domestic Labor (2)</li> <li>13. Presentation (1)</li> <li>14. Presentation (2)</li> <li>15. Presentation (3)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストを共同購入予定。入手困難であれば、ハンドアウトを使用。参考文献については授業内で紹介する。		授業への貢献度(30%)、数回の小テスト(35%)、プレゼンテーション(35%)による。(パーセンテージは予定であり、変更の可能性がある)	

09年度以降	英語専門講読 II (Global Woman)	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>そもそも、何がこのような状況を生み出しているのか。原因は複合的なものである。グローバリゼーションの問題とジェンダーの問題とが、複雑に絡み合っているのだ。</p> <p>第三世界からの女性移民労働者の問題は、単純に彼女たちだけの問題ではない。彼女たちが後に残してくる家族、また彼女たちを必要とする、第一世界側の男性と女性にも関わってくるのである。つまり、第三世界からの女性移民労働者の問題について考えると、いくつもの異なる社会のジェンダーシステムが抱える課題が見えてくるのである。</p> <p>様々な問題を扱ったエッセイや論文を読み、グローバリゼーションとジェンダーについて考えたい。各学期の最後の数回は、受講者によるプレゼンテーションに充てる予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. America's Dirty Work (1)</li> <li>2. America's Dirty Work (2)</li> <li>3. Selling Sex for Visas (1)</li> <li>4. Selling Sex for Visas (2)</li> <li>5. Breadwinner No More (1)</li> <li>6. Breadwinner No More (2)</li> <li>7. Because She Looks like a Child (1)</li> <li>8. Because She Looks like a Child (2)</li> <li>9. Because She Looks like a Child (3)</li> <li>10. Clashing Dreams: Highly Educated Overseas Brides and Low-Wage U.S. Husband (1)</li> <li>11. Clashing Dreams (2)</li> <li>12. Clashing Dreams (3)</li> <li>13. Presentation (1)</li> <li>14. Presentation (2)</li> <li>15. Presentation (3)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春に準じる		授業への貢献度(30%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)	



09年度以降	英語専門講読 I (ビート詩人の地理的想像力)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「地理的想像力」という表現を聞いたことがあるだろうか？ ないはずである。この授業では、まずは、「地理的想像力」というものを、Ezra Pound の著作から説明する。そして、その Pound の概念が、どれだけビート詩人に受け継がれているか、Jack Kerouac の散文に探る。ここで、詩論としての「地理的想像力」を確認したい。そのうえで、ビート詩人たちの実作を読んでいきたい。</p> <p>英語の詩に慣れるはじめとして、Ezra Pound の Imagism 期の短詩を読む。それから、ビート詩人たちの“Haiku”を読み、ビート詩人たちにとって“Haiku”がどのような意味を持っていたかを探る。“Spontaneous”な、つまり、ロード上で詩を書くにあたって、俳句は、アメリカの詩人たちに対して、大きな影響を及ぼしてきた。</p> <p>それから、ビート詩人たちの詩論や詩作品を読むこととする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. introduction</li> <li>2. Ezra Pound, <i>The Spirit of Romance</i> から (プリント)。</li> <li>3. Ezra Pound の Imagism 期の短詩。</li> <li>4. 同上。</li> <li>5. ビート詩人たちの“Haiku” (プリント)。</li> <li>6. 同上。</li> <li>7. 同上。</li> <li>8. Jack Kerouac, “Essentials of Spontaneous Prose”</li> <li>9. 同上。</li> <li>10. 同上。</li> <li>11. Kerouac, <i>Mexico City Blues</i>, “211<sup>th</sup> Chorus,” “239<sup>th</sup> Chorus”</li> <li>12. Kerouac, <i>On the Road</i></li> <li>13. 同上。</li> <li>14. 同上。</li> <li>15. 同上。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Portable Beat Reader</i> (Penguin)。参考文献は、授業中に、その都度、紹介する。</p>		<p>学期末のレポート。欠席の多かった学生は、評価の対象にならない。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (ビート詩人の地理的想像力)	担当者	遠藤 朋之
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に続き、ビート詩人たちの、ロード上での作品、つまり、“spontaneous”に書かれた作品を読む。春学期では短い作品を読むが、秋学期には、長めの作品を読むこととする。</p> <p>“Spontaneous”に詩を書く、ということがなにを意味するのか、探っていきたい。</p> <p>われわれが享受できる「詩」とは、多くが、紙の上に印刷されたものである。そして、それを朗読すると、それは3次元のものとなる。だが、朗読するとなれば、当然時間がかかる。3次元に時間を付け加えれば、それは4次元となるはずだ。4次元の詩？ ここで「あれっ？」とか、「えっ？」と思った学生に受講してもらいたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期レポートの返却、および講評</li> <li>2. Gary Snyder “Riprap,” “Piute Creek”</li> <li>3. Allen Ginsberg “Wichita Vortex Sutra”</li> <li>4. 同上。</li> <li>5. 同上。</li> <li>6. 同上。</li> <li>7. Gary Snyder, “Smoky the Bear Sutra”</li> <li>8. 同上。</li> <li>9. 同上。</li> <li>10. Snyder, “Mother Earth: Her Whales”</li> <li>11. 同上。</li> <li>12. Ginsberg, “Returning North of Vortex” (プリント)</li> <li>13. 同上。</li> <li>14. 同上。</li> <li>15. 同上。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>The Portable Beat Reader</i> (Penguin)</p>		<p>春学期と同様。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得する。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 1テーマを2週かけて取り上げる。政治や技術、医療などに関する英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。「通訳I」(水曜1限、水曜2限、木曜1限)および「通訳II」(木曜2限)とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・政治</li> <li>2. 政治</li> <li>3. 技術</li> <li>4. 技術</li> <li>5. 犯罪</li> <li>6. 犯罪</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. IT 通信</li> <li>9. IT 通信</li> <li>10. 産業</li> <li>11. 産業</li> <li>12. 医療厚生</li> <li>13. 医療厚生</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 適宜資料を配布する</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点(授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など)(70%)および中間・期末テスト(30%)。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (通訳訓練のための原書講読)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： テーマに応じて素早く概要をつかむための講読方法を習得する。トピックをきっかけに自ら文献を読めるようなスキルを身につけ、教養を深め、自発的な学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだ方法を応用しながら引き続き1テーマを2週かけて取り上げる。テーマは教育、環境、医学、経済など。英語文献、英字新聞やウェブサイトの記事など、幅広い素材を扱う。なお、語彙力強化のため、毎回単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から続けて履修することが望ましい。「通訳I」(水曜1限、水曜2限、木曜1限)および「通訳II」(木曜2限)とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・教育</li> <li>2. 教育</li> <li>3. 国際関係</li> <li>4. 国際関係</li> <li>5. 環境</li> <li>6. 環境</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. 軍事</li> <li>9. 軍事</li> <li>10. 医学</li> <li>11. 医学</li> <li>12. 経済</li> <li>13. 経済</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 適宜資料を配布する</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点(授業準備、参加、単語小テスト、課題提出など)(70%)および中間・期末テスト(30%)。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>まず第一に「英語で」原書を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に質問表にもとづく質疑応答・討論により作品理解を深めることを目的とします。</p> <p>20世紀最大のアメリカ作家と言われる William Faulkner の最高傑作 <i>The Sound and the Fury</i> (1929) に挑戦します。難解な小説と言われていますが、100%理解できなくても十分楽しめ、人間の想像力の素晴らしさを味わうことが出来る作品です。いくつかの例外はありますが、比較的平易な英語で書かれている箇所も多く、一般的に言われているほど英語学習者にとって読むことが困難な小説ではないと考えます。最近インターネット上で難解な箇所を解き明かしてくれるサイトなども出現していますので、それらを利用すればさらに理解を深めることが出来るでしょう。アメリカ南部が舞台の作品ですが、「家族崩壊」、「初恋」、「兄弟間の愛憎」など現代の学生諸君にも十分理解・自己投影できる普遍性をもった作品と考えます。</p> <p>質問表は教師が用意し、教師が討論の司会をしますが、途中から、学生諸君にプレゼンテーションや司会をしてもらっても構いません。</p> <p>授業で積極的に発言して、討論・意見交換に参加する学生の受講を希望します。</p>		<p>第1回～10回：第1章 第11回～15回：第2章前半</p> <p>第1週に授業の進め方などについての説明と質問表にもとづく質疑応答・討論による体験授業を行います。 第2週以降、質問表にもとづく同様な方法で毎回平均ほぼ10～15ページずつ読んでいく予定です。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>William Faulkner, <i>The Sound and the Fury</i> (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照</p>		<p>学期末の試験、および平常点（出席点ではありません。授業での発言による貢献度を加味します）</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (アメリカ小説)	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記を参照。</p> <p>参考までに、春学期第1週の質問表を以下に載せます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>On the first line of the first page, the narrator writes, "I could see them hitting." What on earth are they hitting?</li> <li>Why do you think Luster says, "Listen at you, now"?</li> <li>The last paragraph of the first page is italicized. Why do you think is the sudden change in typography?</li> <li>What does Benjamin [Benjy] want to do? Why do you think he wants to go out?</li> <li>What is the first name of Benjamin's mother?</li> <li>Where are Mother and Benjamin going in the carriage T.P. is driving? (Note what Mother tells Jason later.)</li> <li>The first underlined passage on page eight goes: "Then those on one side stopped at the tall white post where the soldier was. But on the other side they went on smooth and steady, but a little slower." What is happening here?</li> <li>What do you think is the content of the letter Uncle Maury asks Caddy to take to Mrs. Patterson?</li> </ol>		<p>第1回～5回：第2章後半 第6回～15回：第3章と第4章</p> <p>左記の質問表の解説が以下のサイトにありますので、参照してください。 <a href="http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit2faulkner.htm">http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi006/others/amlit2faulkner.htm</a></p> <p>また下記のサイトにはこの作品の全文が掲載されており、その上、難解な箇所を読みやすくする工夫がなされています。受講希望者はぜひ参照しておいてください。 <a href="http://www.usask.ca/english/faulkner/">http://www.usask.ca/english/faulkner/</a></p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>William Faulkner, <i>The Sound and the Fury</i> (Vintage International, 1990) 参考文献：秋学期の授業計画の欄を参照</p>		<p>学期末の試験、および平常点（出席点ではありません。授業での発言による貢献度を加味します）</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (ツーリズム研究の基礎概念)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究における主要な方法や理論について、英語文献の読解を通じて、基礎的な理解を得ることを目的とする。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。</p> <p>各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイドンス</li> <li>2、発表方法について（講義）</li> <li>3、Economics of Tourism</li> <li>4、Planning Tourism</li> <li>5、Carrying Capacity / Destination Management</li> <li>6、Regeneration</li> <li>7、Experience Economy</li> <li>8、Sociology of Tourism /Anthropology of Tourism</li> <li>9、Authenticity</li> <li>10、Tourist Gaze</li> <li>11、Identity</li> <li>12、Mobility</li> <li>13、Post Tourism</li> <li>14、総合討論</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge		授業内発表 30% 授業内小課題 40% 期末課題 30%	

09年度以降	英語専門講読 II (ツーリズム研究の現代的課題)	担当者	鈴木 涼太郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業は、観光研究の対象となる諸事象について、基礎的な理解を得ることを目的とする。とくに、春学期に学んだ観光研究の基礎概念をもとに、近年関心が寄せられている主要な観光形態について批判的に考察することを目指す。</p> <p>Sageの<i>key concepts in tourist studies</i>およびRoutledgeの<i>Tourism the key concepts</i>をテキストとして使用し、文献の読解とそれをもとにした履修者間のディスカッションによって、現代のツーリズムについて理解を深めたい。</p> <p>各履修者が項目を分担して担当する。担当者はテキストの項目を抄訳するとともに、補助文献等を用いながら他の履修者に内容のプレゼンテーションを行う。それをもとに授業後半ではディスカッションを行う。テキストは、必要箇所をコピーして配布する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイドンス</li> <li>2、発表方法について（講義）</li> <li>3、Sustainable Tourism</li> <li>4、Eco Tourism</li> <li>5、Cultural Tourism</li> <li>6、Heritage Tourism</li> <li>7、Art Tourism/ Gastronomic Tourism</li> <li>8、Film and TV Tourism/ Literary Tourism</li> <li>9、Rural Tourism</li> <li>10、Urban Tourism</li> <li>11、Backpacking</li> <li>12、Dark Tourism</li> <li>13、Ethical Tourism</li> <li>14、総合討論</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Smith, M., N. Macleod and M. Robertson (2010) <i>key concepts in tourist studies</i> . Sage. Robinson, P. ed. (2012) <i>Tourism the key concepts</i> . Routledge		授業内発表 30% 授業内小課題 40% 期末課題 30%	

09年度以降	英語専門講読 I (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について論じた各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。</p> <p>課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。</p>		<p>1 はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定</p> <p>2 文献①－1</p> <p>3 文献①－2</p> <p>4 文献①－3</p> <p>5 文献②－1</p> <p>6 文献②－2</p> <p>7 文献②－3</p> <p>8 文献③－1</p> <p>9 文献③－2</p> <p>10 文献③－3</p> <p>11 文献④－1</p> <p>12 文献④－2</p> <p>13 文献④－3</p> <p>14 文献⑤－1</p> <p>15 文献⑤－2</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、プリントを配布する。		平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が5回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。	

09年度以降	英語専門講読 II (21世紀の外交・国際問題・グローバル・イシューズの考察)	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、21世紀の今日の外交、国際問題、グローバル・イシューズと呼ばれる世界的問題について議論した各国政府、国際機関（国連等）、NGO、シンクタンク、新聞等の現状分析、政策提言レポート、評論を講読する。</p> <p>課題文献のテーマは、受講者の関心を考慮して決定するが、人権、民主化、テロ、内戦、平和構築、核・ミサイル拡散、貧困、開発支援、地球環境、国際保健衛生、領土問題、歴史認識、ジェンダーなど、すべて現在生起している問題を想定している。テキストはそれぞれの分野に関する専門的な文献であるため、決して容易ではない。自宅での事前学習が必須である。</p> <p>授業は以下のように進める。まず受講者は課題文献の和訳レポートを自宅で事前に作成し、毎回の講義に臨むこととする。講義では、受講者が順番で和訳を発表し、全員で検討する。また、英語表現の理解にとどまらず、テーマとなっている国際問題について各自の意見を発表し、全員で議論することにした。</p>		<p>1 はじめに：授業の進め方、文献テーマの決定</p> <p>2 文献⑥－1</p> <p>3 文献⑥－2</p> <p>4 文献⑥－3</p> <p>5 文献⑦－1</p> <p>6 文献⑦－2</p> <p>7 文献⑦－3</p> <p>8 文献⑧－1</p> <p>9 文献⑧－2</p> <p>10 文献⑧－3</p> <p>11 文献⑨－1</p> <p>12 文献⑨－2</p> <p>13 文献⑨－3</p> <p>14 文献⑩－1</p> <p>15 文献⑩－2</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、プリントを配布する。		平常点（30%）、和訳レポート点（70%）を総合して評価を決定する。なお、欠席回数が5回に達すると、評価の対象にならないので注意すること。	

09年度以降	英語専門講読 I (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>時代の変化がますます激しくなってきたことを実感する機会が更に多くなってきましたが、実際に就職活動を体験している学生の方や、これから卒業後の身の振り方の準備にかかる学生の方は、今の時代に現実問題として不安を抱えているのではないのでしょうか。</p> <p>そんな状況の中で、「詩を学ぶ」ことは時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、ある意味、<b>詩を学ぶことも実用的だ</b>と言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「<b>言葉の力</b>」を体感することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「<b>詩を学ぶ＝生き方を学ぶ</b>」と言えるかもしれません。</p> <p>詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れたイメージがしにあるとしたら、詩を一面的にしかみていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものだと思います。(↓に続きます。)</p>		<p>私が解説する講義形式になるときもありますが、基本的に、グループ発表形式で進めていきます(便宜上、グループ発表となりますが、評価はグループ単位ではなく、個人単位です)。</p> <p>発表者は授業前にあらかじめ担当箇所を調べ、どのように発表したらうまく伝えられるか、他の学生を眠らせないためにはどうしたらいいか等、発表の仕方も工夫してみてくださいね。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 履修確定の学生との確認、グループ&amp;担当箇所の決定</li> <li>3-4 オーストラリアの歴史①②</li> <li>5-6 アボリジニの歴史①②</li> <li>7-8 アボリジニの神話・伝説①②</li> <li>9-10 英訳されたアボリジニの詩①②</li> <li>11-14 英語で書かれたアボリジニの詩①～⑤</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol> <p><b>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね。</b></p> <p><b>※ グループ作りは、私が決めるのではなく、学生の皆様同士で決めるようお願いしています。3人～5人のグループになって頂きたいのですが、人数調整が必要な場合のみ、私が最後に介入します。</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントして配布します。 参考文献は授業で随時紹介いたします。</p>		<p>*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。 欠席5回した時点で<b>単位取得が不可能</b>になります。 *レポート未提出は自動的に<b>F評価</b>になります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (オーストラリアの詩)	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(↑からの続きです)</p> <p>「<b>オーストラリアを学ぶ</b>」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しいのではないのでしょうか。</p> <p>それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。(例えば「オーストラリア人とは誰を指すか?」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。)</p> <p>講義目的をまとめて書くと、「<b>言葉の力を体感する</b>」「<b>オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す</b>」「<b>オーストラリアを通して己を考える</b>」また、発表形式の授業ですので「<b>自分の言葉で考え、語る</b>」こととなります。それから、学生同士で話し合う機会を出来るだけ取り入れたいと考えています。「<b>自分の意見を他人に正確に伝える</b>」ことも学んでほしい大事なことです。</p> <p>「授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立てるような事をお伝えする。」これが、私自身の最大の目的です。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております!</p>		<p>春学期ではアボリジニの詩を読みましたが、秋学期では入植者の血を引くものたちの詩を読みます。</p> <p>春学期では「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、秋学期ではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。</p> <p>春学期同様、秋学期でもグループ単位で担当箇所を発表していただきます。授業前にも、グループの学生同士で、担当箇所をいろいろ議論した上で、発表してください。授業では、クラス全体で更に皆さんの意見を伺いたいと考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2~14. オーストラリアの詩、精読</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリントして配布します。 参考文献は授業で随時紹介いたします。</p>		<p>*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。 欠席5回した時点で<b>単位取得が不可能</b>になります。 *レポート未提出は自動的に<b>F評価</b>になります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>講義では、下記のテキストの5章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Primary Modal Auxiliaries 1</li> <li>3. Primary Modal Auxiliaries 2</li> <li>4. Primary Modal Auxiliaries 3</li> <li>5. Primary Modal Auxiliaries 4</li> <li>6. Primary Modal Auxiliaries 5</li> <li>7. Primary Modal Auxiliaries 6</li> <li>8. Primary Modal Auxiliaries 7</li> <li>9. Primary Modal Auxiliaries 8</li> <li>10. Primary Modal Auxiliaries 9</li> <li>11. Primary Modal Auxiliaries 10</li> <li>12. Primary Modal Auxiliaries 11</li> <li>13. Primary Modal Auxiliaries 12</li> <li>14. Primary Modal Auxiliaries 13</li> <li>15. 春学期の復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (Third Edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

09年度以降	英語専門講読 II (動詞の意味と文法)	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、英語の読解力を高めることである。使用するテキストは、英語のテンス、アスペクト及びモダリティに関する書籍である。</p> <p>講義では、下記のテキストの6章を読んでゆく予定である。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>英語を読む力は、鍛錬とか修練ということによって特徴づけられるような、ときとして忍耐を必要とする学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ、それを並べかえさえすればそれでよしというようなことをせず、真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて、日本語らしさ、英語らしさについても学ぶことができるはずである。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. Modality Continued 1</li> <li>3. Modality Continued 2</li> <li>4. Modality Continued 3</li> <li>5. Modality Continued 4</li> <li>6. Modality Continued 5</li> <li>7. Modality Continued 6</li> <li>8. Modality Continued 7</li> <li>9. Modality Continued 8</li> <li>10. Modality Continued 9</li> <li>11. Modality Continued 10</li> <li>12. Modality Continued 11</li> <li>13. Modality Continued 12</li> <li>14. Modality Continued 13</li> <li>15. 秋学期の復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Leech, Geoffrey (2011) <i>Meaning and the English Verb</i> (Third Edition). 東京：ひつじ書房.		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

09年度以降	英語専門講読 I (子どもの文学を考える)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】『かいじゅうたちのいるところ <i>Where the Wild Things Are</i>』から『ハリー・ポッター <i>Harry Potter</i>』まで、私たちはどこかで子ども向けの文学に接してきました。この講義ではそんな私たちの経験を活用しつつ、「子どもの文学 <i>children's literature</i>」について考えます。</p> <p>春学期の前半は英米の「子どもの文学」通史を英語で読みながら、過去の作品の抜粋にも触れます。後半は現代の英語の絵本を読んで、通史と合致しているかをグループごとに検証して発表してもらいます。</p> <p>全体として、「子どもの文学」は読み聞かせを前提としたり、言葉の音を大事にしているものが多いので、音読や朗読を授業のあちこちで取り入れます。</p> <p>【講義概要】前半は担当者（片山）が用意した抜粋を読んできてもらいます。毎回の予習が大前提です。後半はグループ作業をしてもらいます。</p>		<p>1. ガイダンス (やり方をくわしく説明しますので、履修を考えている人はかならず出席してください。)</p> <p>2～8. 「子どもの文学」通史と、作品抜粋を読む</p> <p>9～14. 絵本を読む 9～10. 絵本のテキスト部分を読む 11. グループ別に分かれて、絵本を検証する 12～14. グループ発表</p> <p>15. まとめ</p> <p>* 進度は調整することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		毎回の課題とミニテスト 40%、グループ発表 30%、学期末試験 30% (ただし5回を越えて欠席した場合は評価対象としません。)	

09年度以降	英語専門講読 II (子どもの文学を考える)	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】大人になった私たちが「子どもの文学」を読むとき、たんに「童心に帰る」だけでなく（それもあるかもしれませんが）、内心でいろいろ複雑な作業をしています。秋学期はそれを意識化しつつ、大人が「子どもの文学」を研究するときの様々なアプローチについて学びます。</p> <p>秋学期の前半は、「子どもの文学」研究法について概説を英語で読みつつ、作品の抜粋で実際に個々のアプローチを使ってみます。後半は現代の作品を読んで、各々のアプローチから分析してみます。（グループ発表にするか個人でやるかは、受講者と相談して決めます。）</p> <p>秋学期も、音読や朗読を授業のあちこちで取り入れます。</p> <p>【講義概要】前半は担当者（片山）が用意した抜粋を読んできてもらいます。毎回の予習が大前提です。後半はグループ作業をしてもらいます。</p>		<p>1. ガイダンス (秋学期のやり方を詳しく説明するので、履修を考えている人はかならず出席してください。)</p> <p>2～8. 「子どもの文学」研究法と、作品抜粋を読む</p> <p>9～13. 研究法の応用 (詳細は受講者と相談しながら決めます。)</p> <p>14～15. まとめ</p> <p>* テキストの進度は調整することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		毎回の課題とミニテスト 40%、グループ発表 30%、学期末試験 30% (ただし5回を越えて欠席した場合は評価対象としません。)	



09年度以降	英語専門講読 I (Reading communication practices)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>コミュニケーション研究や歴史学で扱われてきたオーラルヒストリー(口述の歴史)のアプローチで執筆された作品を読む授業である。主要テキストとして、ピューリッツァー賞を受賞したスタッズ・ターケルの晩年の著作、<i>Hope Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times</i> (日本語訳書名『希望—行動する人々』)を扱う。日本語訳書の未訳部分を読み、9.11以降の米国の様々な声に耳を傾けてその理解を図る。</p> <p>ターケルの書籍はインタビューに基づいて書かれたもので理論書ではない。授業で作品を読み進める際には、関連するコミュニケーション理論—声の文化・文字の文化、作者の役割、語り手の役割、視点、歴史とコミュニケーションの接点、公共圏—の紹介も行う。</p>		<p>1 授業概要の説明—オーラルヒストリー、コミュニケーション研究について</p> <p>2-14 <i>Hope Dies Last</i> の講読</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】Turkel, Studs. <i>Hope Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times</i>. New York: New Press, 2003.</p> <p>【参考文献】ターケルが執筆した他の書籍</p>		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	

09年度以降	英語専門講読 II (Reading communication practices)	担当者	小西 卓三
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、ターケルの <i>Hope Dies Last</i> の講読を続ける。春学期で読めなかった部分を扱う。</p> <p>* 春学期・秋学期ともに、(1) 作品の言語レベルでの理解、(2) 作品への賛同・異論・批判などに基づく発表やクラスディスカッションを行う。学生は該当箇所のまとめ、質問、ディスカッションのリーダーなどを行うことが求められる。</p>		<p>1 授業概要の説明—前期の復習</p> <p>2-14 <i>Hope Dies Last</i> の講読</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>【テキスト】Turkel, Studs. <i>Hope Dies Last: Keeping the Faith in Troubled Times</i>. New York: New Press, 2003.</p> <p>【参考文献】ターケルが執筆した他の書籍</p>		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	

09年度以降	英語専門講読 I (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。</p> <p>春学期は、英語圏の大学で広く読まれている日本研究の基本的文献を教材とする。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお週末等を利用して、東京近郊のエスニック・タウン(新大久保、池袋、高田馬場、三河島、八潮、竹の塚、大泉町、鶴見など)に巡検に出かける可能性もある。</p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け (1回) (初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。)</p> <p>2. 各課題についての解説(2回)</p> <p>3. 基礎文献の講読・議論 (12回) テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時までに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。</p> <p>1. Japan Phenomenon and the Social Sciences 3. Geographical and Generational Variations 6. Gender Stratification and the Family System 7. Minority Groups: Ethnicity and Discrimination 9. Popular Culture and Everyday Life</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sugimoto, Yoshio 2014. <i>An Introduction to Japanese Society (Forth Edition)</i> . Cambridge and New York: Cambridge University Press. 【版に注意すること】		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。	

09年度以降	英語専門講読 II (Deconstructing “Japaneseness”)	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代日本の多民族・多文化状況について、文化人類学者や社会学者によって書かれた論文の読解・議論を通じて、日本社会の現状や課題について考える。</p> <p>秋学期は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、在日フィリピン人女性などについて書かれた民族誌 (ethnography) を教材として扱う。</p> <p>本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバル化が加速化している今日の状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。</p> <p>なお週末等を利用して、東京近郊のエスニックタウン(新大久保、池袋、高田馬場、三河島、八潮、竹の塚、大泉町、鶴見など)に巡検に出かける可能性もある。</p>		<p>1回 講義</p> <p>2~14回 プレゼンテーション</p> <p>15回 総合討論・まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業で、論文リスト(基本的には学術雑誌所収論文)を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。		授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。ただし、4回以上の欠席(遅刻は2回で欠席1回に換算)で単位認定の資格を失う。	

09年度以降	英語専門講読 I (金2) (メディア文化史 1: ファッション)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Fashion、とくにグローバル・レーベルの製品（いわゆるブランド品）は、単なる個人的な「おしゃれ」のためのアイテムではありません。それは時代や政治経済的状况を色濃く反映した「社会的な出来事」であり、人々の憧れや欲望を具現化した「メディア」でもあります。</p> <p>この授業では、18世紀から現代までのFashionの文化史を論じた英語文献を講読することで、「文化としてのFashion」の特徴を知り、Fashionという切り口から近現代の歴史と文化を深く理解することを目指します。</p> <p>授業は、初回に担当を決定し、翌週からグループで発表する形式で進めます。最終週では、グローバル・レーベル（シャネルなど）の広報担当者を招き、Transnational Fashionをめぐる現場の活動と問題について、この授業で得た知見をもとに討論する予定です。</p> <p>いわゆるFashionやおしゃれが好きなの人も歓迎しますが、Fashionに違和感を持つ人やおしゃれが苦手な人も歓迎します。（なお授業担当者は明らかに後者のタイプです。）</p>		<p>1 ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け</p> <p>2 講義：社会的イベントとしての Fashion 補助資料の集め方と分析方法について</p> <p>3~14 発表、ディスカッション</p> <p>15 グローバル・レーベル広報担当者との討論（予定）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Rebecca Arnold (2009) <i>Fashion: A Very Short Introduction</i> , Oxford University Press.		授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 20%、期末レポート 20%によって総合的に評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (金2) (メディア文化史 2: 写真)	担当者	山口 誠
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、前期の Fashion に引き続き、近代日本における Photography の文化史を論じた文献を講読することで、「写真が映し出す日本文化の変貌」を理解することを目指します。</p> <p>テキストとして使用する Karen Fraser 著 <i>Photography and Japan</i> (Reaktion Books, 2011)は、19世紀の幕末期から現在までの日本の歴史を Photography の視点から読み解く秀逸な学術書であり、また 104 枚の貴重な写真を掲載した美術書でもあります。</p> <p>授業では、上記のテキストを講読するため、グループごとに担当部分を発表し、テキストに例示されている写真を分析して全体で討論する、という形式で進めます。担当箇所をコピーして配布する予定ですが、写真の鮮明さがより深い理解と議論に役立つため、購入することを推奨します。</p> <p>写真の歴史に興味が無い人にも、高度な文化史の議論を実現した本書は熟読する価値があり、また知られざる歴史や人物、そして日本の表現者たちと出会う貴重な機会を得られるものと考えます。</p>		<p>1 ガイダンス：授業内容の説明、グループ分け</p> <p>2 講義：文化史という研究方法について テキストの Introduction を読む</p> <p>3~14 発表、ディスカッション</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Karen M. Fraser (2011) <i>Photography and Japan</i> , Reaktion Books.		授業参加度 30%、発表 30%、発表以外の授業内活動 20%、期末レポート 20%によって総合的に評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (金3) (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>米国の対外政策、特に日米関係及び米中関係について、その背景と現状を学ぶ。その理由は、グローバル化が進展する世界において、米国と中国は、日本にとってこれまで以上に重要な大国となるためである。本講義では、米国の視点から捉えられた日米関係及び米中関係に関する知識を習得したのち、問題点を見つけ、解決策を模索することを試みる。</p> <p>講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト(受講者全員が登録される)に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。</p> <p>有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。</p>		<p>第1週: Introduction (1) Japan-U.S. Relations 第2週: Most Recent Developments 第3週: Japan's Foreign Policy and U.S.-Japan Relations 第4週: Major Diplomatic and Security Issues 第5週: Alliance Issues 第6週: Economic Issues 第7週: Japanese Politics (2) U.S.-China Relations 第8週: Overview of U.S.-China Relations 第9週: Obama Administration Policy 第10週: Security Issues 第11週: Taiwan 第12週: Economic Issues 第13週: Climate Change and Clean Energy Cooperation 第14週: Human Rights Issues 第15週: Wrap up</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1)Japan-U.S. Relations 及び(2)U.S.-China Relations を扱う。		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (金3) (米国の対外政策)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語専門講読 I (米国の対外政策)で得た知識を前提に、米国の対外政策、特に米韓関係及び米国のアジア重視政策について学ぶ。春学期で学んだ、日米関係及び米中関係と併せて、日本を取り巻く国際政治経済環境の総合的理解をめざす。</p> <p>講義の進め方は、春学期と同様である。</p>		<p>第1週: Introduction (1) U.S.-South Korean Relations 第2週: Recent Developments 第3週: North Korea in U.S.-ROK Relations 第4週: Security Relations and the U.S.-ROK Alliance 第5週: South Korea's Regional Relations 第6週: South Korea-Iran Relations 第7週: Economic Relations 第8週: Nuclear Energy and Non-Proliferation Cooperation 第9週: South Korean Politics (2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration's "Rebalancing" Toward Asia 第10週: Introduction 第11週: Overall Benefits, Costs, and Risks 第12週: Military and Strategic Dimensions of "The Pivot" 第13週: Diplomatic Dimensions of the "Pivot" 第14週: Economic Aspects of the "Pivot" 第15週: 1年間の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
米国連邦議会図書館議会調査局(CRS)の報告書を教材とする。(1) U.S.-South Korean Relations 及び(2) Pivot to the Pacific? The Obama Administration's "Rebalancing" Toward Asia を扱う。		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

09年度以降	英語専門講読 I (従属節構造などに見られる言語の普遍性)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>私達の言語が豊かなのは単語数の多さよりはむしろ(1)(2)のように文の中にまた文(従属節)を埋め込めるからです。</p> <p>(1) [その絵を描いた]女の子があそこにいる。</p> <p>(2) The girl [who _ painted the picture] is over there.</p> <p>(1)(2)の[ ]の部分は関係節と呼ばれ、どんな言語にもありますが、異なる振る舞いをする場合があります。例えば、(3)を無理矢理英語にした(4)は解釈不可能です。</p> <p>(3) [図工の授業で描いた絵が展覧会で入賞した] 女の子があそこにいる。</p> <p>(4)*The girl [the picture that _ had painted _ in art class won a prize at the exhibition] is over there.</p> <p>この授業では主に日英語の関係節の「見かけ上」の違いとその原理的説明について考察します。テキスト欄の(A)は言語分析の基礎、(B)(C)は関係節構造などに関する論文です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>(A) 授業の概要</li> <li>(A) 統語構造：主要句と主節</li> <li>(A) 統語構造：従属節</li> <li>(A) 構成素テスト</li> <li>(A) 主要な構造関係：c-command</li> <li>(B) 関係節と主要名詞句の語順</li> <li>(B) 関係代名詞の有無</li> <li>(B) 文法関係と関係節構造</li> <li>(B) 残留代名詞</li> <li>(C) 複雑な名詞句からの抜き出し</li> <li>(C) 日本語の多重主格構文</li> <li>(C) 格助詞「が」と「の」の交替</li> <li>(C) 格助詞「が」と「の」の交替</li> <li>(C) 日英語の差</li> <li>授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(A) Radford, A. (2009) <i>An Introduction to English Sentence Structure</i>: Chapter 2. CUP.</p> <p>(B) Keenan, E. L. &amp; B. Comrie (1977) Noun phrase accessibility hierarchy. <i>Linguistic Inquiry</i> 8, 63-99.</p> <p>(C) Sakai, H. (1994) Complex NP constraint and case-conversions in Japanese. Nakamura, M. (ed.) <i>Current Topics in English and Japanese</i>. Hituzi Syobo.</p>		<p>毎回の授業の前半は履修者による論文のレポーター、後半は言語データの分析をします。評価は、論文(A)-(C)のレポーター(20%)、毎回の授業での言語分析など(40%)、学期末試験(40%)によります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 II (従属節構造などに見られる言語の普遍性)	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は(春)英語専門講読Iを参照してください。英語専門講読Iの履修を前提としますが、IIから履修する方は(春)英語専門講読Iのテキスト(A)を自習してください。</p> <p>テキスト欄の(D)は(1)(2)の従属節の意味的、統語的違いなどに関する論文です。</p> <p>(1) John regrets that [his wife has not told the truth]</p> <p>(2) John believes that [his wife has not told the truth]</p> <p>(1)の主節の動詞を否定(does not regret)にしてもしなくても奥さんが真実を話していないことが「事実」と解釈されますが、(2)にはそのような前提はありません。日本語で考えても同じことが観察できるでしょう。また、regretは動名詞(動詞+ing)をとりますが、believeはとりません。逆に、believeは主語付きの不定詞節(NP to VP)をとりますが、regretはとりません。これらの意味的、構造的事実がどのように結びついているか、主に日本語と対比しながら考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>授業の概要</li> <li>(D) 従属節をとる述語の分類</li> <li>(D) 叙実的述語</li> <li>(D) 非叙実的述語</li> <li>(D) 時制節、不定詞節と動名詞</li> <li>(D) 従属節からのwh-句の抜き出し</li> <li>(E) 日本語の従属節について</li> <li>(E) 日本語の従属節について</li> <li>(E) 日本語の従属節について</li> <li>(E) 日本語の従属節について</li> <li>(F) 日英語以外の従属節について</li> <li>(F) 日英語以外の従属節について</li> <li>(F) 日英語以外の従属節について</li> <li>(F) 日英語以外の従属節について</li> <li>授業のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(D) Kiparsky, P. &amp; C. Kiparsky (1970). Fact. In M. Bierwisch &amp; K. Heidolph (eds.) <i>Progress in Linguistics</i>. Mouton.</p> <p>(E) 日本語の従属節に関する論文</p> <p>(F) 日英語以外の従属節に関する論文</p>		<p>論文(D)-(F)のレポーター(20%)、毎回の授業での言語分析など(40%)、学期末試験(40%)によります。</p>	

09年度以降	英語専門講読 I (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。</p> <p>大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。</p> <p>授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の進め方について</li> <li>2. 教員によるレクチャー（予定）</li> <li>3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore?</li> <li>4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives</li> <li>5. Why is Fair Trade so popular?</li> <li>6. Fair Trade principles and practices</li> <li>7. Fair Trade histories</li> <li>8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』</li> <li>9. Yes, but does it work?</li> <li>10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary</li> <li>11. Will free trade ever be fair?</li> <li>12. The future of Fair Trade</li> <li>13. Daily life with Fair Trade</li> <li>14. 教員によるレクチャー（予定）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jacqueline Decarlo, <i>Fair Trade: A Beginner's Guide</i> (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。		レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。	

09年度以降	英語専門講読 II (地球市民のためのフェアトレード入門)	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な英語文献の読解と応用学習を行います。</p> <p>取り上げる文献は、今のところ、フェアトレード、途上国開発（特に農業、教育、貧困、環境問題に関する現場の事例を含んだもの）、日本を含む先進国の食料・農業問題に関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定しています。文献読解を反映したレジメ作成をベースとして、各グループが教室内アクティビティを行い、さらなる議論に発展させます。</p>		<p>授業では、担当する学生がレジメを用意し、それに基づき文献の内容に関する日本語プレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、教室内のアクティビティと議論をする。最後に教員が講評とアドバイスをを行う。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
図書館の論文データベース、検索サービスを利用する。		レジメ、プレゼン、プレゼンまとめ中間レポート、期末レポート。	

09年度以降	英語専門講読 I (金5) (国際政治学から見る米中関係)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>米国及び中国は、今後の国際政治の帰趨に影響を及ぼす重要な大国であるといわれる。特に日本においては、両国の政策が大きなインパクトを与えることは必至である。それゆえ、両国がどのような政策を採用するのか、常に注視することが求められている。</p> <p>本講義では、米国および中国の学者の往復書簡による対話を読むことによって、米中両国が抱える10項目の問題について、双方の見解を理解する。いかなる点で協力あるいは対立が起こりうるかを知り、今後を展望する。</p> <p>講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト(受講者全員が登録される)に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。</p> <p>有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。</p>		<p>第1週: Introduction</p> <p>第2週～第14週: 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Overview of the U.S.-China Relationship</li> <li>2. The Economic Relationship</li> <li>3. Political Systems, Rights, and Values</li> <li>4. The Media</li> <li>5. Global Roles and Responsibilities</li> <li>6. Climate and Clean Energy</li> <li>7. Global Development and Investment</li> <li>8. Military Developments</li> <li>9. Taiwan and Tibet</li> <li>10. Regional Security Roles and Challenges</li> </ol> <p>第15週: 春学期のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Nina Hachigian (ed.), <i>Debating China: the U.S.-China relationship in ten conversations</i> , (New York: Oxford University Press, 2014).		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

09年度以降	英語専門講読 II (金5) (国際政治学から見る米中関係)	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、本講義では、米国および中国の学者の往復書簡による対話を読むことによって、米中両国が抱える10項目の問題について、双方の見解を理解する。いかなる点で協力あるいは対立が起こりうるかを知り、今後を展望する。</p> <p>講義の進め方は、春学期と同様である。有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。</p>		<p>第1週: Introduction</p> <p>第2週～第14週: 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Overview of the U.S.-China Relationship</li> <li>2. The Economic Relationship</li> <li>3. Political Systems, Rights, and Values</li> <li>4. The Media</li> <li>5. Global Roles and Responsibilities</li> <li>6. Climate and Clean Energy</li> <li>7. Global Development and Investment</li> <li>8. Military Developments</li> <li>9. Taiwan and Tibet</li> <li>10. Regional Security Roles and Challenges</li> </ol> <p>第15週: 1年間の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Nina Hachigian (ed.), <i>Debating China: the U.S.-China relationship in ten conversations</i> , (New York: Oxford University Press, 2014).		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	





13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse</p> <p>Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. Brainstorming and topic selection</li> <li>3. Organization</li> <li>4. Collecting and synthesizing information</li> <li>5. Paragraph to short essay</li> <li>6. Descriptive essay</li> <li>7. Narrative essay</li> <li>8. Opinion essay</li> <li>9. Peer evaluation</li> <li>10. Writing final draft</li> <li>11. Comparison and contrast essay</li> <li>12. Paraphrasing</li> <li>13. Bibliography</li> <li>14. In-text citations</li> <li>15. Final Examination</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced.		Grades will be based on in class work (60%), assignments (20%) and tests (20%).	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills in order to produce longer papers. There will be a number of in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.</p>		<p>Week One – Introduction to the course  Week Two – Workshop - What is academic writing?  Week Three – Library and internet based research skills  Week Four – Paraphrase and summary skills 1  Week Five – Paraphrase and summary skills 2  Week Six – Narrowing the topic –mid-term paper  Week Seven – The structure of a longer paper  Week Eight – Citation and reference skills  Week Nine – Editing and proofreading a longer essay  Week Ten – Combining sources  Week Eleven – Making a questionnaire/ case study  Week Twelve – Revisiting introductions and conclusions  Week Thirteen – Editing and proofreading  Week Fourteen – Presenting research  Week Fifteen – Sharing the final product</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the instructor		Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper, 30%; final paper and presentation 50%.	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	E. J. ナオウミ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will build on the foundation established by earlier writing courses. Students will have the opportunity to research topics that interest them and apply research skills in order to produce longer papers. There will be a number of in class tasks designed to practice the academic skills necessary for writing a longer paper. There will be one mid-term paper of about 800 words and a final paper of over 1,000 words. An important part of academic writing is editing and rewriting after receiving feedback from other students so time will be given in class for this.</p>		<p>Week One – Introduction to the course  Week Two – Workshop - What is academic writing?  Week Three – Library and internet based research skills  Week Four –Paraphrase and summary skills 1  Week Five – Paraphrase and summary skills 2  Week Six – Narrowing the topic –mid-term paper  Week Seven – The structure of a longer paper  Week Eight – Citation and reference skills  Week Nine – Editing and proofreading a longer essay  Week Ten – Combining sources  Week Eleven – Making a questionnaire/ case study  Week Twelve – Revisiting introductions and conclusions  Week Thirteen – Editing and proofreading  Week Fourteen – Presenting research  Week Fifteen – Sharing the final product</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be provided by the instructor		Students will be evaluated on assignments, 20%; mid-term paper, 30%; final paper and presentation 50%.	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of this course is to provide opportunities to practice business writing skills to help students in their future workplace.</p> <p>We will use a course book in business English with reading and listening materials to give context and introduce genre-specific vocabulary so that students can learn to write the kinds of communications needed in business situations.</p> <p>By the end of the course you will have put together a folder of memos, emails, letters and reports which will be used for assessment.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course</p> <p>Week 2 Mergers: writing a press release</p> <p>Week 3 Projects: writing an email</p> <p>Week 4 Meetings: writing a memo</p> <p>Week 5 Automation: writing a letter</p> <p>Week 6 Technology: writing a formal email</p> <p>Week 7 Advertising: writing a fax</p> <p>Week 8 Negotiating: writing a letter</p> <p>Week 9 Brands: writing a formal email</p> <p>Week10 Business plans: writing a memo</p> <p>Week 11 Resources: writing a short report</p> <p>Week 12 Microfinance: writing a letter</p> <p>Week 13 Training: writing a short report</p> <p>Week 14 Review</p> <p>Week 15 Feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Intelligent Business Coursebook Upper Intermediate by Tonya Trappe and Graham Tullis, published by Pearson. ISBN: 978-1-4082-5601-5		Grades will be based on class participation (40%) and your folder of work (60%).	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	D. ブラドリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aim of the course is to refine the writing skills students have developed in previous writing courses to write academic essays.</p> <p>The textbook takes you step-by-step through writing expository, argumentative, and compare and contrast essays. It shows you how to use material from different sources and incorporate it into your essays to complete academic writing tasks.</p>		<p>Week 1 Introduction to the course</p> <p>Week 2 Essay structure</p> <p>Week 3 Body, concluding paragraph and outlining</p> <p>Week 4 Improving your work</p> <p>Week 5 Research and citation</p> <p>Week 6 In-text citation and Works Cited list</p> <p>Week 7 Developing arguments</p> <p>Week 8 Organizing argumentative essays</p> <p>Week 9 Improving your work</p> <p>Week 10 Compare and contrast essay structure</p> <p>Week 11 Describing similarities and differences</p> <p>Week 12 Improving your work</p> <p>Week 13 Editing</p> <p>Week 14 Review</p> <p>Week 15 Feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Academic Writing Skills Student's Book 2 by Peter Chin et al, published by Cambridge University Press. ISBN: 978-1-107-62109-1		Grades will be based on class participation (30%), homework writing activities (30%) and two essays (40%).	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will demonstrate that writing an academic essay need not be a dry, difficult or narrow intellectual exercise. Instead it will take you on an exciting journey through physical and spiritual realms in which we travel widely as well as go deep.</p> <p>In the first third of the course we study our primary text. This text is primal and a strong example of the total work of art. Through close reading of our text we shall identify and respond to its major themes.</p> <p>The second third of the course is all about following your curiosity. We will focus on researching the background influences upon our primary text. You will hunt for and gather information, then learn how to process it.</p> <p>In the final third we focus on writing for academic purposes. Now that you know the primary text well and have researched its background sources you are ready to follow a creative process that will result in a decent academic essay.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course overview</li> <li>2 The primal roots of art &amp; Gesamtkunstwerk</li> <li>3 Reading the primary text</li> <li>4 Close reading</li> <li>5 Brainstorming &amp; identifying themes .....</li> <li>6 Internet-based &amp; library research skills</li> <li>7 Collecting &amp; synthesising information</li> <li>8 Paraphrasing and summarising</li> <li>9 Using long &amp; short quotations</li> <li>10 Citations &amp; references .....</li> <li>11 Writing a thesis statement and making an outline</li> <li>12 Drafting &amp; formatting</li> <li>13 Editing</li> <li>14 Sharing &amp; discussing your work</li> <li>15 Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook for this course		Continuous assessment of class participation - 50% One 800-word essay - 20% One 1000+-word academic essay - 30%	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-semester course will offer students an opportunity to look at and produce creative writing. We will look at some examples of creative writing, considering the features of various genres and the benefits of writing creatively.</p> <p>The class will workshop students' own pieces, refining and improving their style, while working towards a final piece of written work.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions.</li> <li>2. Introduction to creative writing.</li> <li>3. Writing and you. The creative process.</li> <li>4. Creative space.</li> <li>5. Narratives.</li> <li>6. Forms of creative writing.</li> <li>7. Workshop. Peer review.</li> <li>8. Aspects of genre.</li> <li>9. The creative process 2.</li> <li>10. Building ideas.</li> <li>11. First draft peer review.</li> <li>12. Second draft peer review.</li> <li>13. Final draft.</li> <li>14. Course review.</li> <li>15. Exam period.</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Students will be assessed on ongoing participation in class and written work.	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course hopes to engage students in practical and useful hands-on exercises based on correct understanding and values of academic writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Looking at the Big Picture: What is AW?</li> <li>3. Values of Academic Writing: Truth, Evidence, Balance</li> <li>4. Rules of Thumb 1: "They Say/ I Say"</li> <li>5. Rules of Thumb 2: Plagiarism</li> <li>6. Research Work: collecting data</li> <li>7. Citations: quotations, paraphrasing, summarizing</li> <li>8. Characteristics of AW1: General VS Specific Purpose:</li> <li>9. Characteristics of AW2: Types of Essays</li> <li>10. Expository Writing: Purpose, structure and Development – Draft 1</li> <li>11. Descriptive Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 2</li> <li>12. Narrative Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 3</li> <li>13. Writing of Draft:</li> <li>14. Writing of Final Essay</li> <li>15. Summary and Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the 1 <sup>st</sup> day of class.		Summative evaluation will be conducted based on completeness of required paper and quality of submitted work.	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
This course hopes to engage students in practical and useful hands-on exercises based on correct understanding and values of academic writing.		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Looking at the Big Picture: What is AW?</li> <li>3. Values of Academic Writing: Truth, Evidence, Balance</li> <li>4. Rules of Thumb 1: "They Say/ I Say"</li> <li>5. Rules of Thumb 2: Plagiarism</li> <li>6. Research Work: collecting data</li> <li>7. Citations: quotations, paraphrasing, summarizing</li> <li>8. Characteristics of AW1: General VS Specific Purpose:</li> <li>9. Characteristics of AW2: Types of Essays</li> <li>10. Expository Writing: Purpose, structure and Development – Draft 1</li> <li>11. Descriptive Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 2</li> <li>12. Narrative Writing: Purpose, Structure and Development – Draft 3</li> <li>13. Writing of Draft:</li> <li>14. Writing of Final Essay</li> <li>15. Summary and Evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced on the 1 <sup>st</sup> day of class.		Summative evaluation will be conducted based on completeness of required paper and quality of submitted work.	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is for class members to develop their powers of imagination, through several methods of writing. Through a number of provocative writing activities, students will write in a variety of contexts, thereby stretching their overall writing abilities. We will be creating poems, lyrics, short short stories, autobiographies, narrative prose, performance scores and free writing. Class members will gain confidence in taking control of the English language independently. Students' skills of copy-editing and formatting texts will be developed. Additionally, performance skills will be developed through dramatic readings of students' own texts.</p>		<p>Lesson 1. Explanation of class requirements, tasks, goals. Definitions, Or Questions &amp; Answers: a pair activity. The Exquisite Corpse Story: a group activity with individual writing Lesson 2. Free Writing. Warped Syllogisms &amp; Geigo &amp; Geigo Story. Performance workshop: voice inflection Lesson 3. The Alphabet Poem &amp; IROHA. Performance workshop: posture &amp; gestures Lesson 4. Free Writing. Writing on a video of dancer Kudo Taketeru. Newspaper Article Jumble Lesson 5. Free Writing. Sound poem. Introduction of Fluxus Art/Anti-art Lesson 6. Free Writing. Fluxus. Original Fluxus performances. Bilingual onomatopoeia Lesson 7. Free Writing. The Longest Word. Introduction of poet Nanao Sakaki Lesson 8. Free Writing. Stop Making Sense. Creating text collaboratively by email Lesson 9. Free Writing. Rhyming methods to make a lyric. Homage. Praising your favorite artist Lesson 10. Free Writing. Writing with visual art: Obituary. Collage Lesson 11. Free Writing. Fujitomi Yasuo's Wide Forehead Lesson 12. Free Writing. Found Poetry. Credo Lesson 13. Free Writing. Nanao Sakaki: If I Have Tomorrow Lesson 14. Computer workshop: formatting your writings Lesson 15. Readings, Performances &amp; hand in final writings Students give selected performances on original writings and hand in completed writings in manuscript form</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The teacher will bring necessary copies. There is no textbook.		Participation (20%), successful completion of all writing activities (collected manuscript) and performances (80%).	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Creative) Academic Writing	担当者	T. ミニオン
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The objective of this course is for class members to develop their powers of imagination, through several methods of writing. Through a number of provocative writing activities, students will write in a variety of contexts, thereby stretching their overall writing abilities. We will be creating poems, lyrics, short short stories, autobiographies, narrative prose, performance scores and free writing. Class members will gain confidence in taking control of the English language independently. Students' skills of copy-editing and formatting texts will be developed. Additionally, performance skills will be developed through dramatic readings of students' own texts.</p>		<p>Lesson 1. Explanation of class requirements, tasks, goals. Definitions, Or Questions &amp; Answers: a pair activity. The Exquisite Corpse Story: a group activity with individual writing Lesson 2. Free Writing. Warped Syllogisms &amp; Geigo &amp; Geigo Story. Performance workshop: voice inflection Lesson 3. The Alphabet Poem &amp; IROHA. Performance workshop: posture &amp; gestures Lesson 4. Free Writing. Writing on a video of dancer Kudo Taketeru. Newspaper Article Jumble Lesson 5. Free Writing. Sound poem. Introduction of Fluxus Art/Anti-art Lesson 6. Free Writing. Fluxus. Original Fluxus performances. Bilingual onomatopoeia Lesson 7. Free Writing. The Longest Word. Introduction of poet Nanao Sakaki Lesson 8. Free Writing. Stop Making Sense. Creating text collaboratively by email Lesson 9. Free Writing. Rhyming methods to make a lyric. Homage. Praising your favorite artist Lesson 10. Free Writing. Writing with visual art: Obituary. Collage Lesson 11. Free Writing. Fujitomi Yasuo's Wide Forehead Lesson 12. Free Writing. Found Poetry. Credo Lesson 13. Free Writing. Nanao Sakaki: If I Have Tomorrow Lesson 14. Computer workshop: formatting your writings Lesson 15. Readings, Performances &amp; hand in final writings Students give selected performances on original writings and hand in completed writings in manuscript form</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
The teacher will bring necessary copies. There is no textbook.		Participation (20%), successful completion of all writing activities (collected manuscript) and performances (80%).	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course introduction / review of the basics</li> <li>2 Essay 1 select topic / general v specific information</li> <li>3 Introduction &amp; conclusion technique</li> <li>4 Introduction to internet research (part 1)</li> <li>5 How to write the body / referencing</li> <li>6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due</li> <li>7 Editing essay 1 draft</li> <li>8 Internet research (part2) / essay 1 final due</li> <li>9 Paraphrasing, summarizing &amp; plagiarism</li> <li>10 How to write an essay plan page in note style</li> <li>11 How to write a bibliography</li> <li>12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps</li> <li>13 Editing essay 2 draft</li> <li>14 Essay 2 final due / problem areas discussion</li> <li>15 Essay 2 – collect essay / man-to man : final review of strong &amp; weak points of essay 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook All materials provided by the teacher Electronic dictionary is OK</p>		Your course grade is based only on your essay grades	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	A. マグズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This is a one semester only course.</p> <p>You will study how to write good quality academic essays of between 800 ~ 1000 words using internet research. You will also learn how to plan the essay, and how to write a bibliography at the end of the essay.</p> <p>Attendance is very important on this course because new important skills will be taught every class.</p> <p>Attendance policy: 4 absences = fail the course Up to 15 minutes after the bell = 1 late 3 lates = 1 absence</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course introduction / review of the basics</li> <li>2 Essay 1 select topic / general v specific information</li> <li>3 Introduction &amp; conclusion technique</li> <li>4 Introduction to internet research (part 1)</li> <li>5 How to write the body / referencing</li> <li>6 Select essay 2 topic / note-taking / essay 1 draft due</li> <li>7 Editing essay 1 draft</li> <li>8 Internet research (part2) / essay 1 final due</li> <li>9 Paraphrasing, summarizing &amp; plagiarism</li> <li>10 How to write an essay plan page in note style</li> <li>11 How to write a bibliography</li> <li>12 essay 2 draft due / extra research -- essay data gaps</li> <li>13 Editing essay 2 draft</li> <li>14 Essay 2 final due / problem areas discussion</li> <li>15 Essay 2 – collect essay / man-to man : final review of strong &amp; weak points of essay 2</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>No textbook All materials provided by the teacher Electronic dictionary is OK</p>		Your course grade is based only on your essay grades	



13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal of the Business Writing course is to provide students opportunities to practice the business writing skills necessary to be successful in their future work place. This course is designed to help students strengthen effective business writing skills by introducing social conventions used in business situations: basic knowledge of business world communication, and genre-specific vocabulary to enhance critical skills.</p> <p>Some of the topics that will be covered in class are: writing e-mails, write memos, coherent business and professional paragraphs, write company profiles, and summarize business-related documents.</p>		<p>Week1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements.</p> <p>Week2: Planning and brainstorming.</p> <p>Week3: Editing and peer evaluation</p> <p>Week4: Unified, Coherent writing</p> <p>Week5: Analyzing &amp; interpreting writing</p> <p>Week6: Synthesizing information</p> <p>Week7: Quiz 1 - 15%</p> <p>Week8: Library project-work task 1</p> <p>Week9: Critical reports for business 1</p> <p>Week10: Critical reports for business 2</p> <p>Week11: Critical reports for business 3</p> <p>Week12: Critical reports for business 4</p> <p>Week13: Critical reports for business 5</p> <p>Week14: Library project-work task 2</p> <p>Week15: Quiz 2 - 15%</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Notes and handouts will be provided every week.		<p>1. Project-work portfolio 20%</p> <p>2. Weekly class activities 50%</p> <p>3. Quiz 1 – week 7 15%</p> <p>4. Quiz 2 – week 15 15%</p>	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal of the Business Writing course is to provide students opportunities to practice the business writing skills necessary to be successful in their future work place. This course is designed to help students strengthen effective business writing skills by introducing social conventions used in business situations: basic knowledge of business world communication, and genre-specific vocabulary to enhance critical skills.</p> <p>Some of the topics that will be covered in class are: writing e-mails, write memos, coherent business and professional paragraphs, write company profiles, and summarize business-related documents.</p>		<p>Week1: Introductions, course outline, course evaluation and requirements.</p> <p>Week2: Planning and brainstorming.</p> <p>Week3: Editing and peer evaluation</p> <p>Week4: Unified, Coherent writing</p> <p>Week5: Analyzing &amp; interpreting writing</p> <p>Week6: Synthesizing information</p> <p>Week7: Quiz 1 - 15%</p> <p>Week8: Library project-work task 1</p> <p>Week9: Critical reports for business 1</p> <p>Week10: Critical reports for business 2</p> <p>Week11: Critical reports for business 3</p> <p>Week12: Critical reports for business 4</p> <p>Week13: Critical reports for business 5</p> <p>Week14: Library project-work task 2</p> <p>Week15: Quiz 2 - 15%</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Notes and handouts will be provided every week.		<p>1. Project-work portfolio 20%</p> <p>2. Weekly class activities 50%</p> <p>3. Quiz 1 – week 7 15%</p> <p>4. Quiz 2 – week 15 15%</p>	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	N. クロス																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																	
<p>The goal of this one semester course is to provide students with the skills to be successful in the workplace in the future.</p> <p>Students will learn:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>business writing skills including emails and memos</li> <li>production of longer business documents and presentations.</li> <li>describe graphs and other data in a business context.</li> </ol>		<table border="0"> <tr><td>1-2</td><td>Course introduction, Writing emails (1)</td></tr> <tr><td>3-4</td><td>Writing a business letter</td></tr> <tr><td>5-6</td><td>Writing a business proposal</td></tr> <tr><td>7-8</td><td>Writing a report</td></tr> <tr><td>9-10</td><td>Writing a business email (2)</td></tr> <tr><td>11-12</td><td>Writing a sales leaflet</td></tr> <tr><td>13-14</td><td>Writing a business presentation</td></tr> <tr><td>15</td><td>Test</td></tr> </table>		1-2	Course introduction, Writing emails (1)	3-4	Writing a business letter	5-6	Writing a business proposal	7-8	Writing a report	9-10	Writing a business email (2)	11-12	Writing a sales leaflet	13-14	Writing a business presentation	15	Test
1-2	Course introduction, Writing emails (1)																		
3-4	Writing a business letter																		
5-6	Writing a business proposal																		
7-8	Writing a report																		
9-10	Writing a business email (2)																		
11-12	Writing a sales leaflet																		
13-14	Writing a business presentation																		
15	Test																		
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																	
No specific text – materials will be provided by the teacher		Participation – 20%, Assignments – 40%, Tests – 20%, Presentations – 20%																	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Business) Academic Writing	担当者	N. クロス																
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>																	
<p>The goal of this one semester course is to provide students with the skills to be successful in the workplace in the future.</p> <p>Students will learn:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>business writing skills including emails and memos</li> <li>production of longer business documents and presentations.</li> <li>describe graphs and other data in a business context.</li> </ol>		<table border="0"> <tr><td>1-2</td><td>Course introduction, Writing emails (1)</td></tr> <tr><td>3-4</td><td>Writing a business letter</td></tr> <tr><td>5-6</td><td>Writing a business proposal</td></tr> <tr><td>7-8</td><td>Writing a report</td></tr> <tr><td>9-10</td><td>Writing a business email (2)</td></tr> <tr><td>11-12</td><td>Writing a sales leaflet</td></tr> <tr><td>13-14</td><td>Writing a business presentation</td></tr> <tr><td>15</td><td>Test</td></tr> </table>		1-2	Course introduction, Writing emails (1)	3-4	Writing a business letter	5-6	Writing a business proposal	7-8	Writing a report	9-10	Writing a business email (2)	11-12	Writing a sales leaflet	13-14	Writing a business presentation	15	Test
1-2	Course introduction, Writing emails (1)																		
3-4	Writing a business letter																		
5-6	Writing a business proposal																		
7-8	Writing a report																		
9-10	Writing a business email (2)																		
11-12	Writing a sales leaflet																		
13-14	Writing a business presentation																		
15	Test																		
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>																	
No specific text – materials will be provided by the teacher		Participation – 20%, Assignments – 40%, Tests – 20%, Presentations – 20%																	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
In this one-semester Advanced Writing course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected from a list of choices that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.		1.Course Introduction 2.Review of essay structure/ Analyzing model essays 3.Analyzing introductions and thesis statements 4.Brainstorming/ Outlining 5.Analyzing logical body paragraph structure 6.Developing body paragraphs 7.Finding sources 8.Incorporating paraphrase, summary and quotation 9.Incorporating paraphrase, summary and quotation 10.Revision/Editing of body paragraphs 11.Analyzing concluding paragraphs 12.Revision and editing checklists 13.Peer review of latest draft 14.Final essay submission/Course review test 15.Return of essays/Self-reflection	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).	

13年度以降 12年度以前	Advanced Writing (Research) Academic Writing	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
In this one-semester Advanced Writing course students develop their ability to write essays that have logical academic structure, using appropriate academic tone, style and language. Students will need to express their opinions and reasoning clearly in argumentative style essays. Students work on the same issue for the first model 1000-word essay. The issue for the second essay is selected from a list of choices that are appropriate for writing a well-balanced argumentative essay. Essays will incorporate researched sources, using paraphrases and quotations. Essay assignments involve research, brainstorming, outlining, drafting, detailed revision and editing.		1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3.Analyzing introductions and thesis statements 4.Brainstorming/ Outlining 5.Analyzing logical body paragraph structure 6.Developing body paragraphs 7.Finding sources 8.Incorporating paraphrase, summary and quotation 9.Incorporating paraphrase, summary and quotation 10.Revision/Editing of body paragraphs 11.Analyzing concluding paragraphs 12.Revision and editing checklists 13.Peer review of latest draft 14.Final essay submission/Course review test 15.Return of essays/Self-reflection	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on submissions of work in progress and final writing assignment (90%), and an academic writing skills test (10%).	

09年度以降	College Grammar (月2) Introductory Grammar (再履修)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ(授業計画2~7参照)。次に、文の各要素について学ぶ(授業計画7~14参照)。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p> <p>なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞 I</li> <li>5. 述語動詞 II (1)</li> <li>6. 述語動詞 II (2)</li> <li>7. 文の種類・8 品詞</li> <li>8. 名詞</li> <li>9. 代名詞 (1)</li> <li>10. 代名詞 (2)</li> <li>11. 形容詞</li> <li>12. 冠詞</li> <li>13. 副詞</li> <li>14. 前置詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：なし		授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (月2) Introductory Grammar (再履修)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ(授業計画2~9参照)。次に、日本人学習者が間違え易い文法事項について学ぶ(授業計画10~14参照)。この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。</p> <p>なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 動詞</li> <li>3. 助動詞 (1)</li> <li>4. 助動詞 (2)</li> <li>5. 助動詞 (3)</li> <li>6. 時制 (1)</li> <li>7. 時制 (2)</li> <li>8. 呼応と時制の一致 (1)</li> <li>9. 呼応と時制の一致 (2)</li> <li>10. 仮定法</li> <li>11. 態</li> <li>12. 関係代名詞 (1)</li> <li>13. 関係代名詞 (2)</li> <li>14. 関係副詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：なし		授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (月5) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>平常点&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	College Grammar (月5) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>平常点&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	佐藤 芳明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙(レキシコン)に文法情報(グラマー)が含まれているという前提に立って、語のコア(本質的な意味)に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。</p> <p>レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ (semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。</p> <p>英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text (テキストにおける文法)の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 レキシカル・グラマーの世界</li> <li>2. 前置詞の用法展開</li> <li>3. Grammar in text I 前置詞の空間的イメージ</li> <li>4. WILL とテンス</li> <li>5. Grammar in text II 未来表現とテンス・アスペクト</li> <li>6. 冠詞の使用原理と名詞チャンクの基本構造</li> <li>7. Grammar in text III 名詞形への感性を磨く</li> <li>8. GIVE のコアと構文展開と句動詞</li> <li>9. Grammar in text IV 基本動詞の表現世界</li> <li>10. AS の構文的多様性 比較、比例、同時、同様など</li> <li>11. Grammar in text V 複文構造に慣れる</li> <li>12. プレゼンテーション I</li> <li>13. プレゼンテーション II</li> <li>14. プレゼンテーション III</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※上記内容はクラス状況に応じて変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト:『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』(開拓社). 参考文献:『表現英文法 GFE』(コスモピア),『イメージでわかる単語帳』(NHK 出版)。</p>		<p>参加態度=20%; アサインメント=20%; プレゼンテーション=20%; ファイナルペーパー (A4×5頁以上)=20%; 自己評価=20%。4回以上欠席は単位を与えない。</p>	

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	佐藤 芳明
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期から継続して、レキシカル・グラマーの観点からコミュニケーションに資する英文法の可能性を探る。レキシカル・グラマーとは、語彙(レキシコン)に文法情報(グラマー)が含まれているという前提に立って、語のコア(本質的な意味)に基づいて、複数の構文間に意味の連続性を見いだそうとする新しい文法の視点である。</p> <p>レキシカル・グラマーは「意味的動機づけ (semantic motivation)」、つまり、「なぜそう言うのか」に注目するため、特に、第二言語として英語の獲得を目指す成人学習者への教育的介入において相応の効果が期待される。実際に、2007年度以降文科省認可高等学校外国語教科書等でも採用されており、既にある程度普及しているアプローチでもある。</p> <p>英文法の「なぜ」に挑戦し、「そうか、なるほど」という気づきを得、そこからさらに一歩進んで、「よし、じゃ、使ってみよう」と思えるような、新しい英文法を構想していく。それがこの授業のねらいである。説明一辺倒にならぬよう、grammar in text (テキストにおける文法)の分析等を取り入れ、参加者によるプレゼンテーションも組み込む予定。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入 レキシカル・グラマーの可能性</li> <li>2. 前置詞の多義と文法化</li> <li>3. Grammar in text I 前置詞の把握が解釈を決める</li> <li>4. TO DO と ING の用法</li> <li>5. Grammar in text II 不定詞・動名詞・分詞の意味世界</li> <li>6. WH-構文のネットワーク 疑問詞～関係詞へ</li> <li>7. Grammar in text III WH 構文を自在に操る</li> <li>8. 態度表明を示す法助動詞 MAY, MUST, CAN など</li> <li>9. Grammar in text IV 話し手の主観を読み解く</li> <li>10. IT&amp;THAT とその構文展開</li> <li>11. Grammar in text V IT・THAT から見えてくること</li> <li>12. プレゼンテーション I</li> <li>13. プレゼンテーション II</li> <li>14. プレゼンテーション III</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>※「前置詞」は春学期も扱っているが、特に重要な項目であるため、敢えて、秋学期も再度扱うものとする。 ※上記内容はクラス状況に応じて調整・変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト:『レキシカル・グラマーへの招待—新しい教育英文法の可能性』(開拓社). 参考文献:『表現英文法 GFE』(コスモピア),『イメージでわかる単語帳』(NHK 出版)。</p>		<p>参加態度=20%; アサインメント=20%; プレゼンテーション=20%; ファイナルペーパー (A4×5頁以上)=20%; 自己評価=20%。4回以上欠席は単位を与えない。</p>	

09年度以降	College Grammar (水2) Introductory Grammar (再履修)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ(授業計画2~7参照)。次に、文の各要素について学ぶ(授業計画7~14参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 文</li> <li>3. 主部・文型</li> <li>4. 述語動詞 I</li> <li>5. 述語動詞 II (1)</li> <li>6. 述語動詞 II (2)</li> <li>7. 文の種類・8 品詞</li> <li>8. 名詞</li> <li>9. 代名詞 (1)</li> <li>10. 代名詞 (2)</li> <li>11. 形容詞</li> <li>12. 冠詞</li> <li>13. 副詞</li> <li>14. 前置詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：なし		授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (水2) Introductory Grammar (再履修)	担当者	靱江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ(授業計画2~9参照)。次に、日本人学習者が間違え易い文法事項について学ぶ(授業計画10~14参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 動詞</li> <li>3. 助動詞 (1)</li> <li>4. 助動詞 (2)</li> <li>5. 助動詞 (3)</li> <li>6. 時制 (1)</li> <li>7. 時制 (2)</li> <li>8. 呼応と時制の一致 (1)</li> <li>9. 呼応と時制の一致 (2)</li> <li>10. 仮定法</li> <li>11. 態</li> <li>12. 関係代名詞 (1)</li> <li>13. 関係代名詞 (2)</li> <li>14. 関係副詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：なし		授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。	

09年度以降	College Grammar (水2) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文 (1) 4・移動が関与する構文 (2) 5・移動が関与する構文 (3) 6・補部と付加部の区別 (1) 7・補部と付加部の区別 (2) 8・補部と付加部の区別 (3) 9・条件の副詞節 (1) 10・条件の副詞節 (2) 11・条件の副詞節 (3) 12・Be 動詞の機能 (1) 13・Be 動詞の機能 (2) 14・Be 動詞の機能 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (前期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>平常点&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	

09年度以降	College Grammar (水2) Introductory Grammar (再履修)	担当者	河原 宏之
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>学校文法 (School Grammar) と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。</p> <p>一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだという事に気付かされます。</p> <p>授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。</p>		<p>1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性 (1) 4・解釈の曖昧性 (2) 5・SVOC 構文の下位区分 (1) 6・SVOC 構文の下位区分 (2) 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (1) 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈 (2) 9・一般動詞の意味特性 (1) 10・一般動詞の意味特性 (2) 11・一般動詞の意味特性 (3) 12・情報構造 (1) 13・情報構造 (2) 14・情報構造 (3) 15・総復習</p> <p>※ 上記内容が変更する場合があります。 ※ 初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※ 本講義 (後期) の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店</p>		<p>平常点&amp;授業参加率 (30%)、試験、およびそれに順ずるもの (70%) の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。</p>	



09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 場所扱いか道具扱いか (1)</li> <li>3. 場所扱いか道具扱いか (2)</li> <li>4. 自動詞+前置詞は他動詞か (1)</li> <li>5. 自動詞+前置詞は他動詞か (2)</li> <li>6. 〈道具〉はいつ主語になれるか (1)</li> <li>7. 〈道具〉はいつ主語になれるか (2)</li> <li>8. 再帰代名詞の不思議 (1)</li> <li>9. 再帰代名詞の不思議 (2)</li> <li>10. EAT AT は EAT とどう違うのか (1)</li> <li>11. EAT AT は EAT とどう違うのか (2)</li> <li>12. Mary hit John on the head.の構文 (1)</li> <li>13. Mary hit John on the head.の構文 (2)</li> <li>14. I did the book.=「私はその本をした」? (1)</li> <li>15. I did the book.=「私はその本をした」? (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実 (1995-1998)「発見の英文法 連載 1~7」『高校英語展望』第 8号~第 14号. 小学館・尚学図書.		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	小早川 暁
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義の目的は、英文法そのものに対する理解を深めること及びその方法論を修得することである。学期末には、暗記の対象としてではなく、発見・理解の対象としての文法という考え方を身につけることを目標とする。また、英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して、多くの者にとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 「数の一致」はどのように決まるか (1)</li> <li>3. 「数の一致」はどのように決まるか (2)</li> <li>4. 絶対複数名詞 trousers の不思議 (1)</li> <li>5. 絶対複数名詞 trousers の不思議 (2)</li> <li>6. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (1)</li> <li>7. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (2)</li> <li>8. 何が可算名詞と質量名詞を分けるか (3)</li> <li>9. 秤の変遷: scales から scale への道 (1)</li> <li>10. 秤の変遷: scales から scale への道 (2)</li> <li>11. なぜ in a carなのに on a busなのか (1)</li> <li>12. なぜ in a carなのに on a busなのか (2)</li> <li>13. なぜ in a carなのに on a busなのか (3)</li> <li>14. なぜ at night というのに at day とはいわないか (1)</li> <li>15. なぜ at night というのに at day とはいわないか (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
中右実 (1998-2001)「発見の英文法 連載 8~20」『高校英語展望』第 15号~第 20号. 小学館・尚学図書.		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

09年度以降	College Grammar (水3) Introductory Grammar (再履修)	担当者	韮江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、英文法の細部の知識を正確に身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。</p> <p><b>講義概要</b> 秋学期は、動詞に関連する文法事項を重点的に学習する。まず、動詞、助動詞、時制について学ぶ(授業計画 2～9 参照)。次に、日本人学習者が間違い易い文法事項について学ぶ(授業計画 10～14 参照)。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるので、英語学の知識は講義参加の前提としないが、英語学への興味を講義参加の前提とする。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要</li> <li>2. 動詞</li> <li>3. 助動詞 (1)</li> <li>4. 助動詞 (2)</li> <li>5. 助動詞 (3)</li> <li>6. 時制 (1)</li> <li>7. 時制 (2)</li> <li>8. 呼応と時制の一致 (1)</li> <li>9. 呼応と時制の一致 (2)</li> <li>10. 仮定法</li> <li>11. 態</li> <li>12. 関係代名詞 (1)</li> <li>13. 関係代名詞 (2)</li> <li>14. 関係副詞</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：なし</p>		<p>授業貢献度(授業出席点ではない)(30%)、期末試験(70%)を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	田川 憲二郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>皆さんは中学・高校で英文法の体系を一通り学んできたと思いますが、その過程で「なぜこの単語はこんな意味で使われるのか?」、「この単語の品詞は何だろう?」といった疑問を数多く抱かれてきたと思います。しかし、受験という大目標を前にして、とりあえず諸用法を丸暗記することでしのいで来たのではないのでしょうか。受験から解放された今こそ、こうした疑問について徹底的に考えるチャンスです。本講義では、誰もが抱く英文法の疑問の中から主に動詞に関する問題を取り上げて、一定の説明を与えることを試みます。使用する教科書『実践ロイヤル英文法』で網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思っています。英文法の諸現象には、まだ十分に説明されていないものがたくさんあります。先生の説明を鵜呑みにするのではなく、皆さんなりの説明を見つけてることを試みましょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主要な文法体系の概要 (認知文法、生成文法、伝統文法など)</li> <li>2. 文のタイプ</li> <li>3. 自動詞と他動詞</li> <li>4. アスペクトによる動詞の分類</li> <li>5. 本動詞、助動詞としての be, do, have</li> <li>6. 時制</li> <li>7. 完了形</li> <li>8. 進行形</li> <li>9. 法助動詞(can, will)</li> <li>10. 法助動詞(may, should)</li> <li>11. 態</li> <li>12. to 不定詞</li> <li>13. 過去分詞</li> <li>14. 現在分詞と動名詞</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
綿貫陽・Mark Petersen 著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社		小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)	

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	田川 憲二郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期に引き続き、英文法について多くの学生が抱きながら、明確な説明を得られないままになっている諸問題について、検討し、納得できる説明を得ることを目指します。</p> <p>本講座で使用する教科書『実践ロイヤル英文法』で網羅的に記述されている、英語のさまざまな文型、表現、語法の例をたたき台にして、皆さんとともに「なぜ」について考えていきたいと思っています。たとえば、なぜ仮定法では時制が過去方向にずれるのでしょうか? 疑問詞と関係詞には、なぜ同じ単語が用いられるのでしょうか? 多くの前置詞は、なぜ空間と時間の両方の文脈で用いることができるのでしょうか? no と not には、どのような相違があるのでしょうか? こうした疑問について、こちらから特定の説明法を押し付けることははしませんので、授業での解説を鵜呑みにするのではなく、認知文法、生成文法、伝統文法など、様々な視点からまとめられた文法体系の考え方を比較、検証し、また自ら思索することによって、皆さんなりの解答を見つけて下さい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 春学期の内容を概観</li> <li>2. 仮定法</li> <li>3. 疑問詞</li> <li>4. 接続詞</li> <li>5. 関係詞</li> <li>6. 前置詞</li> <li>7. 名詞</li> <li>8. 冠詞</li> <li>9. 代名詞</li> <li>10. 形容詞</li> <li>11. 副詞</li> <li>12. 比較</li> <li>13. 否定(完全否定、部分否定、準否定)</li> <li>14. 否定(no と not の相違、鯨の構文)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
綿貫陽・Mark Petersen 共著『表現のための実践ロイヤル英文法』旺文社		小テスト(30%)、授業への参加姿勢(20%)、期末試験(50%)	

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英文法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を発することが大切で、そこから始めると、次第に英語母語話者の頭の中で英語というコトバがどのようなかたちで理解され、何が起きているのかがわかってきます。</p> <p>言葉によるコミュニケーションが結局のところ「何を言いたいか」という意味のやり取りであることから、この授業では、従来から扱われてきた「英文法」を意味の観点から徹底的に見直していきます。</p> <p>「ドアをノックする」を英語で何と言うかと尋ねると、多くの学生が knock the door と回答します。正解は knock on the door ですが、ではなぜそうなのかと問うと、「そう習ったからそう覚えている」としか答えない学生がほとんどです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことなのです。そうすれば、ほんの一例ですが、“No news is good news.”と “No tap water is 100% pure.”が、前者が news だけを否定する（語否定）と解するのが自然で、後者が「水道水が 100 パーセント純粋などということはない」という文否定であることもわかるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本文型—新しい視点から眺めて</li> <li>2. 続き</li> <li>3. 文の構造—文の多様性を探る</li> <li>4. 続き</li> <li>5. 続き</li> <li>6. 動詞—文の中心語句を解明</li> <li>7. 続き</li> <li>8. 続き</li> <li>9. 否定—否定の正しい意味解釈のために</li> <li>10. 続き</li> <li>11. 続き</li> <li>12. 助動詞—文のニュアンスを表現する</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 受動文—なぜ受動文は存在するのか</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤健三・ほか『大学生のための現代英文法』開拓社		最終成績のうち、授業への熱意さの顕れと小テストで 5 割定期試験で 5 割の比重を占めることとなります。	

09年度以降	College Grammar Introductory Grammar (再履修)	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生にとって恥ずかしくない、きっちりとした英文法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜこう言えて、ああ言えないのか？」と素朴な疑問を発することが大切で、そこから始めると、次第に英語母語話者の頭の中で英語というコトバがどのようなかたちで理解され、何が起きているのかがわかってきます。</p> <p>言葉によるコミュニケーションが結局のところ「何を言いたいか」という意味のやり取りであることから、この授業では、従来から扱われてきた「英文法」を意味の観点から徹底的に見直していきます。</p> <p>そうやって見直していくと、「like は to 不定詞と ing 動名詞をとる」のに「dislike は不定詞をとらない」と習ってただそれを暗記してきたわけですが、実は「なぜそうになっているのか」ということは to 不定詞のもつ意味と ing 動名詞のもつ意味をよく考えればわかってくるようになります。</p> <p>なお、時間的余裕がある場合は TOEIC などの文法問題を実際に解いていってもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 準動詞—第 2 の「文」としての解釈</li> <li>2. 続き</li> <li>3. 続き</li> <li>4. 形容詞—名詞修飾だけが形容詞の機能ではない</li> <li>5. 続き</li> <li>6. 名詞句と文構造の多様性—正確な文の解釈を求めて</li> <li>7. 続き</li> <li>8. 続き</li> <li>9. 代用表現—合理的な表現手段について</li> <li>10. 続き</li> <li>11. 続き</li> <li>12. 関係詞—基本から派生へ</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 特殊構文—効果的なコミュニケーションのために</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
伊藤健三・ほか『大学生のための現代英文法』開拓社		最終成績のうち、授業への熱意さの顕れと小テストで 5 割定期試験で 5 割の比重を占めることとなります。	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Course Introduction</li> <li>2.Discussing an example news article</li> <li>3.Developing mind map skills for presenting articles</li> <li>4.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>5.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>6.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>7.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>8.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>9.Review of presentation/mind map skills</li> <li>10.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>11.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>12.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>13.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>14.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>15.Speaking test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. フォード
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>In this one-semester Communication Skills course students develop their persuasive and communicative language skills. This will involve reading, discussing, and presenting news articles chosen by students. Each student presents two news articles to their classmates and leads discussion based on questions they have prepared. Questions should promote opinion giving and logical reasoning. The first article is presented to small groups of students and should help everyone get used to, and feel confident about, the task and requirements. The second article is presented to the whole class. Students taking this course should feel confident that they have the ability to communicate ideas, opinions, and logical reasoning effectively and coherently in English.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Course Introduction</li> <li>2.Discussing an example news article</li> <li>3.Developing mind map skills for presenting articles</li> <li>4.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>5.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>6.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>7.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>8.Students present articles to small groups/discussion</li> <li>9.Review of presentation/mind map skills</li> <li>10.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>11.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>12.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>13.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>14.Students present articles to whole class/discussion</li> <li>15.Speaking test</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No textbook is required for this course.		Grades are based on active class participation (50%), presentations (40%), and speaking test (10%).	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. M. ホーネス																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
<p>This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.</p>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>Introduction</td></tr> <tr><td>2</td><td>Future, Suprasegmentals (intonation)</td></tr> <tr><td>3</td><td>Simple Past</td></tr> <tr><td>4</td><td>Alibi</td></tr> <tr><td>5</td><td>Alibi</td></tr> <tr><td>6</td><td>Culture Presentation: food &amp; tourist attractions</td></tr> <tr><td>7</td><td>Comparisons and superlatives</td></tr> <tr><td>8</td><td>Conditionals</td></tr> <tr><td>9</td><td>Conditionals</td></tr> <tr><td>10</td><td>Reading presentation</td></tr> <tr><td>11</td><td>Survey: Movies</td></tr> <tr><td>12</td><td>Survey: Personality</td></tr> <tr><td>13</td><td>Culture Presentation</td></tr> <tr><td>14</td><td>Speaking tests</td></tr> <tr><td>15</td><td>Speaking tests (written summaries due)</td></tr> </table> <p>Subject to change based on class's needs.</p>		1	Introduction	2	Future, Suprasegmentals (intonation)	3	Simple Past	4	Alibi	5	Alibi	6	Culture Presentation: food & tourist attractions	7	Comparisons and superlatives	8	Conditionals	9	Conditionals	10	Reading presentation	11	Survey: Movies	12	Survey: Personality	13	Culture Presentation	14	Speaking tests	15	Speaking tests (written summaries due)
1	Introduction																																
2	Future, Suprasegmentals (intonation)																																
3	Simple Past																																
4	Alibi																																
5	Alibi																																
6	Culture Presentation: food & tourist attractions																																
7	Comparisons and superlatives																																
8	Conditionals																																
9	Conditionals																																
10	Reading presentation																																
11	Survey: Movies																																
12	Survey: Personality																																
13	Culture Presentation																																
14	Speaking tests																																
15	Speaking tests (written summaries due)																																
テキスト、参考文献		評価方法																															
None		<table border="0"> <tr><td>Participation</td><td>30</td></tr> <tr><td>Summary</td><td>10</td></tr> <tr><td>Presentations (3X10)</td><td>30</td></tr> <tr><td>Speaking Test</td><td>30</td></tr> </table>		Participation	30	Summary	10	Presentations (3X10)	30	Speaking Test	30																						
Participation	30																																
Summary	10																																
Presentations (3X10)	30																																
Speaking Test	30																																

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. M. ホーネス																														
講義目的、講義概要		授業計画																															
<p>This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.</p>		<table border="0"> <tr><td>1</td><td>Introduction</td></tr> <tr><td>2</td><td>Survey: Bilinguals</td></tr> <tr><td>3</td><td>Survey: Dating</td></tr> <tr><td>4</td><td>Culture Presentation: language &amp; art</td></tr> <tr><td>5</td><td>Survey: MASK</td></tr> <tr><td>6</td><td>School festival</td></tr> <tr><td>7</td><td>Survey: Travel</td></tr> <tr><td>8</td><td>Survey: Music</td></tr> <tr><td>9</td><td>Music presentation</td></tr> <tr><td>10</td><td>Presentation preparation</td></tr> <tr><td>11</td><td>Formal Presentation using PowerPoint</td></tr> <tr><td>12</td><td>Formal Presentation using PowerPoint</td></tr> <tr><td>13</td><td>Christmas</td></tr> <tr><td>14</td><td>Speaking tests (written summaries due)</td></tr> <tr><td>15</td><td>Speaking tests</td></tr> </table> <p>Subject to change based on class's needs.</p>		1	Introduction	2	Survey: Bilinguals	3	Survey: Dating	4	Culture Presentation: language & art	5	Survey: MASK	6	School festival	7	Survey: Travel	8	Survey: Music	9	Music presentation	10	Presentation preparation	11	Formal Presentation using PowerPoint	12	Formal Presentation using PowerPoint	13	Christmas	14	Speaking tests (written summaries due)	15	Speaking tests
1	Introduction																																
2	Survey: Bilinguals																																
3	Survey: Dating																																
4	Culture Presentation: language & art																																
5	Survey: MASK																																
6	School festival																																
7	Survey: Travel																																
8	Survey: Music																																
9	Music presentation																																
10	Presentation preparation																																
11	Formal Presentation using PowerPoint																																
12	Formal Presentation using PowerPoint																																
13	Christmas																																
14	Speaking tests (written summaries due)																																
15	Speaking tests																																
テキスト、参考文献		評価方法																															
None		<table border="0"> <tr><td>Participation</td><td>30</td></tr> <tr><td>Summary</td><td>20</td></tr> <tr><td>Presentations (3X10)</td><td>30</td></tr> <tr><td>Speaking Test</td><td>20</td></tr> </table>		Participation	30	Summary	20	Presentations (3X10)	30	Speaking Test	20																						
Participation	30																																
Summary	20																																
Presentations (3X10)	30																																
Speaking Test	20																																

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Let's speak lots of English Together</p> <p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>First Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the course of studies.</li> <li>2 Japanese work ethics.</li> <li>3 Attitudes towards women.</li> <li>4 Other gender issues.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speechgggggggges: 30% End of term speaking tests: 30% Participation and effort: 20%. Various writing assignments: 20%	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Let's speak lots of English together</p> <p>Beat the Monday morning blues with this dynamic and exciting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!</p>		<p>Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester.</p> <p>Second Semester Topics</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Brief introduction/welcome back to class.</li> <li>2 Computers and society.</li> <li>3 Ageing Society.</li> <li>4 The Automobile.</li> </ol> <p>Important note:</p> <p>The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.		Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 30% End of term speaking tests: 30% Participation and effort: 20%. Various writing assignments: 20%	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
Everyone has opinions, and in this class, we will focus on skills and language strategies students need to support, defend, and refute opinions. We will explore different perspectives of issues, learn how to research and express an opinion, and organise information into a logically structured message designed to persuade an audience. Through presentations and debates, students analyse and refute arguments, challenge evidence and practise speaking in a logically persuasive manner.		1: Course introduction 2: Discussing different types of opinions 3: Explaining your opinion 4: Supporting your opinion with evidence 5: Organising your opinion 6: Give first presentations 7: Introductions and conclusions 8: Give second presentations 9: Refuting explanations 10: Challenging supports 11: Organising your refutation 12: Team debate 1 13: Rebuttal speeches 14: Team debate 2 15: Team debate 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
Michael Lubetsky, Charles LeBeau & David Harrington, <i>Discover Debate</i> , Language Solutions Inc.		Presentations/Debates: 80%, Participation: 20%	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	A. ジョーンズ
講義目的、講義概要		授業計画	
Everyone has opinions, and in this class, we will focus on skills and language strategies students need to support, defend, and refute opinions. We will explore different perspectives of issues, learn how to research and express an opinion, and organise information into a logically structured message designed to persuade an audience. Through presentations and debates, students analyse and refute arguments, challenge evidence and practise speaking in a logically persuasive manner.		1: Course introduction 2: Discussing different types of opinions 3: Explaining your opinion 4: Supporting your opinion with evidence 5: Organising your opinion 6: Give first presentations 7: Introductions and conclusions 8: Give second presentations 9: Refuting explanations 10: Challenging supports 11: Organising your refutation 12: Team debate 1 13: Rebuttal speeches 14: Team debate 2 15: Team debate 2	
テキスト、参考文献		評価方法	
Michael Lubetsky, Charles LeBeau & David Harrington, <i>Discover Debate</i> , Language Solutions Inc.		Presentations/Debates: 80%, Participation: 20%	



13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks.</p> <p>By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion.</p> <p>To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.</p>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Small group discussion task</p> <p>Week 3: Assessing and evaluating discussions</p> <p>Week 4: Language for discussions</p> <p>Week 5: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 6: Discussions &amp; quiz</p> <p>Week 7: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 8: Discussions &amp; vocabulary quiz</p> <p>Week 9: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 10: Discussions &amp; quiz</p> <p>Week 11: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 12: Discussions &amp; vocabulary quiz</p> <p>Week 13: Discussions &amp; notebook writing</p> <p>Week 14: Discussions &amp; submit notebooks</p> <p>Week 15: Review and feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None. Materials will be provided by the instructor.		<p>Discussion presentations and reports 40%</p> <p>Vocabulary notebook 20%</p> <p>Quizzes 20%</p> <p>Participation 20%</p>	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	M. ダーリン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks.</p> <p>By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners.</p> <p>The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion.</p> <p>To build their vocabulary, students will be required to make weekly entries of new words in their vocabulary notebooks.</p>		<p>Week 1: Course Introduction</p> <p>Week 2: Small group discussion task</p> <p>Week 3: Assessing and evaluating discussions</p> <p>Week 4: Language for discussions</p> <p>Week 5: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 6: Discussions &amp; quiz</p> <p>Week 7: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 8: Discussions &amp; vocabulary quiz</p> <p>Week 9: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 10: Discussions &amp; quiz</p> <p>Week 11: Discussions &amp; news article</p> <p>Week 12: Discussions &amp; vocabulary quiz</p> <p>Week 13: Discussions &amp; notebook writing</p> <p>Week 14: Discussions &amp; submit notebooks</p> <p>Week 15: Review and feedback</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None. Materials will be provided by the instructor.		<p>Discussion presentations and reports 40%</p> <p>Vocabulary notebook 20%</p> <p>Quizzes 20%</p> <p>Participation 20%</p>	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)  Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.  Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication.)</i>  Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.) ]  Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?" "What are your plans for Mother's Day?"  Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.  Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.  Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.  Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.  Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.  Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.  Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <b>etiquette and manners</b> Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.  Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <b>street directions</b>, and/or <b>train directions</b>. Preparing for student presentations.  Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English): and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.  Week 14: <b>Body Language &amp; 'EQ'</b> Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.  Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <b>future plans (for the Summer)</b>, in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b>	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (火2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)  Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b>, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.  Week 2: "<b>What do you usually do ...?</b>" discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.  Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.  Week 4: <b>Hallowe'en</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.  Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.  Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive <b>advice</b>, in English. Pair practice. Ongoing assessments.  Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <i>Fall/Winter festival</i> about which to make a presentation. Discussion about "<b>EQ</b>", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.  Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. Student answersto "<b>What are you thankful for?</b>" Preparations for student presentations.  Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.  Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.  Week 11: "<b>How often do you ...?</b>" discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.  Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas</b>, and <b>Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.  Week 13: Asking others, and elaborating about <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.  Week 14: "<b>How was your Christmas?</b>" &amp; "<b>How was your O Sho Gatau?</b>": discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your "<b>New Year's Resolutions</b>". Final student presentations.  Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <b>future plans</b> for the February &amp; March Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b>	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	D. ベーカー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term, semi-elective course aims to develop your ability to be persuasive in English</p> <p>You will engage in</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) asserting &amp; opposing opinions / beliefs</li> <li>2) critical analysis of texts</li> <li>3) advanced multimedia presentation techniques</li> </ol> <p>In the first third of the course: I will present example topics and issues for you to read, discuss, debate, and then emulate</p> <p>Second third: you will choose, research and prepare a presentation of your own on a suitable topic / issue</p> <p>Final third: you will present your topics with the aim of persuading your classmates</p> <p>The overall objective of this course is to create an atmosphere conducive to open-mindedness and free-thinking in which to foster a mature, constructively critical approach towards the development and presentation of your own ideas, opinions and beliefs</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Course overview</li> <li>2 Historical events: research &amp; readings</li> <li>3 Presentation &amp; discussion</li> <li>4 Current affairs: research &amp; readings</li> <li>5 Presentation &amp; debate</li> <li>.....</li> <li>6 Choosing your topic / issue</li> <li>7 Reading &amp; sharing your research</li> <li>8 Outlining your presentation &amp; handout</li> <li>9 Creating your presentation</li> <li>10 Presentation practice and editing</li> <li>.....</li> <li>11 Class presentations for discussion or debate</li> <li>12 Class presentations for discussion or debate</li> <li>13 Class presentations for discussion or debate</li> <li>14 Class presentations for discussion or debate</li> <li>15 Review &amp; Evaluations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set textbook for this course		Evaluation based upon continuous assessment of: class participation - 50% one presentation with handout - 50%	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an intermediate-level context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture I</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductory Class</li> <li>2. Introduction to Britain</li> <li>3. British Pop</li> <li>4. London</li> <li>5. The Train</li> <li>6. Heathrow Airport</li> <li>7. William Shakespeare</li> <li>8. Tea</li> <li>9. Climbers</li> <li>10. Sherlock Holmes</li> <li>11. The Purple Violin</li> <li>12. British Universities</li> <li>13. An English Summer</li> <li>14. Review</li> <li>15. Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.		30% Classwork, 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	R. J. バロウズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is an upper-intermediate context based course which seeks to:</p> <p>a) offer students an overview of British society, people &amp; culture</p> <p>b) improve students analytical &amp; critical abilities towards foreign &amp; Japanese culture</p> <p>c) broaden students' communicative abilities via listening &amp; conversation practice around a variety of topics &amp; issues</p> <p>In addition to viewing &amp; discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 - 10 minute presentation and submit a 1,500+ word report on any topic from British culture during the term.</p>		<p>UK Culture II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Preview</li> <li>2. The Seven Wonders of Britain</li> <li>3. Wales</li> <li>4. BBC World Service</li> <li>5. The Mini</li> <li>6. The Village</li> <li>7. Agatha Christie</li> <li>8. Charles Dickens</li> <li>9. The Sea</li> <li>10. Taxi</li> <li>11. Public School</li> <li>12. WOMAD</li> <li>13. A British Christmas</li> <li>14. Review</li> <li>15. Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
There is no set text but a file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is also required.		30% Classwork , 30% Homework, 20% Presentation, 20% Report.	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	B. D. タッチャー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>In this class we will look at contemporary issues from persuasive perspectives. Students will develop their abilities to form and present cohesive opinions and arguments while responding to the opinions and ideas of others.</p> <p>The discussion topics will be chosen by the teacher and the students and presented in written (article) and verbal form.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introductions</li> <li>2. Getting to know each other</li> <li>3. Issues in the modern world</li> <li>4. Happiness</li> <li>5. Fear.</li> <li>6. Student topics</li> <li>7. Responding to ideas.</li> <li>8. Sadness</li> <li>9. Student topics</li> <li>10. Anger</li> <li>11. Research presentation topic choice and preparation.</li> <li>12. Topical issues.</li> <li>13. Research presentations and discussions.</li> <li>14. Research presentations and discussions.</li> <li>15. Exam period.</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
None		Students will be assessed on ongoing participation and performance in class and the presentation.	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	D. マッキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and class participation, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	D. マッキャン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations.</p> <p>A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.</p>		<p>Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.		Assessment will be based on involvement, performance and class participation, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	J. スネール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a class participation.</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Introduction to critical thinking</p> <p>Week 3: Finding the controversy</p> <p>Week 4: Making effective summaries</p> <p>Week 5: Introduction to debate</p> <p>Week 6: Introduction to small group discussion</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Introduction to topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop</p> <p>Week 13: Topic presentations</p> <p>Week 14: Topic presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		20% class participation 40% small group discussion leadership 40% persuasive presentation	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	J. スネール
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The goal of this course is to learn to use language and communication skills for persuading and influencing others about current topics that affect society. A secondary goal is to improve reading comprehension and analysis of those current topics. The class will also emphasize developing persuasive presentation skills. It will build on skills developed in the first semester.</p> <p>Most of class time will be devoted to the discussion of reading materials. Students will be expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Once during the semester, each student will have to lead a small group discussion. Students will also give one multimedia presentation to the class.</p> <p>Grades will be based on class participation, small group discussion leadership and a class participation.</p>		<p>Week 1: Orientation, introduction to topic discussion</p> <p>Week 2: Good observation, making pros and cons</p> <p>Week 3: Writer point of view, background influences</p> <p>Week 4: Making effective visual aids</p> <p>Week 5: Good discussion questions</p> <p>Week 6: Small group discussion workshop</p> <p>Week 7: Small group discussion group 1</p> <p>Week 8: Small group discussion group 2</p> <p>Week 9: Small group discussion group 3</p> <p>Week 10: Small group discussion group 4</p> <p>Week 11: Making effective topic presentations</p> <p>Week 12: Presentation workshop</p> <p>Week 13: Presentations</p> <p>Week 14: Presentations</p> <p>Week 15: Review and consultation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No class textbook. Handout will be provided by the teacher.		20% class participation 40% small group discussion leadership 40% persuasive presentation	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English; and</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (perhaps) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)  Week 1: <b>Introductions</b>, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, &amp; discussion.  Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking <i>student suggestions for topics/themes which they would like to learn &amp; study (especially with respect to international communication.)</i>  Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have <i>more effective communication?</i> <b>Expressing your opinions</b>, part one: "How do you feel about _____?" &amp; "What do you think of _____?" [Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and <i>communicate</i> a balanced Global viewpoint.) ]  Week 4: <b>Communicating about future plans</b>. "What are your plans for Golden Week?" "What are your plans for Mother's Day?"  Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": <b>communicating a past experience</b>...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day.  Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. <b>Directions</b>: asking for and communicating <i>street directions</i>, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation.  Week 7: Asking and telling other people about likes &amp; dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment.  Week 8: Discussing and communicating about your <b>hobbies</b>. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment.  Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros &amp; Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies.  Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about <b>movies, books, music, food, etc.</b>, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities &amp; class performance. Perhaps: refining possible presentation topics.  Week 11: Examining &amp; using of International vs. Domestic <b>etiquette and manners</b> Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations.  Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: <b>street directions</b>, and/or <b>train directions</b>. Preparing for student presentations.  Week 13: Continuous assessment. <b>Ways to meet new people</b> (using English): and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise: with discussion thereof. Class presentations.  Week 14: <b>Body Language &amp; 'EQ'</b> Gestures &amp; postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise &amp; discussion. Class presentations.  Week 15: Ongoing assessment. Discussing &amp; communicating your <b>future plans (for the Summer)</b>, in English. Pair practice. Final student presentations.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (20%); and homework/test(s)/presentations (45%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b>	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills (木2) Communicative English	担当者	R. ダラム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The purposes of the course are to show you how to:</p> <p>a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence);</p> <p>b) learn about and actively discuss <b>World Issues</b>, from an <b>International</b> point of view;</p> <p>c) enjoy <i>dynamic, interesting conversations</i> in smooth, Modern English;</p> <p>d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and</p> <p>e) (if students are interested) research and 'give' (present) a <i>class presentation</i>.</p>		<p>(* Note: This is a <i>tentative</i> schedule. The items listed may change, depending on: student needs &amp; requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.)  Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your <b>Summer Break</b>, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises.  Week 2: <b>"What do you usually do...?"</b> discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about &amp; study.) Continuous assessments.  Week 3: "What do you usually do...?", part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion.  Week 4: <b>Hallowe'en</b>: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations.  Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' &amp; Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations.  Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive <b>advice</b>, in English. Pair practice. Ongoing assessments.  Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and <b>Fall/Winter festival</b> about which to make a presentation. Discussion about <b>"EQ"</b>, and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations.  Week 8: Research and discussion re: <b>Thanksgiving</b>. Song-listening exercise. Student answersto <i>"What are you thankful for?"</i> Preparations for student presentations.  Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations.  Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations.  Week 11: <b>"How often do you ...?"</b> discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English &amp; "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations.  Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: <b>Christmas</b>, and <b>Christmas cultures</b> in various countries. Class presentations.  Week 13: Asking others, and elaborating about <b>New Year's wishes and plans</b>. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations.  Week 14: <b>"How was your Christmas?"</b> &amp; <b>"How was your O Sho Gatau?"</b>: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your <b>"New Year's Resolutions"</b>. Final student presentations.  Week 15: Review of <i>specific</i> New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: <b>future plans</b> for the February &amp; March Break.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.		The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you <b>participate</b> in class; how well you <b>speak and elaborate</b> (explain) in English, the ways in which you <b>reason</b> (think); how well you <b>use</b> the information taught to you; how well you <b>work together</b> with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 35%); class participation (25%); and homework/test(s)/presentations (40%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. <b>Attendance is CRUCIAL</b> (very important) in this class. <b>You must NOT miss more than three classes, for any reason.</b> Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) <b>lateness will also greatly affect your grade in this course. (One late = 1/2 absence.)</b>	



13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions.</p> <p>The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Exchanging personal information</li> <li>3. Personality Types</li> <li>4. Appearances</li> <li>5. Attitudes</li> <li>6. Comparing experiences</li> <li>7. Getting information</li> <li>8. Events</li> <li>9. Quiz</li> <li>10. Movies</li> <li>11. Music</li> <li>12. Media</li> <li>13. Education</li> <li>14. Commercials</li> <li>15. Presentations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Grades will be based on class participation , short presentations and tests	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion.</p> <p>The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Summer vacation</li> <li>2. Personal opinions</li> <li>3. Japan</li> <li>4. Preferences</li> <li>5. Religions</li> <li>6. Film and TV</li> <li>7. Language</li> <li>8. Poverty</li> <li>9. War and Peace</li> <li>10. Diet and nutrition</li> <li>11. Green issues</li> <li>12. Natural Disasters</li> <li>13. Sexism</li> <li>14. Poster Presentations</li> <li>15. Poster Presentations</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Grades will be based on class participation , short presentations and tests	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills.</li> <li>2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts.</li> <li>3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process.</li> <li>4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas and opinions.</li> </ol>		<p>Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Final Exam</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%	

13年度以降 12年度以前	Communication Skills Communicative English	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This one-term, semi-elective course aims to further develop and build on language communication skills covered in Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II. The prerequisites for the Communication Skills class are Comprehensive English I/II and Reading Strategies I/II or a TOEIC score of 600 or above.</p> <p><u>Overall Objectives</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills.</li> <li>2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts.</li> <li>3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process.</li> <li>4. To foster a mature, analytical, and constructively critical approach towards the development and presentation of one's own ideas</li> </ol>		<p>Week 1 – Course introduction Week 2 – A risky aircraft Week 3 – Free trade partnerships Week 4 – The conflict in Syria Week 5 – Power saving Week 6 – Rare earth elements Week 7 – Environmental pollution Week 8 – Student presentations Week 9 – The biggest discovery in modern physics Week 10 – Japan in the space development race Week 11 – Social Media Olympics Week 12 – Same sex marriage Week 13 – Oscar awarded actress Week 14 – Tuition hikes in Quebec Week 15 – Final Exam</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Text: Current News English / Authors* A. Morita, T. Yabukoshi, K. Konno, K. Tsuchihashi, L. Yoffe Publisher: MacMillan Language House		Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%	

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course introduction  Week 2- First Impressions  Week 3- Traffic Jam  Week 4- Who Needs the Local Language  Week 5- Getting Ahead  Week 6- Forever Single  Week 7- Students Choose Discussion Topic  Week 8- What are Friends For?  Week 9- What's for Dinner?  Week 10- Cyber Bullying  Week 11- Taking Care of Father  Week 12- Why Go To School?  Week 13- Students Choose Discussion Topic  Week 14- Students Choose Discussion Topic  Week 15- Final Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Impact Issues – Book 2  Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka  Publisher: Pearson Longman</p>		<p>It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%</p>	

09年度以降	Discussion	担当者	P. マッケビリー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose. It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.</p>		<p>Week 1- Course Introduction  Week 2- An International Relationship  Week 3- Too Little, Too Late  Week 4- Ben and Mike  Week 5- Government Control  Week 6- Living Together  Week 7- Students Choose Discussion Topic  Week 8- Size Discrimination  Week 9- Who Will Help Them?  Week 10- Finding the Right One  Week 11- Dress for Success  Week 12- A Mother's Story  Week 13- Students Choose Discussion Topic  Week 14- Students Choose Discussion Topic  Week 15- Final Examination</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Impact Issues – Book 2  Author: Richard R. Day, Joseph Schaules, and Junko Yamanaka  Publisher: Pearson Longman</p>		<p>It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class-30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination -40%</p>	

09年度以降	Discussion	担当者	K. ミーハン
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The objective of this course is to have students develop the necessary skills, knowledge, and practice, to master oral communication. The course will put an emphasis on vocabulary building, speeches, pair-work and discussion. Students should be open to speak and work in small groups.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Self-Introductions</li> <li>2. Avertising</li> <li>3. Animal Rights</li> <li>4. Art &amp; Artists</li> <li>5. Beauty</li> <li>6. Beliefs</li> <li>7. Cime and Punishment</li> <li>8. Discipline</li> <li>9. Drinks and Drugs</li> <li>10. Family</li> <li>11. Fashion</li> <li>12. Film and TV</li> <li>13. IQ vs EQ</li> <li>14. Future Occupations</li> <li>15. Test- Poster presentation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
To be announced.		<p>Grades will be based on in-class performance(40%), presentations(30%) and tests (30%).</p>	

09年度以降	Discussion	担当者	L. K. ハーキンス
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
The goal of this course is to challenge the students to increase their English ability through discussions and a wide variety of speaking activities.		1-4 Discussions 5-6 Presentations 7-8 Discussions 9-10 Presentations 11-12 Discussions 13-15 Presentations	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
All materials will be provided		Participation and quality of work done on presentations	

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.</p> <p>Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p> <p>Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Student-Discussion 1  Week 3: Presentation and Discussion  Week 4: Discussion and Summation  Week 5: Student-Discussion 2  Week 6: Presentation and Discussion  Week 7: Discussion and Summation  Week 8: Student-Discussion 3  Week 9: Presentation and Discussion  Week 10: Discussion and Summation  Week 11: Student-Discussion 4  Week 12: Presentation and Discussion  Week 13: Discussion and Summation  Week 14: Final Summations  Week 15: Final Summations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.	

09年度以降	Discussion	担当者	N. H. ジョスト
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement. It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life. Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage.</p> <p>Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class. This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.</p> <p>Students considering this course should have a willingness to share their thoughts and ideas with others while at the same time being receptive to the views of others.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview  Week 2: Student-Discussion 5  Week 3: Presentation and Discussion  Week 4: Discussion and Summation  Week 5: Student-Discussion 6  Week 6: Presentation and Discussion  Week 7: Discussion and Summation  Week 8: Student-Discussion 7  Week 9: Presentation and Discussion  Week 10: Discussion and Summation  Week 11: Student-Discussion 8  Week 12: Presentation and Discussion  Week 13: Discussion and Summation  Week 14: Final Summations  Week 15: Final Summations</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
No text is required for this course. Newspaper articles will be presented.		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final discussion 25%.	

09年度以降	Discussion	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Discussion and Chat: what's the difference?</li> <li>3. Discussion VS Debate: what's the difference?</li> <li>4. Principles of a Good Discussion</li> <li>5. Listening, Agreeing and Disagreeing</li> <li>6. Topic 1: Graded (group) Exercise</li> <li>7. Organization of Ideas</li> <li>8. Topic 2: Graded (group) Exercise</li> <li>9. The Importance of Language</li> <li>10. Topic 3: Graded Exercise</li> <li>11. Mind-mapping: Can't be overlooked</li> <li>12. Topic 4: Graded Exercise</li> <li>13. Facts, Data &amp; Evidence</li> <li>14. Topic 4: Graded Exercise</li> <li>15. Summary and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

09年度以降	Discussion	担当者	C. B. 池口
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class will provide training on self-expression, correct language use and confidence through effective discussion and practical hands-on exercises.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Course</li> <li>2. Discussion VS Chat: what's the difference?</li> <li>3. Discussion VS Debate: what's the difference?</li> <li>4. Principles of a Good Discussion</li> <li>5. Skills for Effective Discussion</li> <li>6. Topic 1: Social Networking (Graded)</li> <li>7. Organization of Ideas</li> <li>8. Topic 2: LCC (Graded)</li> <li>9. Importance of Language</li> <li>10. Topic 3: Providing Evidence (Graded)</li> <li>11. Mind-mapping: Can't be overlooked</li> <li>12. Topic 4: Data Processing (Graded)</li> <li>13. Connecting Links in Speech</li> <li>14. Topic 4: Why Plastic Surgery (Graded)</li> <li>15. Summary and evaluation</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Textbook will be introduced on the first day of class.		Evaluation is based on summative performance on class participation, submission of requirements, and quality of input.	

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic # 1  Week 2: Discussion Topic # 2  Week 3: Discussion Topic # 3  Week 4: Discussion Topic # 4  Week 5: Discussion Topic # 5  Week 6: Discussion Topic # 6  Week 7: Discussion Topic # 7  Week 8: Library research project task 1  Week 9: Discussion Topic # 9  Week 10: Discussion Topic # 10  Week 11: Discussion Topic # 11  Week 12: Discussion Topic # 12  Week 13: Discussion Topic # 13  Week 14: Library research project task 2  Week 15: Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		1. E-Journal 20% 2. Weekly class activities 70% 3. Quiz 1 – week 15 10%	

09年度以降	Discussion	担当者	E. フランコ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The class goal is to develop and practice discussion skills in order to improve English speaking fluency. Students will learn target discussion skills then practice in pairs and small groups. The weekly topics are based on current local and global issues from English newspaper articles. This course aims to provide friendly forums for student discussions. Each given lesson will provide students with at least 60 minutes of speaking practice. Students will practice conversation and discussion skills through structured exercises expressing opinions and reasons, asking for opinions and reasons, sharing past experiences, agreeing and disagreeing.</p>		<p>Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements &amp; start topic #1  Week 2: Discussion Topic # 2  Week 3: Discussion Topic # 3  Week 4: Discussion Topic # 4  Week 5: Discussion Topic # 5  Week 6: Discussion Topic # 6  Week 7: Discussion Topic # 7  Week 8: Library research project task 1  Week 9: Discussion Topic # 9  Week 10: Discussion Topic # 10  Week 11: Discussion Topic # 11  Week 12: Discussion Topic # 12  Week 13: Discussion Topic # 13  Week 14: Library research project task 2  Week 15: Quiz</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Discussion notes and handouts will be provided every week.		1. E-Journal 20% 2. Weekly class activities 70% 3. Quiz 1 – week 15 10%	



09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion.</p> <p>Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Introductions</li> <li>2.Getting to know each other</li> <li>3.Agree / Disagree</li> <li>4.Creating discussions</li> <li>5.Discussion articles</li> <li>6.Your articles</li> <li>7.Your articles</li> <li>8.Opposing viewpoints</li> <li>9.Controversial issues</li> <li>10.Your discussion topics, partnering and preparation</li> <li>11.Discussion preparation</li> <li>12.Student lead discussions</li> <li>13.Students lead discussions</li> <li>14.Course review</li> <li>15.Exam period</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Students will be assessed on ongoing participation and performance in discussions and student lead discussions.	

09年度以降	Discussion	担当者	B. D. タッチャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This class focuses on developing students' ability to select good topics for discussion as well as forming and structuring their opinions to promote constructive discussion.</p> <p>Students will participate in, and lead, discussions at small group and full class level.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.Introductions</li> <li>2.Getting to know each other</li> <li>3.Agree / Disagree</li> <li>4.Creating discussions</li> <li>5.Discussion articles</li> <li>6.Your articles</li> <li>7.Your articles</li> <li>8.Opposing viewpoints</li> <li>9.Controversial issues</li> <li>10.Your discussion topics, partnering and preparation</li> <li>11.Discussion preparation</li> <li>12.Student lead discussions</li> <li>13.Students lead discussions</li> <li>14.Course review</li> <li>15.Exam period</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
None		Students will be assessed on ongoing participation and performance in discussions and student lead discussions.	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Syllabus Public Speaking I, making a presentation.</p> <p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p> <p>There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.</p>		<p>Week 1 Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation.</p> <p>Week 2 What listeners need. What speakers must do.</p> <p>Week 3 Topic : explain a future plan. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 4 Write and edit</p> <p>Week 5 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 6 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 7 Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 8 Write and edit</p> <p>Week 9 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 10 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 11 Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 12 Write and edit</p> <p>Week 13 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 14 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 15 Feedback, wrap-up.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text		according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	D. マッキー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Syllabus Public Speaking I, making a presentation.</p> <p>In this course students will develop skills needed for confident and effective group communication - public speaking - and become familiar with some of the various types of public speaking.</p> <p>Students will be guided to choose suitable topics, research information, edit the information, decide how to present it memorably, and finally make appropriate presentations to an audience. Attention will also be paid to aspects of speaker performance such as getting attention, making eye-contact, voice, pace, posture, using space, and involving the listeners.</p> <p>There is no text for this course, but the teacher will provide information and worksheet papers, so each student will need a clip file. You will need a good Learner's Dictionary, too.</p>		<p>Week 1 Introduction : Public speaking, why where when. It's not conversation.</p> <p>Week 2 What listeners need. What speakers must do.</p> <p>Week 3 Topic : explain a future plan. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 4 Write and edit</p> <p>Week 5 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 6 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 7 Topic : teaching people how to do something. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 8 Write and edit</p> <p>Week 9 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 10 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 11 Topic : making a persuasive argument. Ideas, research, homework !</p> <p>Week 12 Write and edit</p> <p>Week 13 Decide how to do it, "props", visuals, practice</p> <p>Week 14 Presentations, evaluation, feedback.</p> <p>Week 15 Feedback, wrap-up.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No Text		according to the work each student does in preparing and delivering a series of 3 presentations (50%). However, students will also be asked to evaluate each other, and these evaluations will contribute to the final grade (50%).	

09年度以降	Public Speaking I	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;">SPEECH</p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches. Students will then give their own speeches, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2-3 Elements of public speaking</p> <p>4-5 Effective speeches—examples and discussion</p> <p>6-8 Student speeches</p> <p>9-11 Effective speeches—examples and discussion</p> <p>12-14 Student speeches</p> <p>15 Reflection and summary</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Individual reading texts will be distributed in class.		4 speeches (drafts and final version)	

09年度以降	Public Speaking II	担当者	J. N. ウェンデル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p style="text-align: center;">PRESENTATION</p> <p>This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of presentations. Students will then give their own presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.</p>		<p>1 Orientation</p> <p>2-3 Elements of presentations</p> <p>4-5 Effective presentations—examples and discussion</p> <p>6-8 Student presentations</p> <p>9-11 Effective presentations—examples and discussion</p> <p>12-14 Student presentations</p> <p>15 Reflection and summary</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Individual reading texts will be distributed in class.		2 presentations (drafts and final version)	

09年度以降	Debate I	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This class is designed with two basic goals in mind:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues.</li> <li>2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking.</li> </ol> <p>Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable.</p> <p>Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p> <p>Students considering this class should keep in mind that a continuing course is offered in the 2<sup>nd</sup> semester, and will build on the skills previously learned.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview</p> <p>Week 2: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 3: Debate Preparations 1</p> <p>Week 4: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 5: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 6: Debate Preparations 2</p> <p>Week 7: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 8: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 9: Debate Preparations 3</p> <p>Week 10: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 11: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 12: Debate Preparations 4</p> <p>Week 13: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 14: Final Group Summations</p> <p>Week 15: Final Group Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be provided and internet debates will be presented.		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final debate 25%	

09年度以降	Debate II	担当者	N. H. ジョスト
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>This course is a continuation of Debate I. The course will follow the same format as Debate, but will address more advanced topics and allow more time for text analysis.</p> <p>The two basic goals in mind for this course are : 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking.</p> <p>Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.</p>		<p>Week 1: Class Introduction and overview</p> <p>Week 2: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 3: Debate Preparations 5</p> <p>Week 4: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 5: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 6: Debate Preparations 6</p> <p>Week 7: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 8: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 9: Debate Preparations 7</p> <p>Week 10: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 11: Mini Lecture on Debating</p> <p>Week 12: Debate Preparations 8</p> <p>Week 13: Debate &amp; Summations</p> <p>Week 14: Final Group Summations</p> <p>Week 15: Final Group Summations</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
No text is required for this course. Newspaper articles will be provided and internet debates will be presented		Grades are based on the following: in-class performance 50%, quizzes 25%, and a final debate 25%	

13年度以降	Academic Lecture	担当者	A. ゴーリンジャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(Japanese Art History)</p> <p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context.</p> <p>By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History</li> <li>3. The Basic Principles and Materials of Japanese Painting</li> <li>4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan"</li> <li>5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派)</li> <li>6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画)</li> <li>11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲</li> <li>12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>14. Museum Exhibition Trip</li> <li>15. Review and Final Assessment</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.</p>		<p>Evaluations will be based on participation (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.</p>	

13年度以降	Academic Lecture	担当者	A. ゴーリンジャー
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(Japanese Art History)</p> <p>This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. To accommodate each lecture, and to aid students in gaining an understanding of the principal styles and characteristics of paintings, numerous slides will be shown featuring examples of representative works. Supplemental readings and associated exercises will be provided to ensure comprehension of specialized terms and to facilitate an understanding of historical and cultural context.</p> <p>By the completion of the course, students will be able to identify and distinguish principal painting styles and their features and to convey this understanding in an articulate and informed manner. The course will conclude with a class trip to a designated museum exhibition featuring works which have been studied in class. Students will compose final, exhibition reports based on their observations and analysis.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Introduction</li> <li>2. A Basic Vocabulary of Japanese Art History</li> <li>3. The Basic Principles and Materials of Japanese Painting</li> <li>4. Yamato-e 大和絵 "Pictures of Japan"</li> <li>5. Paintings and Artists of the Tosa school (土佐派)</li> <li>6. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>7. Paintings and Artists of the Kanō school (狩野派)</li> <li>8. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>9. Paintings and Artists of the Rimpa school (琳派)</li> <li>10. Paintings and Artists of the Literati school / Nanga school (文人画・南画)</li> <li>11. Paintings of Itō Jakuchū 伊藤若冲</li> <li>12. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>13. Paintings and Artists of the Maruyama-Shijō school (円山・四条派)</li> <li>14. Museum Exhibition Trip</li> <li>15. Review and Final Assessment</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Much of the course content will be presented through power point slides. Supplementary outlines and reading materials will be provided by the instructor.</p>		<p>Evaluations will be based on participation (20%), the completion of homework and in-class assignments (40%), and achievement on a final report (40%). Students missing more than four class sessions will not receive course credit.</p>	

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students wishing to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<p>(Understanding International Relations)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Why Study International Relations?</li> <li>3. Nation-State and International Relations</li> <li>4. Theories of International Relations (1)</li> <li>5. Theories of International Relations (2)</li> <li>6. Various Aspects of International Relations</li> <li>7. Interim Course Review</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. The Cold War: How it began</li> <li>10. The Cold War: The 1950s</li> <li>11. The Cold War: The 1960s</li> <li>12. The Cold War: The 1970s</li> <li>13. The Cold War: The 1980s</li> <li>14. The Cold War: How it ended</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Evaluation will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

13年度以降	Academic Lecture	担当者	伊藤 兵馬
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>As societies have become more “globalized” in the recent years, we often come across the term “international relations”. Despite such common usage of the term, it is not an easy task to define international relations. What is the definition of international relations? This course aims to tackle this challenging task. It is designed to help students enhance their knowledge and understanding of international relations.</p> <p>As shown in the course schedule, the course begins with a basic explanation of the term international relations. Students will be exposed to various aspects of the subject throughout the semester. In the first half of the semester, theoretical aspects of international relations will be mainly discussed. In the second half, the focus will be placed on the actual historical events that took place during the Cold War to further increase the understanding of the subject.</p> <p><b><u>This course is taught in English.</u></b> It is an ideal course for students wishing to learn international relations in English. This is a lecture course but the style may be modified according to the number of students enrolled.</p>		<p>(Understanding International Relations)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Why Study International Relations?</li> <li>3. Nation-State and International Relations</li> <li>4. Theories of International Relations (1)</li> <li>5. Theories of International Relations (2)</li> <li>6. Various Aspects of International Relations</li> <li>7. Interim Course Review</li> <li>8. Midterm Examination</li> <li>9. The Cold War: How it began</li> <li>10. The Cold War: The 1950s</li> <li>11. The Cold War: The 1960s</li> <li>12. The Cold War: The 1970s</li> <li>13. The Cold War: The 1980s</li> <li>14. The Cold War: How it ended</li> <li>15. Course Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
To be announced.		Evaluation will be made according to midterm examination (30%), and final examination (70%). Details will be explained by the instructor in the first class.	

13年度以降 12年度以前	Listening and Pronunciation Pronunciation Practice (再履修)	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>目的</b> 様々な英語の音声媒体を聴いて積極的に演習に取り組むことにより、英語の聴解力とネイティブに近い発音の獲得を目標とする。同時に e-Learning プログラムを課題に組み込むことによって履修後の自律学習への習慣をつけることも目指す。音声学の基礎知識を適宜盛り込みながら、英語のリズムやアクセント体系、及び子音・母音の特徴を学習し、実際のコミュニケーションへ応用できるように心がけていきたい。土台となる教材は教科書とするが、関連事項をウェブ教材などで補足することもある。</p> <p><b>概要</b> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペア/グループワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの説明・概要</li> <li>2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明</li> <li>3. 情報伝達のためのスピーチ</li> <li>4. ニュースと天気予報</li> <li>5. 説得のためのスピーチ</li> <li>6. ウェブでのリスニング学習 (1) ー ポッドキャストによる時事英語</li> <li>7. 祝いの場でのスピーチ</li> <li>8. 中間テスト及び映像を介した英語 (1)</li> <li>9. 機内アナウンス : 雑音混じりの英語</li> <li>10. 電話での音声案内</li> <li>11. 詩と歌 : 英語のリズムと音のつながり (連結)</li> <li>12. チャンツとラップ : 強弱や脱落のパターン</li> <li>13. ウェブでのリスニング学習 (2) ー 様々なメディアでの英語</li> <li>14. 期末テスト及び映像を介した英語 (2)</li> <li>15. 総復習 : 今期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書 『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著 (金星堂、2014年)</p>		<p>中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。</p>	

13年度以降 12年度以前	Listening and Pronunciation Pronunciation Practice (再履修)	担当者	中田 ひとみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>目的</b> 大きな文脈における内容を理解し、要点を聞きとる力のさらなる向上を目指す。オンライン教材を補強し、コース終了後も校内外での学習が継続できることを目標とする。意味のまとまりを聞き取る演習とディクテーション等で細部を確認するタスクを並行して取り入れ、録音やシャドウイングなど発音向上へ繋がるタスクも随時導入の予定。</p> <p><b>概要</b> 授業は演習形式で進め、必要に応じて会話活動を取り入れる。受身の姿勢で講義を聞くのではなく、主体的に「授業に参加する」姿勢が不可欠。音読や口頭練習、そしてペア/グループワークにも力を入れること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの説明・概要</li> <li>2. NetAcademy2 の概要・操作方法の説明</li> <li>3. ラジオのDJ : 音のつながり (同化現象)</li> <li>4. コマーシャル: 音のつながりに関する総まとめ</li> <li>5. 初対面の人と話す : 上昇のイントネーション</li> <li>6. クレームを伝える : 下降イントネーション</li> <li>7. ウェブでのリスニング学習 (1) ー 安全で効率的なサイトを検証する</li> <li>8. 中間テスト及び映像を介した英語 (1)</li> <li>9. 予想外の出来事について : 感嘆文のイントネーション</li> <li>10. 楽しいプラン : 列挙/選択におけるイントネーション</li> <li>11. 住環境の好み : 話者の意図によるイントネーション</li> <li>12. 詩と歌 : 詩歌を通しての英語リズム</li> <li>13. ウェブでのリスニング学習 (2) ー 様々なサイトやアプリを紹介し合う</li> <li>14. 期末テスト及び映像を介した英語 (2)</li> <li>15. 総復習 : 今期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書 『English Sound Box – 楽しく学べる英語リスニング』大塚朝美・上田洋子・Kathy Maruyama・今井由美子著 (金星堂、2014年)</p>		<p>中間・期末試験の結果 (60%) の他に課題提出 (20%) や授業への積極的な参加 (20%) を加味して総合評価する。</p>	

13年度以降 12年度以前	英語の音声 英語音声学（再履修）	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期:火曜 4 限、秋学期:火曜 2 限 なので注意 <b>講義目的</b> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について、その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語のさまざまな面について触れることにより、ことばの知の面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目履修への導入とする。 <b>講義概要</b> 音声学の基礎の講義であり、適宜、練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読んだり、課題をやってくるのが必須となる。 <メッセージ> ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば且からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ...」という声をよく聞きます。 <u>知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今! この機会に学んでほしい。</u> ◎ゼミ応募の可能性のある人は(2次でも3次でも)、2年生で履修することを強く勧める。		1. 第1章「音声学とは」学際的領域、学習者/指導者として 2. 第2章「発声のメカニズム」器官、音声が進ぶ情報 3. 第3章「音声表記」綴りと発音、IPA 4. 第4章「母音」基本母音、英語の母音 5. 「母音」(2) 日本語との比較 6. 第5章「子音」分類 7. 「子音」(2) 日本語との比較 8. 第3章「音素と異音」日本の干渉 9. 第6章「音節」音節構造と強勢と母音 10. 第7章「語強勢」 11. 「語強勢」(2) フットリズム 日本語と英語 12. 第8章「音縮小」音縮小と統語構造、第9章「同時調音」 13. 第10章「イントネーション」音調核、統語/意味構造、パラ言語 14. 「イントネーション」(2) 15. 音声学の応用（教育・政策・社会学・臨床・工学等）	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂 その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 15%、クイズ・課題:約 25%、試験:約 60%。 単位認定には 70%以上の出席が求められる。	

13年度以降 12年度以前	英語の音声 英語音声学（再履修）	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期:火曜 4 限、秋学期:火曜 2 限 なので注意 <b>講義目的</b> 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について、その基礎を体系的に学ぶ。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をよりよく理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や言語のさまざまな面について触れることにより、ことばの知の面白さを紹介し、これ以降の音声・言語関係の科目履修への導入とする。 <b>講義概要</b> 音声学の基礎の講義であり、適宜、練習を取り入れる。学生はテキストの指定部分を読んだり、課題をやってくるのが必須となる。 <メッセージ> ・貴方の英語、「文法や表現」の知識と「音声」の知識はバランスがとれていますか? メッセージ自体が料理なら、音声はそれを運ぶ器のようなもの。音声について、一度しっかり学んでみませんか。 ・「英語らしさって何?」、「なぜ言えない、聞き取れない?」等、初めて学べば且からウロコ。 ・中学・高校のベテラン英語教師から「発音や音声だけは教えられないよ...」という声をよく聞きます。 <u>知らなければ、この先ずっと知らない「音声」について、今! この機会に学んでほしい。</u> ◎ゼミ応募の可能性のある人は(2次でも3次でも)、2年生で履修することを強く勧める。		1. 第1章「音声学とは」学際的領域、学習者/指導者として 2. 第2章「発声のメカニズム」器官、音声が進ぶ情報 3. 第3章「音声表記」綴りと発音、IPA 4. 第4章「母音」基本母音、英語の母音 5. 「母音」(2) 日本語との比較 6. 第5章「子音」分類 7. 「子音」(2) 日本語との比較 8. 第3章「音素と異音」日本の干渉 9. 第6章「音節」音節構造と強勢と母音 10. 第7章「語強勢」 11. 「語強勢」(2) フットリズム 日本語と英語 12. 第8章「音縮小」音縮小と統語構造、第9章「同時調音」 13. 第10章「イントネーション」音調核、統語/意味構造、パラ言語 14. 「イントネーション」(2) 15. 音声学の応用（教育・政策・社会学・臨床・工学等）	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
佐藤寧・佐藤努(1997)『現代の英語音声学』金星堂 その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 15%、クイズ・課題:約 25%、試験:約 60%。 単位認定には 70%以上の出席が求められる。	



09年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 講義では、会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について説明する。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読Ⅰ」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・政治 英日</li> <li>2. 政治 日英</li> <li>3. 技術 英日</li> <li>4. 技術 日英</li> <li>5. 犯罪 英日</li> <li>6. 犯罪 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. IT通信 英日</li> <li>9. IT通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%) および中間・期末テスト (30%)。</p>	

09年度以降	通訳 I (水1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みる。基礎トレーニングの一環として日本語・英語の運用能力の強化を図ると同時に、幅広い分野に対応できるような知識についても学ぶ。語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読Ⅱ」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・教育 英日</li> <li>2. 教育 日英</li> <li>3. 国際関係 英日</li> <li>4. 国際関係 日英</li> <li>5. 環境 英日</li> <li>6. 環境 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%) および中間・期末テスト (30%)。</p>	

09年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 講義では、会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について説明する。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読Ⅰ」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・政治 英日</li> <li>2. 政治 日英</li> <li>3. 技術 英日</li> <li>4. 技術 日英</li> <li>5. 犯罪 英日</li> <li>6. 犯罪 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. IT通信 英日</li> <li>9. IT通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%) および中間・期末テスト (30%)。</p>	

09年度以降	通訳 I (水2)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みる。基礎トレーニングの一環として日本語・英語の運用能力の強化を図ると同時に、幅広い分野に対応できるような知識についても学ぶ。語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読Ⅱ」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・教育 英日</li> <li>2. 教育 日英</li> <li>3. 国際関係 英日</li> <li>4. 国際関係 日英</li> <li>5. 環境 英日</li> <li>6. 環境 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%) および中間・期末テスト (30%)。</p>	

09年度以降	通訳 I (木1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の基礎通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 講義では、会議通訳やビジネス通訳など、「通訳」の業務について説明する。演習では、技術、産業、IT通信、医療など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行う。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読Ⅰ」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・政治 英日</li> <li>2. 政治 日英</li> <li>3. 技術 英日</li> <li>4. 技術 日英</li> <li>5. 犯罪 英日</li> <li>6. 犯罪 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. IT通信 英日</li> <li>9. IT通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点(授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など)(70%) および中間・期末テスト(30%)。</p>	

09年度以降	通訳 I (木1)	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 英日・日英の通訳演習を通して通訳業の仕組みを理解する。また、幅広い知識の吸収を通じて教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、国際関係、環境、軍事、経済など、毎回テーマに応じた素材で逐次通訳の実技訓練を行い、精度のより高い通訳を試みる。基礎トレーニングの一環として日本語・英語の運用能力の強化を図ると同時に、幅広い分野に対応できるような知識についても学ぶ。語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読Ⅱ」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・教育 英日</li> <li>2. 教育 日英</li> <li>3. 国際関係 英日</li> <li>4. 国際関係 日英</li> <li>5. 環境 英日</li> <li>6. 環境 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点(授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など)(70%) および中間・期末テスト(30%)。</p>	

09年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 「通訳 I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とする。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 基礎訓練ではシャドーイングをはじめとする通訳基礎トレーニングを行う。一方、応用訓練では、逐次通訳、同時通訳に向けて文化的な背景も踏まえた訳出法を習得していく。毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施しボキャブラリーを増やしていく。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。春学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から秋学期も続けて履修することが望ましい。木曜3限「英語専門講読 I」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・政治 英日</li> <li>2. 政治 日英</li> <li>3. 技術 英日</li> <li>4. 技術 日英</li> <li>5. 犯罪 英日</li> <li>6. 犯罪 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. IT 通信 英日</li> <li>9. IT 通信 日英</li> <li>10. 産業 英日</li> <li>11. 産業 日英</li> <li>12. 医療厚生 英日</li> <li>13. 医療厚生 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 春学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%) および中間・期末テスト (30%)。</p>	

09年度以降	通訳 II	担当者	柴原 早苗
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 「通訳 I」の上級編。通訳という仕事に対する理解を深め、通訳の基本技術を習得し、逐次通訳から同時通訳へとスキルを高めることを目標とする。同時に、幅広い知識を吸収し、教養を深め、自立した学習者になることを目指す。</p> <p>講義概要： 春学期に学んだことを応用し、演習では、教育、環境、経済などといったテーマを取り上げる。効果的なコミュニケーションや文化的な背景も踏まえた精度のより高い通訳を目指す。なお、語彙力強化のため、毎回下記の単語テキストから単語小テストを実施する。</p> <p>準備学習・その他： 準備学習については毎回の授業で指示する。初回のオリエンテーションで詳しい説明があるので、必ず出席のこと。秋学期のみの履修は可能だが、継続学習の重要性から春学期から引き続き履修するのが望ましい。木曜3限「英語専門講読 II」とテーマが連動するので、同時履修によりテーマへの理解を深めることを期待する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション・教育 英日</li> <li>2. 教育 日英</li> <li>3. 国際関係 英日</li> <li>4. 国際関係 日英</li> <li>5. 環境 英日</li> <li>6. 環境 日英</li> <li>7. 中間テスト</li> <li>8. 軍事 英日</li> <li>9. 軍事 日英</li> <li>10. 医学 英日</li> <li>11. 医学 日英</li> <li>12. 経済 英日</li> <li>13. 経済 日英</li> <li>14. 期末テスト</li> <li>15. 秋学期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト： 晴山陽一『ニュース英語のキーワード 8000 (改訂増補版)』(DHC、2010年) および配布資料</p> <p>参考文献： 適宜紹介する</p>		<p>毎回の平常点（授業準備、参加、単語小テスト、パフォーマンス、課題提出など）(70%) および中間・期末テスト (30%)。</p>	

09年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、さまざまな分野の英文あるいは和文の翻訳に関する問題点を挙げながら、翻訳の可能性について実践的に探ります。</p> <p>授業では、主として新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。</p> <p>また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。</p>		<p>第1回 ガイダンス 辞書について</p> <p>第2回 翻訳の難しさと面白さについて</p> <p>第3回 機械翻訳の可能性について</p> <p>第4回 翻訳の実例比較検討</p> <p>第5回 復習テスト</p> <p>第6～14回 学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		分析コメント30%、プレゼンテーション30%、翻訳実習30%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。	

09年度以降	翻訳	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。</p> <p>授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。</p> <p>なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。</p> <p>また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。</p>		<p>第1回前期テストの講評および後期授業のガイダンス</p> <p>第2回日英および英日翻訳の実例検討 その1</p> <p>第3回日英および英日翻訳の実例検討 その2</p> <p>第4～6回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第7回復習テスト</p> <p>第8～14回 プレゼンテーションおよびディスカッション</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		分析コメント30%、プレゼンテーション30%、翻訳実習30%、レポート10%とする。なお、4回以上欠席した場合は、原則として成績評価の対象となりません。	

09年度以降	翻訳	担当者	上野 直子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。</p> <p>問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたいので、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、考慮すべき問題はかわってきますので、そこにも注目していきます。また後半にはグループでミニ翻訳プロジェクトに取り組んでもらいます。</p> <p>受講生に求める英語力のレベル：Guardian紙のトップ記事が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。特に文法的な構造がしっかりと理解できること。(時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません)そこに達していない学生は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として基礎的な文法の指導は行いません。</p>		<p>*授業はひとつの教材について次の流れで行う。 教材の紹介(授業)→教材を読んで不明点を洗い出す+翻訳開始(課題)→不明点を解決する(授業)→訳了+提出(課題)→添削+解説(授業)。</p> <p>*15回の授業は原則として以下のとおりにする。紙幅の都合によりここに提示できない詳細については一回目の授業で説明する。</p> <p>_____15回の授業は以下のとおり_____</p> <p>1. 導入とトライアル(短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う)+教材1の紹介 2~15. 教材1-8までを上記のプロセスで訳す。 (第2回めの半分は図書館で辞書・事典の紹介を行う。適切なところで、11回目以降のプロジェクトについての解説と下準備を行う。)</p> <p>★最終課題 (邦訳されていない本を選び、読了したうえで、数頁の翻訳と推薦文からなる、翻訳企画書を書いてもらう)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>1回から10回までは、ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用する。また、講師が実際に仕事としてやってきた業務翻訳から文学作品まで、翻訳の実際のプロセスも提示する。11回以降のプロジェクト用には、自分が選んだ本を購入していただく。対象テキストは散文とする。辞書や参考書については、授業内で指示する。</p>		<p>教材1~8までの課題(50%)と最終課題(50%) (上記の最終課題に取り組むかどうかは、それまでの提出物の評価による。A評価を得るには上記の最終課題の提出が条件。それまでの提出課題が水準にたっていない場合は、別途課題を課す。)</p>	

09年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその 作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈 を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一時間に翻訳する分量は少な目かもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 演習</li> <li>3. 演習</li> <li>4. 演習</li> <li>5. 演習</li> <li>6. 演習</li> <li>7. 演習</li> <li>8. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>9. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>10. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>11. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>12. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>13. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>14. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>15. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>短編小説等または長編小説の一部を使用。必要箇所のコピーを配布します。興味のある人は <i>New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond</i> Norton, 2007 のシリーズを参照してみてください。</p>		<p>授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。</p>	

09年度以降	翻訳	担当者	山中 章子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその 作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈 を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出してください。積極的に参加することを求めます。本講義では、短編小説をテキストとして使用します。かなり短い作品を使用しますので、まず全体に目を通して物語を把握してから細部の翻訳に取り掛かってください。一時間に翻訳する分量は少な目かもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。慣れてきたら、グループやペアになって発表します。共訳づくりを楽しみましょう</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 演習</li> <li>3. 演習</li> <li>4. 演習</li> <li>5. 演習</li> <li>6. 演習</li> <li>7. 演習</li> <li>8. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>9. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>10. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>11. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>12. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>13. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>14. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> <li>15. 演習（ペア・グループによる共訳の発表）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>短編小説等または長編小説の一部を使用。必要箇所のコピーを配布します。興味のある人は <i>New Sudden Fiction: Short-Short Stories from America and Beyond</i> Norton, 2007 のシリーズを参照してみてください。</p>		<p>授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。通常授業の課題未提出は欠席と同じ扱いとします。</p>	

09年度以降	翻訳(木3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 53 番から 75 番を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 翻訳という仕事①</li> <li>2 イギリス人①</li> <li>3 イギリス人②</li> <li>4 イギリス人③</li> <li>5 イギリス人④</li> <li>6 中年の思いごと</li> <li>7 目の見える有難さ</li> <li>8 機械と人間</li> <li>9 忘れっぽさ</li> <li>10 友情論</li> <li>11 幸福論</li> <li>12 外国語を学ぶ効用①</li> <li>13 外国語を学ぶ効用②</li> <li>14 訳文校正</li> <li>15 翻訳のための文法①</li> </ol> <p>*各回、他に 1 題を扱います</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳(木3)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は、社会人の翻訳家志望者を実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。</p> <p>(1)掛かり方を示す構文分析 (2)一語一句おろそかにしない解説 (3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」 (4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」 (5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。</p> <p>英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。</p> <p>また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。</p> <p>二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋学期は 76 番から 100 番を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 外国語を学ぶ効用③</li> <li>2、 英国小説</li> <li>3、 日本人論</li> <li>4、 若いころの読書</li> <li>5、 いつも一緒の仲間</li> <li>6、 ユーモアの意味</li> <li>7、 伝記</li> <li>8、 人間と動物の違い</li> <li>9、 シェイクスピア論①</li> <li>10、 シェイクスピア論②</li> <li>11、 無限</li> <li>12、 古代の数学</li> <li>13、 教養人</li> <li>14、 出版社の良心</li> <li>15、 翻訳のための文法②</li> </ol> <p>*各回とも上記ほか1編を扱う</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。</p>	



09年度以降	翻訳(木4)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれませんが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。</p> <p>秋学期同時限(木4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、英語の規則①</li> <li>2、児童文学「幸福の王子」Ⅰ</li> <li>3、児童文学「幸福の王子」Ⅱ</li> <li>4、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅰ</li> <li>5、児童文学「ドリトル先生航海記」Ⅱ</li> <li>6、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅰ</li> <li>7、児童文学「不思議の国のアリス」Ⅱ</li> <li>8、子供百科「フクロウの目」</li> <li>9、子供百科「恐竜」</li> <li>10、子供百科「宇宙」</li> <li>11、ミュージカル「オクラホマ」</li> <li>12、詩「虹の歌」</li> <li>13、小説「マダム・ロゼット」</li> <li>14、歴史「トロイ戦争」</li> <li>15、歴史「ミノタウロス」</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤読みやすい日本語か、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳(木4)	担当者	柴田 耕太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(600ワード程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。</p> <p>木曜3時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。</p> <p>抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、英語の規則②</li> <li>2、小説「ミセス・ピクスビーと大佐のコート」①</li> <li>3、小説「ミセス・ピクスビーと大佐のコート」②</li> <li>4、スポーツ「1959年合衆国アマチュアチャンピオン」</li> <li>5、美術「古代の芸術」</li> <li>6、ゴルフ：ジャック・ニクラウス自伝</li> <li>7、ドキュメンタリー「生き残りし者」</li> <li>8、科学「重力の問題」</li> <li>9、造形「心の庭」</li> <li>10、音楽「オーケストラを指揮する」</li> <li>11、評伝「二都物語」</li> <li>12、動物「人間と動物の絆」</li> <li>13、歴史「そして水は引かなかった」</li> <li>14、観光「コルシカへの招待」</li> <li>15、アンドとカンマ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは、講師の手作り。初回時に渡します。参考文献は、柴田耕太郎著『翻訳家になろう!』(青弓社、2012年)。折に触れ参照しますので、必ず入手してください。</p>		<p>期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか ②日本語表現が正しいか ③文章の論理がとれているか ④用語の理解が正しいか ⑤よみやすい日本語か、を見ます。</p>	

09年度以降	翻訳	担当者	田村 斉敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では英語から日本語への翻訳を扱います。</p> <p>授業の柱は二つあります。ひとつは、比較的平易な教科書を使って、基本的な翻訳作業の心得を身につけるようにします。</p> <p>もうひとつは、短編のなかでも特に短い短編を取り上げて、その一部を訳していく作業です。そうした作品を取り上げることによって、全体像を見失わないようにしながら、ひとつひとつの表現を掘り下げて吟味し、日本語に置き換えていく作業に集中できるようにします。</p> <p>いずれの場合も、すべての受講者が、毎回同じ範囲あるいは同じ箇所を訳してきて、それを互いに検討し（ペアワーク、グループワークもあります）、最終的に教員が赤を入れる、というプロセスを踏みます。積極的かつ精力的な参加が必要です。</p> <p>なお、初回から辞書（とりあえず普段使っているものでいいです）を持参するようにお願いします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション（教 Lesson 1）</li> <li>2. 練習問題1（教 Lesson 2）</li> <li>3. 練習問題2（教 Lesson 3）</li> <li>4. 短編1-1（教 Lesson 4）</li> <li>5. 短編1-2（教 Lesson 5）</li> <li>6. 短編1-3（教 Lesson 6）</li> <li>7. 短編2-1（教 Lesson 7）</li> <li>8. 短編2-2（教 Lesson 8）</li> <li>9. 短編2-3（教 Lesson 9）</li> <li>10. 短編3-1（教 Lesson 10）</li> <li>11. 短編3-2（教 Lesson 11）</li> <li>12. 短編3-3（教 Lesson 12）</li> <li>13. 短編3-4（教 Lesson 13）</li> <li>14. まとめ1（教 Lesson 14）</li> <li>15. まとめ2（教 Lesson 15）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト『The Art of Translation/ 英文翻訳上達の秘訣』（金子光茂/リチャード・シンプソン著、南雲堂、2013）</p> <p>参考文献 <i>Short Shorts: An Anthology of the Shortest Stories</i> (Irving Howe and Ilana Wiener Howe ed., Bantam Books, 1983)</p>		<p>授業内活動参加 50%</p> <p>クイズ・提出物等 20%</p> <p>最終レポート 30%</p>	

09年度以降	翻訳（水4）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from English to Japanese</u>. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include <u>poems</u> (by Robert Frost, et al.), <u>novels</u> (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) <u>newspaper and magazine articles</u> (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with English-language movies (Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Document #1 (see list at left for examples) 3 Document #2 4 Document #3 5 Document #4 6 Document #5 7 Document #6 8 Document #7 9 Document #8 10 Document #9 11 Document #10 12 Document #11 13 Document #12 14/15 Final Examination and Self-Evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50%	

09年度以降	翻訳（水3）	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on <u>translations from Japanese to English</u>. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include <u>English translations of novels and essays by famous Japanese authors</u> (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with <u>movies</u> based on those authors' works, and Japanese <u>animated features</u> (looking at the English and Japanese subtitles).</p> <p>The format of the course will consist of lectures <u>in Japanese</u> presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation.</p> <p>It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.</p>		1 Introduction 2 Author #1 (see list at left for examples) 3 Author #2 4 Author #3 5 Author #4 6 Author #5 7 Author #6 8 Author #7 9 Author #8 10 Author #9 11 Author #10 12 Author #11 13 Author #12 14/15 Final Examination and Self-evaluation	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Class performance 25% (maximum number of absences=4), Homework 25%, Final examination and self-evaluation 50%	

09年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>            翻訳と英語学習で使われている英文和訳とは、大きく違います。翻訳はその違いをしっかりと認識することから始まります。この講義では目的に応じて等価の翻訳をするための枠組みを学び、実践に役立つ翻訳の基本姿勢を身につけます。</p> <p><b>講義概要</b>            多様なテキストを用い、パソコンを活用して訳語や表現を検索し、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通じて、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていきます。</p>		第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 翻訳演習 第15回 まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回のオリエンテーションにて指示します。		課題・レポート、授業参加態度（積極性）を総合的に評価する。（期末レポート30%）	

09年度以降	翻訳	担当者	白川 貴子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b>            翻訳の心得を学び、概念としての理解にとどまらず、実践的に翻訳に取り組む力を養います。</p> <p><b>講義概要</b>            多様なテキストを用い、パソコンを活用して訳語や表現を検索し、訳文の解析・比較・発表・グループワークなどを通じて、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていきます。</p>		第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 翻訳演習 第15回 まとめ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキスト：初回のオリエンテーションにて指示します。		課題・レポート、授業参加態度（積極性）を総合的に評価する。（期末レポート30%）	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略Ⅰ</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略Ⅱ</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファーⅠ（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファーⅡ</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 プリント⑦</li> <li>14 プリント⑧</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月1）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約Ⅰ（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約Ⅱ</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレームⅠ（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレームⅡ</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> <li>10-15 プレゼンテーションの実習</li> </ol> <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスライターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3部構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使つての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビジネス英語の特徴</li> <li>2 プリント①（英文ビジネスコラム）</li> <li>3 国際取引概略Ⅰ</li> <li>4 プリント②</li> <li>5 国際取引概略Ⅱ</li> <li>6 プリント③</li> <li>7 引合（inquiry）</li> <li>8 プリント④</li> <li>9 オファーⅠ（offer）</li> <li>10 プリント⑤</li> <li>11 オファーⅡ</li> <li>12 プリント⑥</li> <li>13 プリント⑦</li> <li>14 プリント⑧</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月2）	担当者	信 達郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。</p> <p>講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の3部構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでのMBA課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEICの650点、英検の準1級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<p>下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 契約Ⅰ（contract）</li> <li>2 プリント⑦</li> <li>3 契約Ⅱ</li> <li>4 プリント⑧</li> <li>5 クレームⅠ（claim）</li> <li>6 プリント⑨</li> <li>7 クレームⅡ</li> <li>8 プリント⑩</li> <li>9 企業内組織の英語</li> <li>10-15 プレゼンテーションの実習</li> </ol> <p>授業と平行して、10月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信 達郎他、南雲堂 フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信 達郎著、南雲堂フェニックス</p>		<p>受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%、ペーパーテスト 50%。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な<b>英文ビジネスレター</b>さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者にも、英文 <b>Business Writing</b> の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本を、テキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的な<b>英文ビジネスレターの書き方</b>を指導する。また、就職活動に必要な<b>英文履歴書とカバーレターの書き方</b>を分かりやすく講義いたします。</p> <p>水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。一緒に勉強しましょう。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600 点以上</p>		<p>1.講義の説明</p> <p>2.ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」）</p> <p>3.ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」）と<b>練習問題 1 &amp; 解答</b></p> <p>4.よく使用される表現（1—「取引の申込み」）</p> <p>5.よく使用される表現（2—「引合い」）と<b>練習問題 2</b></p> <p>6.よく使用される表現（3—「オファー」）</p> <p>7.よく使用される表現（4—「オファーに対する応答」）と<b>練習問題 3</b></p> <p>8.<b>練習問題 2 &amp; 3 の解答・解説</b></p> <p>9.よく使用される表現（4—「信用状」）</p> <p>10.よく使用される表現（5—「積出し」）</p> <p>11.よく使用される表現（6—「クレーム」）と<b>練習問題 4</b></p> <p>12.<b>練習問題 4 の解答・解説</b></p> <p>13.英文履歴書と英文カバーレターの書き方&amp;<b>練習問題 5</b></p> <p>14.<b>練習問題 5 の解答・解説</b></p> <p>15.<b>実践英文ビジネスレター作成練習問題&amp;まとめ</b></p> <p>尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢達郎著 『BUSINESS WRITING 英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007年・2011年重版） プリント：必要に応じて随時配布する。		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則5回までとする。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「<b>英文経済記事の読み方</b>」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。</p> <p>本講義では、「<b>英文経済記事</b>」に馴染みのない学生に、「<b>初歩的な経済記事を読みこなす能力</b>」を養成することを目標とし、<b>分かりやすく、指導</b>していきます。具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「<b>国際経済</b>」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済問題（例えば、<b>ヨーロッパの経済問題、TPP 等</b>）について分かりやすく解説・説明していきます。</p> <p>水曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600 点以上</p>		<p>1. 講義の説明</p> <p>2. 「英字新聞の特徴について（1）」</p> <p>3. 「英字新聞の特徴について（2）」</p> <p>4. 「<b>Headline</b> の読み方実践練習（1）」</p> <p>5. 「<b>Headline</b> の読み方実践練習（2）」</p> <p>6. 「<b>Lead</b> の読み方実践練習（1）」</p> <p>7. 「<b>Lead</b> の読み方実践練習（2）」</p> <p>8. 「<b>Lead</b> の読み方実践練習（3）」</p> <p>9. 「<b>Lead</b> の読み方実践練習（4）」</p> <p>10. 「<b>本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」</b></p> <p>11. 「<b>本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」</b></p> <p>12. 「<b>本格的な経済記事の読み方実践練習（3）」</b></p> <p>13. 「<b>国際経済記事の読み方実践練習（1）」</b></p> <p>14. 「<b>国際経済記事の読み方実践練習（2）」</b></p> <p>15. まとめ</p> <p>授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則5回までとする。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあつて、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEICで900点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。</p> <p>本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない学生に、「初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。また、随時、授業中に経済問題（例えば、ヨーロッパの経済問題、TPP等）について分かりやすく解説・説明していきます。</p> <p>火曜3限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で1年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（1）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（2）」</li> <li>4. 「Headlineの読み方実践練習（1）」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習（2）」</li> <li>6. 「Leadの読み方実践練習（1）」</li> <li>7. 「Leadの読み方実践練習（2）」</li> <li>8. 「Leadの読み方実践練習（3）」</li> <li>9. 「Leadの読み方実践練習（4）」</li> <li>10. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>11. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>12. 「本格的な経済記事の読み方実践練習（3）」</li> <li>13. 「国際経済記事の読み方実践練習（1）」</li> <li>14. 「国際経済記事の読み方実践練習（2）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則5回までとする。	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水3）	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際化時代にあつて、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単なビジネス英文メールさえ書けないのが現状である。従つて、本講義では、「ビジネス英文メールの書き方」を中心にして授業を進めていきます。「英語ビジネス・コミュニケーション」とあるように、「英語+ビジネス+コミュニケーション」の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者にも英文 Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。初めに、旅行会社で使用されるビジネス英文メール（営業会議のお知らせ等）、次に、貿易会社で使用されるビジネス英文メール（引合い、オファー、信用状決済、積出し等）、最後に、ホテルで使用されるビジネス英文メール（宿泊申込み、苦情、苦情への返信等）の書き方等を分かりやすく講義し、ビジネス英語全般を学んでいきます。</p> <p>春学期の講義と併せて履修するとビジネス英語を総合的に勉強することになります。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 英文ビジネスメールの形式</li> <li>3. 旅行会社の英文メール①</li> <li>4. 旅行会社の英文メール②</li> <li>5. 実践練習問題①</li> <li>6. 貿易会社の英文メール①</li> <li>7. 貿易会社の英文メール②</li> <li>8. 実践練習問題②</li> <li>9. 貿易会社の英文メール③</li> <li>10. 貿易会社の英文メール④</li> <li>11. 実践練習問題③</li> <li>12. 実践ビジネス英文メール作成練習問題④</li> <li>13. ホテルの英文メール①</li> <li>14. ホテルの英文メール②</li> <li>15. 実践練習問題⑤&amp;まとめ</li> </ol> <p>授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
海老沢達郎他著『English for Business』（DTP出版、2014年） プリント：必要に応じ随時配布する。		学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則5回までとする。	



09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木3)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近時、電子メールのやりとりによる輸出入の取引が普及し、法令によって一定期間メールは保存しなければならなくなりました。そのような状況の下で、英文メールによる円滑なコミュニケーション能力、すなわち英語の通信文を正確かつ効果的に作成し読解できるスキルの必要性がますます高まっています。そこで、この授業は、時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文 (Business Correspondence) を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することを目標とします。木曜日4時限の同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。</p> <p>具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに (右記参照)、必要最低限の実務知識を学習し、その後で下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元における標準的な通信文のスケルトン・プラン (skeleton plan) と専門語彙 (technical terms) を学び、仕上げに通信文の読解と作成の訓練を行って、実務を遂行できる実力を養成します。</p> <p>なお、担当者の長期学外研修のため、2015年度は春学期のみの開講となります。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。</li> <li>3. 「市況」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>4. 「取引先の発見」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>5. 「取引の申込み」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>6. 「信用照会」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>7. 「引合い」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>8. 「引合いに対する返事」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>9. 「オファー」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>10. 「カウンター・オファー」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>11. 「注文」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>12. 「注文の受諾」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>13. 「注文の謝絶」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>14. 「成約」の通信文の読解・作成を行います。</li> <li>15. 授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習 2 1 講 (三訂版)』(三恵社、2013年) および配布プリント</p> <p>(参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>期末試験の結果 (概ね 80% の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20% の比重) を合計して評価します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション (木4)	担当者	杉山 晴信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業は、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書 (Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得することを目標とします。木曜日3時限の同一名称科目とは内容が異なりますので注意して下さい。</p> <p>具体的には、契約書などの法律文書に用いられる英語の特徴 (法文体、legalese) についての基礎知識を学習した後、工業製品の輸出入を想定して、レター・オブ・インテント、スポット売買契約の表面約款と裏面約款、長期売買契約書などのサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点等、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、仕上げにそれらの書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。また、英語圏 (特に米国) の Plain English Act を遵守して取扱説明書を作成する方法も検討します。</p> <p>なお、担当者の長期学外研修のため、2015年度は春学期のみの開講となります。</p> <p style="text-align: center;">受講レベル：TOEIC600点以上</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容と授業計画を詳しく説明します。</li> <li>2. 法律英語 (legalese) の特徴および標準的な英文契約書の構成について、実例を用いて学習します。</li> <li>3.- 4. レター・オブ・インテント (LOI) の意義と目的、作成上の注意点について説明した後、実際のサンプルを検討します。</li> <li>5.- 6. 実際の案件に基づき、LOI 作成の実習を行います。</li> <li>7.- 8. スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明した後、「表面約款 (個別契約条件)」および「裏面約款 (一般取引条件)」の現物のサンプルを検討します。</li> <li>9.- 10. 長期売買契約書の目的や作成上の注意点について説明した後、現物のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。</li> <li>11.-12. 英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明した後、各種の英文難易度判定公式 (readability formula) を用いて現物のサンプルを検討します。</li> <li>13.-14. “Plain English” を用いた取扱説明書作成の方略を検討し、実際に英文取扱説明書 (の一部) を作成する訓練を行います。</li> <li>15. 授業の総復習と質疑応答を行います。</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 当方で用意するプリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>期末試験の結果 (概ね 80% の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20% の比重) を合計して評価します。</p>	

09年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務	担当者	杉山 晴信
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、実務的な文書を取り扱う実力を養成しながら、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。貿易や国際物流、いわゆるロジスティクス (logistics) に興味のある人、貿易や物流関係の企業への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるよう、貿易実務についての最新の知識を正確、かつ、詳細に勉強することが目標です。</p> <p>具体的には、貿易の基本概念 (basic concepts) に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に6つのステージ (①貿易マーケティング段階、②取引関係創設段階、③成約段階、④履行段階、⑤決済段階、⑥クレームおよびクレーム調整の段階) に区分して、右記のように、その前半の3段階 (①、②、③) に属する種々のテーマを詳しく学習します。履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えただけの現物のビジネス文書に実際に触れてもらい、それらを読解し、あるいは新規に作成する訓練を行って、実務能力を養成します。さらに、税関、経済産業省、JETRO (日本貿易振興機構) などのサイトから、国際取引に関する最新の情報を入手する機会も可能な限り作るつもりです。</p> <p>なお、担当者の長期学外研修のため、2015年度は春学期のみの開講となります。</p> <p>既修条件: 英語ビジネス・コミュニケーションを既修または並行履修</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容および授業計画の説明</li> <li>2. 貿易の基本概念(1): 貿易の意義、貿易の主体など</li> <li>3. 貿易の基本概念(2): 貿易実務の遂行手順の概観</li> <li>4. 貿易の基本概念(3): 種々の貿易形態、貿易関係機関</li> <li>5. 貿易の基本概念(4): 貿易管理制度、関係法令など</li> <li>6. 貿易マーケティング段階(1): 海外市場調査</li> <li>7. 貿易マーケティング段階(2): 販売戦略調査</li> <li>8. 取引関係創設段階(1): 取引先選定、引合いなど</li> <li>9. 取引関係創設段階(2): 信用調査</li> <li>10. 成約段階(1): 「一般取引条件」の意義と内訳</li> <li>11. 成約段階(2): オファー、承諾、注文など</li> <li>12. 成約段階(3): 品質と数量に関する条件</li> <li>13. 成約段階(4): 価格と決済に関する条件</li> <li>14. 成約段階(5): 船積みと保険に関する条件</li> <li>15. 授業の総復習および質疑応答</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 当方で用意する英文と和文の資料プリント (参考書) 杉山晴信『貿易実務の英語 ビジネス英文メール パーフェクトブック』(すばる舎、2009年)</p>		<p>期末試験の結果 (概ね 80%の比重) および平常授業における小テストや課題レポートの実績 (概ね 20%の比重) を合計して評価します。</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英字新聞丸かじり」と称して、「英字新聞の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。グローバル化時代であって、外国からの色々の情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEICで900点を取得しても、英文の政治・経済・社会問題の情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。</p> <p>そこで、本講義では、「英字新聞」等に馴染みのない学生に、「初歩的な英文記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の英文記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、本格的な「政治・経済・社会問題の記事」を交えて、英文記事全般について勉強していきます。また、随時、授業中に、その時の話題となったニュースを取り上げ、勉強、解説していきます。そして、<b>英字新聞等で頻繁に使用される基本的な用語集</b>をプリント配布いたします。また、「英語で何と言うの？」コーナーを設け、話題となっている英語を紹介いたします。「英字新聞丸かじり」の授業です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（１）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（２）」</li> <li>4. 「Headlineの読み方実践練習（１）」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習（２）」</li> <li>6. 「Leadの読み方実践練習（１）」</li> <li>7. 「Leadの読み方実践練習（２）」</li> <li>8. 「Leadの読み方実践練習（３）」</li> <li>9. 「Leadの読み方実践練習（４）」</li> <li>10. 「本格的な政治問題記事の読み方実践練習」</li> <li>11. 「本格的な経済問題記事の読み方実践練習」</li> <li>12. 「本格的な社会問題記事の読み方実践練習」</li> <li>13. 「社説の読み方実践練習（１）」</li> <li>14. 「社説の読み方実践練習（２）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		<p>学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則5回までとする。</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	海老沢 達郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「英字新聞丸かじり」と称して、「英字新聞の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。グローバル化時代であって、外国からの色々の情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEICで900点を取得しても、英文の政治・経済・社会問題の情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文記事のある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。</p> <p>そこで、本講義では、「英字新聞」等に馴染みのない学生に、「初歩的な英文記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。</p> <p>具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞等の国内の英文記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、本格的な「政治・経済・社会問題の記事」を交えて、英文記事全般について勉強していきます。また、随時、授業中に、その時の話題となったニュースを取り上げ、勉強、解説していきます。そして、<b>英字新聞等で頻繁に使用される基本的な用語集</b>をプリント配布いたします。また、「英語で何と言うの？」コーナーを設け、話題となっている英語を紹介いたします。「英字新聞丸かじり」の授業です。個人差もありますが、通年で受講するとかなり英字新聞が読めるようになります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の説明</li> <li>2. 「英字新聞の特徴について（１）」</li> <li>3. 「英字新聞の特徴について（２）」</li> <li>4. 「Headlineの読み方実践練習（１）」</li> <li>5. 「Headlineの読み方実践練習（２）」</li> <li>6. 「Leadの読み方実践練習（１）」</li> <li>7. 「Leadの読み方実践練習（２）」</li> <li>8. 「Leadの読み方実践練習（３）」</li> <li>9. 「Leadの読み方実践練習（４）」</li> <li>10. 「本格的な政治問題記事の読み方実践練習」</li> <li>11. 「本格的な経済問題記事の読み方実践練習」</li> <li>12. 「本格的な社会問題記事の読み方実践練習」</li> <li>13. 「社説の読み方実践練習（１）」</li> <li>14. 「社説の読み方実践練習（２）」</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント使用		<p>学期末の試験（70%）を中心にして、これに小テスト2回（20%）、毎回の授業への貢献度（10%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は原則5回までとする。</p>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> 英語学習の目標の一つとして「いわゆる教材英語ではない生きた英語（時事英語）を直接理解すること」がある。時事的なトピックを英語で読める・聞けるようになるには一般的な英語力に加えて世界の情勢や文化への知識を持つことも必要となる。以上を前提に、このコースでは、自分の生活圏を離れた国内外の出来事への興味関心を喚起し、同時に「使える英語」の習得を目標とする。</p> <p><b>概要</b> イギリスの放送局BBCから配信されたニュースの中から、様々なトピックを取り上げる。語彙のまとめ方などを工夫し、理解した内容を自分のフィルターを通して要約文が書けるようになるプロセスを News Report として順次学習していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. コース概要2：ニュース英語について</li> <li>3. <i>The Queen : Patron of the Arts</i></li> <li>4. <i>Finding British Food in France</i></li> <li>5. <i>Facebook and Free Speech</i></li> <li>6. <i>The Stonehenge Site</i></li> <li>7. その他オンラインニュースなど（1）</li> <li>8. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>9. <i>Muslim Dress</i></li> <li>10. <i>The Death of the Book?</i></li> <li>11. <i>A Day Trip to Derry?</i></li> <li>12. <i>Bringing Back the Bees</i></li> <li>13. その他オンラインニュースなど（2）</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 『BBC Seeing the World through the News 1』 Dominic Cheetham・武岡由樹子・田村真弓・浦口理麻著 (金星堂、2014年)		中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	中田 ひとみ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>目的</b> ジャーナリズムの英語を中心に様々な媒体を通して生きた英語に触れ、教材英語ではない「生の英語を理解すること」を目標とする。後半は英語の理解（読解・聴解）にとどまらず、プレゼンテーションの場を設けて、英語での発信力も徐々に養っていく。</p> <p><b>概要</b> BBCのニュース記事を教材とし、表現や運用法を英語学習のリソースとして活用する。学期の後半はグループワークで地域(国)別の問題・社会現象を取り上げ、発表することを中心課題とする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コース概要1：オリエンテーション</li> <li>2. コース概要2：ニュース英語について</li> <li>3. <i>Becoming British Citizens</i></li> <li>4. <i>At Home with Dementia</i></li> <li>5. <i>The Price of Parking</i></li> <li>6. <i>Space : Next Step of Dead End?</i></li> <li>7. &lt;中間テスト&gt;</li> <li>8. グループの決定→地域/リソースの選択</li> <li>9. グループワークー1</li> <li>10. グループワークー2</li> <li>11. グループワークー3</li> <li>12. プレゼンテーションー1</li> <li>13. プレゼンテーションー2</li> <li>14. &lt;期末テスト&gt;</li> <li>15. Review</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書 『BBC Seeing the World through the News 1』 Dominic Cheetham・武岡由樹子・田村真弓・浦口理麻著 (金星堂、2014年)		中間・期末試験の結果（60%）の他に、課題提出（20%）や授業への積極的な参加（20%）を加味して総合評価する。	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期は、私たちの日々の生活に直接関わる諸問題を、様々な「メディア」を介して検討していきます。今学期では、「テロ」「食」「金融」「エネルギー問題」が主な議題となります。また、2つの国（スイス、南アフリカ）の歴史等、背景知識を学んだ上で、今後日本との関係を検証していきます。</p> <p>この授業の目的を以下のように設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>*可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため）</li> <li>*↑をもとに、自分の考えを創り出す</li> <li>*自分の考えを他人に正確に伝える</li> <li>*他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。）</li> <li>*行動を起こす</li> </ul> </div> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&amp;担当箇所決定</li> <li>3. 9.11：なぜ「歴史的な事件」となったのか？</li> <li>4-5. 再生可能エネルギーの可能性</li> <li>6-7. 大企業化①：食品業界</li> <li>8-9. 大企業化②：金融業界</li> <li>10-11. スイス：「平和」とは何か？</li> <li>12-13. 南アフリカ：「共存」への道</li> <li>14. メディアとの付き合い方を考える</li> <li>15. 春学期授業のまとめ</li> </ol> <p>講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。</p> <p><b>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！（グループ作りは、私が決めるのではなく、学生の皆様同士で決めるようお願いしています。2人～3人のグループになって頂きたいのですが、人数調整が必要な場合のみ、私が最後に介入します。）</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介し、必要な場合は、印刷して配布します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>* 提出物（レポート）60%、授業内での発表 &amp; 発言40%</li> <li>* 遅刻3回（30分以内）で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。</li> <li>* レポート未提出は自動的にF評価になります。</li> </ul>	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、「日本」をテーマに授業を進めていきます。主に英語圏の「メディア」からの検証となりますが、海外ではどのように日本の出来事が報道されているのかを学んでいきます。特定の意見のみに偏らないよう、様々な立場からの資料を、学生の皆様と共に出来る限り集め、あらゆる角度から問題を考察していきます。</p> <p>この授業の目的を以下のように設定します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>*可能な限り、多種多様な情報に目を通す（極端な考えに偏らないようにするため）</li> <li>*↑をもとに、自分の考えを創り出す</li> <li>*自分の考えを他人に正確に伝える</li> <li>*他人と意見交換する。意見交換の作法も学ぶ。（議論はより良い考えに至るためのもの。人格攻撃にならないようにする。）</li> <li>*行動を起こす</li> </ul> </div> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 履修決定の学生との確認、グループ作り&amp;担当箇所決定</li> <li>3-4. 3.11：海外ではどう報道されたか？日本との比較</li> <li>5-6. 靖国神社参拝問題</li> <li>7-8. 沖縄の歴史</li> <li>9-10. 国の借金：本当に深刻なのか？</li> <li>11. 年間自殺者数3万人時代(1998-2011)とその後</li> <li>12-13. 日本のアニメと漫画</li> <li>14. これから日本はどう世界と関わっていくのか？</li> <li>15. 秋学期授業のまとめ</li> </ol> <p>講義の時間もありますが、学生からの発表も重視しています。学生同士でディスカッションし、意見を発表していただくこともあります。</p> <p><b>第2回目の授業でグループを作り、担当箇所を決めます。必ず参加してくださいね！</b></p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介し、必要な場合は、印刷して配布します。		<ul style="list-style-type: none"> <li>* 提出物（レポート）60%、授業内での発表 &amp; 発言40%</li> <li>* 遅刻3回（30分以内）で1回の欠席と換算します。欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。</li> <li>* レポート未提出は自動的にF評価になります。</li> </ul>	

09年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/ Presentation.</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic 6/ Presentation.</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09年度以降	メディア英語 I (金1)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/ Presentation.</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic 6/ Presentation.</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>political and economic/business stories, with a focus on Japan</u>. Possible documentaries to be shown include “Hiroshima” (BBC) and “The Cove.” As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	

09年度以降	メディア英語 I	担当者	P. ネルム
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Media English I is targeted at students whose English is at an intermediate level. Students with more advanced skills should take Media English II instead.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on <u>cultural and entertainment stories from around the world</u>, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or make presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. This rule will be strictly enforced, with no exceptions.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English I.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	



09年度以降	メディア英語 I (金3)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE or a movie.</p> <p>Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/ Presentation.</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic 6/ Presentation.</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09年度以降	メディア英語 I (金3)	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE, or a movie.</p> <p>Music, movies, and world events may also be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the class</li> <li>2. Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3. Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4. Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5. Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6. Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7. Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8. Topic4/Presentation of Video</li> <li>9. Quiz4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10. Topic 5/Presentation of Video</li> <li>11. Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12. Topic6/Presentation of Video</li> <li>13. Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14. Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15. Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes.	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class. The contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the class</li> <li>2 Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3 Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4 Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5 Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6 Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7 Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8 Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9 Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10 Topic 5/ Presentation.</li> <li>11 Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12 Topic 6/ Presentation.</li> <li>13 Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14 Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15 Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	A. R. ファルヴォ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, or world events will be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews.</p> <p>As in the Spring term, students will submit homework by email and the contents of the course are subject to change.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Introduction to the class</li> <li>2 Topic 1/Presentation of Video</li> <li>3 Quiz 1/Correction and Discussion of Answers</li> <li>4 Topic 2/Presentation of Video</li> <li>5 Quiz 2/Correction and Discussion of Answers</li> <li>6 Topic 3/Presentation of Video</li> <li>7 Quiz 3/Correction and Discussion of Answers</li> <li>8 Topic 4/Presentation of Video</li> <li>9 Quiz 4/Correction and Discussion of Answers</li> <li>10 Topic 5/ Presentation.</li> <li>11 Quiz 5/Correction and Discussion of Answers</li> <li>12 Topic 6/ Presentation.</li> <li>13 Quiz 6/Correction and Discussion of Answers</li> <li>14 Topic 7/Presentation of Video</li> <li>15 Final Evaluation</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.		Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation such as quizzes	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。</p> <p><b>受講を希望する学生は初回の授業に必ず参加すること。初回の授業に参加しなかった場合は、特別な理由がある場合を除き受講を認めない。</b></p>		<p>初回の授業はイントロダクション。その後は15回目まで毎回、授業の初めに単語小テストを行った後で主に和訳をしながら記事を読み進める。</p> <p>第1回 イントロダクション 第2回～15回 上記の授業内容を毎回行う</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		毎回の単語小テストの平均点により評価する。授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	東郷 公德
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
次の授業で使う教材を毎回配布する。		毎回の単語小テストの平均点により評価する。授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は原則として評価の対象としない。	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	

09年度以降	メディア英語 II	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Media English II is designed for students whose English is at an advanced level. It is more difficult than my Media English I course, and students are recommended to take that course before this one.</p> <p>The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other). As timely articles will be chosen, it is impossible to identify them beforehand.</p> <p>The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays or give presentations as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations.</p> <p>Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa.</p> <p>Preference will be given to students who have already taken the first-semester course of Media English II.</p>		<p>1 Documentary (or article) #1</p> <p>2 Documentary (or article) #1</p> <p>3 Essay or Presentation #1</p> <p>4 Documentary (or article) #2</p> <p>5 Documentary (or article) #2</p> <p>6 Essay or Presentation #2</p> <p>7 Documentary (or article) #3</p> <p>8 Documentary (or article) #3</p> <p>9 Essay or Presentation #3</p> <p>10 Documentary (or article) #4</p> <p>11 Documentary (or article) #4</p> <p>12 Essay or Presentation #4</p> <p>13 Final preparation</p> <p>14/15 Final presentation, Self-evaluation</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Materials to be handed out in class weekly.		Classroom performance 25% (maximum number of absences=4), Essays, final presentation and self-evaluation 75%	

09年度以降	シネマ英語	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 イギリス/アイルランドで作られた映画から、「ジェンダーとセクシュアリティ」のテーマをもった作品を4本取り上げます。アメリカのハリウッド映画とは一味違う、イギリス/アイルランド映画の特色を知ってもらうのと同時に、作中の言葉をその時代、社会、地域、文化と結びつけて理解してもらいたいと考えています。</p> <p>【講義概要】 映画のシナリオの一部をプリントにして配り、予習してもらいます。授業では受講者どうして朗読しあったり、映像をもとに聞き取りをしてもらいます。担当者(片山)は言葉のレベルの解説をしながら、作品のもつ文化的、政治的、歴史的含みについて問いを提示します。講義では映像を断片的にしかお観せできませんが、受講者のみなさんには、うち一本は全部を通して観て、レポートにしてもらいます。</p>		<p>1. インTRODクシヨン (進め方について詳しく説明し、課題プリントを配るので、受講を考えている人は必ず出席すること)</p> <p>2~4. 戦後を生きる女の子の、生き方の模索 <i>A Taste of Honey</i> (Tony Richardson, 1961)</p> <p>5~7. 男らしさの武装を解く <i>Full Monthly</i> (Peter Cattaneo, 1997)</p> <p>8~10. 北アイルランド問題とトランスジェンダーの生 <i>The Crying Game</i> (Neil Jordan, 2005)</p> <p>11~13. 子どもとの再会を願って <i>Philomena</i> (Stepen Frears, 2013)</p> <p>14~15. まとめ</p> <p>* イタリアックは作品名、カッコ内は監督名と初公開年。 * 作品は一部変更することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		課題プリント、授業中の発言、レポート、学期末試験を総合評価(ただし欠席が5回を越える場合は評価対象外)	

09年度以降	シネマ英語	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 イギリスの映画には、イギリスにやってきた移民が登場するものや、移民本人が監督して撮った映画の流れがあります。また近年では、イギリスにずっと住んでいた(といってもその昔は移民として大陸から渡ってきた)アングロサクソン系白人の監督によって、大英帝国の歴史への反省を込めた作品が作られています。</p> <p>この講義では「人種、民族、帝国主義への反省」などのテーマをもった作品を4本取り上げます。イギリス/アイルランド映画の特色を学びつつ、作中の言葉をその時代、社会、地域、文化と結びつけて理解しましょう。</p> <p>【講義概要】 映画のシナリオの一部をプリントにして配り、予習してもらいます。授業では受講者どうして朗読しあったり、映像をもとに聞き取りをしてもらいます。担当者(片山)は言葉のレベルの解説をしながら、作品のもつ文化的、政治的、歴史的含みについて問いを提示します。講義では映像を断片的にしかお観せできませんが、受講者のみなさんには、うち一本は全部を通して観て、レポートにしてもらいます。</p>		<p>1. ガイダンス</p> <p>2~4. 白人たちと移民二世女性の出会い <i>Secrets and Lies</i> (Mike Leigh, 1996)</p> <p>5~7. インド系サッカー少女の冒険 <i>Bend It Like Beckham</i> (Gurinder Chadha, 2002)</p> <p>8~10. 1980年代ワーキングクラスと人種差別問題 <i>This Is England</i> (Shane Meadows, 2007)</p> <p>11~13. オーストラリア児童移民の歴史をたどって <i>Oranges and Sunshine</i> (Jim Loach, 2010)</p> <p>14~15. まとめ</p> <p>* イタリアックは作品名、カッコ内は監督名と初公開年。 * 作品は一部変更することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		課題プリント、授業中の発言、レポート、学期末試験を総合評価(ただし欠席が5回を越える場合は評価対象外)	

09年度以降	シネマ英語	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、そのテーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。</p> <p>前期の前半は、映画の誕生から今日に至るまでの歴史を振り返りながら、主としてアメリカ映画にみられるエスニシティとジェンダーに関する問題を扱います。</p> <p>履修人数にもよりますが、前期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。</p>		<p>第1回 ガイダンス サイレントからトーキーへ</p> <p>第2回 ミュージカル映画について</p> <p>第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現 分析その1</p> <p>第4回 テーマと表現 分析その2 および グループ・ワークシート作成 1</p> <p>第5回 テーマと表現 分析その3 および グループ・ワークシート作成 2</p> <p>第6回 テーマと表現 分析その4 および グループ・ワークシート作成 3</p> <p>第7回 復習と確認</p> <p>第8回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第9回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第10回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第11回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第12回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第13回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第14回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントその他。開講時に指示します。		コメント40%、ワークシート10%、プレゼンテーション20%、復習テスト20%、レポート10%とします。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	高田 宣子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、主に英語圏で制作されたさまざまな映画作品を取り上げながら、テーマの特色および使われている英語表現の特色を分析し、時代背景や文化認識の変化を探ることを目的とします。</p> <p>後期も主としてエスニシティとジェンダーに関する問題を扱いますが、取り上げる作品はアメリカ映画には限定しません。</p> <p>履修人数にもよりますが、後期の後半はグループ（3～4人）ごとにひとつの作品を取り上げ、テーマと英語表現上の特色について、日本語と英語でプレゼンテーションを行ってもらいます。また、毎回のプレゼンテーションをもとに、履修者全員にコメント（日本語と英語）を提出してもらいます。</p>		<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 映画に描かれる日本人について</p> <p>第3回 映画に見られるエスニシティとジェンダー テーマと表現 分析その1</p> <p>第4回 テーマと表現 分析その2 および グループ・ワークシート作成 1</p> <p>第5回 テーマと表現 分析その3 および グループ・ワークシート作成 2</p> <p>第6回 テーマと表現 分析その4 および グループ・ワークシート作成 3</p> <p>第7回 復習と確認</p> <p>第8回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第9回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第10回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第11回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第12回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第13回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第14回 学生プレゼンテーションとコメント</p> <p>第15回 まとめと復習テスト</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントその他。開講時に指示します。		コメント40%、ワークシート10%、プレゼンテーション20%、復習テスト20%、レポート10%とします。なお、4回以上欠席した場合は、成績評価の対象となりません。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	韮江 静
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>本授業の目的は、映画の中の英語表現を理解するだけでなく、映画の中で描かれる海外の文化、歴史、思想、考え方を理解することである。本授業は、単なる楽しみとしての映画鑑賞の授業でも、映画の感想を言い合う授業でもないので注意してほしい。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>授業は予習を前提とし、ワークショップと講義をする。本授業ではハリウッド映画における音楽の効果とさまざまな英語の発音を学ぶために2本の映画を扱う。予習として、1) 指定映画を観て、台詞だけにとらわれず、映像の中の文化の描かれ方まで観察してくること、2) 映画の背景を調べてくること。学生の学習習熟度、授業状況、学生の関心事項に応じて、扱う映画や授業進度を変更することがある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要とレポート指導（必ず出席すること）</li> <li>2. 『サウンド・オブ・ミュージック』時代背景 1</li> <li>3. 『サウンド・オブ・ミュージック』音楽効果と英語 1</li> <li>4. 『サウンド・オブ・ミュージック』時代背景 2</li> <li>5. 『サウンド・オブ・ミュージック』音楽効果と英語 2</li> <li>6. 『サウンド・オブ・ミュージック』時代背景 3</li> <li>7. 『サウンド・オブ・ミュージック』音楽効果と英語 3</li> <li>8. 『マイ・フェア・レディ』時代背景 1</li> <li>9. 『マイ・フェア・レディ』音楽効果と英語の特徴 1</li> <li>10. 『マイ・フェア・レディ』時代背景 2</li> <li>11. 『マイ・フェア・レディ』音楽効果と英語の特徴 2</li> <li>12. 『マイ・フェア・レディ』時代背景 3</li> <li>13. 『マイ・フェア・レディ』音楽効果と英語の特徴 3</li> <li>14. レポート指導</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：なし</p> <p>参考文献：なし</p>		<p>授業貢献度（授業出席点ではない）（30%）、期末レポート（70%）を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の3分の2以上の出席が必要である。</p>	

09年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期では、様々なジャンルの映画（「SF」「ミュージカル」「ドキュメンタリー」「歴史」「青春」）を取り上げます。右記の授業計画を見て下さると分かるように、テーマは取り扱う映画によって異なりますが、授業では映画を丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。</p> <p>1回の授業で1本の映画を分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業内では、基本的に、英語の字幕をつけた状態で映画を観ます。時間の関係上、授業内で映画1本ノーカットで鑑賞するのは難しく、(断腸の思いで) 割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思ます。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 履修決定の学生との確認、講義&amp;ディスカッション『GHOST IN THE SHELL/ 攻殻機動隊』(1995)</li> <li>3. <i>The Matrix</i> (1999): 他メディアからの影響も検証する</li> <li>4. <i>Star Wars IV</i>(1977): 神話学者曰く「現代の神話」</li> <li>5. <i>Gattaca</i> (1997): 自然出産者はデザイナーベイビーを超えられるか?</li> <li>6. <i>Slumdog Millionaire</i> (2008): インドの現実? 英国監督作品のためか、議論を呼んだ作品</li> <li>7. <i>Mother Teresa</i> (1988): やっぱすごい! マザーテレサ本人を映像で観る</li> <li>8. <i>Ten Commandments</i> (1956): 十戒を学んでみよう</li> <li>9. <i>The Truman Show</i> (1998): メディアに操られる世界</li> <li>10. <i>Chicago</i> (2002): 殺人事件も娯楽になる?</li> <li>11. <i>Moulin Rouge!</i> (2001): ラブソングの変遷を追う</li> <li>12. <i>Hedwig and the Angry Inch</i> (2001): 「不完全な私」を受け入れるまで</li> <li>13. <i>Dead Poet Society</i> (1989): 「いまを生きる」とは?</li> <li>14. 議論の時間: “What’s your best movie and why?”</li> <li>15. 春学期授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介し、必要な場合は、印刷して配布します。		*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。 欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。	

09年度以降	シネマ英語	担当者	国見 晃子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期では、偉大な名優たちの映画&amp;ドラマを取り上げます。授業では映画&amp;ドラマを丁寧に詳細に鑑賞し、分析、そして批評することを目的とします。</p> <p>1回の授業で1本の映画&amp;ドラマを分析する講義形式の授業となりますが、学生の皆様同士でディスカッションし、意見を発表する時間も取り入れたいと考えております。授業内では、基本的に、英語の字幕をつけた状態で映画&amp;ドラマを観ます。時間の関係上、授業内で映画1本ノーカットで鑑賞するのは難しく、(断腸の思いで) 割愛しなくてはならない名シーンも数多くあります。あらかじめ映画を鑑賞した上で、授業に参加していただくとより理解が深まるかと思ます。</p> <p>それでは、熱意のある方、お待ちしております！</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 履修決定の学生との確認、講義&amp;ディスカッション</li> <li>3. <i>Rain Man</i> (1988): Dustin Hoffman, Tom Cruise</li> <li>4. <i>Blade Runner</i> (1982): Harrison Ford</li> <li>5. <i>Gladiator</i> (2000): Russell Crowe</li> <li>6. <i>One Flew Over the Cuckoo's Nest</i> (1975): Jack Nicholson</li> <li>7. <i>The Devil Wears Prada</i> (2006): Meryl Streep, Ann Hathaway</li> <li>8. <i>Awakenings</i> (1990): Robert De Niro, Robin Williams</li> <li>9. <i>Roman Holiday</i> (1953): Audrey Hepburn</li> <li>10. <i>The Shawshank Redemption</i> (1994): Tim Robbins, Morgan Freeman</li> <li>11. <i>The Great Dictator</i> (1940): Charlie Chaplin</li> <li>12. <i>Music and Lyrics</i> (2007): Hugh Grant, Drew Barrymore</li> <li>13. <i>Friends</i> (1994-2004): Jennifer Aniston, etc</li> <li>14. 議論の時間: “Who is your favorite actor and/ or actress and why?”</li> <li>15. 秋学期授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
*適宜、関連する資料、書籍、サイト等を紹介し、必要な場合は、印刷して配布します。		*提出物(レポート)80%、授業の参加度20% *遅刻3回(30分以内)で1回の欠席と換算します。 欠席5回した時点で単位取得が不可能になります。 *レポート未提出は自動的にF評価になります。	



09年度以降	シネマ英語	担当者	田村 斉敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、映画『フォー・ウェディング』を題材にして、小説を輪読するようにして映画を「読」んでいきます。</p> <p>この作品の脚本を書いたのはリチャード・カーティスで、それまでもローワン・アトキンソン主演のTVシリーズ『ブラックアダー』や『Mr. ビーン』の製作に関わり、コメディの名手として名を馳せました。その彼がはじめてヒュー・グラントと組んで制作したのが本作品で、大方の予想を超えるヒットとなり、ここで作り出した当たる映画の「公式」が、その後のロマンティック・コメディの傑作『ノッティング・ヒルの恋人』に結実したとも言われています。ちなみに、『フォー・ウェディング』にはとても印象的な役でアトキンソンも登場しています。</p> <p>イギリス男性とアメリカ女性の恋愛を通して、結婚について、あるいは結婚しない選択について、深く考えさせられながら、同時に心から楽しめる映画です。</p> <p>授業では、教科書のスクリプトを併せて使用しつつ、毎回映画を少しずつ観ながら、個別の作業、ペアワークやグループワークなどを通して、映画の理解を深めていきます。積極的な参加を求めたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インタロダクション (映画前半を見る)</li> <li>2. インタロダクション (映画後半を見る)</li> <li>3. WEEK 1 PROLOGUE—WEDDING 1</li> <li>4. WEEK 2 RECEPTION</li> <li>5. WEEK 3 AFTER THE RECEPTION</li> <li>6. WEEK 4 WEDDING 2</li> <li>7. WEEK 5 RECEPTION</li> <li>8. ～幕間～</li> <li>9. WEEK 6 A DAY OFF</li> <li>10. WEEK 7 WEDDING 3</li> <li>11. WEEK 8 FUNERAL</li> <li>12. WEEK 9. WEDDING 4 (1)</li> <li>13. WEEK 10. WEDDING 4 (2)—EPILOGUE</li> <li>14. まとめ1</li> <li>15. まとめ2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト Richard Curtis 著、大谷伴子編注『Four Weddings and a Funeral/総合英語教材「フォー・ウェディング」』(松柏社、1999)          その他参考文献は授業中に指示。</p>		<p>授業内活動参加 50%          クイズ・提出物 30%          最終レポート 20%</p>	

09年度以降	英語学の世界	担当者	府川 謹也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>受講者はTOEIC900点以上の取得者からbreakの過去形をbrokeと、またdogに冠詞も-sも付けずに書く人までさまざまですが、9割は教諭免許取得希望者ですから、授業の狙いは、言語学の最近の成果を踏まえ、英語の本当の姿についての知識をしっかりと身につけてもらうことにあります。したがって、授業内容は、これまでに習ってきた表現について「なぜそう言えるのに、こうは言えないの?」という素朴な疑問に対する「なるほど!」と納得のいく解答を見つけ出すことに力が注がれます。</p> <p>この授業は単位を取るのが難しいと言われていますが、既習文法知識とその発想を捨てたうえで予習・復習をしていればそのようなことはありません。</p> <p>参考のために、単位を落とす人の傾向を示しておきます。</p> <p>★授業当日までにプリントに目を通し、例文の意味を調べず、授業後も復習をしない。</p> <p>★講義内容でわからないところを(メール等で)質問せず、ほったらかしておく。</p> <p style="text-align: right;">&lt;以下に続く&gt;</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モノの捉え方と表現の仕方</li> <li>2. 前置詞の意味</li> <li>3. 続き</li> <li>4. 不定冠詞 vs. はだか名詞</li> <li>5. 英語と日本語の情報構造</li> <li>6. 情報の新旧と冠詞</li> <li>7. 自動詞構文と他動詞構文</li> <li>8. BE 受動文の使い方</li> <li>9. GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>10. 再帰代名詞の使い方</li> <li>11. 動詞の意味と構文(結果構文)</li> <li>12. 動詞の意味と構文(二重目的語構文・ほか)</li> <li>13. 否定の意味</li> <li>14. 時制(現在と過去)とアスペクト(進行相と完了相)</li> <li>15. 助動詞の使い方</li> </ol> <p>※ 上のトピックに変更を加える場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはPorTaを通じて配布するプリント。</p> <p>第2回目の授業からは各自でダウンロードしてください。</p> <p>科目等履修生はメールをもらえれば添付で送ります。</p>		<p>最終成績の比重は、受講生が多い場合は定期試験が10割で、それほど多くない場合は小テストと課題が4割、残りの6割は定期試験になります。</p>	

09年度以降	英語学の世界	担当者	府川 謹也
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業を受ける利点には次のようなこともあります。</p> <p>(1) 3通りのかたちの名詞それぞれの使い分けが出来るようになる。</p> <p>a. Anyone who plays piano knows that is no great feat. b. He hates playing a piano which is out of tune. c. Do you play the piano?</p> <p>(2) 上のcのtheとthe sun, the wines of Franceなどに使うtheの規則に共通性のあること知ることができる。</p> <p>(3) “I was standing ( ) the corner.”のカッコにatもinもonも入るが意味(=見方)が違うことがわかる。</p> <p>(4) 疲れている人に向かって「疲れているのは一所懸命働いたからだよ」という場合にはaのほうがよいとわかる。</p> <p>a. You feel tired because you've worked hard. b.??Because you've worked hard, you feel tired.</p> <p>(5) 日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.”とは言えない理由がわかるようになる。</p> <p>(6) No shoes are allowed.とNo shoes is allowed.の意味の違いがわかるようになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. モノの捉え方と表現の仕方</li> <li>2. 前置詞の意味</li> <li>3. 続き</li> <li>4. 不定冠詞 vs. はだか名詞</li> <li>5. 英語と日本語の情報構造</li> <li>6. 情報の新旧と冠詞</li> <li>7. 自動詞構文と他動詞構文</li> <li>8. BE 受動文の使い方</li> <li>9. GET 受身と BE 受身・動詞的受身と形容詞的受身</li> <li>10. 再帰代名詞の使い方</li> <li>11. 動詞の意味と構文(結果構文)</li> <li>12. 動詞の意味と構文(二重目的語構文・ほか)</li> <li>13. 否定の意味</li> <li>14. 時制(現在と過去)とアスペクト(進行相と完了相)</li> <li>15. 助動詞の使い方</li> </ol> <p>※ 上のトピックに変更を加える場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはPorTaを通じて配布するプリント。</p> <p>第2回目の授業からは各自でダウンロードしてください。</p> <p>科目等履修生はメールをもらえれば添付で送ります。</p>		<p>最終成績の比重は、受講生が多い場合は定期試験が10割で、それほど多くない場合は小テストと課題が4割、残りの6割は定期試験になります。</p>	

09年度以降	言語情報処理 I a	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 I a では、「言語情報とは何か?」、「コーパス(=言語データ)とは何か?」、「言語情報処理とは何か?」という、基本的な概念を共有するところから始めます。その上で、「コーパスを分析することで何がわかるのか?」、「コーパスをどのように分析するのか?」という実習へ発展していきます。その後は、受講生が自ら考えた言語分析課題 (Research question(s)) をたて、実際に言語データを分析し、その成果を発表するという一連の演習を行います。</p> <p>授業では、教科書(下記参照)に沿って様々な研究例を見ながら、「言語を分析する」適切な視点を養って頂きたいと思えます。</p> <p>従って、品詞を英語で言える、センテンス構造を分析できるなど、基本的な言語学の知識を必要とします。また、「コンピューターの使い方を学習する」授業ではありませんので、その点も注意してください。</p> <p>成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。</p> <p>言語情報 I a と I b では、I a の方が言語学的内容です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 第1章「コーパス言語学への招待」</li> <li>2. 第2章「コーパスとは何か」</li> <li>3. 第3章「さまざまなコーパス」</li> <li>4. 第5章「コーパス検索の技術」</li> <li>第6章「コーパス頻度の処理」</li> <li>5. 第7章「コーパスと語彙」(1)</li> <li>6. 第7章「コーパスと語彙」(2)</li> <li>7. 第8章「コーパスと語法」(1)</li> <li>8. 第8章「コーパスと語法」(2)</li> <li>9. 第9章「コーパスと文法」(1)</li> <li>10. 第9章「コーパスと文法」(2)</li> <li>11. プレゼンテーション準備(1): RQを検討</li> <li>12. プレゼンテーション準備(2): データ分析</li> <li>13. プレゼンテーション準備(3): 資料作成</li> <li>14. 発表(1)</li> <li>15. 発表(2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>使用テキスト</p> <p>『ベーシックコーパス言語学』 (石川慎一郎著 ひつじ書房)</p>		<p>毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)</p>	

09年度以降	言語情報処理 I b	担当者	羽山 恵
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、コンピューターを活用して計量的に言語を見る洞察力と分析力を身につけることを目標とします。</p> <p>言語情報処理 I b では、「日本人英語学習者のコーパス(=言語データ)」を扱います。究極的な研究課題 (Research question) は、「日本人英語学習者の話す/書く英語の特徴にはどのようなものがあるか?」ということです。それらの特徴は、使用する語彙、使用する(あるいはしない)文法項目、誤り (error) などの観点から特定できるものを指します。加えて、「英語力」が異なる学習者グループを比較することによって、英語力が低い段階から高まっていくに従い、どのような語彙・文法項目が使われるようになるのか、あるいはどのような誤りは減少し、どのようなものは高い英語力を持つ学習者でもおこなってしまうのか、といったことも、本授業で扱うテーマに含まれます。従って、<u>英語教員を目指す人、英語学習に対する興味・関心が強い人</u>に向いている内容といえます。</p> <p>授業では、学習者コーパスを構築し、分析する演習が中心になります。必ずしも言語情報処理 I a を履修していなくても構いませんが、コンピューターの作業に慣れていることが望ましいです。</p> <p>成績評価は、毎回の授業における課題への取り組み、最終プレゼンテーションへの取り組みによります。発展的に進みますので、毎授業への参加が必須です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 学習者コーパスとは何か</li> <li>2. 学習者の言語データと第二言語習得</li> <li>3. 学習者コーパスの仕組み</li> <li>4. 学習者データの収集(1)</li> <li>5. 学習者データの収集(2)</li> <li>6. 学習者データの入力</li> <li>7. 学習者データの加工</li> <li>8. 学習者コーパスの語彙分析</li> <li>9. 学習者コーパスの文法分析</li> <li>10. 学習者コーパスの流暢さ分析</li> <li>11. 学習者コーパスの誤り分析</li> <li>12. プレゼンテーション準備(1): データ分析</li> <li>13. プレゼンテーション準備(2): 資料作成</li> <li>14. 発表(1)</li> <li>15. 発表(2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは使用せず</p>		<p>毎回の授業における課題への取り組み (50%) 最終プレゼンテーション (50%)</p>	

09年度以降	言語情報処理Ⅱa	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、コンピューターを活用して電子化された大量の言語を観察し、計量的に分析する言語学の方法論、即ち、コーパス言語学の手法を学び、言語に対する洞察力を身につけることを目標とします。目標は、「言語情報処理Ⅰ」と同様としながらも、この講義ではより広範囲に言語データを扱います。例えば、母語話者や英語熟達者の言語比較、英語辞書コーパス、日本語テキスト、二言語を同時に扱う「パラレルコーパス」による日英対照分析等について学習します。授業では、教科書に沿って様々な研究例を見ながら、適時、参考文献も紹介します。授業は講義と演習を並行しながらコーパスやコーパスツールの基本的な使用方法を学びます。「研究発表」では、各人の興味と技能等に応じて一つのテーマについてプレゼンテーションを行ってまいります。授業の中で研究発表のテーマを探してください。成績評価は、プレゼンテーションを重視します。なお、授業外の作業が多く含まれることをあらかじめ伝えておきます。(履修の検討に際して、言語情報処理Ⅰのシラバスも必ず読んでください。言語情報処理Ⅰを履修条件とはしませんが、言語解析技術を扱うので、文字情報の処理が得意で、言語を分析的に見ることに関心があることが望まれます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 この授業を通して学んでほしいこと</li> <li>2. 母語話者と学習者の言語、及び様々なコーパスツールとエクセル統計基礎</li> <li>3. 英語母語話者と学習者データの比較：語彙</li> <li>4. 英語母語話者と学習者データの比較：コロケーション</li> <li>5. 英語母語話者と学習者データの比較：語法・文法</li> <li>6. 日本語テキストの扱い（1）：概説</li> <li>7. 日本語テキストの扱い（2）：実例</li> <li>8. 日英パラレルコーパスの基本（1）：概説</li> <li>9. 日英パラレルコーパスの基本（2）：処理</li> <li>10. 日英パラレルコーパスの基本（3）：処理</li> <li>11. プレゼンテーション準備：何を伝えるか、伝えないか</li> <li>12. プレゼンテーション準備：どう効果的に伝えるか</li> <li>13. 発表（1）</li> <li>14. 発表（2）</li> <li>15. 総括（この授業から何を学んだか）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>使用テキスト：『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎 ひつじ書房） 参考文献：『英語教師のためのコーパス活用ガイド』（赤野他編著 大修館）</p>		<p>発表内容・方法（40%）、パワーポイントスライド（40%）、授業における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（20%）</p>	

09年度以降	言語情報処理Ⅱb	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、コンピューターを活用して電子化された大量の言語を観察し、計量的に分析する言語学の方法論、即ち、コーパス言語学の手法を学び、言語に対する鋭い洞察力を身につけることを目標とします。授業では、「言語情報処理Ⅰ」及び「言語情報処理Ⅱa」の内容についてより深く学習します。「言語情報処理Ⅱa」を履修条件とはしませんが、コンピューターによる高度な言語解析技術を扱うので、「言語情報処理Ⅱa」の内容を理解できる、あるいは文字列に関する情報処理能力をもち、言語を分析的に見ることに相当の関心と自信があることが望まれます。</p> <p>授業では、教科書や参考文献に沿って語彙・コロケーション・語法を中心に研究例を紹介いたします。また、演習形式で分析ツール(Ⅱaで紹介)の使用方法和統計処理について学習します。「研究発表」では、各人の興味と技能に応じて、一つのテーマについてプレゼンテーションを行います。講義と実習を平行して進めますので、出席を重視します。</p> <p>この単位の成績評価においては、「研究発表」とその配布資料、レポートを重視します。なお、授業外の作業が多く含まれることをあらかじめ伝えておきます。(履修の検討に際して、言語情報処理Ⅰa,Ⅰb及びⅡaのシラバスも必ず読んでください。)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【ガイダンス】 この授業を通して学んでほしいこと</li> <li>2. 語彙・コロケーション・語法・文法の分析における多角的な視点</li> <li>3. 語彙・コロケーション等の分析のためのコーパスツール</li> <li>4. 語法・統語分析の視点</li> <li>5. 言語統計基礎（なぜ統計が必要なのか、どのように統計を使うのか等）</li> <li>6. 基本的な統計（「サンプル」という発想、尺度の重要性、統計量とは、有意であることの意味、有意水準とは）</li> <li>7. 一般的な言語統計（1）</li> <li>8. 一般的な言語統計（2）</li> <li>9. コロケーション統計と処理（1）</li> <li>10. コロケーション統計と処理（2）</li> <li>11. 発表準備作業</li> <li>12. 発表テーマ報告</li> <li>13. 発表（1）</li> <li>14. 発表（2）</li> <li>15. 総括とレポート提出</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>使用テキスト：『ベーシックコーパス言語学』（石川慎一郎 ひつじ書房） 参考文献：『言語研究のための統計入門』（石川・前田・山崎編 くらしお出版）</p>		<p>口頭発表の内容・方法（30%）、全ての発表資料（30%）、レポート（30%）講義における聴講態度・活動への積極的関与・貢献（10%）</p>	

09年度以降	実践英語音声学	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(今年度は秋学期のみ開講)</p> <p><u>講義目的</u></p> <p>世界共通語としての英語は、各話者の母語訛り(なまり)で話されることが多い。様々な訛り同志が出会ったときに、相互理解に困難が生じることもある。各話者が、最大公約数的に歩みよる方向としての「英語音」とはどのようなものであるかという問題は、社会学的にも教育学的にも興味深い。</p> <p>一般的なイギリス英語、アメリカ英語やオーストラリア英語であろうと、地域や世代、その他様々な違いがあろうと、その中核には共通する「英語という言葉らしい音」があると思われる。この授業では一般米語音を一つの例に取り上げ、英語らしさについて理論と実践を通して学習する。</p> <p>英語らしい音について、まず学習者として日本語(またはその他の母語)の特徴と比較しながら理解し、練習する。さらには、英語教師を目指す者として、教えるべき項目、順序、方法を検討する。</p> <p><u>講義概要</u></p> <p>授業は CAL 教室で行う。毎回、各項目についてミニ講義を行い、それに関して、自ら声を出し、モデルや自分や他人の音を聞き、さらに練習をする。また、毎回課題が出され、次回に確認、評価をする。</p> <p>機器設定や機器とソフトの使用説明/練習があるので、1回目の授業に必ず出席すること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, Calabo/Movie Teleco 練習 日本人発音は本当にいけないか</li> <li>2. Calabo 練習:学習指導要領(segment vs. prosody)</li> <li>3. 母音 日本語との比較</li> <li>4. 母音 ミニマルペア</li> <li>5. 語アクセント 第二アクセント</li> <li>6. 子音 日本語との比較</li> <li>7. 子音 音素と異音</li> <li>8. 子音 連鎖</li> <li>9. リズム フット、強勢衝突</li> <li>10. リズム リズム表記の問題点と注意点</li> <li>11. イントネーション 文アクセントと音調核の意味</li> <li>12. イントネーション リズムとの兼ね合い</li> <li>13. イントネーション 意味</li> <li>14. 音声教育</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>DUO で確認すること。 その他 配布資料</p>		<p>授業参加(準備・参加):約 25%、課題・クイズ:約 25%、試験:約 50%。 単位の認定には 70%以上の出席が求められる。</p>	

09年度以降	音声・音韻論 a	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 「英語音声学」(2012年度以前入学生)で学んだことをさらに発展させ、英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考え、ことばの知について学ぶ。 音声には音声的側面と音韻的側面が表裏一体となって存在する。音声は常に変化する量的なもので千差万別であり、空中に音波としての具体的実体がある。一方、音韻はその変化する音声に、A なら A, B なら B という質的(非量的)な記号を当てて脳に格納されている抽象的実体である。音の特徴や変化の法則性(音韻)について、その背後にある音声実態(音声)の多様性を紹介しながら、音声と音韻の関係という言語音声の表裏一体性について基礎的な導入を試みる。 各論は、英語や日本語の様々な音現象について具体的に学ぶ。 *「英語好き」の疑問や何となく感じていた事象について解き明かす。</p> <p><u>講義概要</u> テキストや配布資料を基に講義をし、学生は読み課題や練習課題をこなして理解を深める。予習、授業参加、提出などに積極的な参加が求められる。</p> <p>&lt;メッセージ&gt; ・2, 3 年生は「英語の音声」が既修であること。または今学期の並行履修が求められる。(春学期の「英語の音声」は火曜 4 限)その他相談を。 ・春・秋と連続で履修することを勧める。春学期を基礎として秋学期に本題に入っていく。秋学期からの受講も... (下欄に続く)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声学と音韻論, 第 1 章 音と文字</li> <li>2. 第 2 章 子音の調音</li> <li>3. 第 3 章 母音の調音 (1)</li> <li>4. 母音の調音 (2)</li> <li>5. 母音の有標性、子音の有標性、Exercises</li> <li>6. 第 4 章 音と意味 (1)</li> <li>7. 音と意味 (2)</li> <li>8. 音素と異音, Exercises</li> <li>9. 第 6 章 音節と音の並び方 (1) (音韻的/音声的分節、分綴法)</li> <li>10. 音節と音の並び方 (2)</li> <li>11. 第 10 章 語アクセント</li> <li>12. 語アクセント (2)、第二アクセント、無アクセント</li> <li>13. 音節とモーラ (1)</li> <li>14. 音節とモーラ (2)</li> <li>15. Review Exercises</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
DUO で確認すること。 その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 15%, クイズ・課題:約 35%, 試験:約 50%。単位の認定には 70%以上の出席が求められる。	

09年度以降	音声・音韻論 b	担当者	青柳 真紀子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u> 春学期に同じ。</p> <p><u>講義概要</u> 春学期に同じ。</p> <p><u>メッセージ</u> ・2, 3 年生は「英語の音声」が既習であること。または今学期の並行履修が求められる。(秋学期の「英語の音声」は火曜 2 限) ・(上欄からのつづき) 秋学期からの受講もあり得るが、科目の性質上、春学期の内容が前提とならざるを得ない。よって、秋学期のみ履修する場合は、各自補足が必要になる。 (春に足し算を学んで、秋に掛け算を学ぶとしても、秋に足し算なしでは問題が解けないようなもの)。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Review セグメント, 音節, Exercises</li> <li>2. フット, アクセント (語, 句), Exercises</li> <li>3. 第 11 章 リズムとイントネーション (1)</li> <li>4. リズムとイントネーション (2)</li> <li>5. 第 5 章 音声特徴 弁別素性</li> <li>6. 第 7 章 音韻現象を探る (1)</li> <li>7. 音韻現象を探る (2), Exercises</li> <li>8. 第 8 章 同化現象</li> <li>9. 同化現象 (2)</li> <li>10. 第 9 章 形態音素 (1)</li> <li>11. 形態音素 (2)</li> <li>12. Review Exercises</li> <li>13. 音韻表示と音声実現</li> <li>14. 音声と統語構造, 意味構造とのインターフェイス</li> <li>15. 音声と音韻の研究</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
DUO で確認すること。 その他 配布資料		授業参加(準備・参加):約 15%, クイズ・課題:約 35%, 試験:約 50%。単位の認定には 70%以上の出席が求められる。	

09年度以降	シンタクス a	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b>  様々な英語の文は三つの種類に下位分類されることを示すとともに、英語の文の多くの面は、動詞が必要とする項の数や内容といった動詞の統語的特徴と、状態・活動・達成・到達などの動詞の意味的特徴によって決定されることを説明する。</p> <p><b>講義概要:</b>  まず、英語の多種多様な文が基本文・拡張文・派生文という三つに分類されることを示す。次に、動詞が必要とする補語と目的語という(補部)の数と内容を明らかにし、補部によって基本文として5文型が決定されることを説明する。さらに、他動性・能動性・非対格性といった特徴や状態・活動・達成・到達という動詞の相の4つの意味分類とその分類基準を明らかにする。加えて、英語の文構造で重要な役割を果たす目的語と補語を詳しく説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の文の種類</li> <li>2. 基本文の構成</li> <li>3. 拡張文における拡張性</li> <li>4. 派生文の派生方法</li> <li>5. 動詞と文構造</li> <li>6. 動詞の種類～分類基準</li> <li>7. 統語的分類～補部の数と種類</li> <li>8. 意味的分類～状態・活動・達成・到達 《<u>中間試験</u>》</li> <li>9. 動詞の特性～他動性・能動性・非対格性</li> <li>10. 項の数と文構造</li> <li>11. 一項述語と第一文型</li> <li>12. 二項述語と第二・第三文型</li> <li>13. 三項述語と第四・第五文型</li> <li>14. 目的語の定義と特徴</li> <li>15. 補語の定義と特徴 《<u>期末試験</u>》</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><b>テキスト:</b> プリントを使用。  <b>参考文献:</b> 鈴木英一・安井泉『動詞』研究社。鈴木英一『統語論』開拓社。影山太郎『動詞意味論』くろしお出版。</p>		<p>受講状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。</p>	

09年度以降	シンタクス b	担当者	鈴木 英一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b>  英語の文構造は基本的に述語動詞として用いられる動詞によって決定されるので、動詞の特徴は文構造を考える上できわめて重要である。春学期の授業内容を踏まえ、様々な文を取り上げ、動詞の統語的・意味的な特徴がそのような文にどのように反映されるかを説明する。</p> <p><b>講義概要:</b>  二重目的語構文、2種類の主語繰上げ構文、難易構文、受動文、疑問文、単純時制文、進行形文、完了形文、there-構文、外置構文、重量名詞句移動構文、「動詞+前置詞構造」と「動詞+副詞(不変化詞)構造」を取り上げ、これらの構文に動詞の統語的・意味的特徴が反映されているかを明らかにし、同時に、これらの構文の特徴を説明する。特に、単純時制文、進行形文、完了形文については動詞の意味が文全体の意味に大きく影響することを明らかにし、受動文と疑問文については、単文の短距離・局所的な場合と上位節に関わる長距離の場合を説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 二重目的語と移動構文</li> <li>2. 無生物主語構文と主語への繰上げ構文</li> <li>3. 認識動詞と目的語への繰り上げ構文</li> <li>4. 無生物主語構文と難易構文</li> <li>5. 短距離受動文と長距離受動文</li> <li>6. 短距離疑問文と長距離疑問文</li> <li>7. Wh移動を含む構文とWh移動の特徴</li> <li>8. 橋渡し動詞と島条件 《<u>中間試験</u>》</li> <li>9. 動詞の意味と単純時制文</li> <li>10. 動詞の意味と進行形文《<u>中間試験</u>》</li> <li>11. 動詞の意味と完了形</li> <li>12. 動詞の特徴とthere-構文</li> <li>13. 述部の特徴と外置構文</li> <li>14. 述部の特徴と重量名詞句移動</li> <li>15. 「動詞+前置詞構造」と「動詞+不変化詞構造」 《<u>期末試験</u>》</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><b>テキスト:</b> プリントを使用。  <b>参考文献:</b> 鈴木英一・安井泉『動詞』研究社。藤田耕司・松本マサムネ『語彙範疇(I) 動詞』研究社。</p>		<p>受講状況、授業における平常点、期末試験の成績を総合して評価する。</p>	

09年度以降	意味論 a	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では認知意味論(cognitive semantics)を扱います。認知意味論とは、ごくおおざっぱにい方をすれば、意味の問題を知覚や認識との関連で捉える意味理論です。この立場に共通した意味研究へのアプローチとして、①意味を言語使用者の外界認識の産物として捉える、②言語的意味と百科事典的知識の無理な区別をしない、③意味に経験などからの動機づけを求める、という考えがあり、その方針に沿って、どうしてコトバはあるがままに使われ、そのような意味になるのかということに関して研究成果をあげてきています。</p> <p>授業では、テキストに沿って、認知意味論の研究を概観していきます。</p> <p>また授業を受けると、次の対話でBが“Yes”と“No”のいずれでも答えることができる理由が分かるようになります。</p> <p>A: Do you still have my umbrella?  B: a. Yes, but I left it at Carl's.  b. No, I left it at Carl's.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知意味論とは何か</li> <li>2. 語の意味 (1)チェックリスト意味論</li> <li>3. (2)プロトタイプ</li> <li>4. (3)イメージ・スキーマ</li> <li>5. (4)フレーム</li> <li>6. 意味の拡張 (1)メタファー</li> <li>7. (2)シネクドキー (3)メトニミー</li> <li>8. (4)意味拡張の具体例 (5)主体化</li> <li>9. 文法化における意味変化</li> <li>10. 多義性 (をめぐる諸問題)</li> <li>11. 続き</li> <li>12. out/over の多義性</li> <li>13. 続き</li> <li>14. 拡張とスキーマに基づくネットワーク・モデル</li> <li>15. 続き</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
松本 曜 (編)『認知意味論』大修館書店		最終成績の比重は、受講生が多い場合は定期試験が 10 割で、それほど多くない場合は小テストと課題が 4 割、残りの 6 割は定期試験になります。	

09年度以降	意味論 b	担当者	府川 謹也
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業の内容を、テキストの著者のことばを借りて紹介します。</p> <p>認知言語学では、言語は世界を&lt;意味&gt;として捉える認知の営みを可能にする記号の体系であると考えられる。この記号の体系が道具であるならば、そこには製作者としての人間のさまざまな能力が反映されているだろうし、使用者としての人間がその道具を使ってどのように世界を捉えてきたかが刻印されるはずである。もしそうならば、この道具について知ることは人間について知ることもである。本著は、このような言語眼に立つ認知言語学の基本的な考え方を語彙・文法に関するさまざまな現象を通して紹介するために書かれた入門テキストである。(「はしがき」より)</p> <p>この授業を受けると、例えば同じ事態を描写するのになぜ a と b の 2 通りの言い方が出来るのかが分かってきます。</p> <p>(1) a. The fish is <i>in</i> the water.  b. The fish is <i>under</i> the water.  (2) a. There is <i>a little</i> wine in the bottle.  b. There is <i>little</i> wine in the bottle.  (3) a. We will soon reach the <i>shore</i>.  b. We will soon reach the <i>coast</i>.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知言語学の基本的概念</li> <li>2. 世界の立ち現れ方 1—「～として」の構造</li> <li>3. 世界の立ち現れ方 2—「～らしさ」の構造</li> <li>4. 意味とは何か?</li> <li>5. 比喩 1—メタファー</li> <li>6. 比喩 2—メトニミー・シネクドキー</li> <li>7. 意味変化</li> <li>8. 多義語</li> <li>9. 語から文へ</li> <li>10. 文法とは何か?</li> <li>11. 文法マーカ―・品詞・文法関係</li> <li>12. 他動性</li> <li>13. 文法化</li> <li>14. 小さな記号、大きな記号</li> <li>15. 日英対照研究</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
野村益寛『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房		最終成績の比重は、受講生が多い場合は定期試験が 10 割で、それほど多くない場合は小テストと課題が 4 割、残りの 6 割は定期試験になります。	



09年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>英語には主語と助動詞の倒置があり、wh-句は必ず節の左端に移動しなければなりません、日本語にはこのような規則はありません。また、英語の数えられる名詞は冠詞をつけるか複数形にしなければ文の中で使えず、主語と動詞の間に「数の一致」現象があります。フランス語、ドイツ語、スペイン語にもほぼ同様の現象がありますが、中国語、韓国語にはありません。これらの違いは地域や文化と関係すると考える方がいるかもしれませんが、人間の言語として可能な限られたバリエーションの範囲にあり、地域・文化とは本質的に無関係です。この授業では言語のバリエーションをどのように原理的に説明しうるか、考察していきます。言語の原理を探ることは、言語が可能にしている私達の知性の解明にも通じると思います。</p> <p>学期の前半はテキスト欄の論文を使って日英語の主な統語現象をみながらシンタクスの基礎を学び、後半はその他の言語のデータも加えて議論していきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. 構成素と語順の自由度</li> <li>3. 構成素と動詞句削除</li> <li>4. 構成素と代用形</li> <li>5. 項と付加詞</li> <li>6. 動詞句削除と使役文、受動文など</li> <li>7. 動詞句削除と sloppy identity</li> <li>8. 述語繰り上げ</li> <li>9. 名詞句の構造と冠詞の有無</li> <li>10. 節構造と仮主語(it/there)の有無</li> <li>11. 格付与</li> <li>12. 日本語の名詞句構造</li> <li>13. トルコ語の名詞句構造</li> <li>14. 中国語の名詞句構造</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Fukui, N. (1988) Deriving the differences between English and Japanese: A case study in parametric syntax. <i>English Linguistics</i> 5: 249-270.		毎回の授業での言語分析(40%)、学期末試験(60%) とする。	

09年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	安井 美代子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は「英語学特殊講義 a」を参照してください。「英語学特殊講義 a」と内容的に関連するので、b から履修する人は Fukui, N. (1988)の論文を自習して下さい。</p> <p>英語では疑問文で使う疑問詞(who, which など)を関係節でも使いますが、日本語では使いません。</p> <p>(1) a. <u>Who</u> came to the party?  b. The guest <u>who</u> came to the party is John.</p> <p>(2) a. 誰がパーティに来ましたか?  b. パーティに来た(*誰)客はジョンです。</p> <p>英語の疑問文と関係節に(1a,b)に見られるような類似点があるため、2つの構文は wh-移動という同じ規則で分析するのが一般的ですが、日本語のように異なる規則が関与していると考えられる言語も数多く存在します。この授業では、関係節構造にみられる言語間の違いをどのように原理的に説明出来るか、考察します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要</li> <li>2. wh-移動規則</li> <li>3. wh-移動規則</li> <li>4. 移動規則に対する制約：Complex NP Island</li> <li>5. 移動規則に対する制約：Subject Island</li> <li>6. 移動規則に対する制約：Adverbial Island</li> <li>7. 英語の定形関係節</li> <li>8. 英語の非定形関係節</li> <li>9. 日本語の疑問文と移動規則に対する制約</li> <li>10. 日本語の語順かき混ぜと移動規則に対する制約</li> <li>11. 日本語の関係節と移動規則に対する制約</li> <li>12. その他の言語と移動規則に対する制約</li> <li>13. その他の言語と移動規則に対する制約</li> <li>14. その他の言語と移動規則に対する制約</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Ross, H. John (1986) <i>Infinite Syntax</i> : Chapter 4. Ablex Publishing. Kitagawa, C. and C. Ross (1982) "Prenominal Modification in Chinese and Japanese." <i>Linguistic Analysis</i> 9, 19-53.		毎回の授業での言語分析(40%)、学期末試験(60%) とする。	

09年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、ことば（英語と日本語）の背後に存在する仕組みの一部を理解すること及びそのような仕組みに対して与える根拠を明らかにすることである。これと合わせて、言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。</p> <p>拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが、英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。</p> <p>配布資料には英語の文献も含まれることになるので、予習は必須である。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 概念意味論 (Jackendoff (1991)) (1)</li> <li>3. 概念意味論 (Jackendoff (1991)) (2)</li> <li>4. 概念意味論 (Jackendoff (1991)) (3)</li> <li>5. Jackendoff (1991)の分析の拡張 (1)</li> <li>6. Jackendoff (1991)の分析の拡張 (2)</li> <li>7. Jackendoff (1991)の分析の拡張 (3)</li> <li>8. 認知意味論 (1)</li> <li>9. 認知意味論 (2)</li> <li>10. 認知意味論 (3)</li> <li>11. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ (1)</li> <li>12. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ (2)</li> <li>13. 同じ種類のモノと異なる種類のモノ (3)</li> <li>14. 春学期のまとめ</li> <li>15. 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料を配布する。		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

09年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、ことば（英語と日本語）の背後に存在する仕組みの一部を理解すること及びそのような仕組みに対して与える根拠を明らかにすることである。これと合わせて、言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。</p> <p>拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが、英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。</p> <p>配布資料には英語の文献も含まれることになるので、予習は必須である。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (出席は必須)</li> <li>2. 同じ種類のコトと異なる種類のコト (1)</li> <li>3. 同じ種類のコトと異なる種類のコト (2)</li> <li>4. 同じ種類のコトと異なる種類のコト (3)</li> <li>5. 認知文法論 (1)</li> <li>6. 認知文法論 (2)</li> <li>7. 認知文法論 (3)</li> <li>8. 素性分析の問題点 (1)</li> <li>9. 素性分析の問題点 (2)</li> <li>10. 素性分析の問題点 (3)</li> <li>11. 合計を表す文と数を数える能力 (1)</li> <li>12. 合計を表す文と数を数える能力 (2)</li> <li>13. 合計を表す文と数を数える能力 (3)</li> <li>14. 秋学期のまとめ</li> <li>15. 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料を配布する。		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

13年度以降 12年度以前	英語学文献セミナーa 英語学文献研究 a	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、英語学に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の捉え方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方などを身につけることを目標としたい。合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>講義では、下記テキストの第2章を一行一行丹念に読み進めてゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<p>進度の目安は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 第2章のはじめから</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7. 中程まで</li> <li>8. 中程から</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14. 最後まで</li> <li>15. 春学期の復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Taylor, John R. (2012) <i>The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind</i> . Oxford: Oxford University Press. (購入は要しない)		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

13年度以降 12年度以前	英語学文献セミナーb 英語学文献研究 b	担当者	小早川 暁
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義の目的は、英語学に関する知識を単に増やすことではなく、英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術、単なる揚げ足取りでない問題点の捉え方、有意義な問題設定の仕方、説得力のある議論の仕方などを身につけることを目標としたい。合わせて、英語そのものについての理解を深めることも目指したい。</p> <p>講義では、下記テキストの第1章を一行一行丹念に読み進めてゆく。受講生は、あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。</p> <p>諸連絡にはポータルサイトを利用する。成績評価のための試験では、配布プリントやノート、辞書などの持ち込みは認めない。試験は日本語による論述式の予定である。</p>		<p>進度の目安は次の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 第1章のはじめから</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7. 中程まで</li> <li>8. 中程から</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13.</li> <li>14. 最後まで</li> <li>15. 秋学期の復習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Taylor, John R. (2012) <i>The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind</i> . Oxford: Oxford University Press. (購入は要しない)		評価は試験による。なお、出席そのものが加点の対象となることはない。また、卒業年次生に対する特別な「救済措置」はなく、正規の成績発表に先立って成績を知らせることもない。	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化 a 英語圏の文学・文化	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>文学や文化は必ず歴史の中から生み出される。この講義ではイギリスの歴史を概観しながら、それぞれの時代に生まれたテキストについて考察する。文学や文化は、政治、経済、宗教、科学といった分野と密接に連動して生み出されている。文学作品を幅広い文脈の中で捉えることを目指す。大きな歴史の流れと、テキストの細部が結びついていることを理解するのがこの講義の第1の目的である。</p> <p>だが一方で各時代に生まれたテキストは時代や地域を超えて変容を続けながら受容されていく。たとえば古代伝説の英雄ベオウルフやアーサー王は、古英語の叙事詩や中世の物語になっただけではなく、20世紀のファンタジー文学にも大きな影響を与え、さらにはハリウッド映画やコンピュータ・ゲームにもなっている。文学や文化が歴史や地理を超えてダイナミックに変化し続けることへの理解を深めるのが第2の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. Beowulf と古英語</li> <li>3. Chaucer と中英語</li> <li>4. Thomas More とイギリスの宗教改革</li> <li>5. Shakespeare とロンドンの大衆文化</li> <li>6. 17世紀の聖書と科学</li> <li>7. 市民革命と John Locke</li> <li>8. Robinson Crusoe と小説の始まり</li> <li>9. フランス革命と Romanticism</li> <li>10. 産業革命と Charles Dickens</li> <li>11. Darwin の与えた衝撃</li> <li>12. 二つの対戦と George Orwell</li> <li>13. 若者文化の成立</li> <li>14. グローバリゼーションとイギリス文学</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。		学期末試験の成績で評価する。	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化 b 英語圏の文学・文化	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b></p> <p>「文学・文化 a」に引き続き、イギリス文学を扱います。「a」で中世から現代にかけて通史を勉強していることを踏まえ、「b」では20世紀の小説を扱います。</p> <p>講義前半では、20世紀前半の「モダニズム」文学作品を2作取り上げます。言語化しにくいテーマをどう表現しているのかを読み取っていきましょう。</p> <p>講義後半では、20世紀後半の「ポストモダニズム」文学作品を2作を取り上げます。「モダニスト」の先輩たちの実験を踏まえつつ、さらにスケールの大きな物語を作り上げているのが特徴で、「歴史」をどう見ているかを考えてみましょう。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>担当者（片山）はストーリー展開をたどりながら、原文でどう書かれているかを適宜紹介しつつ、各作品のテーマについて問いを提示します。各作品とも映像化されているので、映像も一部お見せして、言語表現と視覚表現の違いについても考えてもらいます。</p> <p>講義で扱う作品のうち1作については、翻訳でもよいので、自分で読み通して作品論を書いてもらいます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2～4. インド人とイギリス人は友達になれるか？ E.M. Forster, <i>A Passage to India</i> (1924)</li> <li>5～7. 戦間期イギリスの風景 Virginia Woolf, <i>Mrs. Dalloway</i> (1925)</li> <li>8～10. 植民地支配の終焉とその後 Salman Rushdie, <i>Midnight Children</i> (1980)</li> <li>11～13. 現代と過去の平行・ラブストーリー A.S. Byatt, <i>Possession</i> (1990)</li> <li>14～15. まとめ</li> </ol> <p>取り上げる作品は一部変更することがあります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布		授業中のコメント 30%, 作品論 35%, 定期試験 35% (ただし欠席が5回を越える場合は評価対象としない)	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 a 英語圏の詩 a	担当者	原 成吉
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>まず第一に詩を楽しむこと。詩の言葉をとおしてアメリカの文化とその時代精神を理解し、異文化という鏡を使いながら「いまのわたしたち」を考える。</p> <p>講義概要</p> <p>アメリカ先住民の口承詩（うた）、ロック・ミュージックの歌詞、モダニストの作品、そして同時代の詩人たちの作品を紹介する。文学史的なアプローチではなく、「ここそしている」の視点から論じる。マーリング・リストを使い、毎回、受講生の質問やコメントに応えたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカの大地の声—Native American のうた</li> <li>2. Rock の Lyrics 読む—Bob Dylan と Paul Simon</li> <li>3. デモクラシーを歌う『草の葉』の詩人—Walt Whitman</li> <li>4. ミクロコスモのなかのマクロコスモ—女性詩人 Emily Dickinson</li> <li>5. モダニズムの起源を探る—(1) Ezra Pound がみた東洋</li> <li>6. (2) T. S. Eliot の “The Love Song of J. Alfred Prufrok” に描かれた現代人の苦悩</li> <li>7. (3) William Carlos Williams がみたアメリカの美学</li> <li>8. (4) e. e. cummings の “typography”が創る「感じる」詩</li> <li>9. ポストモダンの詩を読む (1) Allen Ginsberg の “A Supermarket in California”</li> <li>10. (2) Gary Snyder の “Riprap”</li> <li>11. (3) Sylvia Plath の “Daddy”</li> <li>12. (4) Robert Bly の “Snowfall in the Afternoon”</li> <li>13. (5) Adrienne Rich の “Onion”</li> <li>14. (6) Frank O'Hara の “The Day Lady Died”</li> <li>15. (7) Sandra Cisneros の “My Wicked Wicked Ways”</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Text: <i>The Penguin Book of American Verse</i>. Geoffrey Moore, ed. New York: Viking, 2011 (ISBN: 9780241955444)</p> <p>参考文献、『アメリカ名詩選』（岩波文庫）</p>		<p>4,000 程度の作品論（原ゼミ HP の「MLA 論文の書き方」を参照）とその詩の日本語訳をつけたレポートによって評価する。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。</p>	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の小説 b	担当者	上野 直子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：次の三点を焦点に、world literatureを視野におきながら英語圏の小説について考えます。</p> <p>1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。</p> <p>2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します）</p> <p>3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。</p> <p>講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。</p> <p>注意事項：TOEIC600点程度かそれ以上の英語力を前提としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新奇なるもの、小説？ — 新世界と小説</li> <li>2. 帝国・小説・資本主義</li> <li>3. 社会と小説</li> <li>4. 英語圏の拡大</li> <li>5. English Bestsellers of all time (1)</li> <li>6. English Bestsellers of all time (2)</li> <li>7. 帝国の光と影</li> <li>8. 英語圏の拡大 (2)</li> <li>9. 「英文学」の成立</li> <li>10. 小説の新たな挑戦 (1)</li> <li>11. 小説の新たな挑戦 (2)</li> <li>12. 語り返す言葉たちの登場</li> <li>13. ポストコロニアルの文学地図 (1)</li> <li>14. ポストコロニアルの文学地図 (2)</li> <li>15. テキストの思わぬ旅路</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します</p>		<p>主に、コメントペーパー(30%)と定期試験(70%)による。 (上記の%は予定であり、変わる可能性もある)</p>	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化・批評 b 英語圏の演劇 b	担当者	児嶋 一男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふう演劇に示されているかについて考えてみましょう。</p> <p>テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもら場合があります。</p> <p>なるべく実際の上演を観られるものを取りあげ、映像化された作品は冒頭部分を上映します。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎なども取りあげます。実際に劇場に観に行き、芝居は楽しいライブ・パフォーマンスであることを知って下さい。</p> <p>遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。</p> <p>授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p>		<p>毎回授業開始時に英語の語彙 quiz を、終了前に内容把握 quiz を行います。教室で読むテキストは、第1～15回まで、実際の上演舞台を観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。</p> <p>指定する演劇の観劇レポート（700字以上 800字以内）に関する事など、詳細は教室にて説明します。</p> <p><b>***注意事項***</b></p> <p>全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ」は、英語学科生は「英語圏の演劇 b（06～12年度）」「英語圏の文学・文化・批評 b（13年度以降）」、言語文化学科生は「多言語間交流研究各論（06～12年度）」「英語圏の文学・文化・批評Ⅱ（13年度以降）」として登録ください。テキストの英文は TOEIC650 点程度かそれ以上の英語力が前提です。650 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。</p> <p>参考文献は授業中に言及する予定です。</p>		<p>授業時の2つの quiz で 50%。観劇レポート2編(必修)で 50%、未提出者には単位を認めません。学期末定期試験はしません。</p>	

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 a 英語圏の社会と思想 a	担当者	片山 亜紀
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 イギリスのフェミニズム思想と運動の歴史をたどります。フェミニズムとは簡単に言えば女性の権利主張のこと。イギリスのフェミニズムには、メアリ・ウルストンクラフト、J.S.ミル、ヴァージニア・ウルフなど、世界史レベルで著名な思想家がいます。また、参政権運動、1980年代にはじまった軍事施設占拠など、直接行動の歴史もユニークです。</p> <p>今日の世界を理解するのに、階級や性別と並んでジェンダー（性別）の視点は欠かせません。イギリスのフェミニズムを学びながら、日本の現状とも比較して、今日の世界について理解を深めてほしいと思います。</p> <p>【講義概要】 毎回、その時代を生きた人々の生の声を手がかりに、担当者がそれらの「声」の意味や背景について説明します。</p> <p><u>*この講義は、2014年度秋学期に片山の「英語圏の社会・思想・歴史b、英語圏の社会と思想 b」の単位を修得した学生は登録できません。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに：フェミニズムとは</li> <li>2. 中世から近代初期（1）：キリスト教とジェンダー</li> <li>3. 中世から近代初期（2）：世俗社会とジェンダー</li> <li>4. 18世紀のパイオニア：メアリ・ウルストンクラフト</li> <li>5. 19世紀（1）：J.S. ミルとハリエット・テイラー</li> <li>6. 19世紀（2）：ナイチンゲールのイメージと実像</li> <li>7. 19世紀（3）：「新しい女」と労働運動</li> <li>8. 19世紀から20世紀へ（1）：女性参政権運動</li> <li>9. 19世紀から20世紀へ（2）：バースコントロール運動</li> <li>10. 戦間期のフェミニズム：ヴァージニア・ウルフ</li> <li>11. 20世紀後半（1）：女性解放運動とグリーンナムコモン</li> <li>12. 20世紀後半（2）：ブラック・フェミニズム</li> <li>13. 20世紀後半（3）：「ホワイト」フェミニズムの応答</li> <li>14-15. まとめ</li> </ol> <p>（各回タイトル・内容は一部変更することがあります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはハンドアウトを配布します。 参考文献は授業中に適宜紹介します。</p>		<p>コメント約3割、学期末試験約7割。 ただし5回を越えて欠席した場合、評価対象としません。</p>	



13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の社会と思想 b	担当者	田村 斉敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、戦争と文学をテーマとして、文学が戦争のもたらした大量破壊、大量殺戮あるいは思想的な影響や世界観の変化などといかに向き合い、どのように表現したかを考えていきます。</p> <p>そのときに重要なことは、技術の発達、とりわけ戦争とコミュニケーションの技術の飛躍的な進展です。両者はたえず関連しあい、一見平和な世界にあっても軍事的な含みをもつ技術が、われわれのものの見方や社会のありように深く影響しているものです。そうした影響は、一見無関係に見える文学作品の内部にもたしかに確認され、場合によってはそれを生み出す契機のひとつとなり、動力となっています。</p> <p>時代としては、ヨーロッパ全体を覆う戦争の祖形ともいえるナポレオン戦争に直面し、文学における革命を生じたロマン派の時代を起点として、第二次大戦後、冷戦期といわれる時代あたりまでを扱う予定です。ただし、そうした時代につくられた作品だけでなく、現在に近い作品で、当時の世界を描いたものも取り上げていく予定です。またいわゆる文学以外にも、映像、映画を一部取り上げます。</p> <p>授業は講義が中心となりますが、感想やコメントなどを授業中に求める予定です。積極的に参加していただきたいと思ひます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 英国ロマン派と戦争 1</li> <li>3. 英国ロマン派と戦争 2</li> <li>4. 世紀末から 20 世紀へ 1</li> <li>5. 世紀末から 20 世紀へ 2</li> <li>6. 第一次世界大戦 1</li> <li>7. 第一次世界大戦 2</li> <li>8. 戦間期 1</li> <li>9. 戦間期 2</li> <li>10. 第二次世界大戦 1</li> <li>11. 第二次世界大戦 2</li> <li>12. 大戦後から現在へ 1</li> <li>13. 大戦後から現在へ 2</li> <li>14. まとめ 1</li> <li>15. まとめ 2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		授業内活動参加〈クイズ・提出物含む〉 40% 最終レポート 60%	

13年度以降 12年度以前	英語圏の社会・思想・歴史 b 英語圏の歴史 b	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期前半には近現代の日本に対して、資本導入、技術移転、学術指導、法制定等を通して多大な恩恵を及ぼした米・英を中心とするユダヤ系の働きかけについて学ぶ。ユダヤ人と日本人の著名人が力をあわせて偉業を成し遂げる心温まる good story を中心に授業は進められる。ユダヤ人史と日本史、異質な情報が交錯するスリリングなおもしろさに満ちていることを約束しよう。</p> <p>後半ではユダヤ系が超大国アメリカの地で、パワー・エリートに成りあがる以前、中世から近代の英国で負け犬として「下積み」をすごした時代を概観する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日露戦争の資金調達に協力した米英系ユダヤ人</li> <li>2. 日本人ビジネスマン、ユダヤ商人と出会う</li> <li>3. 「日系ユダヤ人」、ソニーの盛田昭夫</li> <li>4. 明治憲法の助言者、モッセ</li> <li>5. 亡命ユダヤ系音楽家の楽園、日本</li> <li>6. 服部良一を育てたユダヤの恩師</li> <li>7. P. エールリッヒと秦佐八郎の師弟コンビ</li> <li>8. ノーベル化学賞受賞日本人とユダヤの恩師</li> <li>9. 中世英国のユダヤ人金融</li> <li>10. 中世英国からのユダヤ人追放</li> <li>11. 隠れユダヤ教徒の足跡 1290～1656</li> <li>12. 千年王国とユダヤ人再入国</li> <li>13. 17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人</li> <li>14. 英国人地主貴族社会への同化現象</li> <li>15. 移民排斥と反ユダヤ暴動発生メカニズム</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>佐藤唯行『日本の恩人、ユダヤ人』（仮題）日新報道 15年9月刊行予定、1600円位 佐藤唯行著『英国ユダヤ人』（1995年 講談社選書）1600円</p>		20問12択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可	

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	佐藤 唯行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>混迷を深め、出口の見えないパレスチナ・イスラエルの紛争。</p> <p>公平な仲介者を演じられぬアメリカの国内事情を分析し、パレスチナ、イスラエル側の問題点も明らかにしてゆく。</p> <p>後半は、在米ユダヤ系の「下積み時代」における苦難の足跡を歴史的に学ぶ。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ政治とユダヤ人</li> <li>2. 移民・マイノリティの政党、民主党との同盟成立</li> <li>3. 在米イスラム教徒の政治力</li> <li>4. 共和党支持の中核、キリスト教福音派</li> <li>5. ヒスパニック社会に対する福音派の宣教活動</li> <li>6. キリスト教シオニストの圧力団体</li> <li>7. 親パレスチナに傾く主流派教会</li> <li>8. 2016年大統領選とエスニック・マイノリティー</li> <li>9. 欧州極右とユダヤ・ロビーの急接近</li> <li>10. 大都市移民ゲッターのエスニック・コンフリクト</li> <li>11. 自動車王ヘンリー・フォードの反ユダヤ・キャンペーン</li> <li>12. 甦る儀式殺人告発、20世紀アメリカで復活</li> <li>13. ヨーロッパ起源の反ユダヤ主義</li> <li>14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色</li> <li>15. アメリカ南部における反ユダヤ主義、レオ・フランク事件</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>佐藤唯行『アメリカがイスラエルを見捨てる日は来るのか』日新報道、1500円</p> <p>佐藤唯行著『アメリカのユダヤ人迫害史』(2000年 集英社新書) 740円</p>		<p>評価はクイズ形式による筆記試験(12択20問)によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。</p>	

09年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	P. ネルム
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>This course is intended as a comprehensive survey of American history and culture, introducing students to the diversity of this large country. Materials to be used in class include documentaries, movies, songs, TV programs, audio recordings, primary sources, and other historical materials. The language used for the lectures will be college-level English.</p> <p>This course will start out with an introduction to pre-European North America, followed by the period through independence, with an introduction to various colonial powers. After that, we will look at how the United States developed as a nation, with emphasis placed on different ethnic groups and cities across the land. Technological innovation played a big part in America's development, so that will also be introduced. Music from each period will also be presented so as to give students a more visceral feel of the changing and diverse culture of the United States through the times.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction, The First Americans</li> <li>2. Columbus and the Conquistadors</li> <li>3. The First British in America</li> <li>4. War and Independence</li> <li>5. Building a New Nation</li> <li>6. Civil War Splits the Country</li> <li>7. Trains Everywhere, Uniting the Coasts</li> <li>8. European Immigrants Pour In</li> <li>9. Agriculture: Amber Waves of Grain</li> <li>10. Industrialists, Inventors, Tycoons</li> <li>11. Black Culture in America</li> <li>12. Imperial World Capital</li> <li>13. Postwar Good Life &amp; The Sunbelt</li> <li>14. America the Beautiful</li> <li>15. Final Test (Essay)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>Materials will be handed out in class.</p>		<p>Class performance 20%, final project 30%, final test (essay) 50%. Tardiness over 30 minutes late will not be accepted. Three times tardy equals one absence.</p>	

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	児嶋 一男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>講義目的</b> アイルランドの文学と文化についての理解を図る。</p> <p><b>講義概要</b> アイルランドに視点を据えて、この島の歴史や文化を、できるだけ文学作品（主に現代演劇や映画）を基にして、時に DVD 資料を利用しながら、人間と宗教・人種・言葉・社会との関わりを考えていきます。</p> <p>イギリスからの視点一辺倒だったアイルランド観が変わると思います。</p> <p>各回の始めに語彙 quiz を、各回の終わりに内容把握の確認 quiz を行います。</p> <p>公欠扱いはありません。</p> <p>授業回数の3分の1以上を欠席した場合、単位を認めません。</p> <p><b>***注意事項***</b></p> <p>テキストにする英文は TOEIC650 点程度かそれ以上の英語力が前提です。650 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。</p>		<p>第1回：導入—アイルランド予備知識</p> <p>第2回：神話と Harry Potter</p> <p>第3回：ケルト人と人種のルーツ 遺跡紹介 DVD</p> <p>第4回：ケルト文化と Hallowe'en 紹介 DVD</p> <p>第5回：妖精伝説：現代怪談戯曲 <i>Shining City</i></p> <p>第6回：ケルトの祭：戯曲 <i>Dancing at Lughnasa</i></p> <p>第7回：キリスト教と聖パトリック</p> <p>第8回：イギリス支配への抵抗：映画 <i>The Hunger</i></p> <p>第9回：イギリスからの独立：映画『麦の穂を揺らす風』</p> <p>第10回：独立運動とテロ：映画『マイケル・コリンズ』</p> <p>第11回：争いと荒廃からの再生：戯曲 <i>Carthaginians</i></p> <p>第12回：サッカー&amp;ラグビー：戯曲 <i>The Man from Clare</i></p> <p>第13回：移民：映画 <i>JFK</i>、『ギャング・オブ・NY』</p> <p>第14回：移民：映画 <i>Kings</i> とミュージカル <i>Once</i></p> <p>第15回：まとめ—アイルランドの今</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
ハンドアウトを用意。参考文献は各回に紹介します。		毎回授業開始時に行う語彙 quiz で 50%、授業終了前の内容把握の確認 quiz で 50%。学期末の定期試験はしません。	

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	島田 啓一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p><i>Moby-Dick</i> (1851)で著名な19世紀アメリカ小説の巨匠 Herman Melville の短編(中編)小説“Bartleby, the Scrivener”を読み、彼の文学とそこから読み解かれるアメリカ文化の特質について考察します。</p> <p>講義概要</p> <p>代表作 <i>Moby-Dick</i> のエイハブ船長は白鯨・真理を超人的なまでに追求する生き方を選びますが、その対極にあるのが、Wall Street の弁護士事務所に職を求めて現れた物静かな青年写字者のバートルビーです。</p> <p>授業は、あらかじめ指示された範囲を予習してきて、輪読してもらい、講義形式だけではなく、質疑応答、希望者によるプレゼン形式などもとり入れる予定です。</p>		<p>1 : Herman Melville と“Bartleby, the Scrivener”について</p> <p>2-14 : “Bartleby, the Scrivener”を輪読してもらい、意見交換や討論をしたあと解説します。</p> <p>15 : まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Herman Melville, “Bartleby, the Scrivener” (1853)		不定期に課す課題、学期末の試験、および平常点(プレゼンや授業・討論への貢献度で、出席点ではない)	

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	原 成吉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的 アメリカ西海岸の文化的特徴を、自然環境・歴史・風土・社会といった文脈から考察する。</p> <p>講義概要 <i>Historic San Francisco</i> をテキストに、1950年代以降、サンフランシスコ・ベイ・エリアで書かれた詩やその場所を歌ったポピュラー・ミュージックを取り上げながら、環境問題、アメリカ先住民の文化、ビート、ポエトリー・リーディング、ベトナム戦争、ホモセクシュアリティ、ドラッグ、カウンターカルチャー、ロック・ミュージック、禅仏教などについて論じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. An Introduction</li> <li>2. What is San Francisco?</li> <li>3. What was Gold Rush?</li> <li>4. Counterculture &amp; Rock Music</li> <li>5. Zen Buddhism in the Bay Area Poets in San Francisco</li> <li>6. Kenneth Rexroth (1905-1982)</li> <li>7. Robert Duncan (1919-1988)</li> <li>8. Lawrence Ferlingetti (1919-)</li> <li>9. Jack Kerouac (1922-1969)</li> <li>10. Philip Whalen (1923-2002)</li> <li>11. Allen Ginsberg (1926-1997)</li> <li>12. Gary Snyder (1930-)</li> <li>13. Michael McClure(1932-)</li> <li>14. Robert Hass (1941-)</li> <li>15. Jane Hirshfield (1953-)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: Rand Richards. <i>Historic San Francisco: A Concise History and Guide</i>. San Francisco: Heritage House Pub., 2007. (ISBN: 978-1-879367-05-0) 「ぶっくぎゃらりい DUO」に発注済み。詩は担当者がプリントを用意します。</p>		<p>講義のトピックの中からテーマを選び、4,000 程度のレポート(原ゼミのHPの「MLA 論文の書き方」を参照)と授業への参加度によって決める。欠席が授業回数の 1/3 を超えた場合は、評価の対象としない。</p>	

09年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	前沢 浩子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>テーマ：ロンドン・オリンピック開会式を読み解く</p> <p>2012年夏のロンドン・オリンピックの開会式のテーマは”Isles of Wonder”と題されていた。Shakespeare の The Tempest から想を得たこの開会式には、Shakespeare 以来の様々なイギリス文化記号が組み合わされて利用されていた。</p> <p>それらの文化記号を読み解き、イギリスの文化遺産がいかに資産として再活用され続けているか、それら文化記号によってどのような矛盾が隠され、あるいは逆に露呈しているか、それらがイギリス内外でどのように評価されたかを考える。</p> <p>2013年にこの科目を履修した人は重複履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction: Caliban and Danny Boyle</li> <li>2. Green and Pleasant Land: UK and GB</li> <li>3. Pandemonium: Industrial Revolution and the British Empire</li> <li>4. Happy and Glorious: God Save the Queen</li> <li>5. Neverland: National Health Service</li> <li>6. GOSH and British children’s literature</li> <li>7. Chariots of Fire: Heritage Films</li> <li>8. British youth culture</li> <li>9. WWI and Cool Britannia</li> <li>10. BBB: Bond, Beckham, Beatles</li> <li>11. 2005 London Bombing</li> <li>12. “Multicultural crap”?</li> <li>13. Review (1)</li> <li>14. Review (2)</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業内でプリントを配布する。		授業中に書いてもらうコメントと学期末試験によって評価する。	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナーa 英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	田村 斉敏
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、20世紀の詩人、とりわけWilliam Butler Yeats, W. H. Auden, Robert Gravesらを中心に、彼らの比較的短い、しかし難解ともいえる作品を取り上げて、精読することをめざします。</p> <p>英語に自信があり、また小説なら読んだことがあるという方でも、普段詩を読み慣れていない場合、ただでさえ詩は難しいと感じられることでしょう。しかしあえてこの授業では難解さに力点をおいて、これに「立ち向かっていく」つもりで詩を自分の手で深く読んでいく作業をいっしょにしていきたいと思っています。</p> <p>もちろん自力に頼るだけでは一面的になりやすいですから、並行してそれぞれの作品の同時代の読み方、あるいは現代の論文の一部を読んでいくことで自分だけでは気がつかない読み方に触れる機会を設けます。</p> <p>毎回、発表者はハンドアウトを用意していただきます。発表者以外もコメントや発言をもとめますので、積極的かつ精力的に参加してくださる方を待っています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インTRODakション</li> <li>2. D. H. Lawrence 等</li> <li>3. D. H. Lawrence 等</li> <li>4. D. H. Lawrence 等</li> <li>5. William Butler Yeats 等</li> <li>6. William Butler Yeats 等</li> <li>7. William Butler Yeats 等</li> <li>8. W. H. Auden 等</li> <li>9. W. H. Auden 等</li> <li>10. W. H. Auden 等</li> <li>11. Robert Graves 等</li> <li>12. Robert Graves 等</li> <li>13. Robert Graves 等</li> <li>14. まとめ1</li> <li>15. まとめ2</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		授業内活動参加 50% クイズ・提出物 20% 最終レポート 30%	

13年度以降 12年度以前	英語圏の文学・文化文献セミナーb 英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	島田 啓一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b></p> <p>英語圏の文学・文化に関するポスト構造主義の批評文献を読み、近年の批評理論についての理解を深めます。</p> <p><b>講義概要</b></p> <p>授業はあらかじめ配布したプリントを予習してきてもらい、毎回順番に文献を輪読してもらい、不明な点があれば、解説します。希望があれば、希望者によるプレゼン形式などもとり入れる予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1：はじめに：授業の進め方と構造主義以降の批評理論の紹介</li> <li>2-14：文献の輪読と解説</li> <li>15：まとめ：</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：プリントを配布します。</p> <p>参考文献：随時紹介します。</p>		不定期に課すかもしれない課題、学期末の試験、および平常点（輪読、プレゼンの質や授業・討論への貢献度で、出席点ではない）	



09年度以降	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	町田 喜義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>・「よき日本人こそ真の世界人」：これは1968年3月、第一回卒業式の式辞の中で天野貞祐学長が言われたことばである。当時は「異文化コミュニケーション」という概念はなかったが、現代社会の人々のありようを考えると正鵠を射ている、と思う。</p> <p>・そこで「コミュニケーション」という視点から日本文化・社会の幾つかの側面を学習しよう。</p> <p>・講義内容に関連して客員講義も予定する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション序章</li> <li>2. 言語とコミュニケーション</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. 同上④</li> <li>6. ビジネスとコミュニケーション</li> <li>7. 同上②</li> <li>8. 同上③</li> <li>9. 同上④</li> <li>10. 同上⑤</li> <li>11. 同上⑥</li> <li>12. 歴史とコミュニケーション</li> <li>13. 同上②</li> <li>14. 同上③</li> <li>15. 同上④および終章</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・テキスト：Ota, N(1995)“Cross-Cultural Communication Through Japanese”より抜粋／参考文献；石井敏ほか(2013)『はじめて学ぶ 異文化コミュニケーション』有斐閣ほか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループレポート：30%</li> <li>・課題読書レポート：30%</li> <li>・定期試験：40%</li> </ul>	

09年度以降	異文化間コミュニケーション論 a	担当者	町田 喜義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>・春学期とほぼ同じ</p>		<p>・春学期とほぼ同じ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・同上</p>		<p>・同上</p>	

09年度以降	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、文化研究 (cultural studies) の立場から、異文化コミュニケーションに関する諸問題への知的関心を高めることを主目的とします。受講生は、この目的を念頭に置きながら、講義・テキストを理解し、さらにグループ・ワークなどを通じて、関連する実例の分析や解釈を行います。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック (小テスト) を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 1 : 授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要 2 : 研究チームの編成</li> <li>3. グローバル社会と異文化コミュニケーション (1章)</li> <li>4. 文化 (2章)</li> <li>5. コミュニケーション (3章)</li> <li>6. 言語 (4章)</li> <li>7. 非言語 (5章)</li> <li>8. 時間・空間 (6章)</li> <li>9. 異文化接触 (7章)</li> <li>10. 異空間としてのメディア (8章)</li> <li>11. メディアと文化 (9章)</li> <li>12. 文化のポリティクス (10章)</li> <li>13. グローバリゼーションの行方 (11章)</li> <li>14. グループ・カウンセリング</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>(研究班数等の事情により変更の可能性もあります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: 池田編『よくわかる異文化コミュニケーション』(ミネルヴァ書房、2010)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>①研究発表 (準備・発表・評価: 90%)</li> <li>②小テスト=研究発表の資格審査 (10%)</li> </ol>	

09年度以降	異文化間コミュニケーション論 b	担当者	板場 良久
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、文化研究 (cultural studies) の立場から、異文化コミュニケーションに関する諸問題への知的関心を高めることを主目的とします。受講生は、この目的を念頭に置きながら、講義・テキストを理解し、さらにグループ・ワークなどを通じて、関連する実例の分析や解釈を行います。</p> <p>使用テキストの目次と授業計画の講義題目が対応しています。該当する章を予めよく読んでから各講義に出席するようにしてください。</p> <p>講義はテキストの内容に基づいたものを中心とし、テキストそのものを反復することはいたしません。</p> <p>学期末の研究発表の前に、テキストや講義内容の理解度チェック (小テスト) を行います。これで一定以上の成績を収めない受講生は研究発表を行う資格が剥奪され、自動的に単位の取得が不可能となります。</p> <p>なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要 1 : 授業方針と注意事項</li> <li>2. 講義概要 2 : 研究チームの編成</li> <li>3. グローバル社会と異文化コミュニケーション (1章)</li> <li>4. 文化 (2章)</li> <li>5. コミュニケーション (3章)</li> <li>6. 言語 (4章)</li> <li>7. 非言語 (5章)</li> <li>8. 時間・空間 (6章)</li> <li>9. 異文化接触 (7章)</li> <li>10. 異空間としてのメディア (8章)</li> <li>11. メディアと文化 (9章)</li> <li>12. 文化のポリティクス (10章)</li> <li>13. グローバリゼーションの行方 (11章)</li> <li>14. グループ・カウンセリング</li> <li>15. 研究発表</li> </ol> <p>(研究班数等の事情により変更の可能性もあります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト: 池田編『よくわかる異文化コミュニケーション』(ミネルヴァ書房、2010)</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>①研究発表 (準備・発表・評価: 90%)</li> <li>②小テスト=研究発表の資格審査 (10%)</li> </ol>	

09年度以降	メディア・コミュニケーション論 a	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現から複雑なテクノメディアに至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それを媒介するメディアなしに文化的活動を営むことはできない。</p> <p>本講義では、わたしたち人間にとって重要な意味をもつ「メディア・コミュニケーション」の本質に迫るために、コミュニケーション研究やメディア論における基本的な考え方を、現代社会にあふれる豊富な具体例とともに解説してゆく。さらにそのうえで「空間とメディア」の諸相に目を向け、「ゆるキャラ」「Googleストリートビュー」「東京ディズニーランド」等を題材としてとりあげながら、わたしたちをとりまく記号世界、あるいはメディア環境の組成を分析的に把握するためのリテラシー獲得を目指すことになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス——本講義をつうじて学んでほしいこと</li> <li>2 ポストモダンの状況における文化の島宇宙化①</li> <li>3 ポストモダンの状況における文化の島宇宙化②</li> <li>4 メディアの媒介作用と延長作用①</li> <li>5 メディアの媒介作用と延長作用②</li> <li>6 ポスト・ヒューマンの肖像①</li> <li>7 ポスト・ヒューマンの肖像②</li> <li>8 ポスト・ヒューマンの肖像③</li> <li>9 メディア・テクノロジーが陶冶する想像力の現在</li> <li>10 情報と空間——タイムラインを考える</li> <li>11 GSVにおける写真的現実の歪み</li> <li>12 現代における地域イメージの諸相</li> <li>13 テーマパークと想像力</li> <li>14 震災とメディア——東日本大震災直後におけるメディア生態系</li> <li>15 期末試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
遠藤英樹・松本健太郎編 『空間とメディア——場所の記憶・移動・リアリティ』（ナカニシヤ出版、2015年）		平常点 50%、 期末試験 50%	

09年度以降	メディア・コミュニケーション論 b	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では記号論における基礎的な考え方を、わたしたちの身近にある様々な事例とともに解説していく。それによってホモ・シグニフィカンス (homo significans) とも称される人間の固有性や、人間の記号活動の集積として構築されるコミュニケーション文化の組成を理解していくことが本講義の目的となる。</p> <p>本講義では、その中心的な主題としてロラン・バルトの記号論をとりあげ、その現代的な意義を考えていくことを目指すことになる。まずはフェルディナン・ド・ソシュールの言語論を理解することを出発点として、その思想を発展させたバルトの記号観を複数のトピック——「ステレオタイプと神話」「言語記号と映像記号」「バルトの写真論と日本論の共通点」「言語活動の外部へ」「記号とメディアの間隙」——に即して詳細に紹介していく。さらに丸山圭三郎の記号論的な人間観をわかりやすく解説し、そのうえで映画『インド夜想曲』を記号論的な視点から鑑賞・分析していく。また現代的な記号世界の特徴を反映するものとしてテレビゲームをとりあげ、記号論的な視点の重要性を再考することになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス——記号論の成り立ち</li> <li>2 ソシュールの言語観①</li> <li>3 ソシュールの言語観②</li> <li>4 バルトの記号観①——ステレオタイプと神話</li> <li>5 バルトの記号観②——言語記号と映像記号</li> <li>6 バルトの記号観③——その写真論と日本論の共通点</li> <li>7 バルトの記号観④——言語活動の外部へ</li> <li>8 バルトの記号観⑤——記号とメディアの間隙</li> <li>9 丸山圭三郎の人間観——その言語哲学の可能性</li> <li>10 反映画としての『インド夜想曲』①</li> <li>11 反映画としての『インド夜想曲』②</li> <li>12 テレビゲームの記号論①——シミュレーション</li> <li>13 テレビゲームの記号論②——「私」の組成</li> <li>14 テレビゲームの記号論③——死の表象を読む</li> <li>15 期末試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
松本健太郎 『ロラン・バルトにとって写真とは何か』（ナカニシヤ出版、2014年）		平常点 50%、 期末試験 50%	

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 現代のコミュニケーション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テキストを解説することを学ぶ。</p> <p><b>講義概要</b> 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーション学の問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、〈今〉に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。</p>		<p>1 オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点</p> <p>2 時計時間の支配</p> <p>3 空間と権力</p> <p>4 アイデンティティの問い</p> <p>5 レトリックと権力</p> <p>6 レトリックと権力</p> <p>7 家庭内コミュニケーション</p> <p>8 ジェンダーとコミュニケーション</p> <p>9 ジェンダーとコミュニケーション</p> <p>10 テクノロジーとコミュニケーション</p> <p>11 テクノロジーとコミュニケーション</p> <p>12 メディアのレトリック</p> <p>13 多文化主義とコミュニケーション</p> <p>14 多文化主義とコミュニケーション</p> <p>15 グローバル化と日本社会／総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.		定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。	

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解し、それを批判的に実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の2点である。第1に口承、文字、さらには電子メディアに媒介された表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第2にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。</p> <p><b>講義概要</b> 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、20世紀以降のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。</p>		<p>1 オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>2 フェルディナン・ド・ソシュールと記号論</p> <p>3 ハイデガーと存在論</p> <p>4 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L.オースティンと発話行為理論</p> <p>5 ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L.オースティンと発話行為理論</p> <p>6 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク</p> <p>7 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク</p> <p>8 精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク</p> <p>9 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>10 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>11 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>12 ミシェル・フーコーと表象</p> <p>13 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>14 エドワード・サイードとオリエンタリズム</p> <p>15 スチュアート・ホールと文化研究</p>	
<b>参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
立川健二・山田広昭『現代言語論――ソシュール フロイト ウィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論――テキスト・読み・世界』新曜社		定期試験又はレポート及び不定期に課すクイズ等による総合評価。	

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>コミュニケーションとは、「はなし」に限定されるものではないし、スピーチ(発話)は「ことば」に限定されるわけでもない。本授業では、様々なメッセージを「スピーチ」とみなし、様々な社会事象をコミュニケーションとしてとらえることで、現代を生きる我々がいかに関係や意味の産出に関わっている・いけるのか講義していく。</p> <p>春学期は&lt;する・おこる&gt;、&lt;対称性&gt;、&lt;記号の均質性&gt;、&lt;時間&gt;、&lt;主体&gt;などのキーワードを足がかりとして、様々な事象(新聞、雑誌、漫画、小説、映画)の検討をおこなう。</p> <p>授業参加のために事前に課題の読書をすませ、考えてくるとともに、遅刻・早退をせず、授業内での話し合いに積極的に関わることが必要となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業概要の説明</li> <li>2 コミュニケーションとは?スピーチとは?</li> <li>3 コミュニケーションと認識</li> <li>4 モノと発生するコミュニケーション</li> <li>5 語らない語りとコミュニケーション</li> <li>6 CM、欲望とコミュニケーション</li> <li>7 階級、共通記号とコミュニケーション</li> <li>8 教室とコミュニケーション</li> <li>9 音楽、文化伝搬とコミュニケーション</li> <li>10 笑いコミュニケーション</li> <li>11 物語とコミュニケーション</li> <li>12 ナショナルリズムとコミュニケーション</li> <li>13 歴史とコミュニケーション</li> <li>14 歴史とコミュニケーション</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
石田英敬 『現代思想の教科書』		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	

09年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	小西 卓三
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の「スピーチ・コミュニケーション論 a」をふまえ、比較的理論的な考察をおこなう。</p> <p>まずは、スピーチ・コミュニケーションにとって重要となる、「記号・象徴・表象・言説・シンボル・サイン」といったことばで語られる概念を、記号論、レトリック論の研究者がどのように捉えてきたのかを検討し、これらの概念を提唱する諸理論家の考えによってどのような研究が可能になるのか考察する。</p> <p>これらの記号に関する諸概念を検討した後、ハーバマスに端を発する公共圏に関する理論を踏まえ、公共圏の構築、そこからの排除に関連する諸理論を扱う。</p> <p>授業参加のために事前に課題の読書をすませ、考えてくるとともに、遅刻・早退をせず、授業内での話し合いに積極的に関わることが必要となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業概要の説明</li> <li>2 記号論: ソシュールとバルト</li> <li>3 記号論: パース</li> <li>4 レトリック論: ケネス・バーク</li> <li>5 レトリック論: ケネス・バーク</li> <li>6 公共圏とコミュニケーション: ハーバマス</li> <li>7 輿論と世論</li> <li>8 対抗的下位の公共圏とコミュニケーション: フレイザー</li> <li>9 終戦記念日をめぐる言説</li> <li>10 権力・主体とコミュニケーション: フーコー</li> <li>11 社会とコミュニケーション: ブルデュー</li> <li>12 オリエンタリズム: サイド</li> <li>13 オリエンタリズム: サイド</li> <li>14 日本とオリエンタリズム</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
石田英敬 『現代思想の教科書』		授業参加、試験またはレポートによる総合評価。	

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(視覚文化論へのアプローチ)</p> <p>我々を取り巻く現代の世界は、テレビや映画を始め、写真や広告映像等の視覚的なコミュニケーションで溢れている。本講義は、視覚コミュニケーションを理解し分析するのに必要な歴史と多用なアプローチを可能とさせる視覚文化論の知を学ぶことを目的としている。</p> <p>1980年代に米国で台頭した視覚文化論は、絵画芸術を中核とする美術(史)の分野に加えて、メディア論やコミュニケーション論、比較文学等の隣接領域を包みつつ、表象の視覚的・文化的次元を扱う新たな領域として認知されている。現在、視覚文化論はアメリカのコミュニケーション学でも最も注目される分野の一つであり、その諸相を扱っていく。</p> <p>春学期の講義では、視覚文化論が射程とする様々な理論的なトピックを取り上げ、絵画を中心に、写真、映画、空間、建築等の視覚性を検討していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 視覚文化論とは</li> <li>3. 言葉とイメージ (1)</li> <li>4. 言葉とイメージ (2)</li> <li>5. 視覚の歴史の変容 (1)</li> <li>6. 視覚の歴史の変容 (2)</li> <li>7. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制力への批判 (1)</li> <li>8. 視の制度 (scopic regime) と視覚の専制力への批判 (2)</li> <li>9. 眼差しと視線 (1)</li> <li>10. 眼差しと視線 (2)</li> <li>11. 視覚技術と身体 (1)</li> <li>12. 視覚技術と身体 (2)</li> <li>13. イメージのレトリック (1)</li> <li>14. イメージのレトリック (2)</li> <li>15. 前期の総括</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中で適宜紹介する。		定期試験又はレポートによって評価する。	

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(騙し絵の視覚レトリック)</p> <p>本講義は春学期の「コミュニケーション論 特殊講義a」と連続をなすものである。</p> <p>春学期に、視覚文化論のアプローチを理解するための理論と歴史を学習したことを踏まえて、秋学期ではその内容を前提としながら、その対象をルネッサンス以降の西洋絵画に絞り、視覚レトリックが前景化される騙し絵の視覚性を歴史的・文化的に考察していく。</p> <p>遠近法箱 (perspective box) や製図法、印刷技術、鏡、カメラ・オブスクラ等、様々な技術との関わりの中で変容する絵画の視覚性を歴史的に辿りつつ、視ることの自明性を視覚レトリックと騙し絵の問題として問い直していく。視覚の歴史の変容の際に生産される知が立ち上がる様相にも着目してみたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 騙し絵の系譜：もう1つの美術史</li> <li>2. 視覚技術としての遠近法 (透視画法) と古典主義時代の視覚</li> <li>3. 美術史のバロック問題：ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ (1)</li> <li>4. 美術史のバロック問題：ルネッサンスからマニエリズム、そしてバロックへ (2)</li> <li>5. テ宮殿：騙し絵の館</li> <li>6. ベラスケス：古典主義時代 (17-18世紀) の表象関係</li> <li>7. ニセロン：アナモルフォーズ画とバロック (1)</li> <li>8. ニセロン：アナモルフォーズ画とバロック (2)</li> <li>9. フェルメール、ファブリティウス：北方ルネッサンスと描写術 (幾何学の空間と二点・三点遠近法) (1)</li> <li>10. フェルメール、ファブリティウス：北方ルネッサンスと描写術 (幾何学の空間と二点・三点遠近法) (2)</li> <li>11. ホーホストラテン：遠近法箱と驚異の部屋 (ヴンダーカマー) (1)</li> <li>12. ホーホストラテン：遠近法箱と驚異の部屋 (ヴンダーカマー) (2)</li> <li>13. ヘイスブレヒツ：騙し絵 (トロンプレイユ) のレトリック (1)</li> <li>14. ヘイスブレヒツ：騙し絵 (トロンプレイユ) のレトリック (2)</li> <li>15. ムンク：映像と精神分析の視覚空間</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業の中で適宜紹介する。		定期試験又はレポートによって評価する。	

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	町田 喜義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>・日本と韓国の文化比較に焦点を当てる：ある意味では文献講読のような内容であるから、日韓関係に関心があることが望ましい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓比較序章</li> <li>2. おいしく召し上がってください</li> <li>3. どうしてボーイフレンドがないんですか</li> <li>4. 泣く子に乳をやる</li> <li>5. 社長様はいらっしゃいません</li> <li>6. お膳の足が折れるまで</li> <li>7. 母はもっと若く見えるんですよ</li> <li>8. 「君」と&lt;クン&gt;</li> <li>9. 似ていて違う日本語と韓国語</li> <li>10. 韓国人が抱く日本語のイメージ</li> <li>11. 日韓の自国語・外来語意識</li> <li>12. 日韓の敬語意識の違い</li> <li>13. ことばの乱れ意識の違い</li> <li>14. 日韓の姓名比較</li> <li>15. 終章（まとめ）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・任 栄哲・井出里咲子(2004)『箸とチョッカラック』大修館書店(¥1,800)</p> <p>・関連文献はその都度紹介する</p>		<p>・小レポート：20%</p> <p>・読書レポート：30%</p> <p>・学期末試験：50%</p>	

09年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	町田 喜義
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>・春学期とは内容を変えて、&lt;ハムレット&gt;と&lt;忠臣蔵&gt;の比較に焦点を当てる。日本の社会的・文化的事象を再確認する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要説明：比較序章</li> <li>2. コミュニケーション・モデル再検討</li> <li>3. 同上②</li> <li>4. 同上③</li> <li>5. ドラマ&lt;ハムレット&gt;</li> <li>6. 同上②</li> <li>7. ドラマ&lt;忠臣蔵&gt;</li> <li>8. 同上②</li> <li>9. 同上③</li> <li>10. 同上④</li> <li>11. グループ・プレゼンテーション</li> <li>12. 同上②</li> <li>13. 同上③</li> <li>14. 同上④</li> <li>15. 終章（まとめ）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>・課題文献を指示する</p> <p>・関連文献はその都度紹介する</p>		<p>・グループ・プレゼンテーション：40%</p> <p>・学期末レポート：60%</p> <p>・受講生数によって変更する</p>	

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーa コミュニケーション論文献研究 a	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディア考古学は、過去のメディアを再考してことで、現代の新しいメディアに対する理解を深める試みである。本講義では、メディア考古学の第一人者、エルキ・フータモのメディア考古学を理解するために、その代表的な論文集である『メディア考古学——過去・現在・未来の対話のために』をテキストとして選定する。</p> <p>本講義では、まずメディア考古学について講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p> <p>なお、本講義では、フータモの英語文献についても紹介していく予定である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定</li> <li>2 メディア考古学について【講義】</li> <li>3 メディア考古学について【講義】</li> <li>4 テキストを読む【講読】</li> <li>5 テキストを読む【講読】</li> <li>6 テキストを読む【講読】</li> <li>7 テキストを読む【講読】</li> <li>8 テキストを読む【講読】</li> <li>9 テキストを読む【講読】</li> <li>10 研究発表</li> <li>11 研究発表</li> <li>12 研究発表</li> <li>13 研究発表</li> <li>14 研究発表</li> <li>15 研究発表</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
エルキ・フータモ『メディア考古学——過去・現在・未来の対話のために』（太田純貴訳 NTT出版 2015年）		平常点 40%、 プレゼンテーション 30% レポート 30%	

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーb コミュニケーション論文献研究 b	担当者	松本 健太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義ではソーシャル以来の記号学と、マクルーハン以来のメディア論それぞれにひそむ理論的バイアス（とくに前者にみとめられる言語中心主義、および後者にみとめられるテクノロジー決定論）を踏まえながら、同時に、それら双方の理論的視座の架橋を企図しながら、今日における「記号の作用」と「メディアの作用」の錯綜した関係性に目をむけていく。</p> <p>本講義では、まず上記のテーマに即して講義形式での解説を加えたうえで、グループごとにテキストに関するレジュメ発表をおこなってもらう。さらに学期の後半には、それまでのレジュメ発表をつうじて学習したことをもとに、グループごとに研究発表をおこなってもらう予定である（その形式面を含めた詳細に関しては初回授業時に指示する）。</p> <p>本講義では、記号とメディアの現代的な関係性を理解するにふさわしい文献を選定する予定であるが、その詳細に関しては（関連する英語文献も含めて）初回の授業時に指示することになる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明、プレゼンテーション担当者決定</li> <li>2 記号とメディアの間隙を考える【講義】</li> <li>3 記号とメディアの間隙を考える【講義】</li> <li>4 テキストを読む【講読】</li> <li>5 テキストを読む【講読】</li> <li>6 テキストを読む【講読】</li> <li>7 テキストを読む【講読】</li> <li>8 テキストを読む【講読】</li> <li>9 テキストを読む【講読】</li> <li>10 研究発表</li> <li>11 研究発表</li> <li>12 研究発表</li> <li>13 研究発表</li> <li>14 研究発表</li> <li>15 研究発表</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストに関しては初回授業時に指示する。		平常点 40%、 プレゼンテーション 30% レポート 30%	



13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーa コミュニケーション論文献研究 a	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1980年代に米国で台頭した視覚文化論はコミュニケーション学でも最も注目される分野の一つである。視覚文化論では、絵画芸術を対象とする美術（史）を中核として、〈見る〉ことを批判する様々な視座を美術理論として提供する。本講義では、視覚文化論で重要な歴史的アプローチから理論的文献まで、様々なエッセーを読んでいく。アートという概念は必ずしも絵画芸術に限定されるのではない。むしろ、古代ギリシア時代から西洋の中で育まれる芸術概念を抽出するのに重要となる表象やイメージとは何かを批判的に考察する為の諸視点を理解することが主要な目的となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation (履修者は必ず出席すること)</li> <li>2. Introduction: Alberti and the Formation of Modern Art Theory (Carolyn Wilde)</li> <li>3. The Classical Concept of Mimesis (Göran Sörbom)</li> <li>4. Rhetorical Categories in the Academy (Caroline van Eck)</li> <li>5. Marcel Duchamp's Readymades and Anti-Aesthetic Reflex (David Hopkins)</li> <li>6. Barthes on Art (Margaret Iversen)</li> <li>7. Foucault and Art (Roy Boyne)</li> <li>8. Derrida and the Parergon (Robin Murriner)</li> <li>9. What Consciousness Forgets: Lyotard's Concept of the Sublime (Renée van de Vall)</li> <li>10. Deleuze on Francis Bacon (Ian Heywood)</li> <li>11. Gombrich and Psychology (Richard Woodfield)</li> <li>12. Hermeneutics and Art Theory (Nicholas Davey)</li> <li>13. The Paradox of Creative Interpretation in Art (Carl Hausman)</li> <li>14. Interdisciplinarity and Visual Culture (Charlotte Klonk)</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>以下の教科書は講義で配布する。  <i>A Companion to Art Theory</i> Edited by Paul Smith and Carolyn Wilde (Oxford: Blackwell, 2002)</p>		<p>定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。</p>	

13年度以降 12年度以前	コミュニケーション論文献セミナーb コミュニケーション論文献研究 b	担当者	柿田 秀樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イメージが氾濫する現代において、〈見る〉とは何かを考察した視覚文化論の古典、ハル・フォスター編集の <i>Vision and Visuality</i> を題材として、視覚とは何かを考えていく。</p> <p>フォスターが編集した <i>Vision and Visuality</i> は、現在アメリカを中心に開花した視覚文化論の嚆矢として、今でも常に参照され、この主題の研究には必須の文献である。視覚文化論は、美術史の大きな流れを踏まえつつ、何かが〈見える〉とはどのようなことかを再考させる批判的な題材を提供する。</p> <p>個別の章は〈見る〉ことの中に隠された遠近法やジェンダー等が無意識に条件付ける文化的価値観を、視覚的題材に読むことでえぐり出す。その読みを丹念に踏まえることで、いかにイメージが見られるのかを理解することが可能となる。</p> <p>イメージの批評的な分析と考察を深めていく本講義では、以下の3点が探求の目的となる。1) 現代のイメージと絵画との歴史的な関係を踏まえること、2) 視覚文化批評とは何かを理解すること、3) イメージの批判的コミュニケーション論としての視覚レトリック論とは何かを理解すること。これら3点について、その批判的意義を探っていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Course Orientation (履修者は必ず出席すること)</li> <li>2. <i>Vision and Visuality</i> ("Preface")</li> <li>3. <i>Vision and Visuality</i> ("Scopic Regimes of Modernity")</li> <li>4. <i>Vision and Visuality</i> ("Scopic Regimes of Modernity")</li> <li>5. <i>Vision and Visuality</i> ("Modernizing Vision")</li> <li>6. <i>Vision and Visuality</i> ("Modernizing Vision")</li> <li>7. <i>Vision and Visuality</i> ("The Im/Pulse to See")</li> <li>8. <i>Vision and Visuality</i> ("The Im/Pulse to See")</li> <li>9. <i>Vision and Visuality</i> ("General Discussion")</li> <li>10. <i>Vision and Visuality</i> ("The Gaze in the Expanded Field")</li> <li>11. <i>Vision and Visuality</i> ("The Gaze in the Expanded Field")</li> <li>12. <i>Vision and Visuality</i> ("Sexuality and Vision: Some Questions")</li> <li>13. <i>Vision and Visuality</i> ("Sexuality and Vision: Some Questions")</li> <li>14. <i>Vision and Visuality</i> ("General Discussion")</li> <li>15. Wrap up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p><i>Vision and Visuality</i>. ed. Hal Foster. Seattle: Bay Press, 1988.</p>		<p>定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）等から総合的に評価する。</p>	

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イギリスのスパイ映画「007」シリーズを鑑賞しながら、映画に登場する世界の主要都市、そして当時の国際関係を解説します。</p> <p>例えばスパイ映画「スカイフォール」では、英国ロンドンを舞台に、情報機関のコンピューター・システムに侵入し、国家機密を暴露するハッカーと戦うスパイ「ジェームズ・ボンド」(ID番号が007)が描かれています。国家機密を暴露する事件は米国で発生しており、世界が直面している現実です。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇るブランド品も登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 スパイ映画「007」から見る世界 最新作「スカイフォール」鑑賞と解説</li> <li>2 同上</li> <li>3 同上</li> <li>4 スパイ映画「007」—1990年代の世界</li> <li>5 同上</li> <li>6 スパイ映画「007」—1980年代の世界</li> <li>7 同上</li> <li>8 原作者イアン・フレミングの世界</li> <li>9 スパイ映画「007」—1970年代の世界</li> <li>10 同上</li> <li>11 スパイ映画「007」—1960年代の世界</li> <li>12 同上</li> <li>13 同上</li> <li>14 ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」 鑑賞と解説</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	グローバル社会論 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イギリスのスパイ映画「007」シリーズを鑑賞しながら、映画に登場する世界の主要都市、そして当時の国際関係を解説します。</p> <p>例えばスパイ映画「スカイフォール」では、英国ロンドンを舞台に、情報機関のコンピューター・システムに侵入し、国家機密を暴露するハッカーと戦うスパイ「ジェームズ・ボンド」(ID番号が007)が描かれています。国家機密を暴露する事件は米国で発生しており、世界が直面している現実です。</p> <p>スパイ映画「007」シリーズは、1960年代初めにリリースされて以来、「いま」にいたる50年間を時代ごとに描いており、国際関係を学ぶ格好の材料です。</p> <p>映画の中では、イギリスが世界に誇るブランド品も登場します。ブランド品にも注目して、解説を行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 スパイ映画「007」から見る世界 最新作「スカイフォール」鑑賞と解説</li> <li>2 ミュージカル映画「チキ・チキ・バン・バン」 鑑賞と解説</li> <li>3 スパイ映画「007」から見る世界 最新作「スカイフォール」鑑賞と解説</li> <li>4 同上</li> <li>5 スパイ映画「007」—1990年代の世界</li> <li>6 同上</li> <li>7 スパイ映画「007」—1980年代の世界</li> <li>8 同上</li> <li>9 原作者イアン・フレミングの世界</li> <li>10 スパイ映画「007」—1970年代の世界</li> <li>11 同上</li> <li>12 スパイ映画「007」—1960年代の世界</li> <li>13 同上</li> <li>14 同上</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『グローバル社会論資料集』		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。</p> <p>なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 行為主体 (1) 主権国家、主権国家体系</li> <li>3 行為主体 (2) 国際組織 (国際連合を中心に)</li> <li>4 行為主体 (3) NGO、多国籍企業</li> <li>5 地域主義・地域協力 (1) ヨーロッパ統合の歩み</li> <li>6 地域主義・地域協力 (2) アジアの統合は可能か？</li> <li>7 戦争と平和 (1) 戦争、勢力均衡、同盟</li> <li>8 戦争と平和 (2) レジーム、制度、規範</li> <li>9 戦争と平和 (3) 予防外交、人道的介入、平和維持・構築</li> <li>10 人間の安全保障</li> <li>11 グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想</li> <li>12 グローバル・イシューズ (1) 貧困</li> <li>13 グローバル・イシューズ (2) 地球環境問題</li> <li>14 グローバル・イシューズ (3) 人権、民主化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献リストを配布する。		平常点 (20%)、試験 (80%)	

09年度以降	グローバル社会論 b	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義は、国際関係論の基礎的な概念・分析枠組みの習得を目的とする。グローバル化の時代にあつて、我々が見聞きする国際情勢は複雑化の一途をたどっている。現在の国際社会の動きを理解するためには、何に注目すればよいのか？本講義では、国際関係論の基礎的な概念を紹介し、受講生が各自グローバル社会を分析する視点、論理的な分析方法を習得できるように努める。</p> <p>なお、本講義では、毎週冒頭に、「今週のグローバル・イシューズ」と題して時事問題の解説を行い、受講生の現状問題に対する関心をも喚起したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 行為主体 (1) 主権国家、主権国家体系</li> <li>3 行為主体 (2) 国際組織 (国際連合を中心に)</li> <li>4 行為主体 (3) NGO、多国籍企業</li> <li>5 地域主義・地域協力 (1) ヨーロッパ統合の歩み</li> <li>6 地域主義・地域協力 (2) アジアの統合は可能か？</li> <li>7 戦争と平和 (1) 戦争、勢力均衡、同盟</li> <li>8 戦争と平和 (2) レジーム、制度、規範</li> <li>9 戦争と平和 (3) 予防外交、人道的介入、平和維持・構築</li> <li>10 人間の安全保障</li> <li>11 グローバリゼーション：国境を超える人、モノ、カネ、情報、思想</li> <li>12 グローバル・イシューズ (1) 貧困</li> <li>13 グローバル・イシューズ (2) 地球環境問題</li> <li>14 グローバル・イシューズ (3) 人権、民主化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献リストを配布する。		平常点 (20%)、試験 (80%)	

09年度以降	英語圏の国際関係 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の目的は、オーストラリアの歴史をイギリスの植民地時代から第二次世界大戦終結まで振り返り、現代オーストラリア理解の一助とすることである。</p> <p>多くの日本人が観光客、留学生として訪問し、また経済的にも日本と繋がりが深い国でありながら、これまでオーストラリアがどのような歴史をたどってきたのかを知る者はおどろくほど少ない。また知りたいと思っても、日本では文献がそもそも少なく、オーストラリアを知る機会はおのずと限られてしまっている。</p> <p>そこで本講義では、イギリス人が18世紀後半に入植してから6つの植民地がそれぞれ発展を遂げ、それが1901年にオーストラリア連邦として独立し、そして20世紀前半の二つの世界大戦を経験するまでの、オーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国、英連邦）やアメリカ、アジア地域（日本や中国、東南アジア）との関係性の中で振り返って行く。</p> <p>本講義ではアウトラインを提示したレジメを配付する。なお2回程度、理解度確認テストを実施する予定。</p>		<p>第1回：イントロダクション～オーストラリアを学ぶ意義</p> <p>第2回：植民地オーストラリア①～植民地の誕生</p> <p>第3回：植民地オーストラリア②～植民地の発展</p> <p>第4回：大英帝国・英連邦とオーストラリア① ～英帝国の起源とその発展</p> <p>第5回：大英帝国・英連邦とオーストラリア② ～英帝国から英連邦、コモンウェルスへ</p> <p>第6回：ゴールドラッシュと白豪主義政策</p> <p>第7回：多文化主義社会オーストラリア</p> <p>第8回：講義前半の総括と質疑応答</p> <p>第9回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～「二つのナショナリズム」</p> <p>第10回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とアンザック精神</p> <p>第11回：20世紀初頭の戦争とオーストラリア ～第一次世界大戦とオーストラリア国内社会</p> <p>第12回：第二次世界大戦～アジア国際関係と黄禍論</p> <p>第13回：2つの捕虜収容所～アンボンとカウラ</p> <p>第14回：対日講和問題とオーストラリア</p> <p>第15回：総括と質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。</p> <p>参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		<p>不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。</p>	

09年度以降	英語圏の国際関係 b	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>日本にとって、オーストラリアとの関係は極めて重要である。石炭・天然ガス・鉄鉱石など天然資源の供給地として、民主主義・人権など政治的価値観を共有する国家として、さらにはアジア太平洋における安全保障協力のパートナーとして、オーストラリアは日本にとって重要な国家である。</p> <p>それにも関わらず、観光地としてのイメージはあっても、私たちのあいだでオーストラリアに対する全般的理解は浅い。日豪両国が戦争をしたことすら知られていない。本講義では、戦後のアジア太平洋においてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、受講者には21世紀の国際関係において日本が学ぶべきものは何かを考えてもらいたい。</p> <p>本講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリア外交の歴史を概観していく。</p>		<p>第1回：イントロダクション ～オーストラリア外交を見る眼</p> <p>第2回：チフリー労働党政権の外交 ～新たな国際関係構築の模索</p> <p>第3回：アンザス同盟の実現</p> <p>第4回：冷戦下のアジア① ～中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機</p> <p>第5回：冷戦下のアジア② ～イギリスのアジアの戦争「対決政策」</p> <p>第6回：冷戦下のアジア③ ～アメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」</p> <p>第7回：ポストベトナムのオーストラリア外交</p> <p>第8回：講義前半の総括と質疑応答</p> <p>第9回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ～オーストラリアの「アジア化」</p> <p>第10回：ミドルパワー外交①その定義</p> <p>第11回：ミドルパワー外交②その実践</p> <p>第12回：アジア太平洋地域の経済統合</p> <p>第13回：日豪関係の歴史的展開①～戦後から70年代</p> <p>第14回：日豪関係の歴史的展開②～80年代以降</p> <p>第15回：21世紀オーストラリア外交の行方&amp;質疑応答</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007年。</p> <p>参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布</p>		<p>不定期に実施する2回程度の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。</p>	

13年度以降 12年度以前	グローバル・ヒストリーa 国際関係特殊講義 a	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦 (The Cold War)」の展開を考察する。春semesterでは、ヨーロッパ、地中海周辺地域、アフリカにおける米ソ冷戦の展開とヨーロッパ諸国の冷戦政策に加え、西ヨーロッパ諸国による脱国家的な地域統合 (今日の欧州連合) の試み、イギリス、フランス等のヨーロッパ諸国の帝国の解体・脱植民地化と冷戦の関連について考察する。また、国際機関やNGO、市民運動による国際的、またはトランスナショナルな連帯がヨーロッパの冷戦の進展、変容、終焉に及ぼした影響にも注目する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p> <p>(注意) 既に同担当者の「国際関係特殊講義a」を修得済の場合は履修不可とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 第二次世界大戦の展開：大戦の起源・展開</li> <li>3 ヨーロッパ冷戦の起源</li> <li>4 ヨーロッパ分断体制の形成 (1)</li> <li>5 ヨーロッパ分断体制の形成 (2)</li> <li>6 「危機の時代」の米ソ関係とヨーロッパ</li> <li>7 ヨーロッパ諸国の脱植民地化 (アフリカ諸国の独立)</li> <li>8 冷戦構造の多極化とデタント</li> <li>9 米ソ・デタントとヨーロッパ・デタント</li> <li>10 デタントの崩壊：ソ連の第三世界進出</li> <li>11 新冷戦とヨーロッパ</li> <li>12 冷戦の終焉 (1)：ゴルバチョフの登場、東欧革命</li> <li>13 冷戦の終焉 (2)：ドイツ統一、ソ連崩壊</li> <li>14 冷戦後のヨーロッパ：民主化、市場経済化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献リストを配布する。		平常点 (20%)、試験 (80%)	

13年度以降 12年度以前	グローバル・ヒストリーb 国際関係特殊講義 b	担当者	水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、第二次世界大戦後の米ソ二大国によるグローバルな対立、いわゆる「冷戦(The Cold War)」の展開を考察する。秋semesterでは、アジア・中東における米ソ冷戦、米中対立の展開のほか、日本および欧米諸国のアジア、中東における帝国解体とそれに伴う第三世界諸国による世界大での独立戦争、非同盟・中立運動、また、70年代以降のアジア国際関係の構造転換・地域紛争、経済発展、民主化などについて議論する。第二次世界大戦後の国際情勢を概観することで、今日の国際関係の成り立ちを理解する手掛かりとしたい。</p> <p>(注意) 既に同担当者の「国際関係特殊講義b」を修得済の場合は履修不可とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 第二次世界大戦の展開：日中戦争、日米戦争</li> <li>3 大戦の終結と占領：日本の敗北、帝国の解体</li> <li>4 朝鮮戦争とアジア国際秩序の変容</li> <li>5 脱植民地化 (1) 南アジア、東南アジア</li> <li>6 脱植民地化 (2) 中東</li> <li>7 非同盟・中立運動</li> <li>8 アジア冷戦における中ソ対立の意義</li> <li>9 ベトナム戦争</li> <li>10 米中和解とその影響</li> <li>11 1970年代の地域紛争：印パ戦争、第三次・第四次中東戦争、第三次インドシナ戦争</li> <li>12 新冷戦とアジア</li> <li>13 経済発展と民主化：ASEAN、経済開発、民主化</li> <li>14 冷戦の終焉とアジア</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献リストを配布する。		平常点 (20%)、試験 (80%)	

09年度以降	国際開発論	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、開発途上国における貧困およびそれを克服するための開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。</p> <p>講義は3つのシリーズから構成されます。第1の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。</p> <p>第2の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。</p> <p>第3の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。</p> <p>なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：開発と国際関係</li> <li>&lt;開発途上国の貧困&gt;</li> <li>2. 貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響</li> <li>3. 歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治</li> <li>4. 歴史的要因（3）：日本による植民地支配の功罪</li> <li>5. 政治的要因（1）：民主主義と開発</li> <li>6. 政治的要因（2）：開発独裁体制</li> <li>7. 社会・文化的要因：インド・カースト制度</li> <li>&lt;開発途上国の開発とその実態&gt;</li> <li>8. 経済開発の方法とパターン</li> <li>9. 高度経済成長の要因と弊害</li> <li>10. グローバリゼーションと開発</li> <li>11. 開発途上国にとってのグローバリゼーション</li> <li>12. 中国経済発展の光と影</li> <li>&lt;グローバル化時代の国際開発&gt;</li> <li>13. 新産業開拓の展開（1）：イスラム関連産業</li> <li>14. 新産業開拓の展開（2）：ソーシャルビジネス／BOP</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。</p>		<p>学期末試験の成績を中心に評価を行います。</p>	

09年度以降	国際協力論	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、「ミドル・パワー」オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。また現代の海賊（パイレーツ）問題にも注目します。</p> <p>秋学期の前半では、オーストラリアの国際協力を取り上げます。国際協力といっても幅が広く、先進国が途上国へ技術、物資、資金を提供する一般的な支援に加えて、先進国が社会を開いて、移民や難民を受け入れる支援もあります。さらに地域紛争における平和交渉なども、途上国支援に入ります。</p> <p>秋学期の後半では、現代の海賊（パイレーツ）問題です。インド洋や東南アジアに出没するパイレーツに注目します。世界の商船やクルーズ船に脅威を与えるパイレーツ問題への対応が、国際協力で大きな課題となっています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ビデオ映像「オーストラリアのカフェ文化」</li> <li>2 フォト画像「多文化社会オーストラリア」</li> </ol> <p>&lt;国際協力のテーマ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 国境を越える（移民の受け入れ）</li> <li>4 国境を越える（移民の受け入れ）</li> <li>5 国境を越える（難民の受け入れ）</li> <li>6 国境を越える（難民の受け入れ）</li> <li>7 地域紛争への協力</li> <li>8 ニッチ外交</li> <li>9 まとめ</li> </ol> <p>&lt;現代の海賊問題を考える&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10 映画「キャプテン・フィリップス」鑑賞</li> <li>11 ビデオ映像「日本の海運」</li> <li>12 現代のパイレーツ問題</li> <li>13 国際協力——パイレーツ対策</li> <li>14 国際協力——パイレーツ対策</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』（中公新書）、同『世界を動かす海賊』（ちくま新書）。		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	国際交流論	担当者	石川 幸子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義の狙いは、受講した学生が、国際交流の基本となる異文化コミュニケーションに対する自らの考え方を明確に持ち、現代のグローバル社会において実際に様々な形での国際交流・国際貢献にチャレンジしていく基盤を作ることです。</p> <p>この目的の下、授業は3つのパートから構成されます。まず、パート1では異文化コミュニケーションを中心とした国際交流の在り方について学術的、及び実証的な観点から学んで基礎を固めます。次に、実際に行われている文化交流、国際協力の事例を取り上げ成果と課題を考えます。パート3は受講生の出番です。受講生には学期中に実際に身近にある国際交流の課題を自ら設定してもらい、講義で学んだ理論、及び通説を体験的に検証してもらうことにします。その過程と成果は、講義中の短い発表と、中間レポート（課題の設定）及び期末レポート（課題の結果まとめ）の形でまとめてもらいます。</p> <p>自分の将来を見据え、国際交流力を付けたいと考えているやる気のある学生を歓迎します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 多文化世界</li> <li>3. 異文化コミュニケーション(1)</li> <li>4. 異文化コミュニケーション(2) 及び課題の説明</li> <li>5. 異文化適応力の構築</li> <li>6. 国際交流の変遷</li> <li>7. 国際交流の多様化(1)：総論</li> <li>8. 国際交流の多様化(2)：青年交流事業</li> <li>9. 国際交流の多様化(3)：留学及び留学生受け入れ他</li> <li>10. 国際協力(1)：国際機関</li> <li>11. 国際協力(2)：ODA 及びボランティア</li> <li>12. 発表とディスカッション(1)：私の国際交流実践</li> <li>13. 発表とディスカッション(2)：私の国際交流実践</li> <li>14. 発表とディスカッション(3)：私の国際交流実践</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、授業の中で紹介します		期末レポート 80%、中間レポートプラス授業への参加度 20%	



09年度以降	国際ツーリズム論	担当者	鈴木 涼太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムによる国際的な人間の流動は、経済・社会・文化の幅広い領域に関する複合的な現象である。本講義では、ツーリズム全般に関する基礎的な事象や概念を学び、個別のツーリズム関連産業や観光地について理解するために必要な知識の習得を目指す。</p> <p>講義では、まずツーリズムに関する基礎的な用語や概念について解説し、次に現代ツーリズムを支える諸産業・メディアについて概説する。その上で、ツーリズムが地域社会に与える経済的、社会的・文化的影響について学ぶ。ゲストスピーカーによる授業を行うこともある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイダンス：なぜツーリズムを学ぶのか？</li> <li>2、ツーリズムとは何か：諸概念の整理</li> <li>3、ツーリズムの歴史</li> <li>4、ツーリズムを支える諸産業①</li> <li>5、ツーリズムを支える諸産業②</li> <li>6、ツーリズムと情報／メディア</li> <li>7、ツーリストのまなざし論</li> <li>8、ツーリストの諸分類と矛盾した欲望</li> <li>9、ツーリズムとオーセンティシティ</li> <li>10、観光地と経済効果</li> <li>11、ツーリズムの社会的文化的インパクト①</li> <li>12、ツーリズムの社会的文化的インパクト②</li> <li>13、観光地計画と観光政策①</li> <li>14、観光地計画と観光政策②</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>前田勇編著『現代観光総論（改定新版）』学文社          岡本伸之編『観光学入門』有斐閣          大橋昭一ほか編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版</p>		<p>授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%</p>	

09年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子 芳樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>グローバル化、社会的ニーズの多様化、途上諸国の多極化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織 (NGO) やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。</p> <p>本講義は4つのシリーズから構成されます。第1の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助 (ODA) の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。</p> <p>第2の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。</p> <p>第3の「日本の NGO 活動」では、日本における国際協力 NGO に焦点を当て、歴史、実態、課題について検討します。最後に、「国際協力の新たなテーマと NGO」として、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな開発援助の実態と課題について検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO</li> </ol> <b>&lt;開発援助の仕組みと展開&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>2. ODA の仕組みとトレンド</li> <li>3. 日本の ODA の特徴</li> <li>4. 日本の援助実績</li> <li>5. 開発援助の問題点</li> <li>6. ODA の課題と改革</li> </ol> <b>&lt;NGO の役割と課題&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 国際援助の新たなテーマと NGO</li> <li>8. NGO の定義と歴史的経緯</li> <li>9. NGO の機能と途上国での役割</li> <li>10. 開発と NGO：ケーススタディ・バングラデシュ</li> </ol> <b>&lt;日本の NGO&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 市民活動の歴史と国際協力 NGO</li> <li>12. 国際協力 NGO の実態と課題</li> </ol> <b>&lt;国際協力の新たなテーマとその実態&gt;</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>13. マイクロクレジットという方法</li> <li>14. ジェンダー問題と開発</li> <li>15. 中国による「ODA」の特徴と問題点</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。</p>		<p>学期末試験の結果 (100%) を基に評価を行います。</p>	

13年度以降 12年度以前	国際リスク・海洋論 国際関係特殊講義 a	担当者	竹田 いさみ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>W・ディズニー映画「カリブの海賊」シリーズを鑑賞しながら、世界の危険な海を舞台に、航海のリスクを抱えつつ、歴史に登場した「海賊（パイレーツ）」の正体に迫ります。</p> <p>毎回の授業では前半に、ディズニー映画やノンフィクション映画を取り上げます。</p> <p>毎回の授業では後半に、テキストを参照しながらツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊、パイレーツに光をあてます。</p> <p>16～18世紀の海賊に焦点をあて、なぜリスクを冒してまで世界中を移動したのか——その謎を解きます。またコーヒー、紅茶、スパイスの世界史にも触れます。</p> <p>(注意) 既に同担当者の「国際関係特殊講義」を修得済の場合は履修不可とします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ディズニー映画「カリブの海賊 &lt;呪われた海賊たち&gt;」鑑賞・解説</li> <li>2 ディズニー映画「カリブの海賊」鑑賞・解説</li> <li>3 英雄としての海賊</li> <li>4 同上</li> <li>5 映画「エリザベス&lt;ゴールデン・エイジ&gt;」女王と側近ウォルシンガム、ローリー</li> <li>6 海洋覇権のゆくえ——海賊の役割</li> <li>7 まとめ</li> <li>8 スパイス争奪戦——海賊の「東インド会社」</li> <li>9 同上</li> <li>10 映画「カリブの海賊&lt;ワールド・エンド&gt;」シンガポール、「東インド貿易会社」</li> <li>11 コーヒーから「午後の紅茶」へ</li> <li>12 同上</li> <li>13 甘いクスリ&lt;砂糖&gt;の登場</li> <li>14 映画「カリブの海賊 &lt;生命の泉&gt;」鑑賞</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）など		評価方法は小テスト、中間テスト、期末試験の3点セットです。	

09年度以降	国際関係特殊講義 a	担当者	永野 隆行
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>イギリス帝国の形成と解体・脱植民地化</p> <p>本講義ではイギリス帝国の誕生、発展、そして解体までの歴史を、当時の国際関係(構造やプロセス)と関連づけながら概観していく。まずは帝国、帝国主義、脱植民地化の定義や国際政治上の意味について説明した上で、イギリス帝国の歴史を概観する。続いて、より詳細にイギリス帝国の誕生と発展のプロセスを振り返り、最後に東南アジア、南アジア、中東、南太平洋における脱植民地化の進展を具体的に検証していく。</p> <p>講義を進めるにあたっては、帝国とはいったい何か、そして帝国と当時の国際関係にはどのような関係が存在したのか、さらには帝国の解体、脱植民地化と戦後の国際関係(冷戦)がどのように影響を及ぼしあったのか、などを念頭に置きながら、イギリス帝国の歴史を振り返っていく。</p> <p>イギリス帝国の歴史を振り返ることを通じて、イギリス帝国についての理解を深めるだけでなく、帝国の存在やその解体(を考えること)が現代国際関係にどのようなインプリケーションを持っているのか、自分なりの考え方を持つことができるであろう。</p>		<p>第1回:オリエンテーション(本講義の目的と概要)</p> <p>第2回:国際政治と帝国・脱植民地化①</p> <p>第3回:国際政治と帝国・脱植民地化②</p> <p>第4回:国際政治と帝国・脱植民地化③</p> <p>第5回:イギリス帝国の誕生と発展① ～英帝国の誕生/アメリカ独立戦争と英帝国の再編</p> <p>第6回:イギリス帝国の誕生と発展② ～英帝国の発展/英帝国の解体/英連邦/コモンウェルス</p> <p>第7回:前半の授業のまとめと質疑応答</p> <p>第8回:脱植民地化(総論)</p> <p>第9回:脱植民地化の展開①インドシナ半島</p> <p>第10回:脱植民地化の展開②インド・パキスタン</p> <p>第11回:脱植民地化の展開③マレーシア・シンガポール</p> <p>第12回:脱植民地化の展開④中東</p> <p>第13回:脱植民地化の展開⑤南太平洋</p> <p>第14回:帝国の終焉と現代国際関係</p> <p>第15回:授業の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>特に指定しない。</p> <p>講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。</p>		<p>リアクションペーパーの提出(30%)と学期末試験(論述形式、70%)による。</p>	

09年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、サハラ以南アフリカ諸国に焦点を当て、政治、経済、社会などの側面からアフリカの現状を捉え、グローバル化が加速化する国際社会の中でのアフリカ諸国の位置づけを試みる。</p> <p>数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から半世紀が経過した今なお、アフリカ諸国はいろいろな意味で国際社会の関心を受け続けている。</p> <p>本講義では、現代のアフリカを取り巻く国際関係を理解するのに必要な視点また情報を提供する。映像資料を積極的に用いる。</p>		<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2～4 回 歴史</p> <p>第 5～7 回 国際支援の動向</p> <p>第 8～9 回 紛争と平和構築</p> <p>第 10 回 民主化</p> <p>第 11 回 食糧問題</p> <p>第 12 回 地域協力</p> <p>第 13 回 宗教・文化</p> <p>第 14 回 環境問題</p> <p>第 15 回 まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
第 1 回目の授業で参考文献を紹介する。		平常点、学期末試験による評価とする。	

09年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	キム ウンヒ 金 雄熙
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(国際関係と社会ネットワーク分析)</p> <p>本講義では、社会ネットワーク分析という技法を使って、国際関係あるいはもっと具体的に政治現象、社会現象、さらには企業間関係への理解を深めることを試みる。講義では、主要文献を読みつつ、これまでの社会ネットワーク分析におけるネットワーク指標や研究などを検討する。また、自分たちで、ネットワーク・データをいじってみながら、国際社会にみられる主要ネットワーク関係をコンピュータ・プログラムを用いて視覚化してみる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際関係学の主なアプローチ</li> <li>2. 社会ネットワーク分析の特徴</li> <li>3. 社会ネットワーク論の分析指標(1)</li> <li>4. 社会ネットワーク論の分析指標(2)</li> <li>5. 社会ネットワーク論の分析指標(3)</li> <li>6. 分析事例の紹介(1)</li> <li>7. 分析事例の紹介(2)</li> <li>8. 講義のまとめ</li> <li>9. ネットワーク・データの発掘(1)</li> <li>10. ネットワーク・データの発掘(2)</li> <li>11. ネットワーク・データの発掘(3)</li> <li>12. アジア貿易ネットワークの分析</li> <li>13. アジア FTA ネットワークの分析</li> <li>14. 主要国の FTA 戦略と地域協力</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する		<p>中間試験：20%</p> <p>平常授業における発表内容と議論などの実績：40%</p> <p>期末レポート：40%</p>	

09年度以降	国際関係特殊講義 b	担当者	石川 幸子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、「紛争・平和と国際協力」をテーマとして、理論(conflict theories)と国際社会における実践を考察しながら、平和を実現するために国際社会が歩んできた歴史を理解するとともに、現代、国際社会が直面する課題とその解決策について考えます。</p> <p>講義は以下の3つのパートから構成されます。まず、パート1で、紛争・平和の歴史と理論を学んだ後、パート2で平和実現に向けた国際社会の活動を、国際機構、法、軍事介入、人道援助、並びに開発援助の5つの観点から考察し、それぞれの分野での成果と課題を検討します。パート3では、日本の政府開発援助(ODA)で実施されてきた平和構築支援について、その政策と実践について学びます。事例研究では、カンボジアやフィリピン(ミンダナオ)等の具体的な平和構築活動を紹介し、平和実現のための国際協力の考え方が各国の事例においてどのように反映されているかを検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 紛争の歴史と変容</li> <li>3. 紛争・平和の理論</li> <li>4. 平和の再定義</li> <li>5. 平和のための国際機構</li> <li>6. 平和のための法</li> <li>7. 平和のための軍事介入</li> <li>8. 平和のための人道援助</li> <li>9. 平和のための開発援助</li> <li>10. 政府開発援助(ODA)と平和構築(1): 政策</li> <li>11. 政府開発援助(ODA)と平和構築(2): 実践</li> <li>12. 事例研究(1): カンボジア・パレスチナ他</li> <li>13. 事例研究(2): フィリピン・アフガニスタン他</li> <li>14. 紛争と平和の今日的課題</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜、授業の中で紹介します。		期末テスト 80%、授業中に適宜課す『授業内レポート』及び授業への参加度 20%	

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーa 国際関係文献研究 a	担当者	佐野 康子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業では、国際関係論に関わる日本語と英語の両方の文献を扱い、国際情勢を分析し、考察することを目的とする。具体的には、国連、紛争、援助、持続可能な開発目標（SDGs）、人権などをテーマとして扱う。資料としては、新聞記事、国連決議、国際機関の発行する報告書などを用いる。</p> <p>この授業を通じて、国際関係論に関わる文献調査の方法、引用の方法を学んでもらい、プレゼンテーション、レポートや論文の執筆に役立ててもらいたい。また多様な物事の捉え方を身に付けてもらうためにディスカッションの時間も設けたい。</p> <p>半期完結の授業となるため、授業の効率化を図るため毎回の授業で課題を出す。</p>		<p>第1回 オリエンテーション 第2回 レポート、論文の書き方 第3回 文献調査の方法 第4回 国連 第5回 人道支援、ディスカッション1 第6回 MDGs から SDGs へ 第7回 援助1 第8回 援助2、ディスカッション2 第9回 難民・国内避難民 第10回 テロ 第11回 食糧問題土地争奪 第12回 人権、ディスカッション3 第13回 貿易の自由化 第14回 発表 第15回 小テスト・まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>United Nations, <i>United Nations at a Glance</i>, New York: United Nations Publications, 2013. 適宜ポータル・サイトに載せる。</p>		<p>授業への貢献度、課題、発表、小テストの総合評価とする。</p>	



13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーa 国際関係文献研究 a	担当者	キム ウンヒ 金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(『The Globalization of World Politics』を読む)</p> <p>In this course, we will read the textbook titled ‘<i>The Globalization of World Politics</i>’. The Globalization of World Politics is a comprehensive introduction to international relations that provides a coherent, accessible, and lively account of the globalization of world politics.</p> <p>A comprehensive introduction to international relations, this internationally successful title is ideally suited to students coming to the subject for the first time.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. GLOBALIZATION AND GLOBAL POLITICS</li> <li>2. THE EVOLUTION OF INTERNATIONAL SOCIETY</li> <li>3. A NEW GLOBAL ERA</li> <li>4. RISING POWERS</li> <li>5. REALISM</li> <li>6. LIBERALISM</li> <li>7. MARXIST THEORIES OF INTERNATIONAL RELATIONS</li> <li>8. SUMMARY</li> <li>9. SOCIAL CONSTRUCTIVISM</li> <li>10. THE CHANGING CHARACTER OF WAR</li> <li>11. GLOBAL SECURITY</li> <li>12. INTERNATIONAL POLITICAL ECONOMY</li> <li>13. GENDER IN WORLD POLITICS</li> <li>14. INTERNATIONAL LAW</li> <li>15. SUMMARY</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Baylis, Steve Smith, and Patricia Owens, eds. 2013. <i>The Globalization of World Politics</i> . Oxford university press. An Introduction to International Relations Sixth Edition		中間テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常授業における課題などの実績 (20%) で評価する。	

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーb 国際関係文献研究 b	担当者	キム ウンヒ 金 雄熙
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(『The Globalization of World Politics』を読む)</p> <p>In this course, we will read the textbook titled ‘<i>The Globalization of World Politics</i>’. The Globalization of World Politics is a comprehensive introduction to international relations that provides a coherent, accessible, and lively account of the globalization of world politics.</p> <p>A comprehensive introduction to international relations, this internationally successful title is ideally suited to students coming to the subject for the first time.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. INTERNATIONAL REGIMES</li> <li>2. TRANSNATIONAL ACTORS(1)</li> <li>3. TRANSNATIONAL ACTORS(2)</li> <li>4. ENVIRONMENTAL ISSUES</li> <li>5. TERRORISM</li> <li>6. NUCLEAR PROLIFERATION</li> <li>7. NATIONALISM</li> <li>8. SUMMARY</li> <li>9. REGIONALISM</li> <li>10. GLOBAL TRADE</li> <li>11. POVERTY</li> <li>12. HUMAN SECURITY</li> <li>13. HUMAN RIGHTS</li> <li>14. GLOBALIZATION IN THE FUTURE</li> <li>15. SUMMARY</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
John Baylis, Steve Smith, and Patricia Owens, eds. 2013. <i>The Globalization of World Politics</i> . Oxford university press.		中間テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常授業における課題などの実績 (20%) で評価する。	

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーa 国際関係文献研究 a	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際秩序とは、どのような国家あるいは要因によって形成されるのであろうか。また、それはどのように変容していくのであろうか。特に、今後の国際秩序がどのような形に再編されていくのかを占う上で、こうした知識は不可欠である。本講義では、この問いに取り組む研究書を講読しながら、国際秩序に関する概念・要因・パターンについて学ぶ。</p> <p>講義の進め方は、次のとおりである。(1)毎回、全員が課題範囲の要約をA4で1枚程度にまとめて、講義前日までにメーリング・リスト(受講者全員が登録される)に送信する。(2)受講者はお互いの要約に目を通したうえで、講義に参加する。(3)当日は、それを踏まえたうえで、ディスカッションを行う。同時に、重要単語及び内容の確認も行う。</p> <p>有意義なディスカッションを行うためにも、教材を読むだけでなく、必要な情報を補足してから講義に参加することが求められる。</p>		<p>第1週: Introduction</p> <p>第2週～第14週: 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。</p> <p>Part I: Varieties of International Order and Strategies of Rule Part II: Power Transition and the Rise and Decline of International Order Part III: Systems Change and Global Order</p> <p>第15週: 春学期の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
G. John Ikenberry (ed.), <i>Power, order, and change in world politics</i> , (Cambridge: Cambridge University Press, 2014).		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

13年度以降 12年度以前	国際関係文献セミナーb 国際関係文献研究 b	担当者	高木 綾
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>国際関係文献セミナーaに引き続き、国際秩序の形勢と変容について、英語文献を講読しながら理解を深めることをめざす。</p> <p>講義の進め方は、春学期と同様である。</p> <p>最終的な到達目標は、現在の米国を中心とした国際秩序が、新興国の台頭、科学技術の発展、グローバル化の進展などにより今後どのように変容していくのかを、受講者それぞれの言葉によって論じることができるようになることである。</p>		<p>第1週: Introduction</p> <p>第2週～第14週: 受講者の理解度に合わせて速度を設定しながら、以下の内容を講読する。</p> <p>Part I: Varieties of International Order and Strategies of Rule Part II: Power Transition and the Rise and Decline of International Order Part III: Systems Change and Global Order</p> <p>第15週: 1年間の総括</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
G. John Ikenberry (ed.), <i>Power, order, and change in world politics</i> , (Cambridge: Cambridge University Press, 2014).		毎回の要約(45%)、ディスカッションへの貢献度(15%)、小テスト(40%)で評価します。	

09年度以降	特別セミナー（日常の中の韓国文化）	担当者	キム 金 ウンヒ 雄熙
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、遊びと酒、宗教、言語、人間関係、家族など韓国人の日常生活を構成する様々な事件、現象、制度などを紹介し、日常の中の韓国文化について多面的に考察する。</p> <p>講義では、韓国の遊び文化のもつ歴史性や社会的意味、飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱、宗教が社会文化の形成に及ぼした影響などを主なテーマにしつつ、日常の中の韓国文化についての理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国文化と韓国人へのアプローチ</li> <li>2. 遊び文化と韓国人の社会的性格①</li> <li>3. 遊び文化と韓国人の社会的性格②</li> <li>4. 遊び文化と韓国人の社会的性格③</li> <li>5. 飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱①</li> <li>6. 飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱②</li> <li>7. 飲酒文化を通じてみる韓国人の日常と逸脱③</li> <li>8. 講義のまとめ</li> <li>9. 韓国社会の宗教①</li> <li>10. 韓国社会の宗教②</li> <li>11. 韓国社会の宗教③</li> <li>12. 韓国語と儒教文化①</li> <li>13. 韓国語と儒教文化②</li> <li>14. 韓国語と儒教文化③</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する		中間テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常授業における課題などの実績（20%）で評価する。	

09年度以降	特別セミナー（日常の中の韓国文化）	担当者	キム 金 ウンヒ 雄熙
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、遊びと酒、宗教、言語、人間関係、家族など韓国人の日常生活を構成する様々な事件、現象、制度などを紹介し、日常の中の韓国文化について多面的に考察する。</p> <p>講義では、交流行動を通じてみる社会心理、家族と女性、余暇や健康文化などを主なテーマにしつつ、日常の中の韓国文化についての理解を深める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国文化と韓国人へのアプローチ</li> <li>2. 交流行動を通じてみる韓国人の社会心理①</li> <li>3. 交流行動を通じてみる韓国人の社会心理②</li> <li>4. 交流行動を通じてみる韓国人の社会心理③</li> <li>5. 韓国社会と家族①</li> <li>6. 韓国社会と家族②</li> <li>7. 韓国社会と女性</li> <li>8. 講義のまとめ</li> <li>9. 韓国の余暇文化①</li> <li>10. 韓国の余暇文化②</li> <li>11. テレビと日常文化①</li> <li>12. テレビと日常文化②</li> <li>13. 自動車と日常文化</li> <li>14. 韓国の美、化粧、健康文化</li> <li>15. 講義のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストは特に指定しない。授業ごとに主な参考文献を紹介し、必要に応じハンドアウトを配布する		中間テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常授業における課題などの実績（20%）で評価する。	

# 交 流 文 化 論

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：</p> <p>我が国は人口減少、一方世界の人口は増え続けている。グローバル化の進展、さらに世界の人口増加で他の輸送手段の追随を許さない航空の重要性はますます高まっている。同時に近年注目を集めているLCC（低コスト航空会社）の拡大、また総二階建ての超大型旅客機の登場など、航空産業は大きな変革の過程にある。本講義では、航空の歴史、現状、未来についての基礎的、かつ具体的な知識の習得を目的としている。</p> <p>講義概要：</p> <p>本講義では、航空輸送の各テーマに加え、航空輸送と航空機製造の連携の構造についての解説も行う。時間に余裕があれば航空産業におけるキャリアデザイン、就職活動の現状についても解説を行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 最近の航空産業の動きなど</li> <li>3. 航空産業とキャリアデザイン</li> <li>4. 航空の歴史（ライト兄弟から近代まで）</li> <li>5. JALとANAの登場と成長</li> <li>6. LCC（低コスト航空会社）</li> <li>7. アライアンス</li> <li>8. 航空産業の課題について（ディスカッション）</li> <li>9. 航空政策とJALの破綻と復活</li> <li>10. オープンスカイと規制緩和</li> <li>11. 航空安全</li> <li>12. 航空機製造ビジネス</li> <li>13. 航空産業の特性と航空運賃</li> <li>14. 空港、および国際航空法</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト（教科書）：『最新・航空事業論』（2013年2月、日本評論社）</p> <p>（注）受講生は、事前に予習しておくこと。</p>		<p>ディスカッションなど講義参加度：50%</p> <p>最終試験：50%</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	鈴木 涼太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代ツーリズムの発展は、旅行にかかわる諸サービスを大量生産・消費可能な商品として提供するツーリズム／観光関連産業の発展抜きに語ることは出来ない。</p> <p>本科目では、これまでツーリズム研究で蓄積されてきた理論的枠組みをいくつか紹介しながら、ツーリズムの現場における人間や空間、イメージの管理の在り方について理解を深めることを目指す。それゆえ、本講義で扱うマネジメントの範囲は、ツーリズム産業の企業活動における問題解決や現実的課題には限定されない点に留意されたい。</p> <p>講義では、まずツーリズム商品の基本的な特徴に留意しつつ、関連産業のしくみについて概説する。次に、ツーリズム商品のマネジメントにかかわる具体的な事例を取り上げ、現在のツーリズム産業が抱える課題について検討する。ゲストスピーカーによる授業となることもある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイドンス</li> <li>2、ツーリズム産業のしくみ</li> <li>3、ツーリズム商品の特徴①：マーケティングからの視点</li> <li>4、ツーリズム商品の特徴②：記号・イメージ消費</li> <li>5、ツーリズム産業の競争環境</li> <li>6、パッケージツアー①：マクドナルド化された旅行？</li> <li>7、パッケージツアー②：イメージをパッケージ化する</li> <li>8、パッケージツアー③：商品企画における「知識」</li> <li>9、空間の管理とテーマ化</li> <li>10、テーマ化された空間とハイブリッド消費</li> <li>11、感情労働</li> <li>12、テーマ化された空間に暮らす</li> <li>13、テーマ化された空間の将来</li> <li>14、観光化する社会と「ツーリズムの終焉」？</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業内で適宜紹介する。		授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は食の文化を通じて「グローバリゼーション」について考えることを目的とします。</p> <p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみ合うこともあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 食の文化を見る眼：文化とは何か</li> <li>3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定）</li> <li>4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに</li> <li>5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ）</li> <li>6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間</li> <li>7. ナショナルリズムと食：伝統の形成と思い込み</li> <li>8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える</li> <li>9. コーヒーのグローバルヒストリー</li> <li>10. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費</li> <li>11. シビック・アグリカルチャー①</li> <li>12. シビック・アグリカルチャー②</li> <li>13. イタリアのスローフード、日本のテイケイ、地産地消</li> <li>14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定）</li> <li>15. 講義のまとめと試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（90%）、学期中課題（10%）。	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル・メディア論）	担当者	山口 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>メディアとは、人と人をつなげ、事実やメッセージを伝えるための透明な「パイプ」ではありません。ときに事実と異なる情報を伝え、あるいは「事実」そのものを作り出し、そして人と人を分断することもあります。</p> <p>ならば、いつ、どうして「メディア」は生まれ、どのような仕組みを持ち、いかなる機能を果たすようになったのでしょうか。そしてトランスナショナル・メディアとは、いかなる存在でしょうか。</p> <p>この講義では、「国際報道」「国際宣伝」「国境を越えて流通するイメージや情報」を柱とするトランスナショナル・メディアの事例を歴史的に検討し、その特性を理解することを目的とします。たとえば中世の活版印刷術と新約聖書、近代の戦争報道と国際プロパガンダ、現代のインターネット・ジャーナリズムなどを多角的に分析します。</p> <p>メディア研究の基礎から最新の議論を学ぶことで「メディア」の機能と仕組みを考え、トランスナショナル・メディアを「読み解く」だけでなく「使いこなす」ための批判的思考とリテラシーを習得することを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：「トランスナショナル」と「メディア」</li> <li>2 メディアの源流①：メディアとしての新約聖書</li> <li>3 メディアの源流②：宗教戦争とナショナルな想像力</li> <li>4 近代とメディア①：ジャーナリズムとリテラシー</li> <li>5 近代とメディア②：「個人」の誕生と「国家」の変容</li> <li>6 近代とメディア③：「日刊新聞」以前、以後</li> <li>7 近代とメディア④：ニューヨークタイムズの時代</li> <li>8 近代日本のトランスナショナル・メディア</li> <li>9 20世紀とメディア①：国際プロパガンダと「宣伝」</li> <li>10 20世紀とメディア②：ベトナム戦争と ニュー・ジャーナリズム</li> <li>11 20世紀とメディア③：戦争報道と”Media War”</li> <li>12 国際報道の現在形①：「ライブ」という問題</li> <li>13 国際報道の現在形②：ネット時代の「ニュース」</li> <li>14 国際報道の現在形③：トランスナショナル・メディア とわたしたち</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	



09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（戦争の記憶と表象—オーストラリアと日本、その1）          授業の導入部分では、4月25日のANZAC DAYを概観する。          Australia and New Zealand Army Corpsが、第1次世界大戦のはじめ、トルコのガリポリで上陸作戦を開始した記念日だが、100周年にあたる今年は、愛国心の過度の表出が懸念されている。  <a href="http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/">http://www.awm.gov.au/commemoration/anzac/anzac-tradition/</a>          その後の授業では、検討の対象を日本に移し、「特攻」を賛美するような近年の風潮や、兵隊たちと性行為を強要させられていた女性たちの「強制連行」がなかったと主張する政府やメディアの戦略を考える。この授業の目的は、沖縄での強制集団死や、朝鮮人、中国人強制連行・労働などを含め、1931年から45年までの戦争が日本でどのように記憶され、文化的に表象されてきたかを問題にし、受講生と共にディスカッションしていくことにある。          初回（何らかの授業で参加できなかった人は2回目）の授業に、上記の授業目的について各自が考えるところを、500～1000字程度に記し、持参すること（初回レポートとして評価の対象になる）。          土日などを利用して、「遊就館」や「女たちの戦争と平和資料館」など、学外の施設を見学することが、履修の前提条件となる。</p>		<p>4/9 1. イントロダクション          4/16 2. ANZAC          4/23 3. 学外見学（授業振替）          4/30 4. ANZAC(ディスカッション)          5/7 5. 『月光の夏』          5/14 6. 『月光の夏』。          5/21 7. 「慰安婦」(1)          5/28 8. 「慰安婦」(2)          6/6 9. 「沖縄・集団死」(1)          6/13 10. 「沖縄・集団死」(2)          6/20 11. 「強制連行・労働」(1)          6/27 12. 「強制連行・労働」(2)          7/2 13. 『ゆきゆきて神軍』          7/9 14. 靖国神社みたままつり          7/16 15. まとめのディスカッション</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>新書版の本を何冊か読んでもらう予定。Norma Field, <u><a href="#">In the Realm of a Dying Emperor</a></u> (1993)からは抜粋を使用するが、日本語で読むことも可能（共に本学図書館所蔵）。その他、英文のものを含め、新聞・雑誌記事など。詳しくは初回の授業で説明する。</p>		<p>学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポートを評価の対象とする。また、十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。</p>	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>私たちは何のために、誰に対して開発支援をするのでしょうか。そこでいう開発とは何でしょうか。</p> <p>グローバルとローカルなものに対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。この講義は、開発文化論として、グローバル化に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>近年、グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>(参考文献)  W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か?』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か</li> <li>3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』）</li> <li>4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話</li> <li>5. 教育・学び・文化</li> <li>6. ジェンダーとフェミニズム</li> <li>7. 宗教と社会開発 NGO</li> <li>8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略</li> <li>9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ</li> <li>10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定）</li> <li>11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛</li> <li>12. 巨大開発計画と地域住民・NGO</li> <li>13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定）</li> <li>14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から</li> <li>15. まとめ、試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) 北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO等で各自購入してください</p> <p>(参考文献) 上欄を参照。</p>		<p>期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。</p>	

09年度以降	交流文化論（フィールドワーク論）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(定員：30名)</p> <p>本講義は、「東京」をテーマに、フィールドワークと呼ばれる学問的営みを、実践的に身につけることを目的としている。</p> <p>具体的には、1. 文化人類学、社会学、地理学、歴史学、建築史など様々な視点から書かれた雑多な「東京論」を参考にしながら、2. 実際に東京を縦横無尽に歩きまわった上で、東京という都市の成り立ちや人々の生の営みについて理解を深めることを目指す。</p> <p>受講者は複数のグループに分かれ、担当教員が指定した5~6つのコースを2つ選択し、5月から6月の週末に一緒に歩いてもらう（実費負担）。そして町歩きの結果について、各々のコースに関連する文献資料の収集・議論を踏まえた上で、学期末にグループ発表を行なう。</p> <p>本講義は、グループ作業を中心とした演習形式で行なわれるため、グループでの議論や発表の準備・街歩きの実習に積極的に参加できる者のみ履修を認める。</p> <p><u>なお、初回授業時にグループ分け等を行なうので、必ず出席すること。</u></p>		<p>1. 趣旨説明・グループ分け</p> <p>2. 各町歩きコースに関する講義・解説（6~7回）</p> <p>(1) 山の手と下町</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・城北地区（本郷、上野、浅草）</li> <li>・城南地区（赤坂、六本木）</li> </ul> <p>(2) ウォーターフロント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深川、佃、月島</li> </ul> <p>(3) 「おばあちゃんの原宿」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巣鴨</li> </ul> <p>(4) 繁華街の過去・現在・未来</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋谷</li> </ul> <p>(5) エスニック・タウン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿、新大久保</li> </ul> <p>(6) ジブリ映画の舞台・ニュータウン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩ニュータウン</li> </ul> <p>3. 各グループの発表・議論(6~7回)</p> <p>4. まとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、プリントや文献リストを配布する。		授業での発表・議論への参加度・フィールド実習でのパフォーマンス（50%）、学期末レポート（50%）。 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりに、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを生み出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 趣旨説明</li> <li>2. グローバリゼーションの民族誌 1</li> <li>3. グローバリゼーションの民族誌 2</li> <li>4. 観光の誕生</li> <li>5. ビデオ上映</li> <li>6. 表象の政治学—情報資本主義と観光</li> <li>7. メディアと観光—「樂園」ハワイの文化史</li> <li>8. 植民地主義と観光—「神々の島」バリの誕生</li> <li>9. 文化装置としてのホテル</li> <li>10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例</li> <li>11. セックス・ツーリズム—タイの事例</li> <li>12. 少数民族と観光—タイの事例</li> <li>13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」</li> <li>14. ダーク・ツーリズムの現状—広島および西アフリカの事例から</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的： 2020年の東京開催をひかえ、オリンピック、パラリンピックが大きな注目を集めている。本講義では、オリンピック、パラリンピックはじめ、博覧会、国際会議、その他各種イベントについて学習する。</p> <p>講義概要： オリンピック、パラリンピック、博覧会、国際会議、イベントなどについて歴史的経緯、現状などを学習し、さらに、その具体的な仕組みや役割を理解する。また、これら国際会議、イベントとツーリズムの関係についても学習する。最後は、東京オリンピック・パラリンピックに焦点をあて、“それをどのように成功させるか”、“どのようにして国や地域振興に生かすか”などについて、各自パワーポイントを使用しプレゼンテーションを行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. イベント・コンベンションについて①</li> <li>3. イベント・コンベンションについて②</li> <li>4. 国際博覧会</li> <li>5. 東京オリンピック・パラリンピック</li> <li>6. 障害者スポーツとパラリンピックについて</li> <li>7. (ディスカッション) テーマ：イベント (各種イベント、大学祭等)の意義と役割</li> <li>8. 古代オリンピック</li> <li>9. オリンピックの歴史・意義・役割について</li> <li>10. ビジネスの視点からのオリンピック①</li> <li>11. ビジネスの視点からのオリンピック②</li> <li>12. プレゼンテーション：「2020年・東京オリンピック・パラリンピックをどのように成功させるか」①</li> <li>13.         "         ②</li> <li>14.         "         ③</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜個別資料を配布する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講姿勢、小テスト、講義参加度：50%</li> <li>・プレゼンテーションとレポート：50%</li> </ul>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：          ツーリズムにおける政策や課題を理解することを目的とする。ツーリズム政策は、国家の主要政策として世界各国で推進されてきたが、世界がグローバル化する今日その重要性がさらに高まっている。戦後の我が国経済は主にモノづくり産業が牽引してきており、ツーリズム政策は必ずしも充分ではなかった。このような経緯を踏まえながら多様な視点からツーリズム政策を分析すると同時に、未来に向けての新たなツーリズム政策の考察を行う。</p> <p>講義概要：          ツーリズムは単にレジャー領域のものではなく、経済、文化などの社会活動に深く関わるものである。このようなツーリズム政策の各テーマについて、単に一方的な解説だけではなく、ディスカッション、また受講生自ら新たなツーリズム政策を提案するなどの試みを通して学習を深めていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 世界の動き、日本の動き</li> <li>3. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（観光立国など）</li> <li>4. ツーリズムの基本構造とツーリズム政策の目的（インバウンドツーリズムの重要性など）</li> <li>5. ツーリズム政策の変遷（鎖国から現代まで）</li> <li>6. ツーリズムにおける我が国の課題（国民文化等）</li> <li>7. ディスカッション①</li> <li>8. 世界のツーリズム政策①（シンガポール）</li> <li>9. ディスカッション②</li> <li>10. 世界のツーリズム政策②（スイス）</li> <li>11. 世界のツーリズム政策③（フランス）</li> <li>12. 多様なツーリズム政策（世界遺産、イスラム世界の拡大、ニューツーリズム）</li> <li>13. 多様なツーリズム政策（地域振興など）</li> <li>14. ツーリズムとキャリアデザイン</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、小テスト、講義参加度：50% 最終試験：50%	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	鈴木 涼太郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人間の地球規模での移動の一形態であるツーリズムは、必然的にそれに付随した「モノ」の移動をともなう。本講義では、ツーリズムに関連したモノの移動の代表例として観光みやげを取り上げ、ツーリズムと文化の動的な関係について考察する。</p> <p>講義では、まず日本における観光みやげの成立やその生産や流通、販売にかかわる産業の現状について紹介し、次にみやげもの存在を規定するいくつかの論理について概説する。その上で、ツーリズムを介したみやげというモノの移動が、文化の消費、移転、生産にいかにかかわっているのかについて具体的な事例をあげながら考察する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1、ガイドンス</li> <li>2、観光みやげとモノの移動／消費</li> <li>3、近代における観光みやげ</li> <li>4、「民芸品」へのまなざし</li> <li>5、観光みやげと真正性</li> <li>6、観光みやげのギフト性</li> <li>7、観光みやげの儀礼的倒錯性</li> <li>8、観光みやげと「ものがたり」</li> <li>9、民芸品としてのアジア雑貨</li> <li>10、ベトナム雑貨がつくるルート</li> <li>11、ベトナム雑貨観光とその生産地</li> <li>12、旅するマトリョーシカ①</li> <li>13、旅するマトリョーシカ②</li> <li>14、おみやげが媒介する文化</li> <li>15、まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業内で適宜紹介する。		授業への参加／講義内小課題 20% 期末試験 80%	

13年度以降 09～12年度	交流文化論 (トランスナショナル文化特殊講義(パフォーマンス研究)) 交流文化論 (パフォーマンス研究)	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>(ミュージアムとパフォーマンス=先住民文化その1)</p> <p>ミュージアムの展示をパフォーマンスとして捉えると、どのような考察ができるのだろうか。ミュージアムは入館者に働きかける文化装置である。しかし、入館者側は、常に受動的に「働きかけ」られている訳ではない。ミュージアムは、特定のイデオロギーを入館者に刷り込もうとするミュージアム側のパフォーマンスと、行為主体として自らの解釈を作ろうとする入館者側のパフォーマンスがせめぎ合う場と考えることもできる。</p> <p>最初の数回でミュージアムとパフォーマンスの関係を考察した後は、「他者の文化を展示することの倫理」を巡って、ミュージアムと先住民コミュニティの関係に焦点を当てるのが授業の主眼となる。今年の授業ではアメリカ先住民、また、アイヌ民族について考えていく。</p> <p>12月の獨協国際フォーラムが今年は「視覚文化」を扱うので、フォーラムの発表について考えてもらったり、例年11月に中野でおこなわれる、アイヌと琉球の文化の出会いから生まれた「チャランケ祭り」を一緒に観に行ったりすることも考えている。</p> <p>講義を受動的に「聴く」のではなく、能動的にディスカッションに「参加」する人に履修してもらいたい。</p> <p>なお、2回目の授業では、Marina Abramovic というパフォーマンス・アーティストについての映画を鑑賞するので、初回の授業に出ていない人には分かりづらいかもしれない。以下のサイトなどで、アブラモヴィッチについて予習をしてきて欲しい。 <a href="http://www.newstatesman.com/blogs/art-and-design/2012/09/marina-abramovic-artist-present">http://www.newstatesman.com/blogs/art-and-design/2012/09/marina-abramovic-artist-present</a></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Bennett, pp.1-7.</li> <li>2. Abramovic, <u>Artist is Present</u>.</li> <li>3. Bennett, pp.8-23.</li> <li>4. Bennett, pp.60-73.</li> <li>5. Bennett, pp.60-73</li> <li>6. More on Native American Displays.</li> <li>7. Clifford, “Four Northwest Coast Museums”.</li> <li>8. Clifford, “Four Northwest Coast Museums”.</li> <li>9. Clifford, “Museums as Contact Zones”.</li> <li>10. Clifford, “Museums as Contact Zones”.</li> <li>11. Catch-up</li> <li>12. パフォーマンス研究から見るアイヌ民族の展示</li> <li>13. パフォーマンス研究から見るアイヌ民族の展示</li> <li>14. パフォーマンス研究から見るアイヌ民族の展示</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Susan Bennett, <i>Theatre and Museums</i> (Palgrave, 2013)、James Clifford, <i>Routes</i> (Harvard, 1997)から一部を使用。後者は日本語訳もある。購入してもよいが、使用する部分だけ図書館でコピーしてもよい。その他、英文のものを含め、論文や雑誌記事など。		学期末のレポートと、学期中に複数回提出してもらう短いレポートを評価の対象とする。また、十分な予習・復習をした上で、授業に積極的に参加することが、単位取得の条件となる。	



13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （トランスナショナルな公共圏を求めて））	担当者	高橋 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本年度からスタートする新しい授業である。</p> <p>過去 30 年の間に、日本に定住する外国人の数は約 200 万人、人口の 2%まで増加した。しかし、言語、宗教など、文化的背景を異にする人たちにとって、教育、仕事など、日本は必ずしも暮らしやすい社会とはいえない。日本社会の同質性が重んじられ、国籍や民族性を理由に「他者」が排除される傾向はいまだに強い。</p> <p>国境を越えて人が移動し、文化が変容していく時代だが、文化的背景を異にする人たちと一緒にコミュニティーを作り上げていく作業はそう簡単ではない。この授業は、「文化多様性」をキーワードに、さまざまな価値観を互いに尊重し合い、個人の権利を守る新しい社会を作り上げる方法を考え、自分たちにできることを、実行に移していくことを目標にする。クリエイティブな未来のために何ができるのか。共に考え、共に活動していく授業である。</p> <p>テキストをベースに教室でディスカッションする「理論」と、教室の外に出てプロジェクトを立ち上げる「実践」の両方を射程に入れた野心的な授業であり、受講生の熱意によってスリリングで、かつ実り多いものになることは間違いない。</p> <p>ワークショップ形式の授業で、学生主体のプロジェクトを準備・完成させていく。プロジェクトを来年の「草加国際村一番地・インターナショナル・フェスティバル」で発表することも推奨したい。定員は 30 名である。履修上の制限などある場合もあろうが、他学科生や留学生の参加も是非、歓迎したい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Idea of Cultural Diversity</li> <li>3. Practice of Cultural Diversity</li> <li>4. Discussion, Group-work, Fieldwork</li> <li>5. Ditto</li> <li>6. Ditto</li> <li>7. Ditto</li> <li>8. Ditto</li> <li>9. Ditto</li> <li>10. Ditto</li> <li>11. Ditto</li> <li>12. Presentation</li> <li>13. Presentation</li> <li>14. Presentation</li> <li>15. Wrap-up</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>渡戸・井沢編『多民族化社会・日本』（明石書店、2010）を、取り敢えず参考文献として推薦しておく。詳しくは初回の授業で指示する。</p>		<p>プロジェクト準備のプロセスとプレゼンテーションを総合的に評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における<u>諸現象を考えられるようになる</u>こと、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 社会学とは</li> <li>3. 諸概念の概説：トランスナショナリズムとは</li> <li>4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア</li> <li>5. 国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路</li> <li>6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム</li> <li>7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容</li> <li>8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰</li> <li>9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史</li> <li>10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達</li> <li>11. 中間まとめ <ul style="list-style-type: none"> <li>※ビデオ『となりの外国人』（予定）</li> </ul> </li> <li>12. アイデンティティについて</li> <li>13. 民際協力としての自治体国際協力</li> <li>14. 講義全体のまとめ</li> <li>15. 試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（90%）、学期中宿題（10%）。</p>	

13年度以降	交流文化論（トランスナショナル文化特殊講義 （写真とツーリズムの交流文化史））	担当者	山口 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>（写真とツーリズムの交流文化史）</p> <p>旅するとき、なぜ写真を撮るのでしょうか。何を撮り、何を撮らないのでしょうか。そもそも旅行にカメラを持って行くことを否定する人がいます。その人は何を忌避しているのでしょうか。逆に SNS へアップするために旅する人や、旅先で「自撮り」する人が増えています——いったい「撮る」とは、いかなる意味を持つのでしょうか？</p> <p>「じっさい、観光はたいていが、写真になりそうなところを探し求める行為となった」という考え方もあります（アーリ&amp;ラースン、2011=2014）。こうした観光写真あるいは写真観光の研究は世界的に注目を集めてきた一方、日本では極めて希少なのが現状です。そのためこの講義では、国際的な研究成果を日本の社会文脈に導入し、出席者とともに「自撮り (Selfie)」や「絶景」や「SNS フォト」など、トランスナショナルな社会現象を考えます。</p> <p>講義の目的は、写真とツーリズムが出会い、相互に交渉してきた歴史を紐解き、「撮る」という行為（パフォーマンス）の社会的意味を探ることで、近代社会におけるイメージとイメージネーションの諸問題を考えることです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：観光写真と写真観光</li> <li>2 写真の歴史①：遠近法と写真術</li> <li>3 写真の歴史②：コダック化、作品化、ドキュメント化</li> <li>4 写真の歴史③：戦後日本の写真産業と家族写真</li> <li>5 海外の「まなざし」①：帝国主義と写真術</li> <li>6 海外の「まなざし」②：外国人が写した「日本」</li> <li>7 海外の「まなざし」③：トランスナショナル・イメージとツーリズム</li> <li>8 「撮る」の政治学①：バルト、ソントグ、多木の場合</li> <li>9 「撮る」の政治学②：表現としての写真</li> <li>10 「撮る」の政治学③：「動く画」の発明</li> <li>11 「撮る」の政治学④：映画の「まなざし」</li> <li>12 写真とツーリズム①：「撮る」ために移動する人々</li> <li>13 写真とツーリズム②：「自撮り」を考える</li> <li>14 写真とツーリズム③：SNS と写真</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	井上 泰日子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：          ツーリズムに大きく関わる旅行業、宿泊業（ホテル、旅館など）、航空産業の役割、ビジネスの現状と課題について学習する。</p> <p>講義概要：          旅行産業のビジネスの概要、さらに将来について学習する。宿泊産業においては、ホテル、旅館ビジネスを中心に、経営及び運営方法、さらにリゾートホテルの特色などについて学習する。航空産業においては、最近の動き、将来について学習する。最後の「プレゼンテーション」では、各産業への提案を各自パワーポイントを使って行う。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 海外旅行パッケージツアーの歴史と現状</li> <li>3. 旅行産業の現状と課題①</li> <li>4. 旅行産業の現状と課題②</li> <li>5. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要①</li> <li>6. 宿泊産業（ホテル、旅館）の概要②</li> <li>7. リゾートホテル・ビジネス</li> <li>8. ディスカッション（テーマ：各産業の課題等）</li> <li>9. 航空産業の最近の動き</li> <li>10. 航空産業の将来</li> <li>11. プレゼンテーション①</li> <li>12. プレゼンテーション②</li> <li>13. プレゼンテーション③</li> <li>14. プレゼンテーション④</li> <li>15. 講義全体の“まとめ”</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜個別資料を配布する。		受講姿勢、講義参加度：50％ プレゼンテーションとレポート：50％	

13年度以降 09～12年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム・メディア論）） 交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	山口 誠
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講義では、ツーリズムとメディアが取り結ぶ多様な関係を、さまざまな事例から考えます。その目的は、多くの人々が「観光（ツーリズム）」という形での移動（モビリティ）を実行することで、きっと体験できるだろうと想像する「観光的現実」が、どのように生まれるのかを理解することにあります。</p> <p>「観光的現実」とは、単に観光者と観光地の人々が共有するイメージ（疑似イベント）には留まりません。ときに「観光まちづくり」のシンボルになり、あるいは「観光くにつくり（観光立国）」の理念にもなります。また「観光的現実」は必ずしも経済的発展や地域アイデンティティの創造などに役立つばかりではなく、その逆に観光者や観光地の人々を対立させ、歴史や文化を造り替えたりします。</p> <p>ここでは担当者が研究しているグアム、観光ガイドブック、映画観光などの具体的な事例を解説することで、ツーリズムとメディアの節合（アーティキュレーション）から生じる「観光的現実」の特性と現在形を検討します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス：メディアとツーリズムが取り結ぶ関係</li> <li>2 グアムから考える①：かつてグアムは日本の島だった</li> <li>3 グアムから考える②：ツーリズムとメディアの「結婚」</li> <li>4 グアムから考える③：「日本人の楽園」と米軍基地</li> <li>5 理論編①：「疑似イベント論」をアップデートする</li> <li>6 ツーリズム・メディア史①：近代の観光ガイドブック</li> <li>7 ツーリズム・メディア史②：ミシュランと自動車文化</li> <li>8 ツーリズム・メディア史③：「地球の歩き方」と若者</li> <li>9 理論編②：真正性とアーティキュレーション</li> <li>10 メディア・ツーリズム①：観光地のメディア戦略</li> <li>11 メディア・ツーリズム②：映画観光の功罪</li> <li>12 メディア・ツーリズム③：「日本」の観光化</li> <li>13 理論編③：複製技術時代の観光</li> <li>14 理論編④：メディア・ツーリズムの現在形</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業で適宜紹介します。		期末試験 80%、授業参加度および学期中レポート 20%。	

13年度以降 09～12年度	交流文化論（地域開発論） 交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>草の根レベル、ミクロの視点から、開発問題について、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>地域が発展するということはどういうことでしょうか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、イベントにより集客を図り商店街を活性化させる等々いろいろな捉え方があります。そこに、なぜ住民の参加が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。本講義では、「開発・発展＝人々間のコミュニケーションの総和」として捉えます。</p> <p>取り上げる事例は、生ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、NYのドッグランと防犯、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. 地域の発展を理解するための視座（教科書1章）</li> <li>3. 住民参加(participation)の意義と多義性（2章）</li> <li>4. 生ごみリサイクルにみる町づくりの制度構築：山形の事例（3章）</li> <li>5. 地域づくり・環境教育におけるキーパーソン：兵庫の事例（4章）</li> <li>6. つながりを育む仕組み（ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』）</li> <li>7. 共益から公益の創出へ：NYと東京のドッグランを例として（10章）</li> <li>8. スラムとコミュニティ開発：ブラジルの事例（ビデオ）</li> <li>9. 地域づくりと外部者のまなざし：島根の事例（7章）</li> <li>10. 参加型開発：熊本の事例（教室内ワークショップ）</li> <li>11. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 支援の事例（11章）</li> <li>12. ソーシャルキャピタル・社会関係資本</li> <li>13. 百年先を考えたまちづくり（ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』『ドイツの持続可能な町づくり』）</li> <li>14. アクセシブル観光・ユニバーサル交流：北海道、山梨、岩手等の事例（8章）</li> <li>15. まとめ、試験対策</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（70%）、学期中課題（30%）、教室内ワークショップ貢献（+α）。</p>	

13年度以降 09～12年度	交流文化論（ツーリズム特殊講義（ツーリズム地誌論）） 交流文化論（ツーリズム地誌論）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(定員：30名)</p> <p>本講義は、野外民族博物館「リトルワールド」(愛知県犬山市)における1泊3日の研修旅行を通じて、世界各地のツーリズムに関連する幅広い地誌学的・民族誌的知識を習得することを目指す。</p> <p>リトルワールドには、世界の30以上の地域・民族の家屋・生活道具が移築・復元されている。受講者は、複数のグループに分かれ、そのなかから1つの地域・民族を選び、それぞれの地域・民族の文化や習慣について、事前に資料収集を行なう。その上で、研修旅行では、各々が「ガイド」となって、各展示を案内する。さらに、これら一連の作業を踏まえた上で、期末レポートとしてミニ・エスノグラフィを作成する。</p> <p>本講義は、リトルワールドへの研修旅行を中心とした科目のため、研修旅行への参加が、履修の条件となる。またグループ・ワークなど演習形式の取り組みも多いため、グループ内の議論等に積極的に参加できる者のみ履修を認める。なお、<u>初回授業時にグループ分け等を行なうので、受講希望者は必ず出席すること。</u></p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明・グループ分け（1回）</li> <li>講義(3回) 文化の収集と展示の歴史、芸術=文化システム論など異文化展示・博物館論に関する基礎的な概念についての紹介。</li> <li>発表・議論（10回） 各グループによる、研究計画・中間報告等。</li> <li>研修旅行（1泊3日） 11月中旬から12月の週末にかけて実施する（金曜日夜出発。日曜日夜帰着）。<u>詳細な日程については、秋学期履修登録開始前までに教務課掲示版にて周知するので、各自確認すること。</u>費用は、往路夜行バス・復路新幹線利用、宿泊費込みで2.5万円程度（飲食費は除く）。</li> <li>まとめ（1回）</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
山下晋司・船曳建夫（編）『文化人類学キーワード 改訂版』有斐閣		研修旅行での案内、授業におけるプレゼンテーション、期末レポート、議論への参加度などをふまえ、総合的に評価する。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明</li> <li>オルタナティブ・ツーリズムの背景</li> <li>ビデオ上映（ジャマイカの観光開発）</li> <li>場所性の商品化—アマンリゾートの戦略</li> <li>環境主義の商品化—エコリゾート</li> <li>世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例</li> <li>世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例</li> <li>ビデオ上映（バックパッカーの窮状）</li> <li>先住民と観光—北米イヌイットの事例</li> <li>先住民と開発—開発的遭遇</li> <li>先住民と環境主義</li> <li>12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例</li> <li>現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として</li> <li>まとめ</li> </ol> <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	



# 外国語学部共通科目シラバス

09年度以降	総合講座（グローバリゼーションへの多面的・学際的アプローチ歴史・現状・展望 1）	担当者	コーディネーター 水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「グローバリゼーション」という現象が人口に膾炙して、はや久しい。グローバル化がいつ始まったかという問題自体論争を呼ぶテーマであって明確な合意は存在しないが、冷戦が終焉した 1990 年代以降、いわゆる、ヒト、モノ、カネ、情報のトランスナショナルな移動が加速した。グローバリゼーションが今後 21 世紀の最も顕著な潮流になるであろうことは間違いない。</p> <p>本講座は、今日最も頻繁に耳にする概念でありながら、時々刻々と変化するその特性ゆえに実体の把握が容易でないグローバリゼーションについて、様々な学問分野の知見を総合的に提示することで、その普遍性（世界規模の現象ととらえるマクロ的視点）と多元性・特殊性（地域的独自性、進展速度や現出問題の違いなど）を理解することを目的とする。政治、経済、安全保障、環境、コミュニケーション、文化、文学、言語、民族、芸術、宗教など、多様な視点からグローバリゼーションの動態に迫る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 水本義彦 講座の目的・概要</li> <li>2 秋野有紀 パブリック・ディプロマシー</li> <li>3 秋野有紀 ドイツの対外文化政策</li> <li>4 佐藤唯行 グローバル化するユダヤ・ロビー：第一次オバマ政権発足 100 日目の総括</li> <li>5 小林哲也 グローバリゼーション賛成・反対：成長と格差の世界経済を読み解く</li> <li>6 高木綾 グローバル経済がもたらす諸問題：対内直接投資と国家安全保障の問題</li> <li>7 廣田愛理 グローバリゼーションとフランス</li> <li>8 矢羽々崇 グローバル社会におけるベートーヴェンの『第九』：自由と民主化のメッセージ</li> <li>9 鈴木英一 記号論理学の時間表示と英語の「時制の一致」</li> <li>10 湯浅博雄 グローバリゼーションと言葉・翻訳</li> <li>11 永野隆行 イギリス帝国とグローバリゼーション</li> <li>12 岡村りら 環境問題に対する取り組み</li> <li>13 毛受敏浩 人口減少下の日本の選択：移民受け入れは是非か？</li> <li>14 上田浩二 グローバル化の中の日独関係</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
統一テキストとしては、特に指定しない。		教員の指示に基づき各回小テストを実施し、その評価を集計して最終評価を決する。	

09年度以降	総合講座（グローバリゼーションへの多面的・学際的アプローチ歴史・現状・展望 2）	担当者	コーディネーター 水本 義彦
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「グローバリゼーション」という現象が人口に膾炙して、はや久しい。グローバル化がいつ始まったかという問題自体論争を呼ぶテーマであって明確な合意は存在しないが、冷戦が終焉した 1990 年代以降、いわゆる、ヒト、モノ、カネ、情報のトランスナショナルな移動が加速した。グローバリゼーションが今後 21 世紀の最も顕著な潮流になるであろうことは間違いない。</p> <p>本講座は、今日最も頻繁に耳にする概念でありながら、時々刻々と変化するその特性ゆえに実体の把握が容易でないグローバリゼーションについて、様々な学問分野の知見を総合的に提示することで、その普遍性（世界規模の現象ととらえるマクロ的視点）と多元性・特殊性（地域的独自性、進展速度や現出問題の違いなど）を理解することを目的とする。政治、経済、安全保障、環境、コミュニケーション、文化、文学、言語、民族、芸術、宗教など、多様な視点からグローバリゼーションの動態に迫る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 佐野康子 グローバリゼーションの加速化：アフリカにおける適者生存の原則</li> <li>2 菊池英博 グローバリゼーションとグローバリズムの違い：日本で進む新自由主義革命</li> <li>3 高木綾 グローバル経済がもたらす諸問題：グローバル・インバランスの問題</li> <li>4 片山亜紀 国際社会と妊娠中絶</li> <li>5 E. 本橋 Strangers Among Us: Myths, Facts &amp; Realities of Immigration Around The World And In Japan</li> <li>6 上野直子 カリブ：西欧近代史の「背中の臍」</li> <li>7 上野直子 移動するカリブ</li> <li>8 西田恒夫 グローバリゼーションと国際機関の役割</li> <li>9 工藤達也 宗教としての資本主義</li> <li>10 山本淳 ドイツ・ポップ/ロックの変遷：言語・時代・社会のはざままで</li> <li>11 金井満 世界のなかのドイツ車</li> <li>12 高橋雄一郎 グローバル化と人の移動：巨大な墓場となる地中海</li> <li>13 東郷公德 地球化時代の多文化主義</li> <li>14 鈴木隆 都市の商業形態と生活中心地の変化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
統一テキストとしては、特に指定しない。		教員の指示に基づき各回小テストを実施し、その評価を集計して最終評価を決する。	

09年度以降	総合講座（西洋音楽史1）	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。春学期は、古代から18世紀半ば頃までの音楽を扱う予定です。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>以下のような流れでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入、概観</li> <li>2. 日本人と西洋音楽</li> <li>3. ヨーロッパの古代の音楽</li> <li>4. ヨーロッパの中世の音楽（1）</li> <li>5. ヨーロッパの中世の音楽（2）</li> <li>6. ルネサンス音楽（1）</li> <li>7. ルネサンス音楽（2）</li> <li>8. ルネサンス音楽（3）</li> <li>9. バロック音楽（1）</li> <li>10. バロック音楽（2）</li> <li>11. バロック音楽（3）</li> <li>12. バロック音楽（4）</li> <li>13. バロック音楽（5）</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は、授業中に適宜紹介します。		10回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。筆記試験の結果に平常点を加味して評価します。	

09年度以降	総合講座（西洋音楽史2）	担当者	木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>いわゆるクラシック音楽をたくさんの録音資料（主にCD）で聴き、楽しみながら西洋音楽の歴史をたどっていく授業です。秋学期は、18世紀後半から現代までの音楽を扱う予定です。春学期の授業内容を知っていることを前提として話しますので、なるべく春学期から受講してください。</p> <p>「ドイツ語圏の音楽」（ドイツ語学科開設科目、金II）との内容重複をできるだけ少なくするよう、鑑賞する曲目を変える等の調整をしたいと思いますので、「ドイツ語圏の音楽」との併修もおすすめします。</p> <p>注意事項：音楽を鑑賞する授業なので、授業中は絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講生の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。また、楽譜を用いて解説することがありますので、予め了解しておいてください。</p>		<p>以下のような流れでお話しすることを予定していますが、みなさんの関心や進度等に応じて変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入、概観</li> <li>2. 古典派の音楽（1）</li> <li>3. 古典派の音楽（2）</li> <li>4. 古典派の音楽（3）</li> <li>5. 古典派の音楽（4）</li> <li>6. 19世紀の音楽（1）</li> <li>7. 19世紀の音楽（2）</li> <li>8. 19世紀の音楽（3）</li> <li>9. 19世紀の音楽（4）</li> <li>10. 19世紀の音楽（5）</li> <li>11. クリスマスの音楽</li> <li>12. 20世紀の音楽（1）</li> <li>13. 20世紀の音楽（2）</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 授業内試験</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は、授業中に適宜紹介します。		10回以上の出席が単位取得の前提となります。各回の授業の終わりに感想などを書いてもらいます。筆記試験の結果に平常点を加味して評価します。	

09年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2. 情報のデジタル化</li> <li>3. オペレーティングシステム</li> <li>4. プログラミング言語入門</li> <li>5. データ構造入門</li> <li>6. アルゴリズム入門</li> <li>7. ハードウェアとは</li> <li>8. 情報検索と言語処理</li> <li>9. 形態素解析と構文解析</li> <li>10. 自然言語処理の応用</li> <li>11. 質問応答システム</li> <li>12. 対話システムと言語資源</li> <li>13. 総合演習 1</li> <li>14. 総合演習 2</li> <li>15. 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示する参考文献を使用します。		レポート、演習問題と筆記試験の結果を併せて評価します。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門]情報科学各論(情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[入門]情報科学各論(情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的:</b> この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。受講生の外国語の能力自体は問わない。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、内容的には、この科目を履修した後、[応用]科目を履修できる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word(1)</li> <li>4. Word(2)</li> <li>5. Word(3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel(1)</li> <li>9. Excel(2)</li> <li>10. Excel(3)</li> <li>11. PowerPoint(1)</li> <li>12. PowerPoint(2)</li> <li>13. PowerPoint(3)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。            実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。            実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	



09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。          実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。          実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的・概要：</b>この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生（あるいは、[入門] 科目で扱う内容をすでに理解している学生）を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p><b>履修条件：</b>履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> <li>15. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		課題、発表等により評価する。	

09年度以降	[HTML] 情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子 憲一
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は、「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータやインターネットの基礎知識、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習 (1)</li> <li>3 HTML と FTP の復習 (2)</li> <li>4 インタラクティブなページ (HTML と CGI)</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript (1)</li> <li>7 JavaScript (2)</li> <li>8 JavaScript (3)</li> <li>9 JavaScript (4)</li> <li>10 JavaScript (5)</li> <li>11 CGI の利用</li> <li>12 総合課題 (1)</li> <li>13 総合課題 (2)</li> <li>14 総合課題 (2)</li> <li>15 鑑賞会</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過等) で総合評価する。</p>	

09年度以降	経済原論 a	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 市場価格の決定</li> <li>9. 不完全競争市場</li> <li>10. 厚生経済学の基本定理</li> <li>11. 市場の失敗</li> <li>12. 所得の分配</li> <li>13. 政府による市場介入①</li> <li>14. 政府による市場介入②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09年度以降	経済原論 b	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. 財政・金融政策の有効性①</li> <li>9. 財政・金融政策の有効性②</li> <li>10. 財政赤字と政府債務</li> <li>11. 国際金融システム</li> <li>12. 開放マクロ経済下の経済政策</li> <li>13. 景気の循環</li> <li>14. 経済成長の決定要因</li> <li>15. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。		原則として定期試験の成績で評価する。 小テストを行う場合がある。	

09年度以降	社会心理学 a	担当者	樋口 匡貴
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学 a では、個人の心の働きに主に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション・「社会心理学」講義の前に</li> <li>2.社会心理学の概要</li> <li>3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか</li> <li>4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別</li> <li>5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団</li> <li>6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団から生まれる</li> <li>7.自己(1)：自分はどんな人間か</li> <li>8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか</li> <li>9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか</li> <li>10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割</li> <li>11.社会的影響(2)：規範的影響と情報の影響</li> <li>12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか</li> <li>13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す</li> <li>14.期末試験と振り返り</li> <li>15.社会的影響(5)：人間の力</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』有斐閣 池田謙一 他(2010)．『社会心理学』有斐閣</p>		<p>中間レポート30%，期末試験70%で評価する。 なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

09年度以降	社会心理学 b	担当者	樋口 匡貴
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>人間は必ず、他者と関わりを持ちながら生きている。その中で、他者から影響を受け、そして他者に影響を与えている。つまり、人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学 a, b では、日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ、社会心理学的に解釈していく。特に社会心理 b では、主に個人と社会との間の相互作用や、社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に</li> <li>2.コミュニケーション(1)：言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション</li> <li>3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションとしての対人行動，対人行動としてのコミュニケーション</li> <li>4.コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ</li> <li>5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相</li> <li>6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの</li> <li>7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの</li> <li>8.信頼社会と安心社会</li> <li>9.社会的感情(1)：互惠性を生み出す感情～感謝</li> <li>10.社会的感情(2)：表情と感情</li> <li>11.社会的感情(3)：生死を分ける感情</li> <li>12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論・モデル</li> <li>13.健康行動と社会心理学(2)：HIV 感染予防のための社会心理学の挑戦</li> <li>14.期末試験と振り返り</li> <li>15.社会心理学の未来</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは使用しない。参考書として以下2冊を勧める。亀田達也・村田光二(2000)．『複雑さに挑む社会心理学－適応エージェントとしての人間』有斐閣 池田謙一 他(2010)．『社会心理学』有斐閣</p>		<p>中間レポート30%，期末試験70%で評価する。 なお、第1回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に、授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。</p>	

シラバス 英語学科

---

2015年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電話 048-946-1656





DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	